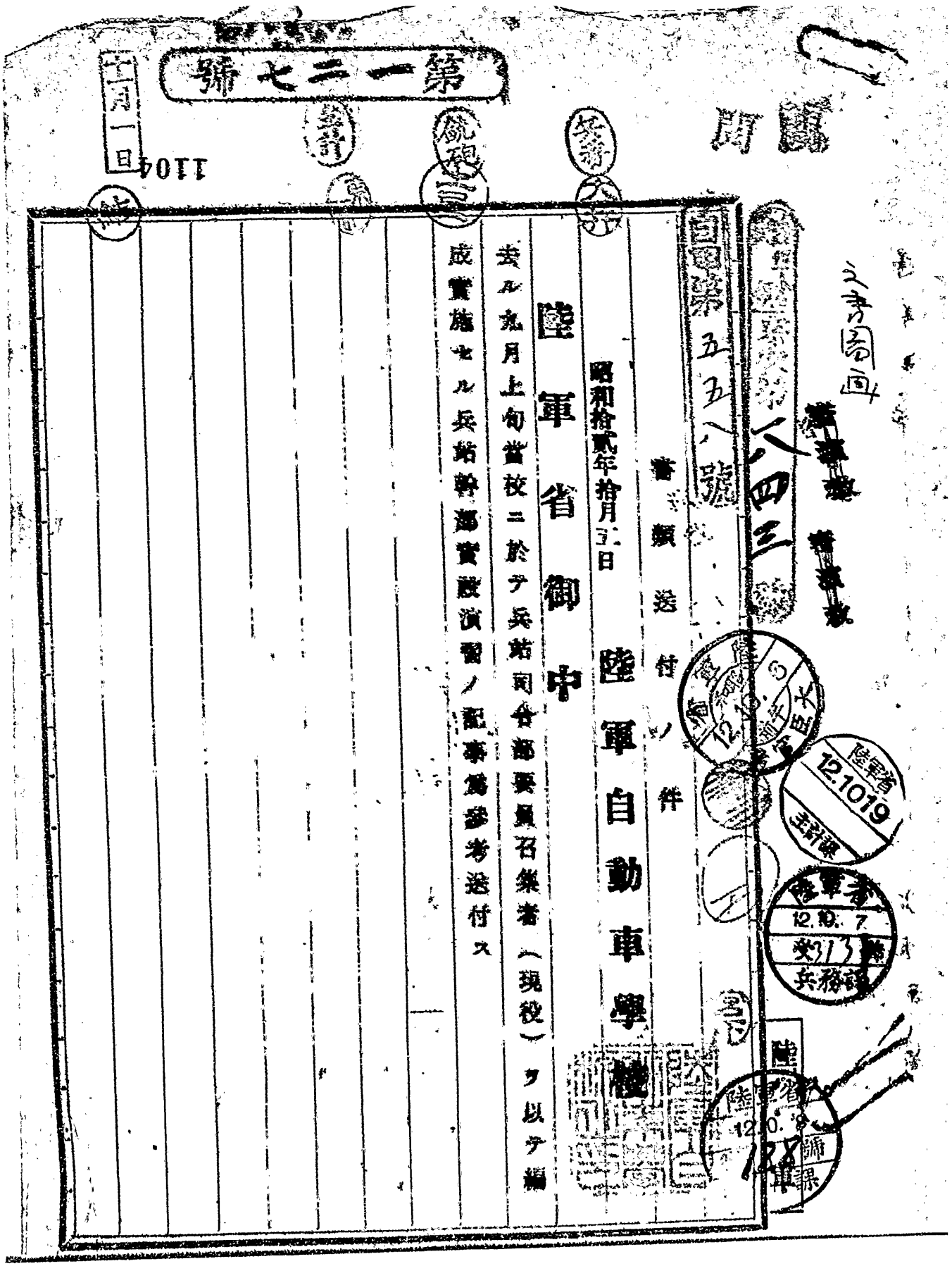


第一二七號

昭和十二年一月一日

陸軍省

文書課

陸普第五五八號

昭和拾貳年拾月五日

陸軍省御中

陸軍自動車學校

書類送付ノ件

去ル九月上旬當校ニ於テ兵站司令部要員召集者（現役）ヲ以テ編成實施セル兵站幹部實務演習ノ記事寫參考送付ス

陸軍省 12.10.19 主計課

陸軍省 12.10.7 受付 兵務課

陸軍省 12.10.8 受付 軍事課

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

9011

極秘

昭和十二年九月

兵站幹部實設演習記事

陸軍自動車學校

アジア歴史資料センター

配賦區分			
配賦部隊	部數	配賦部隊	部數
各師團司令部	一五	糧秣本廠	一
陸軍省	一	自校輜重兵部	一
參謀本部	一	自校文庫	一
教育總監部	一	機矢中佐	一
輜重兵監部	一	權藤少佐	一
近衛輜重兵聯隊	一	加藤少佐	一
陸軍工科學校	二	蒲重中佐	一
陸軍經理學校	一	徳澤少佐	一
被服本廠	一	高屋少佐	一

アジア歴史資料センター

目次

第一　兵站幹部實設演習規定
第二　演習開始ニ際シ統裁官ノ注意事項
第三　想定
第四　狀況並演習員作業及統裁官所見
其一　一般狀況並兵站監部
其二　主地兵站部
其三　中兵站部
其四　乙兵站部
其五　丙兵站部
其六　野戰彈藥廠
　　野戰武器廠
其七　野戰自動車廠
其八　野戰衣糧廠
第五　總評

アジア歴史資料センター

6011

昭和十二年九月

兵站幹部實施演習規定

陸軍自動車學校

アジア歴史資料センター

第一章　總則

第一　本規定ハ昭和十二年九月兵站幹部實設演習實施ニ必要ナル事項ヲ規定ス

第二　本演習ノ目的ハ陸軍自動車學校召集ノ現役及豫備役兵站諸部隊基幹要員ヲ主体トシ陸軍工科學校及經理部關係機關ト連合シ兵站司令部及補給諸廠ヲ實設シ以テ主トシテ其實務ニ就キ演練スルニ在リ

第三　統裁部及演習部隊ノ編成ハ附表第一ノ如シ

第四　本演習ハ附表第二ノ日課豫定ニ據リ陸軍自動車學校内ニ於テ之ヲ行フ

但シ況日時ト實際日時トノ關係ハ別ニ之ヲ規定ス

第五　本演習ニ於ケル所要地圖ハ附表第三ノ如シ

第二章　統裁部

第一　統裁官ノ職務概ネ左ノ如シ

一、統裁部職員及演習員ニ對シ職務ノ命課ニ演習全般ノ指導ニ統裁ニ任ス

二、演習時刻ノ規定其他一般ニ必要ナル事項ヲ命ス

第二　補助官ノ職務概ネ左ノ如シ

一、演習全般ノ計畫指導及講評ニ關シ統裁官ヲ補佐ス

二、演習記事ノ編纂ニ任ス

第三　部隊專屬補助官ノ職務概ネ左ノ如シ

一、統裁官ノ指示及關係部隊專屬審判官ノ通報ニ基キ且演習部隊ノ採リタル決心處置ニ順應シテ擔任部隊ノ狀況ヲ作爲シ適時之ヲ該部隊ニ傳達シ演習ノ進行ニ任ス

二、演習部隊ノ採リタル決心處置及其現況ヲ適時統裁官ニ報告シ且關係部隊專屬補助官ニ通報ス

三、演習進行上並實務演練上必要ト認ムル場合ハ演習部隊ニ所要ノ注意ヲ喚起セシムルコトヲ得

四、演習員ノ行フ通信連絡ノ規整ニ關シテハ第四章ニ據ル

五、指導要領ノ定ムル所ニヨリ講評資材及演習ニ關スル所見ヲ統裁官ニ提出ス

第三章　演習員

アジア歴史資料センター

第一　演習員ハ特ニ指示スル場合ノ外想定、部隊隷属補助官ノ交付スル状況並関係各方面ヨリノ命令、報告及通報等ニ基キ自發的ニ自己ノ職責ニ應スル業務ヲ實施ス

第二、演習員ノ業務實施ニ準據スヘキ件左ノ如シ

一、連絡勤務ニ關シテハ第四章ニ據ル

二、重要ナル決心若ハ處置等ヲ爲サントスルトキハ先ツ口頭ヲ以テ其要旨ヲ部隊隷属補助官ニ告知ス

三、状況上作爲スヘキ計畫、命令、報告及通報等ハ實際ノ如リ之ヲ行フモノトス但別ニ指示セラレタル場合ニ在リテハ之ヲ要旨ニ止メ又ハ筆記作業ヲ省略スルコトヲ得

四、演習員ヲ實設セサル部隊ニ對スル通報、要求若ハ之トノ協定等ハ特ニ指示スルモノノ外部隊隷属補助官ニ對シ之ヲ行フ

五、調製スル書類ニハ總テ起案若ハ調製主任者ノ官氏名ヲ記載ス

六、實務ニ必要ナル傭業用紙其他ノ諸表ハ隊ノ調製ニ置

ヲ得

七、演習ニ用フル諸数量ハ兵站演習重要数量表ニ據ル

第三、演習実ハ諸計畫、命令其他重要ナル書類ヲ作為セハ其都度統裁部（幕僚用トシテ五部（謄写セルモノニアリテハ三十部）ヲ當該部隊隷属補助官ニ提出スルモノトス

第四、演習員ハ日々統裁官ノ命令スル演習開始時刻前ニ集合シテ諸準備ヲナシ演習開始時刻ニ至レハ別命ヲ待タス業務ヲ開始スルモノトス

第四章　連絡動務

第一、統裁部ト職員相互ノ連絡ハ左ノ要領ニ據ル

一、統裁官ハ演習間必要ニ應シ補助官ヲ集メテ會報ヲ行ヒ爾後ノ指導審判ニ必要ナル事項ヲ指示シ又情報交換及打合セヲ行ハシム

二、補助官ハ必要ト認ムルトキハ自己擔任部隊ノ狀況及演習負ノ採リタル決心、處置並將来ニ関スル企圖其他指導ニ関係アル諸件ヲ適時統裁官ニ報告シ関係補助官ニ通報ス

アジア歴史資料センター

第二　演習員相互間ノ連絡ハ同一司令部内等ニ於ケル簡易ナル事項ヲ除クノ外總テ部隊專屬補助官ノ主會又ハ同官ニ告知シテ行ヒ若ハ同官ヲ經テ書類ヲ送受スルヲ以テ口頭ナルト文書又ハ電信ヲ以テスルトヲ問ハス連絡又ハ傳達所要時間ハ補助官ノ指示ニ基キ實際的ニ行フモノトス

第三　統裁部ニ於テ豫メ實設スヘキ基本通信設備ハ附圖第一ノ如シ

通信網豫想完成時刻及通信網ノ現況ニ應スル基本通信設備使用區分ノ指定ハ夫々關係專屬補助官之ヲ行フ

第五章　設備及標識

第一　作業室ノ配當附圖第一ノ如シ

第二　統裁部職員及演習員ハ演習間職務表示ノ爲左腕及机上ニ所要ノ標識ヲナス

又各作業室ニハ其出入口ニ所要ノ表示ヲナス

アジア歴史資料センター

附表第一

演習編成表

職名	演習負	統裁部職員	主地兵站部	甲兵站線部	乙兵站線部	丙兵站線部	野戰彈藥廠	野戰武器廠	野戰自動車廠	野戰糧秣廠	動物輸重	自動車隊
統裁部職員	統裁官(自)一武内大佐 補助官(參)三 (自)一筑重中佐 (王)一 (經)一	(自)二(自)三	(參)一 (自)二 埴田中佐	(參)一 (自)一山崎中佐	(大)一 (自)一高山中佐	(自)一木下少佐 (自)一中尾少佐	(王)二	(王)一	(自)一德澤少佐	(經)一	(自)七	(自)七一
書記			(自)一	(自)一	(自)一	(自)一		(王)二 (經)二 (自)一				(自)二
傳令			(自)一	(自)一	(自)一	(自)一						(自)一

備考

一、括弧内ハ差出区分ヲ示シ(參)ハ參謀本部(王)ハ陸軍工科学校(經)ハ經理部(大)ハ陸軍大學校(自)ハ陸軍自動車部隊ヲ示ス

アジア歴史資料センター

附表第二

演習日課隊定表

月日	曜	午前	午後	摘要
九月三日	金	午前九時開始		補給廠要員ハ全演習期間ノ一部ヲ中止シ居ルコトアリ
〃 四日	土			
〃 五日	日			
〃 六日	月		午後二時講評	
〃 七日	火			

備考

一、演習開始時刻ハ午前八時

二、演習各日ノ終了時刻ハ當日之ヲ示ス

アジア歴史資料センター

附表第三

所要地圖一覽表

一、五百万分ノ一　東亜輿地圖

二、五十万分ノ一

イマン	スパスコーエ
密山	綏芬河
	ウラヂミロフカ
	琿春

三、十万分ノ一（集成圖五枚）

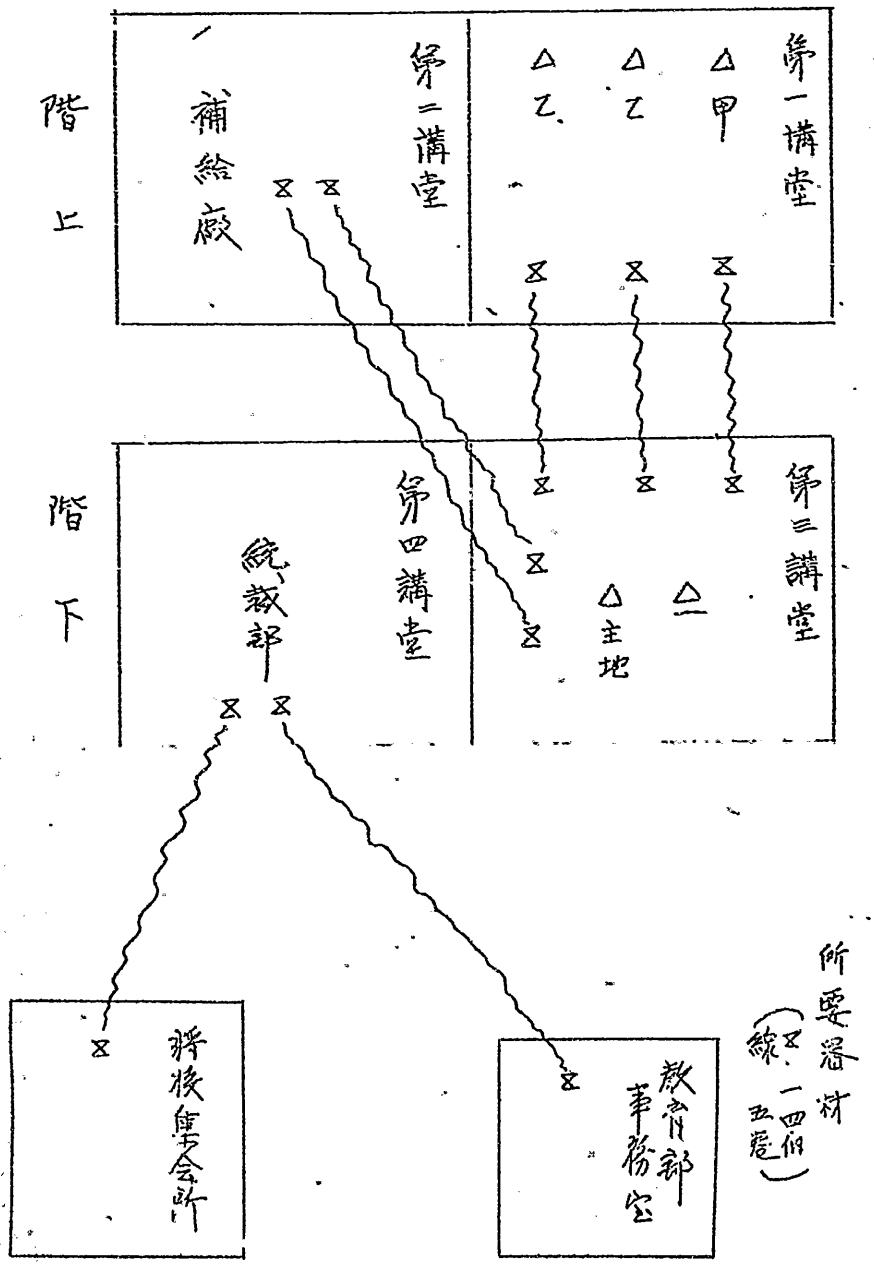
紅菜部國境（綏芬河及東寧附近）十萬分ノ一圖一枚

秘扱、烏蘇里州（興凱湖南方地区）十萬分一圖其一乃至其四四枚

アジア歴史資料センター

別紙第一

基本通信網構成並作業室配當要圖



アジア歴史資料センター

附表

兵站特種隊標一覽表

種類	摘要
色	形狀及標識
輸送機関 師團兵站ノ軸重兵中隊	藍	一箇ヲ以テ一中隊ヲ示ス
兵站自動車中隊	綠	同右
地方縱列	黃	一箇ヲ以テ一縱列ヲ示ス
軍需品 糧秣 人糧及薪炭	黃	○
携帶口糧(乙)	白	△乙
馬糧	白	⬡
地方縱列用人馬糧及薪炭	綠	○
燃料 自動車用	赤	○
飛行機用	赤	△七
彈藥 歩兵彈藥	青	㊦小
野砲彈藥	赤	㊦野
山砲彈藥	赤	△山
十加彈藥	赤	十加
十五糎彈藥	赤	十五糎
其他軍需品 通信材料	黃	㊦通
化學戰資材	黃	㊦瓦
衛生材料	黃	㊦卫

一箇ヲ以テ輜重兵一小隊ノ積載量ヲ示ス

アジア歴史資料センター

統裁官ノ與フル注意事項要旨

今回全軍ノ大部ヨリ召集セラレタル兵站監部附又ハ兵站司令部基幹要員竝野戦自動車廠基幹要員ヲ合同シテ兵站幹部実設演習ヲ実施スルニ方リ本職之カ統裁ニ任スルヲ得タルハ光榮ニ存ス

又陸軍工科學校、経理學校等ノ職員諸官亦時局多忙ニ拘ラス御参加ヲ得タルハ感謝ニ不堪

抑モ此種演習ハ國軍トシテモ蓋シ最初ノ行事ナルヘク指導上種々円滑ヲ缺ク點ナシトセサルモキモ諸官ハ克ク本演習ノ重要性ヲ認識セラレ身職ヲ奉シテ戰場ニ在ルト同様ノ眞剣ナル態度ヲ以テ國軍必勝ノ原動力タル戰力ノ保持増進ノ爲ノ具体的研究ニ專念シ且善ニ業務ノ修得ニ止ムルコトナク創意工夫セラレテ兵站運用ニ新機軸ヲ案出シ以テ國軍ニ寄與セラレンコトヲ切望ス

尚最後ニ一言セン二兵站業務研究上ノ最重要ナルハ其実行性ノ確実ニ在リ此點作業上特ニ留意セラレ度

國軍ノ後方ハ世界各國不明ニシテ其内容ヲ知ルニ全幅ノ努力ヲ爲シアリ

アジア歴史資料センター

機密保持ニハ特ニ注意セラレ度
原稿等ハ總テ統裁部ニ於テ處置スヘキヲ以テ散乱セシメサル如クセラレ度

アジア歴史資料センター

1122

兵站幹部實設演習想定

アジア歴史資料センター

十月十一日ニ於ケル第一軍態勢要圖

附圖

湖 興凱

河 元

レフー河

スパスエ

不車部隊アルモ兵力不詳

長遠ナル自動車部隊往復シアリ

一師團以上

一師團以上

陳地構築中

敵ハ前ヨリ輕易ナル

ヴォロシロフスコエ

グロデコヴォ

ポクロフカ

ガリヨンカ

ミハイロフカ

ミリスク

コンスタンチノフスキー

リュビツルーエラスキー

3D

2D

1D

1KB

1B

綏芬河

東寧

綏芬河

谷師團ニハ配屬部隊及所要ノ軍直轄部隊ヲ含ム

アジア歴史資料センター

想定別紙第一

藍國第一軍編組

軍司令部
第一師團（軍）
第二師團（軍）
第三師團（軍）
獨立混成第一旅團
獨立運輸第一大隊
戰車第一聯隊
獨立輕裝甲車第一、第二、第三中隊
騎兵第一旅團
軍砲兵司令部
野戰重砲兵第一聯隊（甲）
野戰重砲兵第二聯隊（甲）
野戰重砲兵第三聯隊（丙）
野戰重砲兵第四聯隊（丁）
第一砲兵情報聯隊

第一乃至第五野戦高射砲隊（甲）
第五十一乃至第五十六野戦高射砲隊（乙）
第一乃至第三野戦照空隊
独立機関砲第一、第二、第三中隊（軍）第四、第五中隊（自）
独立工兵第一联隊（甲）（甲）
独立飛行第一中隊（甲）
第一乃至第四独立飛行隊（已）
第一軍通信隊

本部
野戦電信第一乃至第四中隊（軍）
無線電信第一乃至第四小隊（軍）
無線電信第五乃至第七小隊（自）

第一軍特種無線隊
第一軍野戦鵬隊

本部
野戦鵬第一乃至第五小隊

アジア歴史資料センター

第一軍野戦瓦斯隊
本部
迫撃第一大隊
野戦瓦斯第一乃至第三中隊 (甲)
同第四中隊 (乙)
第一軍野戦気象隊 (乙)
第一軍野戦測量隊
第一乃至第四架橋材料中隊
第一渡河材料中隊 (自)
第一軍兵站部

備考

一、編制ハ第三号ニ據ルモノトス
二、團体編ハ師團ノ順序ニ第一ヨリ一連ノ番號ヲ有ス
但騎兵第一旅團ノ隷隊編ハ第十三、第十四トス
三、各種飛行隊ノ機種並搭載備機要充ハ此ニ

隊種別	機種 武装	爆弾(粍)	速度(粁) (航続時間(時間))
陸攻第一航空隊(元)	九五、陸攻	八〇瓩 一	最大 二七七 (四、五)
第一航空隊(元)陸攻第二航空隊(元)第一航空隊(元)陸攻第三航空隊(元)第一航空隊(元)陸攻第四航空隊(元)第一航空隊	九四、艦攻	八〇瓩 一	〃 二八四 (四—五)
第一航空隊(元)陸攻第五航空隊(元)第一航空隊	九五、艦爆	五〇瓩(15×10×3)	〃 二九八 (三、五)
第一航空隊(元)陸攻第六航空隊(元)第一航空隊	九五、艦爆	五〇瓩 一	〃 二五五 (四、五)

アジア歴史資料センター

想定別紙第一編表

鹽國第一軍兵站部編成

第一軍兵站監部

第一乃至第四兵站司令部

第一軍兵站通信隊

本部

第一乃至第三兵站通信中隊

第十兵站軍備通信中隊

第一乃至第八兵站鞏重兵隊本部

第一乃至第十兵站鞏重兵中隊 (甲)

第十一乃至第三十兵站鞏重兵中隊 (甲)(乙)

第三十一乃至第四十兵站鞏重兵中隊 (二頭牽)

第一乃至第十五輸送監視隊 (一頭牽)

第一兵站自動車隊

本部

第一乃至第六兵站自動車中隊 (甲)

(千ヨ分)

アジア歴史資料センター

第二兵站自動車隊
本部
第七乃至第十二兵站自動車中隊 (乙)(ニッサン)
第三兵站自動車隊
本部
第十三乃至第十八兵站自動車中隊 (乙)(イスズ)
第四兵站自動車隊
本部
第十九乃至第二十四兵站自動車中隊 (乙)(フォード三六年型)
第五兵站自動車一隊
本部
第二十五乃至第三十兵站自動車中隊 (乙)(フォード三五年型)
第六兵站自動車隊
本部
第三十一乃至第三十六兵站自動車中隊 (乙)(シボレー三六年型)
第一兵站整備廠

第一軍野戰武器廠
第一軍野戰彈藥廠
第一軍野戰自動車廠
第一軍野戰衣糧廠
第一軍野戰衛生材料廠
第一乃至第四野戰豫備病院
第一軍建者輸送部

本部
第一乃至第三、班

第一第二兵站病院
第一軍兵站病馬廠
後備步兵第一乃至第五大隊
後備騎兵第一第二中隊
後備野砲兵第一中隊
後備山砲兵第一中隊
後備工兵第一乃至第三中隊

アジア歴史資料センター

1131

鐵道第一聯隊
第一乎押輕便鐵道隊、
第一乃至第二十四陸上勤務隊
第二乃至第三建築勤務隊
第一、第六野戰道路構築隊
第一、第二野戰給水中隊
第一野戰建築部
第一野戰化學部
第一野戰防疫部
第一乎馬防疫廠

(乙)(丙)

アジア歴史資料センター

想定別紙第二

藍國第一軍後方狀況概要

一、軍兵站部ハ其大部ヲ集中ヲ終リ目下兵站主地ヲ設ケ芬河ニ設定シテ着々軍ノ會戰遂行ニ應スル諸準備ヲ整ヘツヽアリ

未到着兵站部隊ノ芬河到着豫定日次左ノ如シ

十月十二日	十三日	十四日	十五日
第六、第七、第八、第九、輸送監視隊	第十、第十一、第十二輸送監視隊	第十六、第十四輸送監視隊	第十三輸送監視隊
第四兵站自動車隊	第五兵站自動車隊	第六兵站自動車隊	
後備歩兵第四大隊	後備歩兵第五八隊		
後備騎兵第二中隊	後備騎兵第一中隊		

備考　各輸送監視隊ハ地方縱列ヨリ成ル

アジア歴史資料センター

SECRET

二、軍ノ病必要ナル軍需品及地方縦列ハ海蒼河附近ニ輸送
スルモノトス

軍補給諸廠ニ属スル軍需品ノ約半部ハ既ニ到着シ爾
餘ハ二十日頃迄ニ逐次到着スル豫定ナリ

糧秣、薪炭、燃料ノ在リテハ作戦初期ノ所要トシテ軍給養
兵額ニ應スル約一ケ月半分ヲ追送セラルル其品種及割合附
表第一ノ如シ

臨時常糧秣携行定量及携帯糧秣定量附表第二(其一、其二)
ノ如シ

各隊ハ動員装備ノ外附表第三ノ如ク装備シアリ

三、作戦初期ノ所要トシテ交付セラルヘキ地方輸送機関ハ輸
重兵百中隊分ニシテ内四十中隊分ハ既ニ到着シ兵站輜
重兵四中隊並第一乃至第五輸送監視隊ニ依リ中隊若ハ
縦列ニ編成セラレアリ

四、第一軍作戦地域ト大本営直轄管區トノ境界ハ陣著
鎮、敷科ヲ通スル線トシ線上ハ大本営ニ属ス

兵站司令官ハ鉄道輸送ニ関スル本営之ヲ管掌ス

注意

十月十一日夜ニ於ケル第一線（輜重ヲ含ム）兵站現況ノ細部ハ後日員之ヲ決定シ兵站部ノ承認ヲ受クルモノトス

アジア歴史資料センター

附表第一

還送糧秣ノ品種及割合

非常糧秣	精米（麦ハパン）精麦	一ヶ月二十五日ノ比
	糖鹽油（ヒハ乾燥野菜）	所要全量
	干野菜、漬物類	所要四分三量
	調味品	所要全量
	燕麦（若ハ大麦）	所要全量
	干草	所要四分一量
携帯糧秣（口糧ノ乙）		一ヶ月五日ノ比 所要全量
加給品		一ヶ月六回ノ比 所要全量
軍糧精		一ヶ月五日ノ比 所要全量
重忘者食		一ヶ師団一日五百人ノ比 所要全量
木炭		所要二分一量（各人先ノ月量一〇ノ内）

アジア歴史資料センター

附表第二（其二）

尋常糧秣携行定量表

種別	品種	単位	第一種定量	第二種定量
食糧	精米	瓦		六六〇匁
	精麥	〃		一一〇匁
	不洗米	〃	五八〇匁	八七〇匁
	圧搾ビ、ケット	〃	二三〇匁内外	
	乾パン（由入）	〃	二三〇匁	
	罐詰肉	〃	七五匁内外	一五〇匁内外
	乾燥肉	〃	三〇匁	六〇匁
	乾燥野菜	〃	四五匁	三〇匁
	粉味噌	〃	三〇匁	三〇匁
	醤油エキス	〃	二〇匁内外	二〇匁内外
	精醤油	〃	一五匁	一五匁
	砂糖	〃	一〇匁	一〇匁
燃料	薪	〃	八〇匁	
馬糧（一軍）	燕麥	〃	五、二五〇匁内外	五、二五〇匁
	圧搾馬糧	〃	五三〇匁	
	乾草	〃	一、〇〇〇匁	一、〇〇〇匁
	塩	〃	四〇匁	四〇匁
馬糧（行軍又ハ演習ノ場合）	燕麥	〃	四、二〇〇匁内外	四、二〇〇匁
	圧搾馬糧	〃	四、二〇匁	
	乾草	〃	一、〇〇〇匁	

アジア歴史資料センター

糧帶糧給定量表

品種	単位	区分	糧帯定量
口糧	不洗米	瓦	八勺
	正精白糧	〃	六九〇
	乾パン（内八）	〃	六九〇
	缶詰肉	〃	一五〇
	乾燥肉	〃	六〇
	粉味噌	〃	三〇
	砂糖	〃	一〇
	食塩	〃	一〇
燃料		〃	八〇
合計		〃	一、八五〇
馬糧	圧搾馬粗	〃	二、六二〇
	燕麦	〃	二、六二〇

内一種

内一種

内一種

備考　馬糧（一）内八騎兵及之ト行動ヲ共ニスル乗馬ノ分トス

附表第三

作戦用特種資材交付基準表

種類	交付基準	到着(交付)日時
鐵帽	戰列部隊(火砲挽ヲ除ク)ニ對シ各人一個宛	動員又ハ編成下令ト同時ニ其地ニ於テ交付ス
戰帽	各人一個宛	
防毒面(甲)	兵站部隊各人一箇宛	
渡水機	各中隊(中隊ヲ為サザルモノハ之ニ準ス)各本部及行李段列等(兵站部隊ヲ含ム)ニ對シ一箇宛	集中地ニ於テ交付ス
渡水車	主トシテ徒歩部隊ノ概ネ二中隊ニ對シ一箇宛	
採薪用具	大隊又ハ之ニ準ズル部隊ニ對シ一組宛	
草刈用具	中隊又ハ之ニ準ズル部隊ニ對シ一組宛	
屠獸器械(新器草刈鎌ヲ除ク)	軍ニ四組	
製炭用組立窯(附屬器具共)	軍ニ十組	
野戰製粉機	軍ニ四組	
八雜形天幕	軍ニ一五〇箇	
携行天幕	全兵員ノ概ネ二分ノ一所要数	予期二十日頃迄ニ逐次集中地ニ於テ交付ス
防寒被服	各人一襲宛	
氷上蹄鐵	各馬二襲宛	

アジア歴史資料センター

第一軍作戦資料

其一、鳥蘇里方面要地誌概要（註（……ノトス）ト示シアル外実際ノ状況ヲ掲ケタリ）

一、鐵道

（作戦地方ニハ満鉄線及北鳥蘇里鐵道（スパスコーエ以北）ノ外現存セサルモノトス）

彼我ノ鐵道ハ軌間ヲ異ニス

二、道路

鳥蘇里方面ハ露國領極東ニ於テ道路最モ發達セル地方ニシテ比較的多クノ良道ヲ有シ重砲、自動車等ヲ通スルモノ断カラサルモ保存一般ニ良好ナラス、且時改修ノ努カシツヽアルモ或ハ荒廃セル部分或ハ橋梁ノ破壊セルモノアリ路外ハ耕作地又ハ草地ノ外湿地シテ歩騎兵ノ通過困難ナル所断カラス

三、通信

通信線ハ「ニコリスク」ヲ極軸トシ各方面ニ通シアリ其主ナルモノハ各鐵道線ニ沿フモノ約六條其他「ニコリスク」ー「ポルタフカ」道「ニコリスク」ー「アヌーチノ」道ニ沿フモノ若干ニシテ尚数多ノ副地間線ヲ有ス

四 住民地

市街村落ハ露人ヲ主トシ支那人朝鮮人ハ其間ノ雑居スルモノトアラサルモ概シテ支那人ハ市街村落ノ一隅ニ集團シ朝鮮人ハ別ニ独立ス

露人家屋ハ市街地ニ在リテハ煉瓦造ヲ主トシ村落ニ於ケルモノハ大部分木造ナリ

支那人家屋ハ露式ニ則リ朝鮮人家屋ハ民族固有ノ建物ニテ狭隘不潔且火災ノ虞大ナリ

最近國境ニ沿ヒ無住民地帯ヲ設定シアリ

南圖上大ナル都市ヌ現在著シク荒廃シアリ住民亦極メテ少シ

五 飲料水及燃料

市街及水流ノ近傍ニアラサル村落ハ井水ヲ用フルヲ其数少シ

水量水質ハ地方ニ依リ差異アルモ概シテ山地帯ニ在リテハ水量豊富ニシテ水質可良ナリ

河川ニ沿フ地區ハ概シテ河水ヲ使用スルヲ解氷期及降雨ノ際

アジア歴史資料センター

除ニテハ使用上特別ノ處置ヲ要ス
燃料ハ鐵道沿線及大市街ノ外到ル處豊富ナルモ貯藏ヲ
ヲ獲得スルハ困難ナリ

六、給養

一般ニ義會發達シ收獲期知ト之ニ收納ニアリ從テ散在物資
知ト皆無ニ近シ

農產ノ主要ナルモノハ小麥、燕麥、大豆、米等ニシテ豚ニシテ「河」
スイスン」河流域及興凱湖地方ニ於テハ米作漸次盛トナリツヽアリ
然レトモ河川ノ氾濫ニ依リ作物ノ浸サルヽコト數カラス收獲量ハ
等ノ故ヲ甚タ不現サルモノアリ豚ニ最適ニ於テハ農產一般ノ
收穫良好ナラス當局ノ努力カニモ拘ラス遠ニ其增產ヲ求メ得
ス經ヲ現地ニ得ルコトヲノ期待シ得ス

馬糧ハ草地、放牧地少カラス燕麥ノ產額相當豊富ニシテ
其若干ヲ現地ニ求メ得ヘシ

畜產ハ一般農家ノ副業ノ程度ニシテ其主要ナルモノハ牛豚
トス其他養鷄、養蜂亦副業トシテ盛ニ

スパスク」ニコリスク」地方農産物種苗積荷家畜飼料附
表第一號ニ一ノ如シ

七、運搬材料

運搬材料ノ主ナルモノハ馬車及橇ニシテ駄人ハ固有ノ牛車ヲ
使用ス

荷馬車ハ多クハ二輪車ニシテ四輪車ハ稀ナリ
地方車輛ノ總數ハ明カナラサルモ概算ヲ數ハ四分ノ一ト見做ス
トキハ一萬七千四外ニシテ其大部ハ「ニコリスク」及黒龍州
沿岸ヲ中心トスル農業地帶ニ在ルモノ如シ（但本件調査ニ於
キハ之カ數參ノ見込少キモノトス）

八、衛生

人ノ衛生

住民ハ衛生思想ニ乏シク殊ニ下層民ハ其放漫性ト相俟テ
衛生狀態不良ナリ

井戸ハ構造不完全ナルモノ多ク雨水、下水並塵埃浸入
ノ防護ナク雨期乾燥ノ際使用ニ堪ヘサルモノ尠カラス

殊ニ河水ハ水質有害ノモノアリテ雨期之ノ使用ニハ特別ノ注意ヲ要ス

風土病トシテ特記スヘキモノハオムコツ[illegible]標[illegible]

其他病毒比較的多ク其他天然[illegible]アリ

殊ノ注意スヘキハ肺結核ノ多キコト是

夏季ハコレラニ次テ疫痢生シマラリヤ[illegible]斯カル其他

衛生上有害ナル蚊、蚋、蠅多ク又牛豚ニ寄生虫ヲ有スルモノ多シ

二、傳染病

衛生設備不完全ニシテ家畜傳染病常ニ存ス其主要ナルモノ左ノ如シ

炭疽ハ近時大流行ヲ見サルモ病毒ハ谷地ニ常在ス喜テ烏蘇里沿線一帯ニ大流行ヲ見タルコトアリ

鼻疽及皮疽ハ屢流行シ其病勢猖獗ナルニトアリ

腺疫ハ鮮氷期ニ若テ到ル處發生ス死亡率大ナラサルモ馬ノ榮養及能力ヲ減殺ス

馬ニピロプラズマ病ハ夏季壁虱ノ繁殖期ニ屢流行シ又冬

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

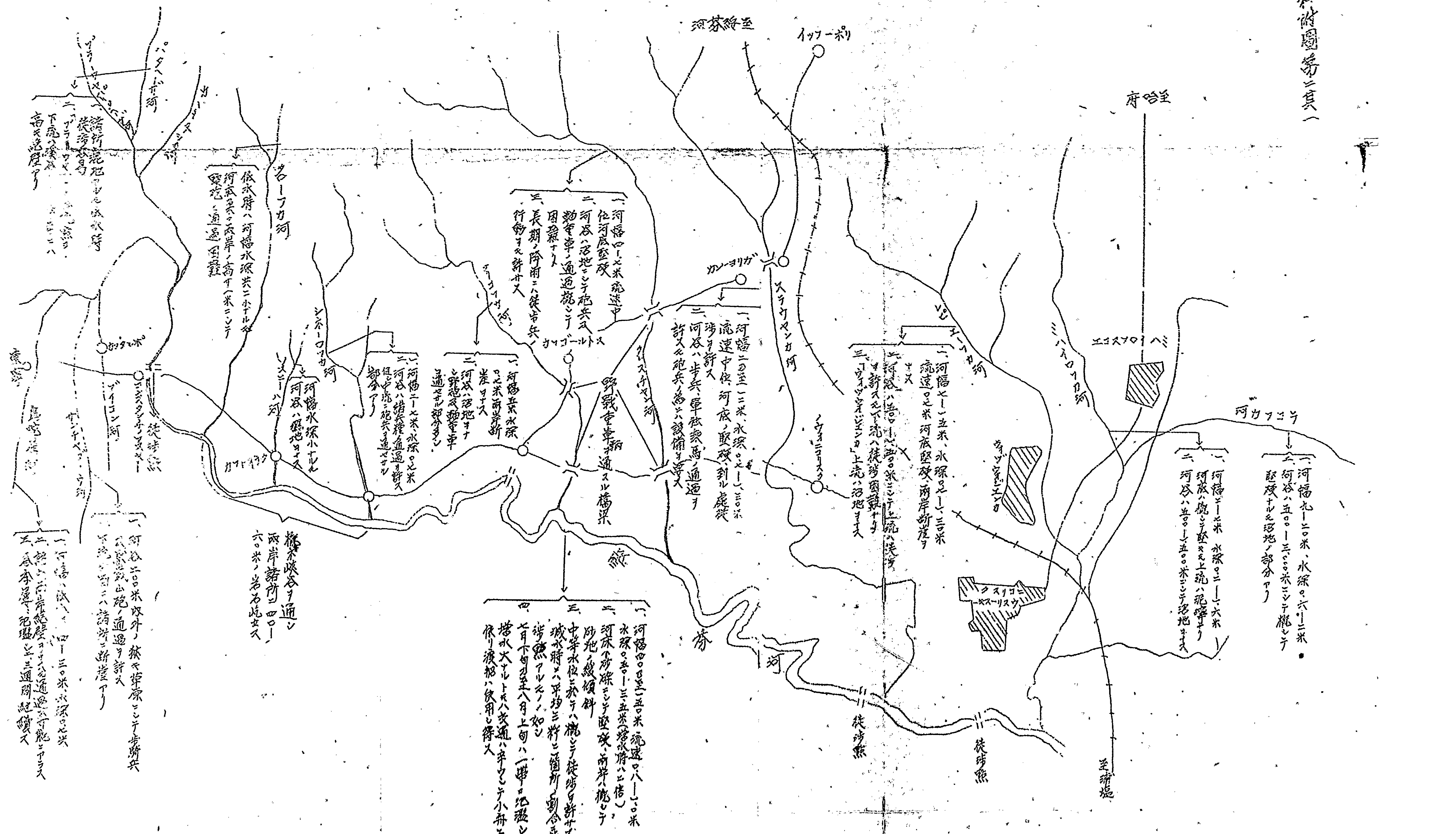
4年 8月5日

主務者又は
撮影立会者 加部東保夫

アジア歴史資料センター

作戰資料附圖第二其一

綏芬河及其支流概見圖



アジア歴史資料センター

第四　状況並演習員作業及統裁官所見

其一

一般状況並兵站監部

秘

兵站参謀ニ與フル狀況(二部)
(一軍作命甲第一號ニ依リ十月十一日午後交付)

一軍軍隊区分

軍飛行隊長 独立飛行第一中隊長 某
独立飛行第一中隊
第一乃至第四独立飛行隊

第三師団

配屬部隊

独立軽装甲車第三中隊
第三野戰高射砲隊
独立機関砲第三中隊
無線電信第三小隊

アジア歴史資料センター

野戰鳩第三小隊
第三架橋材料中隊
兵站輜重第一乃至第四中隊
区處部隊
野戰重砲兵第二聯隊
独立工兵第一聯隊
第一軍野戰瓦斯隊（野戰瓦斯第一中隊欠）
第四架橋材料中隊

第一師団
配屬部隊
独立軽装甲車第一中隊

アジア歴史資料センター

第一野戦高射砲隊
独立機関砲第一中隊
無線電信第一小隊
野戦鵬第一小隊
第一架橋材料中隊
兵站輜重第五乃至第八中隊
区處部隊
野戦重砲兵第一聯隊(第一中隊欠)

第二師団
配屬部隊
独立軽装甲車第二中隊

アジア歴史資料センター

野戦重砲兵第一聯隊第一中隊
第二野戦高射砲隊
独立戦闘砲第二中隊
無線電信第二小隊
野戦鳩第二小隊
野戦瓦斯第一中隊
第二架橋材料中隊
兵站輜重第九第十中隊

独立混成第一旅団
　配属部隊
第四野戦高射砲隊

アジア歴史資料センター

無線電信第五小隊
区處部隊
独立速射砲第一大隊
戦車第一聯隊
野戦重砲兵第三聯隊
野戦重砲兵第四聯隊
独立機関砲第四中隊
第一渡河材料中隊
騎兵第一旅団
配属部隊
第五野戦高射砲隊

アジア歴史資料センター

無線電信第六小隊
兵站電重第十一中隊

軍直轄部隊

軍砲兵司令部
第一砲兵情報聯隊
第一軍通信隊（無線電信第一乃至第三第五第六小隊欠）
第一軍特種無線隊
第一軍野戰鳩隊（第一乃至第四小隊欠）
第一軍野戰気象隊
第一軍野戰測量隊

アジア歴史資料センター

備考

左記諸隊ハ兵站監ニ配属ス

第五十一乃至第五十六野戦高射砲隊

第一乃至第三野戦照空隊

独立機関砲第五中隊

野戦鳩第四小隊

アジア歴史資料センター

第一軍命令

十月十一日
於綏芬河軍司令部時

一、敵情別紙要圖ノ如シ

二、軍ハ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ明十二日先ツ主力ヲ以テ「ポクロフカ」西北方地區、一部ヲ以テ「プリルーキ」附近ニ向ヒ前進セントス

三、軍飛行隊ハ……

四、第三師團ハ明十二日早朝現在地出發速ニ通溝―小城子―東寧―「コンスタンチノーフスキー」道ヲ△391高地南北側地區ニ前進スヘシ

五、第一師團ハ明十二日朝現在地出發第二「クレスチヤンカ」河ノ線附近ニ向ヒ前進スヘシ

一部ヲ以テ△391高地南北側地區ヲ占領シ第三師團ノ進出ヲ掩護

アジア歴史資料センター

スヘシ

午前四時以後第三師團ノ爲小城子ー東寧ー「コンスタンチノーフスキー」道及其以南ノ地區ヲ開放スヘシ

六、第三、第一師團間ノ作戰地境ハ「ハーヴオダオルキ、エフカ」、「ストルーゴフカ」各北端ヲ連ヌル線トス

七、第二師團ハ明十二日朝現在地出發「プリルーキ」附近ニ前進スヘシ

八、獨立混成第一旅團ハ明十二日午后六時現在地出發、金廠ー通溝ー東寧道ヲ「ポルタフカ」東寧間ノ地區ニ前進スヘシ

但旅團戰車隊ハ第三師團通過後速ニ「ポルタフカ」附近ニ前

アジア歴史資料センター

進セシムヘシ

九騎兵第一旅團ハ明十二日午后六時現在地出發速ニ「セルギエフスキー」附近ニ前進スヘシ

但一部ヲ速ニ「ポグースラフスキー」附近ニ進出シ軍ノ左側ヲ警戒セシムヘシ

十、軍直轄諸隊ハ夫々前任務ヲ續行スヘシ

十一、予ハ明十二日朝綏芬河出發東寧ニ到ル

軍司令官　某

アジア歴史資料センター

1157

軍兵命第一号

第一軍兵站部命令　　十月十一日　小綾芬軍兵站部

A.

一、敵情（略）

二、軍ヲ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主力ヲ以テ「ストルゴフ」西方地区ニ一部ヲ以テ「プリルキ」ニ向ヒ前進ス

二、兵站ハ軍ノ「ガリヨンカ」附近ノ會戦ニ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ追撃ニ應スル如ク準備セントス

軍隊区分附表第一ノ如シ

三、各兵站部ハ附図第一ニ基キ夫々其担任区域ニ於ケル兵站線及兵站地ヲ設定シ附表第二乃至第四ニ基キ軍需品ノ補給蒐積ニ任スヘシ

兵站主地ノ設定附図第二ノ如シ

四、防空隊ハ主地及小城子附近ニ重点ヲ重キ防空ニ任スヘシ

又飛行場ノ防空ニ協力スヘシ

五、師団戦倉庫ハ左ノ如ク之ヲ継承スヘシ

アジア歴史資料センター

5、野戦倉庫　十二日中　甲兵站部ニ
　20ク　　十二日中　丙兵站部ニ

六、鉄道隊ハ速ニ八道河子―小城子間ノ鉄道建築ニ任シ且其ノ列車ノ運転ニ任スベシ
　特ニ一部ヲ以テ綏芬河―小綏芬間既設鉄道ノ修復ニ任ズルヲ要ス

七、道路構築隊ハ主カヲ以テ甲兵站線一部ヲ以テ河沿以東乙兵站線ノ道路修復ニ任スヘシ

八、建築隊ハ臨時建築物ノ構築ニ任スヘシ
　細部ニ関シテハ別ニ示ス

九、兵站通信隊ハ野戦鵬第四小隊ヲ配属ス）ヲ未地推進ニ伴ヒ逐次其ノ西ノ通信網ヲ軍通信隊ヨリ継承シ且附図第三ニ基キ兵站線ニ個ヲ構成スヘシ

十、甲補給諸廠ハ現任務ヲ続行スルト共ニ綏芬河補給基点ニ弾薬廠、武器廠、自動車廠、衣糧廠、衛生材料廠ノ各支廠一個ヲ開設スヘシ

十一、野戦予備病院及患者輸送部ハ左ノ区分ニ依リ十三日夕迄ニ

アジア歴史資料センター

各兵站米地ニ到リ待命スヘシ

甲、第一第二野戦予備病院及患者輸送部本部及第一班

乙、第二野戦予備病院及患者輸送部外二班

丙、第四野戦予備病院及患者輸送部第三班

十二、第一兵站病院ハ小笠原ニ開設シ第二兵站病院及野戦防疫部ハ「ポルタフカ」ニ前進シ待命スヘシ

十三、兵站病馬廠ハ主力ヲ以テ「ポルタフカ」ニ一部ヲ以テ「グロデコー」ニ前進シ収療ヲ開始スヘシ

尚、予備馬廠ハ主力ヲ以テ「ポルタフカ」ニ一部ヲ以テ「グロデコー」ニ開設スヘシ

十四、野戦化學部ハ「ポルタフカ」ニ前進シ適時業務ヲ開始スヘシ

B、

其軍馬防疫廠ハ「ボルタフカ」ニ到リ待命スヘシ
右爾余ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スヘシ
尚予ハ小綾芳ニ在リ

軍兵站監 武内大佐

不達法
必要ナル部隊ニ要旨ヲ電話ニ命令受領者ニ口達筆記後印刷交付

アジア歴史資料センター

附表第一　軍隊區分表

軍隊部隊名	定数	部站兵地主	部站兵甲	部站兵乙	部站兵丙	隊防空	隊道鉄	隊築構路道	隊築建	轄直	属轉	備考
部令司站兵	4	1(兵)	2(兵)	4(兵) 3(兵)								一、括弧内ニ示セル数字ハ配属予定ヲ示スモノニシテ其日時ハ原表（編定別紙第二）ニ依ル 二、十六日以後 □□ハ各ノ宿地ニ転属セラルル者
隊信通站兵										1		
部本隊兵重輜站兵	8	1·8		4·5·6 2·3·7							1-4(5D) 5-8(10) 9(2D) 10(KB)	
重輜站兵 甲 馬	10											
〃 輜一	10			2-10							11(2D)	
〃 輜	10			1-10								
〃 乙	10			1-10								
隊視察送輸	15	1(8·11)		4·5(6·10·13·14) 2·3(7·9·12·15)								
隊軍統自站兵一第	64		部全									
〃 二第	〃	12	7-11									
〃 三第	〃		(部全)									
〃 四第	〃		(部全)									
〃 五第	〃	(部全)							1			
〃 六第	〃											
隊火夫歩備後	5	I(-3·4)	II	III 3·4						部全 (III IV)		
隊中兵騎 〃	2		1							(2)		
隊中兵砲野 〃	1									(1)		
隊中兵砲山 〃	1		1									
隊中兵工 〃	3		1	3 2								
敞蹄押手	1	1										
隊務勤上陸	24	1-9	10-13	14-16 17-19						22-24		
〃 築建	3						20·21					
隊築構路道	2						3	1·2	1·2			
隊砲射高戦野	51/56				51-56							
隊空跟 〃	3				1-3							
隊砲閉機ニ獨	若干									1		
敞高備予	1									1		
敞器武戦野	1		1 所張出	〃 〃						1		
敞薬弾 〃	1		1 所張出	〃 〃						1		
敞車動自 〃	1		1 所張出 乙張型ノ動静							1		
敞糧衣 〃	1		1 所張出	〃 〃						1		
敞料材生工 〃	1		1 所張出	〃 〃						1		
院病戦野	4									4		
部送輸若患	3									3		
院疫站兵	2									2		
敞馬疫站兵												
隊联通鉄	1						1(兵)					
隊中水給戦野	2									2		
部築建 〃	1								1(兵)			
部學化 〃	1									1		
部疫防 〃	1									1		
敞疫防馬軍	1									1		
隊小鳩	若干									1		

アジア歴史資料センター

附表第二

糧秣薪炭燃料補給區分表

兵站線	被補給部隊	種類	補給日量	補給處
甲	3D（司 配屬 LPW 3AA 3MAs 3DLT 3PT 3BK 1-K ET；司處 2SA 1PS 4SH 4BK）	人糧	六六	12/10
		馬糧	二、一八	
		燃料	四三	
	1MBs（司 配屬 4AA 5DLT；司處 1TAs 1TK 3SA 4SA 4MAs 1BK（in））	人糧	以六一	13/10
		馬糧	六、九六	
		燃料	三、九六	
		4.57	4.16	
		8.3		
		補給處	スタンナノフスキ	東寧
		集合	シネウフカ	シネウフカ
乙	1D（司 配屬 LPW 1AA 1MAs 1DLT 1BK 5-8 ET；司處 1SA（in）甲）	人糧	一四五	14/10
		馬糧	二、四三	
		燃料	一、一五	
		3.63		
		集合	海豐山（東方四里）	
丙	2D（司 配屬 LPW 1SA 2AA 2AAs 2DLT 2PT 1GS 2BK 9 11 ET）	人糧	一、三二	15/10
		馬糧	一、七四	
		燃料	一、一八	
	KB（司 配屬 5AA 6DCT 10 ET）	人糧	以三一	
		馬糧	以九三	
		燃料	以四七	
	1.71 3.20			
	4.91			
	集合	旬ヲ		
	補給處	プリルキ		

備考

一、補給定量戰列兵團（第一種）別ニ木炭百ロ（一人日量）干草一瓩（一頭日量）ト
兵站部隊ノ前項ニ準ス但シ增加糧秣（木炭、干草）ハ一ヶ月十日ヲ比ニテ加給ス
地方縱列ノ現地糧秣トレ補部ハ別ニ示ス
二、重爆行隊、通信隊等ハ最寄兵站部ヨリ補給ヲ受ク
三、補給時刻ハ概ネ正午頃トス
四、十三日ノ補給兵ハ早定ヲ示ス
五、總養馬數八、一二頭、五トス

アジア歴史資料センター

別表第三

弾薬其他軍需品集積表

兵站線	種類 / 集積地	日次	甲	乙	丙
		十四日迄	甲ノジオテオルギエフカ乙フアズラーエフスキー両ヒルギエフスキー		
	歩兵弾薬		中二	中中	中二小
	野砲弾薬		中二	中中	中一小
	十五榴弾薬		中二	中中	中一小
	十加弾薬		中四	中中	中一小
	戦車隊用弾薬		中二	小中	小一
	GSMATA其他弾薬		小一	小小	小一
	化学戦資材		中二	中中	中一小
	通信材料		小一	小小	小一
	衛生獣医材料		小一	小小	小一
	計		小一六中一	小一中一	小一一中一
		十五日十六日	兵站未地附近		
	歩兵弾薬		中二	中中	中二小
	騎兵旅団弾薬		小一	小小	小一
	野砲弾薬		中一小	中中	中一
	十五榴弾薬		中一	中中	中一
	肌MA其他弾薬		小一	小小	小一
	化学戦資材		中一	中中	中一
	通信材料		小一	小小	小一
	衛生獣医材料		小一	小小	小一
	計		小一九中二小	小一六中二小	小一一中二小

一、敵最モ兵站輜重兵中隊ヲ以テ成ス

アジア歴史資料センター

附表第四

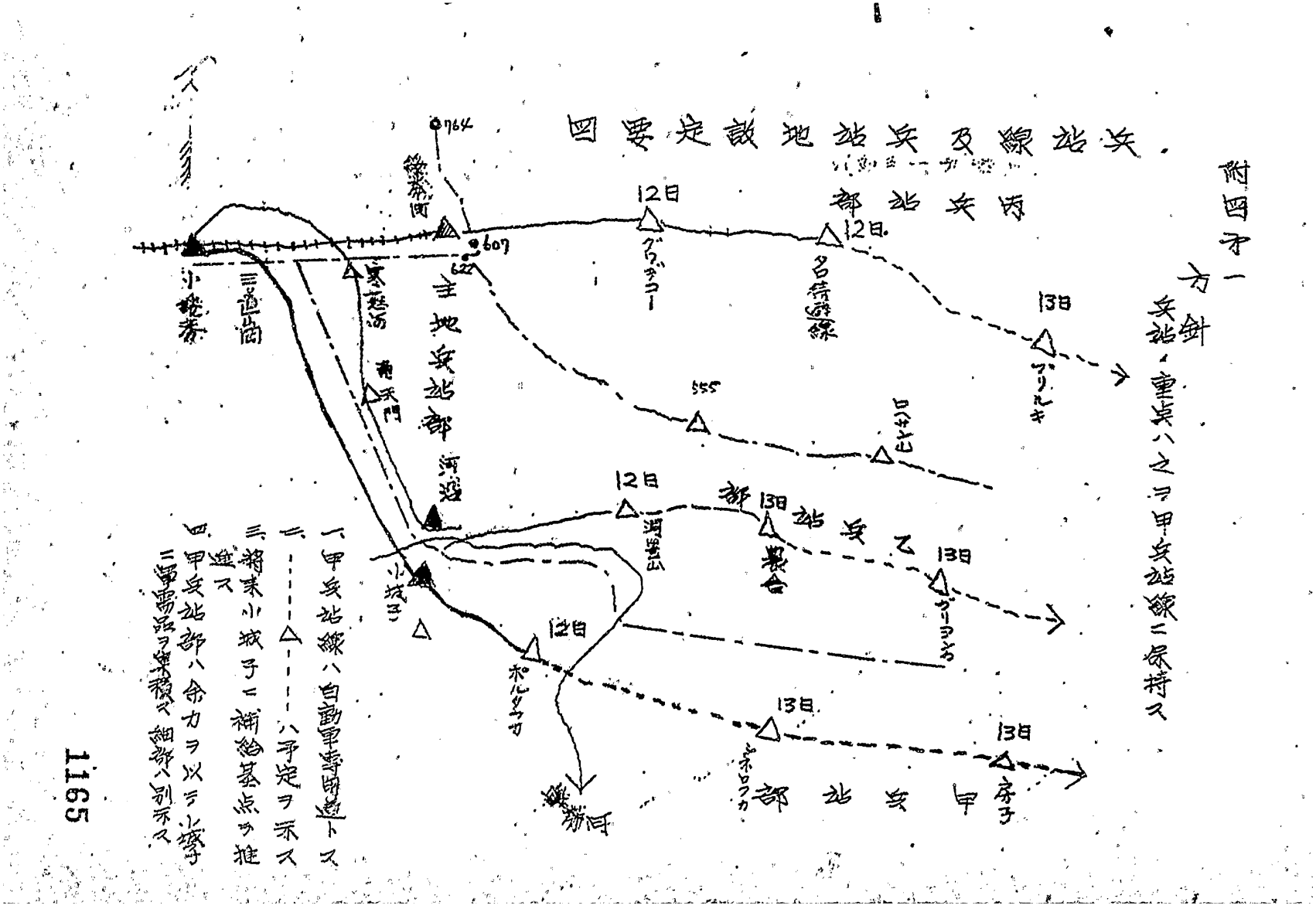
豫備糧秣薪炭燃料集積區分表

兵站線	品種	十月十四日迄	十月十五日迄
甲	常尋携帯糧食燃料	四中 二中 一〇〇〇人分 五中	三中 二中 一〇〇〇人分 二中
乙	常尋携帯糧食燃料	三中 二中 一〇〇〇人分 一中	二中 一中 五〇〇人分 一中
丙	常尋携帯糧食燃料	三中 二中 一〇〇〇人分 一中	二中 一中 五〇〇人分 一中
備考	一、集積地ハ各兵站末地附近トス 二、乙兵站線ノ豫ル集積ハ小綴第一河沿岡ハ甲兵站線ニヨリ河沿ニ前送スヘシ 三、加給糧秣ヲ右表ニ準ス集積ス		

アジア歴史資料センター

附四才一

兵站線及兵站地設定要図



1165

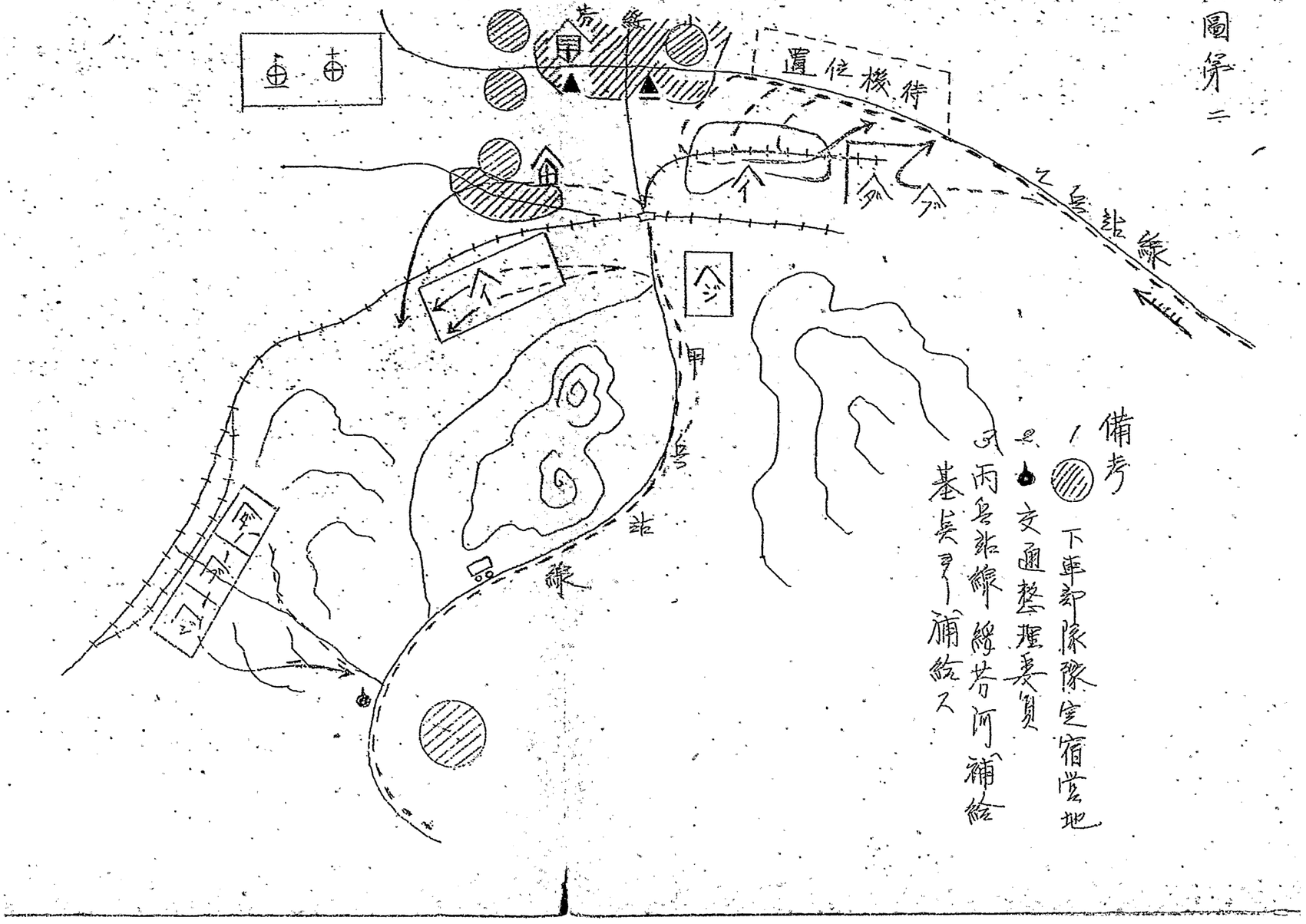
アジア歴史資料センター

9911

小銃芳附近主地兵站配置要圖

（ルヤ於ニ夜日一十月十）

附圖第二



備考

一、下車卸隊定宿営地

二、交通整理要員

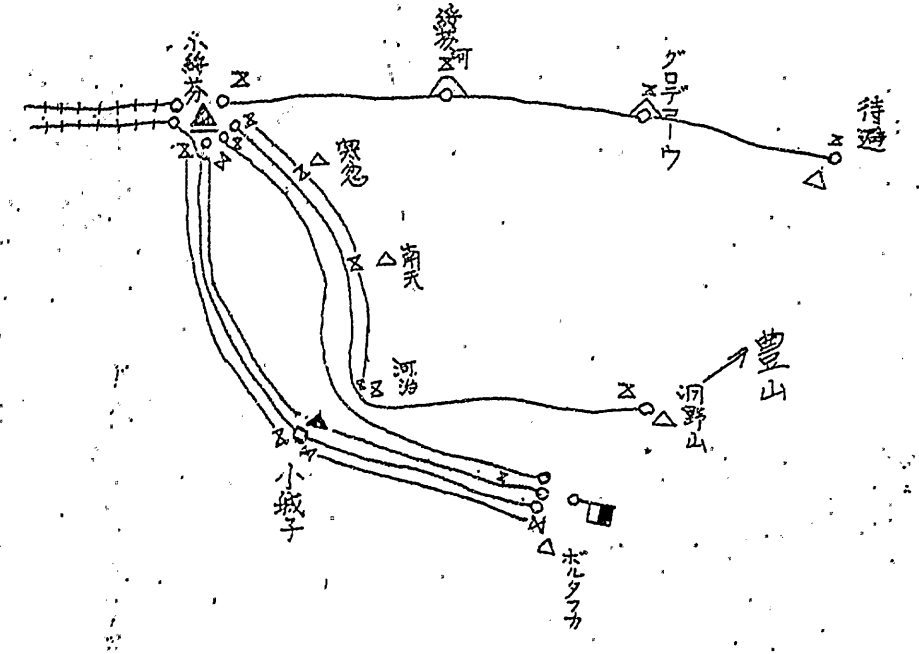
三、丙兵站線ハ芳河ヲ補給基点トス

アジア歴史資料センター

附圖第三

兵站通信網要圖

（タロニ十於）



備考

一、○八▲ト□及各線兵站部ト連絡ス

二、鴨八副通信トシテ利用ス

1167

アジア歴史資料センター

軍兵命第一號正誤表

位置	誤	正
一行目	甲兵命第一號	軍兵命第一號
一項ノ二行	軍ヲ明十二日	軍ハ明十二日
五項ノ一行	師團×戰倉庫ハ	師團野戰倉庫ハ
六項ノ一行	小城子間ノ×鉄道建築×ニ任ジ	小城子間ニ鉄道ヲ敷設ジ
九項ノ一行	兵站通信隊×野……ノヲ	兵站通信隊ヘ野……ヘハ
〃　三行	兵站道×四×網ヲ	兵站通信網ヲ
十項ノ一行	甲補給諸廠	軍補給諸廠
附表第一備考	××××× 括弧内ニ	輸送機関中括弧内ニ
附表第一	兵站部ノ項 倉庫ノ欄 1-10	31-40
附表第二	3D區處ノ項 4SH	6S(1)
附圖第一	主地兵站部ノ註記ハ鉄道ノ上方ニ轉記	
	地名 綴芬河、小綏芬等ハ夫々綏芬河、小綏芬ナリ	

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、附表第二ニ於テ給養系數ノ如キ一般ニ使用セラレアラサル語ヲ使用スルトキハ其意味ヲ註シ置クノ要アリ

二、附表第四ニ於テ尋常糧秣ハ其内容人馬糧ノ割合ヲ明示スルヲ要ス

三、附圖第一ニ於テ兵站司令部ノ位置ハ通信又ハ補給基点其他特ニ指揮上必要ト認ムル場合ノ外之ヲ指示スルノ要ナシ

四、各兵站線上ニ行動スル兵站監直轄部隊ニ関シ所要ノ事項ヲ指示スルノ要アリ

アジア歴史資料センター

1170

軍兵站部防衛規定

田浦少佐案

アジア歴史資料センター

軍兵站部防衛規定

一、兵站主地ノ防衛ハ主地兵站司令官線兵站部ノ防衛ハ兵站司令官之ヲ担任ス
兵站管區ノ境界ハ附圖第一ノ如ク署ス線上ハ右兵站、又ハ兵站監部ニ近キ兵站部ニ屬ス

二、各兵站部及諸廠ハ特ニ住民並地方縦列機関ノ懐柔ニ努ムルト共ニ嚴ニ之カ逃走ヲ防止ス
之カ爲敵兵トノ連絡地方在来ノ官民自警團名望家等ノ直接利用ニ努ムルト共ニ必要ニ際シテハ斷乎タル處置ニヨリテ土民ノ蜂起ヲ未然ニ防止シ或ハ疾風迅雷的ニ鎮壓スルコトカ要ナリ

三、各兵站部ハ陣地要務令ニヨリ警戒シ特ニ巡察及間諜ヲ利用シ兵站線ノ奇襲ヲ予防スルヲ要ス

兵站司令官ハ管内ノ警備防空非常事変等ニ関スル細部ノ規定ヲ定ムベシ

四、憲兵ノ任務ハ地方縦列在住地方民ノ懐柔ヲ主トシ併セテ防諜並ニ宣傳ニ任ス

五、憲兵ハ地方住民ノ武器ヲ押収スルコトヲ得
但シ其實施ニ関シテハ兵站司令官ノ許可ヲ受クルヲ要ス
軍隊等各部隊衛兵等ハ憲兵ヨリノ要求ニヨリ要スレバ其行動ヲ援助スルコトヲ得
憲兵ハ其結果ニ関シナルヘク速ニ兵站司令官ニ報告スベシ

六、憲兵ハ兵站司令官ノ命ヲ受クルカ又ハ協定シ兵站管區内ニ於テ非違ヲ宣傳シ或ハ暴行横奪等ノ友軍行動ヲ認メタル時ハ地方住民タルト軍人軍屬タルトヲ問ハス直ニ之ヲ引致取調フルコトヲ得 但シ此結果ニ関シナルヘク速ニ兵站司令官ニ報告又ハ通報シ其處刑ニ関シ指示ヲ受クルモノトス

犯人準入タル時ハ直ニ之ヲ所属部隊ニ通報スルモノトス

七、各官衙ハ前諭人ノ住居セサル家屋ト雖モ兵站司令官又ハ支部長ノ許可ヲ得スシテ之カ建築物并備付物品ノ毀壊移転取出等ヲ禁ス之ヲ犯シタル場合ニ於テハ兵站司令官又ハ各支部長ハ直ニ處刑スルコトヲ得

八、兵站主地及各兵站地ハ開設直後成ルヘク速ニ火災呼集、非常呼集防空演習等ヲ實施シ非常時變ニ備フルヲ要ス
各部隊各廠モ亦右ニ準シ實施スヘシ

九、兵站地并主要術工物諸廠ノ防御ハ直接警戒ヲ主トシ一部ヲ候地方住民間諜ノ利用飛行機トノ連絡等ニヨリ特ニ夜間ノ奇襲ヲ未然ニ防止スルヲ要ス　各兵站部ニ附表第一（材料配布区分表参照）ノ防禦資材ヲ配當ス　不足分ハ兵站監部ニ請求スルコトヲ得

アジア歴史資料センター

十、敵襲ニ際シテハ兵站司令官若クハ各支部長ハ附近ノ軍隊又ハ通過軍隊ニ増援ヲ要求シ又其地ニアル輸送機関縦列軍隊軍人軍属ヲ挙ケテ協力一致死力ヲ盡シテ防衛ニ任スルモノトス
附近ノ軍隊及通過軍隊ハ兵站司令官又ハ支部長ノ要求ニ應ズヘキモノトス

十一、輸送機関ノ警備ハ中隊若クハ一縦列毎ニ輸送機関自ラ有スル兵力ヲ以テ實施スルヲ通常トス
此際地方縦列ニ在リテハ地方民ノ逃走防止ニ特ニ注意スルヲ要ス

十二、輸送機関ハ成レ得ル限リ掩蔽班及乗馬伝令要員ヲ區分シテ前進スルノ着意ヲ必要トス
自動車中隊ハ整武ノ為通常其前方中間及後尾ニ軽機及小銃兵ヲ搭載セル警戒用自動車ヲ前進セシムルヲ要ス

十三、防空部隊ハ敵機ヲ発見セハ濁断射撃ニ任スルヲ通常トスルモ時宜

アジア歴史資料センター

ニヨリ兵站司令官之ヲ指示スルコトアリ

十四、防空部隊ハ防衛ニ関シテハ土地兵站司令官若クハ所在ノ兵站司令官ノ區署ヲ受クルモノトス

十五、各部隊並諸廠ハ爆撃ニヨル損害ヲ顧慮シ指揮ノ許ス範囲ニ於テ分散不規配置スルト共ニ遮蔽僞裝等ニ関シ遺漏ナキヲ要ス

十六、通過軍隊及全縦列ハ防空ニ関シ兵站司令官及支部長ノ區置ヲ受クルモノトス

兵站司令官及支部長ハ防空ニ関シ必要ナル事項ヲ速ニ通過軍隊ニ告知スルヲ要ス

十七、兵站司令部及各兵站地ニ於テハ夜間事務用燈火ノ外燈火ノ使用ハ一切之ヲ禁ス

天野並ニ於ケル縣大ノ使用ヲ禁ス炭火ヲ使用スル場合ニ於テモ能

アジア歴史資料センター

對ニ上空ニ暴露セザル ノ處置ヲ必要トス

十八、防衛上緊急通信ノ實施ニ関シテハ通信連絡機定ニヨル

十九、各輸送機関ハ常時對空警戒ヲ嚴ニシ敵機襲来ノ際ニハ其ノ機関小銃ヲ以テ撃墜ニ任ズルト共ニ極力地方縦列ノ離散ヲ防止スルヲ要ス

二〇、彼我飛行機ノ識別附図第二ノ如シ（略）

統裁官所見

一、内容概ネ主要事項ヲ掲メアルモ更ニ整理ヲ要スルモノ検討ヲ要スルモノ追加ヲ要スルモノ等散カラス

例ヘハ、命令ニ入ルヘキモノ、注意事項ニ属スルモノ、治安ノ範囲外防諜等ニ属スルモノ等是レナリ

二、本規定ノ主眼トスルトコロハ陣中要務令等ニ據リ更ニ細部ヲ規定スヘキ事項ト據ルヘキ準據不明ナルモノニ対スル權限並連繋事項ヲ明ニスルニ在リ

アジア歴史資料センター

昭和十二年七月十二日

兵站部報告規定

第一次兵參要員研究班

アジア歴史資料センター

6411

兵站部報告規定

一、本規定ハ兵站部内各機関相互間ニ於ケル通報、報告ニ関シ必要ノ事項ヲ定メタルモノニシテ其ノ適用範囲ハ通常兵站部内ニ限ルモノトス

二、報告ヲ分ケテ左ノ四種トス

兵站部日報　甲　乙
〃　兵站部旬報　甲　乙
〃　兵站部経理旬報　甲　乙
〃　兵站部臨時報　甲　乙

三、日報ハ兵站関係諸機関日々ノ業務遂行ノ参考ニ資スルヲ主要ナル目的トシ、兵站部及同支部毎ニ（出張所ハ其ノ要度ニ応シ）毎日之ヲ調製シ先ツ兵站司令部ヨリ其ノ直上機関ニ提出スルモノヲ甲、支部ヨリ司令部ヘ提出スルモノヲ乙トス

アジア歴史資料センター

ヲ電話、電報等ヲ以テ其ノ要旨ヲ報告スルノ後可及的速ナル方法ヲ以テ之ヲ直上機関ニ呈出スルモノトス

日報ニ於テハ通常前日ヨリ翌日夕迄ニ於ケル事項ヲ其ノ日ノ夕刻取纏メ報告スルモノトス

四、旬報ハ兵站諸機関業務実施ノ実況ヲ知リ爾後ニ於ケル計画ノ策定並運用ニ資スルノ外将来ニ於ケル参考ニ供スルヲ目的トシ兵站部及支部毎(出張所ハ其ノ要度ニ応シ)毎旬末日之ヲ調製シ之ヲ呈出スルモノトス

(兵站司令官業務書百一條)

五、臨時報ハ緊急ニ応シ呈出スルモノニシテ其ノ内容ニツキテハ制限ヲ設ケス但シ濫用セサルヲ要ス

六、兵站部(日誌ニ記載スヘキ事項概ネ左ノ如シ

兵站線内ニ於ケル兵站部諸隊ノ表況

各兵站地方ニ於ケル軍隊ノ表況

其他必要ノ事項

其様式附表第一ノ如シ

七、支部日誌ニ記載スヘキ事項概ネ左ノ如シ

兵站地ヲ通過セシ軍隊（輸送機関ヲ含ム）及其通過時刻、兵站地ニ宿營スル部隊

兵站用軍需品ノ狀況特ニ受拂狀況

輸送機関ノ緊急ニ應シ直チニ他ノ用ニ供シ得ヘキ空車部隊ノ種類數量

其他必要ノ事項

其様式附表第二ノ如シ

八、兵站部及支部日報ヲ電報、電話等ニ依リ報告スル場合ニ於テハ特ニソノ内容ヲ精選シ簡單ニシテ要ヲ得ルコト肝要ナリ

コノ場合ノ内容ハ緊要ナル事項ノミニ限定スルモノニシテ其ノ内容概ネ左ノ如シ

兵站部日報

當日計画通リ業務ヲ實行シ得タルヤ否ヤ

變更アリタル時ハ其ノ要旨

軍需品集積地点及其ノ品種並概略ノ數量

アジア歴史資料センター

到着宿営セシ部隊（輸送機関ノ番号ヲ含ム）

集積セシ軍需品ノアリタル時ハ其ノ品種数概略ノ数量

九、出張所ノ設出スヘキ日報ハ概ネ支部日報ニ準スルモノトス

十、兵站部旬報ニ記載スヘキ事項概ネ左ノ如シ

人馬現在員数表

兵站線保護ニ関スル事項

警備ニ関スル事項

衛生ニ関スル事項

将来ニ関スル事項

十一、支部旬報ニ記載スヘキ事項亦概ネ右ニ準ス

十二、経理旬報　別ニ研究ス

十三、兵站関係業務ニ使用スヘキ略符号　附表第三ノ如ク定ム

アジア歴史資料センター

附表第一

兵站現況報告用紙甲（兵站部用）

兵站部日報（昭和　年　月　日現在）

兵站部長官氏名　　印

兵站地		合計 往	合計 歸	作 往	作 歸	↑ 往	↑ 歸	△	△	△	△	△	未集積地 其他軍需品 種類	受	拂	殘	備考
	往																
	歸																
	往																
	歸																
	往																
	歸																

輸送機關ノ狀況

アジア歴史資料センター

附表第二

兵站現況報告用紙乙（兵站支部用）

報告第　號（其　）

兵站部日報（昭和　年　月　日夜現在）

支部長官氏名　㊞

通過部隊						宿営部隊			兵站用軍需品（中隊数）				警備	その他
軍隊	兵站関係			時刻		区分	行往	行帰	種類	受	拂	残		
	隊列番号（終発）		区分			輸送機関（甲）								
	行往	行歸		時	刻	輸送機関（乙）								
			4			徒歩（国）								
			6			徒歩								
			8			↑↑								
			10											
			12			輸送機関ニ依ル場合ニ於ケル車輛数								
			2											
			4											
			6			其他								

アジア歴史資料センター

兵站部通信略符號一覽表

意味	符號	意味	符號
兵站監部	カ	野戰衣糧廠	イレウ
兵站司令部	タ	同自動車廠	ジシ
支部支廠	シ	同右移動修理班	ジシウ
兵站輜重兵隊本部	ホン	野戰衛生材料廠	エイ
兵站輜重兵中隊	チウ	同豫備病院	ヨビ
地方縱列	ジウ	患者輸送部本部	カユ
輸送監視隊	カシ	同右班	カハ
陸上勤務隊	リク	兵站病院	ヘビ
兵站自動車隊本部	ジホ	兵站病舍廠	ヘバ
兵站自動車中隊	ジチ	後備騎兵大隊	コホ
豫備馬廠	ヨ	後備騎兵中隊	コキ
野戰武器廠	ブ	同野砲兵中隊	コヤ
同彈藥廠	ダ	野戰航空廠	コウ
補給監	ホキ	後備山砲兵中隊	コサ
補給基監	ホキキ	同工兵中隊	ココ

意味	符號	意味	符號
手押經鐵隊	テ	兵站監部	カ
水上勤務隊	スイ	兵站司令部	タ
建築勤務隊	ケン	支部支廠	シ
野戰道路構築隊	ドコ	兵站輜重兵隊本部	ホン
同建築部	ケケ	兵站輜重兵中隊	チウ
同化學部	カガ	地方縱列	ジウ
同防疫部	ボウ	輸送監視隊	カシ
軍馬防疫廠	ウボ	陸上勤務隊	リク
兵站支地	シエ	兵站自動車隊本部	ジホ
兵站	タン	兵站自動車中隊	ジチ
兵站末地	タマ	豫備馬廠	ヨ
第一何々	ダ一	野戰武器廠	ブ
同彈藥廠	コウ	同彈藥廠	ダ
同建築部	ケケ	補給監	ホキ
同化學部	カガ	補給基監	ホキキ
同防疫部	ボウ	後備騎兵大隊	コホ
軍馬防疫廠	ウボ	後備騎兵中隊	コキ
兵站支地	シエ	同野砲兵中隊	コヤ
兵站	タン	同工兵中隊	ココ
兵站末地	タマ	第一何々	ダ一

意味	符號	意味	符號
野戰衣糧廠	イレウ	本（本十四日）	本一四
同自動車廠	ジシ	明日（明十五日）	メ一五
同右移動修理班	ジシウ	明後日（明後十六日）	メゴ一六
野戰衛生材料廠	エイ	作日（作十三日）	サク
同建築部	ケケ	（午前九時二〇分）	「ロ九二〇」
同化學部	カガ	（午後七時一五分）	「一九一五」
同防疫部	ボウ	十日十五日	「ロガ一五」
軍馬防疫廠	ウボ	出発セヨ（前進セヨ）	セヨ
兵站支地	シエ	日報	ニホ
兵站	タン	旬報	ジホ
兵站末地	タマ	經理旬報	ケジホ
第一何々	ダ一	報告セヨ	ホヨ
兵站病舍廠	ヘバ	宿營部隊	シブ
兵站病院	ヘビ	敵兵侵入ノ兆アリ	テヤ
兵站自動車隊本部	ジホ		
兵站自動車中隊	ジチ		
豫備馬廠	ヨ		
野戰武器廠	ブ		
同彈藥廠	ダ		
補給監	ホキ		
補給基監	ホキキ		

意味	符號	意味	符號
順（ト）	ト	米	メ
梱（ン）	ン	平方米	ヘメ
叭（ハニロン）	カマ	立方米	リメ
箱（五ロ箱）	コ	何食分（三食分）	シヨ（三ヨ）
間（一ロ〇間）	ケ	粁（七粁）	キ（七キ）
尺（七〇尺）	ヤ	東方	トホ
隊（五隊）	イ	西方	セホ
〇〇方面	〇〇メン	南方	ナホ
		北方	ホホ

意味	符號	意味	符號
新聞記者	シブ	慰問團	イン
地方官憲	チカ		
露西亞人	ロジ		
蘇軍	ソレ		
滿洲人	マン		
朝鮮人	チョウ		
蒙古人	モウ		

意味	符號	意味	符號
豫定通出発ス	ヨセ	前進ヲ要ス	ゼヨ
豫定ヨリ遲ル	オ	未タ到着セス	マ
出発セリ	セ	出発セシヤ	セト
到着	チ	碍導ラレタ	コフ
到着宿營ス	シユ	到着セシヤ	チト
數量不足ス	タズ	次ノ如シ	トシ
種族現在高報告	ホウ	警備ヲ嚴ニセヨ	ケケ
報告セリ（濟セリ）	ホセ		

備考
一、第一線兵團ノ名稱等ハ軍通信略符號ヲ準用ス
二、樺太鐵道、馬等、彈藥、通信、築城、救護等ニ關シテハ各補給廠ニ於テ之ヲ定ムルモノトス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

本規定ハ主トシテ各兵站部ノ事項ヲ規定シアリ更ニ補給廠（支廠）ノ日報ヲモ研究ノ要アリ

報務ヲ豫期スル電話ニ依ル日報ハ報告内容ノ順序及内容ノ最小限度ヲ更ニ明確ニスル等工夫ノ餘地アリ

日報（筆記）ノ型式モ要圖ヲ加フル等更ニ研究ノ要アリ

アジア歴史資料センター

兵站部宣傳防諜規定

軍兵站部

方針

兵站管區內ノ官民及地方縱列要員並産業人夫ヲシテ深ク軍ニ信賴セシメ軍機ヲ保護シ諜報謀略的行爲ヲ防止シ且間諜ノ侵入ヲ根絶シ以テ兵站業務ヲ円滑ナラシメ軍ノ作戰遂行ヲ有利ナラシムルニ在リ

要領

一、日本軍隊ハ義軍ニシテ隣支官民ニ對シテハ決シテ惡意ナキコトヲ說明シ人民ハ大ニ安堵其業ニ就クヘキコトヲ知ラシム
然レトモ軍ノ行動ヲ妨害スルモノニ對シテハ軍律ニ照シ峻嚴ニ處斷スルコトヲ告知ス

二、常ニ附近住民ノ言動及動靜ニ深ク注意シ以テ外部ヨリスル宣傳謀略ヲ未然ニ防止スルト共ニ之ヲ逆用スルノ考慮ヲ要ス
苟モ秩序ヲ妨害シ反軍言動ノ疑アリト認メタル時ハ斷乎トシテ處斷シ以テ其禍ヲ根絶スルノ著意ヲ必要トス

三、縱列ノ編成人夫ノ配當ハ下車地到著後實施シ特ニ同一地方並ニ者ヲ同一縱列又ハ班ニ多數編入セサル如ク注意ス

アジア歴史資料センター

四、懲切厳格ト愛撫ト特ニ機ニ当初ハ宿営給養ヲ疎略ナラシメ一面規律統制ニヲ確立スルト共ニ他面大ニ安堵シテ勤務セシムル如ク指導ス

五、賞罰ヲ公正ニシ特ニ物質形態ヲ以テスル精神指導ニ力ヲ注ク之カ為善行者ハ一般ノ面前ニ於テ即時賞與ヲ與ヘ又ハ昇給ヲ奉告シ非違怠者ニ対シテハ懲ヲ失セス減給又ハ懲罰ヲ加ヘ以テ一般ヲ刺戒シ警衛成効スルヲ要ス

六、下車地又ハ兵站地ニ於ケル宿営休養ニ當リテハ所属隊員以外ノモノトノ接觸ヲ斷ツ特ニ慰送スル新聞雑誌新来ノ人夫兵站地宿営ノ軍隊トハ一切接觸ヲ禁ス

七、我カ第一線ノ戰勝ハ勿論ニ失セス之ヲ布達シ悲報ノ秘匿ニ努ム又戰傷後送兵輸送ニ際シテハ時ニ其惨狀ヨリ恐怖心ヲ惹起セシメサル如ク注意ス

八、常ニ其言語動靜ニ注意シ反乱逃走合謀的怠業等ヲ未然ニ防止ス

九、規律ハ兵站諸部隊ノ軍紀アリ統制アル行動ニヨリ冷靜沈着ハ敵襲ニ際シ警護兵ノ勇敢ナル犠牲的行動ヲ示ス等ヲ軍ノ誠信ヲ発揮シ其信頼性ヲ向上ス

一〇、公平ナル休養ヲ與ヘ休日ニハ主地又ハ兵站地ニ於ケル遊覧慰安ノ途ヲ講ス

要スレハ性設備ヲナスヲ要ス

十一、直接輸送ニ必要ナキ軍事行動ハ之ヲ発表セス
又行軍至路到着地点等ハ必要ナキ限リ指揮官限リトシ以テ軍機ノ漏洩ヲ防止ス

十二、通過軍隊営営スル軍人軍隊ニ対シテハ特ニ其目的又ハ到着地第一線ノ状況等ニ関シテ口外スルヲ禁ス

十三、保管書類特ニ各種情報命令等ノ取扱ヲ厳ニシ特ニ印刷原紙ノ焼却ニ注意スヘシ

十四、出入商人軍属ノ取締ニ注意ス
十五、兵站司令部(支部長)ハ適宜密偵ヲ使用シ情報ヲ蒐集シ現状ニ即シ宣撫スルヲ要ス

十六、所在ノ官民ヲ懐柔シ転出入ノ住民ニ注意シ特要注意人物ノ動静ニ留意スヘシ、出入商人ニ注意シ酒席ノ言動ヤ婦人業者並附近ニ嗜戯スル児童ニ注意スヘシ、要スレハ住民ノ兵器所持ヲ禁シ以テ不意ノ攻乱ヲ防遏スヘシ、地方巡回要員個々ノ兵器携帯ハ之ヲ禁シ要スレハ防護用トシテ縦列監視員ニテ保管シ必要ニ応シ交付スル如クス

アジア歴史資料センター

三、敵襲時地方縦列要員ノ監視ハ必ス一部ヲ以テ厳重ニ行フヲ要ス

三、日本商人軍人軍属行動ヲ警視シ非違ヲ敢テシ又ハ暴利ヲ貪ル等ノ行為ナカラシム

違犯者ニハ即時退去ヲ命シ又ハ懲罰ヲ断行シ以テ軍ノ公平ナル誠信ヲ繋持スルヲ要ス

三、人馬ノ施療ヲ施シテ人心ヲ收攬シ且軍ノ信頼ヲ向上ス

実施機関及同要領

一、実施機関及同要領附表第一ノ如シ

アジア歴史資料センター

附表第一

宣傳實施機関及實施要領

	任務	施設	方法	備考
兵站監	一、軍司令官ノ企図ニ基ク宣傳ニ関スル規定ヲ定ム 二、部員憲兵要スレハ地方有志臨時編成スル宣撫班等ヲシテ規定ニ基ク実行セシム 三、各兵站司令部ノ實行ヲ監督統制ス	一、宣撫宣傳班ヲ編成ス 二、宣傳用ポスター(会図ハガキ等ノ調製分配 三、映寫機ラヂオ蓄音器等ノ整備分配 四、宣傳用歌詞歌曲ノ調製分配	一、口頭ニヨル方法 自ラ又ハ部員或ハ地方有志宣撫員ヲシテ実施 二、宣傳用ポスター掲示又ハ分配機布 三、憲兵ヲシテ宣傳宣撫ヲ担任セシム	一、兵站監ハ兵站地区全般ニ兵站司令官ハ担任兵站線路及令部線ニ支部長ハ支部及支部所在地附近ニ住民ニ対シ宣傳宣撫スルモノトス
兵站司令官	一、兵站監及兵站司令官ノ規定ヲ実行ス 二、要スレハ兵站監ノ規定ニ基キ實行ニ関シ細部ノ規定ヲナス 三、配屬憲兵ノ權限ヲ明カニシ實施動ニヨリ企図ノ徹底ヲ期ス	一、娯樂施設ノ設備要スレハ性設備ノ許可 二、情況之ヲ許スハ治安維持會ヲ設ケシメ且自衛団ヲ設ケシメテ治安ノ維持及宣撫宣傳ノ徹底ヲ期ス 三、娯樂器材ノ交頒分配 四、要スレハ住民ノ施設設備ヲナス	一、口頭ニヨル法 自ラ又ハ配屬宣撫員ヲシテ兵站ヲシテ実施 二、宣傳用歌ハガキヲ利用シテ実施又 三、映画ニヨル法 娯樂ト合セ映画ヲ利用シテ實施又 四、ラヂオ蓄音機ニヨル法 休日休憩時ヲ利用シテ一ツハ慰安ニ一ハ宣傳ニ又 五、分配ヲ受ケシ歌詞曲ヲ ニヨリ宣傳又 六、劇ヲ觀セ又ハ集会ヲ利用シテ宣傳又	
支部長	一、兵站監及兵站司令官ノ規定ヲ実行又 二、支部所在地ノ人心ノ安定収攬ニ任ス	一、娯樂施設ノ設備要スレハ性設備ノ指示 二、娯樂器材ノ交頒及施設	兵站司令官ニ準シ實施又	

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、宣傳ト防諜トハ別規定トスルカ内容ヲ區分スルヲ可トセン

二、戰場宣傳ノ内容ノ根幹ハ我カ軍ノ必勝ヲ確信セシムルニアル点ヲ更ニ強調スルヲ要アリ

三、宣傳ノ対象ヲ各実施機関毎ニ更ニ詳細ニスルヲ要ス

四、防諜ニ関シテハ憲兵ノ本務ナルヲ以テ別途研究スヘシ

協4

アジア歴史資料センター

交通規定

軍兵站部

一、兵站線路ノ道路及通信線ノ維持ハ各担任司令官ニ於テ安負施スヘシ
但小綏芬河ー綏芬河間ハ主地兵站司令官之ヲ担任スヘシ又甲兵站線路ノ補修ハ當初軍直轄道路構築隊ニ於テ実施ス

二、河沿ニ於ケル交通ノ混雑ヲ予防スル為甲兵站線路ハ瑷泉子ヨリ小城子ニ入リ河沿ヲ開放スヘシ

三、兵站線路ニ大破ヲ生セハ速ニ其位置程度ヲ兵站監部ニ報告スヘシ

四、交通路上ニ故障アル際ハ必要ニヨリ兵站司令官(支部長)ハ一時輸送部隊ヲ停止セシムルコトヲ得

五、輸送機関行違ノ時ハ左側ヲ行進スルヲ本則トス

六、実縦列ハ空縦列ニ優先ス

七、輸送機関相互ニ交通スル場合ニ於テハ高級先任者之ヲ區署スヘシ

但快速機関他ノ機関ト交進セハ通常前者ヲ先ニスルトス

八、故障車輌ハ路外ニ避ケ交通ヲ防ケサルヲ要ス

九、各兵站地ニ於ケル交通整理ハ各兵站司令官(兵站支部長)之

アジア歴史資料センター

ヲ定メ兵站監ニ報告ヘニ通シスルト共ニ関係輸送機関軍隊等ニ
通報スヘシ
十、軍隊ノ通行ニ関シテハ別ニ示ス

アジア歴史資料センター

1195

軍兵命第六号

第一軍兵站部命令　一〇、二、二〇　於小綏芬軍兵站部

一、珊十二日小綏芬駅着到車表竝到着部隊ノ配属附表第一ノ如シ

二、主地兵站部ハ関係各部ト連繋シ附表第一ニ基キ処理スヘシ

軍兵站監　武内大佐

下達法
要旨ヲ電話、命令受領者ニ印刷交付

アジア歴史資料センター

附表第一

十二日小終夢驛着列車表

定刻(時)	到着部隊(軍隊)	配屬	摘要	午後(時)
1 2 3 4 5	十 ⊠ 7	乙兵站部		1
6	一 □ 二	直轄		
7	軍需品		内容不明	7 6 5 4 3 2
8 9 10 11	十 ⊠ 6	丙兵站部	終夢下車	8 9 10 11
12	軍需品		内容不明	12

1	道轄
2 3 4 5 6 7	甲兵站部 3

滿考 一、軍道轄部隊ハ到着後小終夢ニ位置セシム

アジア歴史資料センター

軍兵命第七號

第一軍兵站部命令　十月十一日午後　於小綾芳兵站監部

兵站諸部隊設定ノ爲別紙ノ如ク交付ス

第一軍兵站監部

兵站諸部設定所要材料分配區分表　軍兵站部

兵站地 / 材料	天幕	野戰炊具	有刺鐵線	八番鐵線	瀘水器	野戰用貨物覆	及付地
現在數量	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二〇〇粁（約二十万米）		二、〇〇〇	一、六〇〇	
甲兵站線	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一〇、五〇〇米	一〇、〇〇〇米	五、〇〇〇	一、〇〇〇	小綾芳河ノ
乙〃	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、七五〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	河沿ヒ甲兵站部ヨリ
丙〃	五、〇〇〇	五、〇〇〇	六、七五〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	綾芳河ノ支
衣糧廠	一、〇〇〇		二、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇		九、〇〇〇	
武器廠	二五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		二、〇〇〇	
自動車廠	一、〇〇〇		二、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇			小綾芳河ノ
新生材料廠			一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇		五、〇〇〇	
彈藥廠	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇		一、五〇〇	
予備	五〇〇	五〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	
合計	二〇、〇〇〇	五二〇〇	一二〇、〇〇〇、〇〇〇	天、〇五〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	

備考

一、本計画ハ豫メ所要ノ數量ヨリ兵站ニ所要概數ノ參考トシテ計上セリ

二、ハルヒノ現地調辨ニ尚不足ノ分ハ予備ヨリ尚不足ノ分ハ方面軍ニ請求シテ交付ス

アジア歴史資料センター

補給諸廠ニ関スル指示　十月十一日午後二時三分
於小緑芳河

一、小緑芳河補給支廠ニ左記ノ標準ニ依リ集積スベシ

野戦武器廠支廠　半師団分
野戦弾薬廠支廠　半師団分
野戦自動車廠支廠　兩兵站補給量半月分

二、将来小城子附近ニ支廠ヲ設ケ得ル如ク準備スベシ

軍器部長

第一軍兵站地方運輸員及労働傭役管理規定

一、地方運輸員及人夫ノ徴集ハ兵站管區内ニアリテハ司令官（支部長ノ含ムヲ以テ同シ）又ハ特ニ兵站監ノ指定スル関係諸機関之ヲ担任ス

二、兵站司令官ノ徴集地域ハ其管区内トシ機関ヲ特設スル場合其徴集地域ハ別ニ定ムル所ニ依ル

徴集ニ任スル諸機関ハ相互協商シテ所要ノ輸送力ヲ整備若シ所要ニ達セサルトキハ速ニ之ヲ兵站監ニ報告スヘシ

三、情況已ムヲ得サル土隙シ意ノ徴発ヲナスヲ妨ケナシト雖モ其実施ニ当リテハ事由ヲ具シテ速ニ兵站監ニ報告スルモノトス

四、車輌取締ノ為荷馬車概ネ一縦列ニ付車頭ナヲ置クヲ得、人夫駄獣荷車若干等ニアリテハ概ネ五〇單位ニ付一名トス

五、賃金ノ標準ヲ左ノ如ク定ム但糧秣燃料ハ官給トス

牛車	一日ニ付	一、二四五〇
荷馬車	一日ニ付	六、〇〇〇
荷物自動車	一日ニ付	一〇、〇〇〇

アジア歴史資料センター

人夫　一日ニ付　弐〇

備役ノモノニシテ労役ヲ課セザルトキハ前記備役賃ノ半額以内ヲ給ス

請負運搬ヲ有利トスル場合ニ在リテハ前記賃金ヲ標準トシテ運賃ヲ算定ス

車輛ノ賃金ハ一日ニ円以内トシ管理スル車輛ノ員数ニ依リテ適宜酌量ス

困難ナル地形、夜間、雨天等ニ使用シタルトキハ前記賃金五割以内ヲ増額スルコトヲ得

遠隔ノ地ニ於テ徴集シタル運搬具ニハ永ク軍部ノ輸送ニ従事スル保証アルモノニ限リ一日行程ニ付二円ヲ目途トシ未集手当ヲ給スルコトヲ得

賃金支拂ノ方法ハ一週日毎ニ支拂ヲ本則トス

右ノ如ク定ムルト雖モ地方ノ情況之ニ據ルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シテ報告スヘシ

六、地方運搬具及人夫ハ日々労役終リシ後ハ兵站地及其近傍ノ部落ニ宿舎ヲ準備シ且ツ成ルヘク其需品ノ供給並ニ運搬具補修ニ便宜ヲ図ハ宿舎料及物價ヲ規定シ彼等ノ自活ヲ容易ナラシムル如クスヘシ

アジア歴史資料センター

但シ情況之ヲ要スレハ其住所ニ帰還セシムルヲ可トス

七、 給料ノ所属区分ヲ判別スル為兵站司令部毎ニ一定ノ標識ヲ規定スヘシ

文徴備者ノ逋走ヲ豫防スル為管理者ニ於テ所要ノ処置ヲ講スヘシ

八、 労役ハ一日四里ノ行程ヲ往復スルヲ標準トシ連続シテ労役スルモノニハ概ネ五日毎ニ一日ノ休業ヲ與フルヲ可トス

九、 傭役運搬具ノ損害ニシテ官嘱ト認ムルモノハ実費ヲ標準トシテ管理者ニ於テ支拂フヘシ

一〇、 兵站司令官ハ毎旬使用運搬資料ノ種類及員数ヲ兵站監ニ報告スルモノトス

一一、 兵站部隊ニシテ地方運搬具及人夫ヲ必要トスルトキハ最寄兵站司令官ニ請求スヘシ但遠隔セル地方ニ在リテハ自ラ徴傭シ兵站司令官ニ通報スヘシ

アジア歴史資料センター

軍兵命第三号

第一軍兵站部給養規定及地方運搬員及労働傭役管理規定ノ件達

昭和十二年十月十一日　第一軍兵站監　武内大佐

第一軍兵站部給養規定別紙ノ通リ定ム

アジア歴史資料センター

第一軍兵站部給養規定

第一、兵站ノ給養ハ特ニ規定アルモノノ外本規定ニ拠ル

第二、兵站諸部隊ニ対スル糧秣ノ補給ハ第一種定量トシ各兵站司令官（同支部長ヲ含ム以下同シ）ニ交付ス

右ノ外一ケ月十日ノ比ヲ以テ木炭及千草ヲ補給ス、但主地ニ在リテハ右定量ニ拘ハラス所要定量ヲ部隊ノ請求ニ依リ直接野戦衣糧廠ヨリ補給ス

第三、通過軍隊ニ対シテハ当該兵站地ニ予メ前送準備セルモノヲ以テ補給ス　其補給実施ニ就テハ別条スル所ニ拠ル

但小部隊及通行人馬ハ兵站司令官ノ定ムル所ニ依リ最寄部隊ノ給養ニ依ルモノトス

第四、地方縦列人馬ニ対スル補給定量ハ左記ニ拠ル

区分	品種	一人一馬定量	一縦列分輜重兵中隊数
支給	粉	一、〇〇〇瓦	五大
	油		

アジア歴史資料センター

人糧	糗物	一ロロ	一ロロ四四中隊
	食塩	一ロロ	
	茶	三	
馬糧	雑穀	六、四ロロ	
	豆粕	一、一ロロ	
	食塩	三ロ	

第五、兵站司令官地方ノ情況ニ依リ前項糧秣ニ付日分（一日分ハ行李又ハ車輌携行）携行セシムルモノトス

第六、特別ニ労働シ疲労甚シキトキ或ハ夜間動務四時間以上ニ亘ルトキハ兵站司令官ハ現地物資ヲ以テ糧食（秣）一食（餉）分ヲ増給スルコトヲ得

第七、兵站部隊ニ対シ一週一回ノ割合ヲ以テ加給品ヲ給ス其ノ定量ハ戦時給與規則細則ニ依ル

アジア歴史資料センター

第八、兵站司令官ノ物資調弁地域ハ其管区内トシ成ルヘク購買法ニ依ルヲ要ス

第十、兵站司令官ハ常ニ其管区内物資ノ現況並搬精所屠場等ノ設備其他資源ノ調査ヲ行ヒ之カ培養利用ヲ図ルヲ要ス

第十一、炊事用燃料ノ定量左ノ如ク定ム

木炭　大ロロ瓦
薪　一、二ロロ瓦　内一種

第十二、標準価格ハ別ニ定ムル所ニ依ル（罫）

アジア歴史資料センター

統裁官所見

更ニ不毛地戰場ニ關シ輕重ヲ定メテ規定ノ要アリ
例ヘハ 水炭、干草ノ如ク常續的ニ補給セラルルモノハ補給日量トシテ
指示スルヲ便トシ現地ニ於テ調辨（採取）シ得ヘキモノハ輕重ヲ
定ム即チ品種ノ價格ノ大小ヨリモ衛生上又ハ輸送力負担ノ輕減上必
須ノモノヲ優先トシテ指示スル等是ナリ

アジア歴史資料センター

軍兵命第二号

（一、四宛）

第一軍兵站部命令　十月十一日十七時　於小綏芬河

野戦衣糧廠八十五日迄ニ逐次小綏芬河ニ到着スヘキ左記中央部交付予備品ヲ受領シ随時補給ノ準備ニ在ルヘシ

細部ニ関シテハ兵站経理部長ヲシテ指示セシム

記

地方縦列用糧秣	綏芬河到着ト共ニ当該縦列用一ケ月分	
草	一馬一駄十月分	
防毒面（甲）		二、五〇〇個
防毒覆		六、〇〇〇個
完防毒具		五〇〇個
軽防毒具		五、〇〇〇個
交換用吸収罐		五、〇〇〇個
観測用眼鏡子		二〇〇個

アジア歴史資料センター

防毒面（乙）　五ロロ個
防毒脚絆　八ロロ個
防毒被服修理工具　一ロ　五組
犬用防毒面　一ロロ個
犬用防毒脚絆　二ロロ個
雨覆（大）　一、五ロロ枚
戦用炊具　二ロ
浄水器　二ロ
携行天幕　二ロロ
有刺鉄線（八番鉄線若干ヲ含ム）　二、ロロ〇瓩

下達法

命令受領者ニ筆記交付

アジア歴史資料センター

1209

軍兵経第二号

野戦衣糧廠長ニ與フル指示　十月十一日十七時　於小綏芬河

第一軍兵站経理部長

一、野戦衣糧廠経芬河支廠ハ主計尉官三名ヲ基幹トシ別ニ将来有力ナル支廠派遣ノ準備ニ在ルヘシ

アジア歴史資料センター

1210

統裁官所見

起案ハ経理部長ヲシテ指示ハ兵站参謀長之ヲ行フヲ至當ト大

アジア歴史資料センター

軍兵命第三号

第一軍兵站部命令　十月十一日十七時　於小経芬河

（各兵站部及（囚宛））

各兵站部ハ左ノ如ク予備被服ヲ集積スヘシ

左記

兵站部別	品種	中隊数	集積地点	集積日次
甲	缶保管予備被服（野戦縫製工員ヲ除ク） 3/10	一中	各兵站末地	各隊半数ヲ十月十日及十一日ニ集積
乙	同 2/10	二小		
丙	同 2/10	二小		

下達法：電話後筆記セルモノヲ送付

アジア歴史資料センター

軍兵經第三号

（各兵站部及ビ宛）

地方物資調達ニ関スル指示 十月十一日十七時於水原河

第一軍兵站監部

地方物資ノ調達ハ左記要領ニ依リ実施スヘシ但調達上必要ナル警察兵力、運搬具及衛生勤務ニ関シテハ調達機関及最寄兵站部相互ノ協定ニ依ル

左記

一、調達法ハ満洲國内ニ在リテハ同國官憲及協和會其他地方有力者ヲ協力セシメ成ルヘク購買ニ依リソノ領ニ於テハ押收若クハ徴発ニ依ル

アジア歴史資料センター

二、調達地域、機関、品目数量、集積地点、別表ノ如シ但シ追送量ヲ軽減スル為該表ノ外極力地方物資ノ蒐集ニ努ム

三、標準價格別ニ定ムル所ニ依ル

別表

物資調達區分表

第一期（十月十五日迄）

地域別	機関	調達品目数量	集積地点
東寧地方	㊧調査班	千草二十日以後日々一〇、〇〇〇瓩	ポルタッカ△
金廠地方	戰場製炭班	木炭二十日以後日々一万五千貫	㊧
各兵站部管区内	各兵站司令部	千草及地方縦列用糧秣成ルヘク多ク蒐集	最寄△

第二期（十月十六日以後）

第一期計画ヲ継続スル外ソ領内調査ノ状況ニ應ジ別ニ定ムル処ニ依リ野戰衣糧廠ハ物資調査班ト伺

1215

ヲ派遣スルノ準備ニ在ルヘシ

アジア歴史資料センター

統裁官所見

調達業務ノ内容以外ノ事項ハ兵站参謀長之ヲ指示スルヲ至當ト
セサルヤ

アジア歴史資料センター

軍兵經第一号　（秘密）

野戦衣糧廠長ニ與フル指示　十月十一日十七時
於小綏芬河

第一軍兵站経理部長

十月十一日軍兵余第二号ニ依ル中央部支付ノ被服等
ハ小綏芬河駅ニ於テ受領者トノ間ニ直接受授スヘシ

統裁官所見

兵站支部トシテハ受授毎ニ傳票ヲ調製スルノ要アリ
故ニ傳票ノ型式ヲ努メテ記述ニ時間ヲ要セサル如ク又品目欄ヲ不要ノ補給ノ増加ニ應シ得ル如ク行數ヲ再檢討シ又各補給廠別ニ區分スヘキモノト共通トスルヲ便トスルモノアリヤ

「ゴム」印（品目）ノ種類或ハ彈藥等品種多キモノハ名稱ヲ印刷シ置キ彈藥殺ト雖歩兵彈藥、其他彈藥等ニ傳票ノ型式ヲ変更シ置クノ可否等更ニ研究ヲ深刻ナラシメ速ニ決定案ヲ得タシ

一

重8

兵站参謀ニ與フル状況ノ一部（後ニ十月十二日夕交付）

一、軍作命甲第二號

第一軍命令　十月十二日午後六時　於東寧軍司令部

一、約三師團内外ノ敵ハ本十二日朝来「ニコリスク」附近ヨリ「パウロフカ」附近ニ亘ル線ニ陣地ヲ領中ナリ
其有力ナル一部ハ「ガリョーンカ」附近及「グリゴリエフスコエ」附近ヲ占領シアリ
又砲ヲ有スル敵ノ騎兵團ハ本十二日午後「ルーチキ」方面ヨリ「ホロリスコエ」附近ニ進入セリ

二、軍ハ明十三日「ガリョーンカ」及「グリゴリエフスコエ」附近ノ敵ヲ撃破シテ敵陣地ニ近迫セントス

三、軍飛行隊（新ニ第一乃至第三獨立飛行隊ヲ屬ス）ハ明十三日ニヲ

四、第三師團（新ニ第三獨立飛行隊ヲ屬ス）ハ明十三日ニヲ

ヴヤンカ」河「ヴズドヴイジエンスキー」待避驛ノ線ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

五、第一師團（新ニ野戰重砲兵第一聯隊（第一中隊欠）及第一獨立飛行隊ヲ屬ス）ハ明十三日「ガリヨーンカ」附近ノ敵ヲ擊破シテ「ミハエロフスコエ」西北方地區ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

六、第二師團（新ニ歩兵第六聯隊ノ一大隊ヲ欠キ第二獨立飛行隊ヲ屬ス）ハ明十三日「グリゴリエフスコエ」附近ノ敵ヲ擊破シテ「アブラモフカ」附近ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備スヘシ

歩兵第六聯隊ノ一大隊ヲ「ブリルーキ」ニ於テ騎兵第二旅團長ノ指揮ニ入ラシムヘシ

七、各師團間ノ作戰地境左ノ如シ線上ハ右師團ニ屬ス

第三、第一師團間

「ノーヴオデ.オルキエフカ」「ストルーゴフカ」各北端、「ヴズドヴイジエンスキー」待避驛ノ線

第六、第二師團間

「ヴラヂミロフスキー」南端・「ドゥーブキ」北端ノ線ハ騎兵第一旅團（新ニ歩兵第六聯隊ノ一大隊ヲ屬ス）ハ速ニ「ポロリスコエ」方面ノ敵騎兵團ヲ擊破シ軍ノ左側ヲ安全ナラシムヘシ

九、獨立混成第一旅團ハ第一線師團ノ進出ニ伴ヒ「ポクロフカ」附近ニ進出待機スヘシ

十、予ハ明十三日正午東寧出發「ポクロフカ」ニ到ル

軍司令官　某

アジア歴史資料センター

一軍兵令第八號

第一軍兵站部命令　於小綠　十月十日午後九時

一、約三師團ノ外ノ敵ハ本十二日朝來「ニコリスク」附近ヨリ「ペシロフカ」「附近ニ亘リ陣地占領中ニシテ有力ナル一部ハ「ガリヨンカ」附近及「グリゴリエフスコエ」附近ヲ占領シアリ

又烏ヲ有スル敵騎兵團ハ十二日午後「ルーチキ」方面ヨリ「ホロクスコエ」附近ニ進入セリ

一、軍ハ明十三日「ガリヨ」及「グリゴ」附近ノ敵ヲ擊破シ敵主陣地ニ近ヨス

二、兵站ハ依テ前任務ヲ續行セントス

三、各兵站部ハ新ニ後備騎兵第二中隊ヲ配屬スルハ「ダロ」以東兵站線ヲ「ノヴオ」「ゼル」道ニ沿フヘシ

將ニ「ホロ」方向ニ對シ攻擊ヲ行ハントスルヤ

四、各線兵站部ノ彈藥其他軍需品集積地ヲ左ノ如ク變更ス

甲　シネロフカ

乙　同

為 鮮人旁子（ノヴオジャスコーウオ西方約八粁）ー3D
五、第三、第四野戦予備病院ハ十三日兵站末地到着後一部ヲ以テ収容ヲ
開始スヘシ
六、爾餘ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スヘシ
七、予ハ小綾芳ニ在リ

軍兵站監　武内大佐

下達法
電話後印刷交付

アジア歴史資料センター

陸軍兵經第四号

輸送計画送付方ノ件照會

第一軍兵站經理部長

第一兵站司令官殿

野戦衣糧廠ニ於ケル補給準備上必要ニ付貴兵站部ニ於ケル軍需品輸送計画ヘ積載區分、集積又ハ補給區分ヲ明示セルモノ二通折返シ送付アリタシ

アジア歴史資料センター

統裁官前見

本事項ハ各線兵站部命令ノ不備ヨリ生セル モノニシテ各線兵站部ハ予メ補給廠ノ受授能力ヲ承知シテ計画シ且日次予定時間品種数量ヲ通報ノ要アルヘシ

但本照會ハ補給廠ヨリ行フヲ至當トス

アジア歴史資料センター

軍兵經第二号ノ二

野戦衣糧廠綏芬河支廠施設ニ関スル件指示

第一軍経理部長

野戦衣糧廠長殿

丙兵站線担任補給兵額ニ應スル糧秣十日分ヲ標準トシ綏芬河支廠ニ集積スヘシ

アジア歴史資料センター

統裁官所見

集積ノ命令ハ兵站部ニ命令トス
支廠設定ノ規模ヲ指示スル如ク内容ヲ記述ノ要アリ

アジア歴史資料センター

軍参命第九號

第一軍参謀部命令 昭十一月十三日 小綬芳

一、野戦自動車廠ハ即時移動修理班ヲ甲参謀部ニ配属スルト共ニ速ニ支廠一ヲ小城子ニ開設スヘシ

軍参謀長 武内大佐

右達伝 電話、命令筆記ノ為メ出張

アジア歴史資料センター

1229

軍令兵第一號

兵器彈藥前送ニ關スル指示

彈藥廠長

十月十三日午前八時

兵站監

經芳河彈藥支廠ニ左記ノ如ク追送集積スヘシ

一、野砲彈藥　一中、一小

十五榴彈藥　二中

AA MA彈藥　一小

二、之カ輸送機關ハ兵站主地ヨリ左ノ如ク差出ス筈

十月十三日　午前十時　自動貨車　二小隊　二往復

十月十三日　午後六時　動物輸重　一中隊

十月十四日　午前六時　自動貨車　二小隊　二往復

アジア歴史資料センター

統裁官所見

陸路ハ通常ノ各兵站部長ヲシテ輸送ヲ担任セシメ諸廠自ラ行フハ
人員輸送又ハ特別ノ開設用器材等トスルヲ通常トセン
又自ラ行フ場合モ行動ニ関シテハ各兵站線担任若ノ區處ヲ受クル
ノ要アリ

盛川

小城子ニ支廠開設ニ関スル指示 十月十三日午後十時
兵器部長

野戦弾薬廠長
野戦武器廠長殿

小城子ニ支廠開設ニ当リテハ左記諸件ヲ顧慮シテ整備スルコト

一、工場設備ハ中修理以下ヲ為シ得ル如ク設備スルコト
二、倉庫設備ハ修理ノ為直接必要ノ部品ヲ集積スルモノトス
三、綏芳子方面ニ一師団半分小城子方面ニ二師団半分ノ修理力ヲ附与スルモノトス
四、十四日夕迄ニ應急修理ヲ實施シ得ル如ク設備スルコト
五、輸送ニ関シテハ甲号鉄司令部ニ請求スルコト

兵站参謀ニ與フル狀況ノ一部（作戦十月十三日夕交付）

一軍作命甲第三號

軍隊區分

軍飛行隊
獨立飛行第一中隊

軍直轄隊
長 歩兵第九聯隊長 某大佐
歩兵第九聯隊（二大隊欠）
騎兵第三聯隊ノ一小隊
野戰兵第三聯隊ノ一大隊
輜重兵第三聯隊ノ二中隊
獨立工兵第一聯隊
第四獨立飛行隊
兵站電信隊第七小隊
第四衛生隊第一中隊

アジア歴史資料センター

第一渡河材料中隊
兵站自動車二中隊

第三師團
　欠除部隊
　　歩兵第九聯隊
　　騎兵一小隊
　　野砲兵一大隊
　　輜重兵二中隊
　　配屬部隊
　　獨立輕裝甲車第三中隊
　　野戰重砲兵第二聯隊（一大隊欠）
　　第三野戰高射砲隊
　　獨立機關砲第三中隊
　　第三獨立飛行隊
　　無線電信第三小隊
　　野戰鵬第三小隊

アジア歴史資料センター

野戦瓦斯第三中隊
第三架橋材料中隊
兵站輜重一一一

第一師團

欠除部隊
歩兵第三聯隊

配属部隊
獨立輕装甲車第一中隊
野戦重砲兵第二聯隊ノ一大隊
第一野戦高射砲隊
獨立機関砲第一中隊
第一獨立飛行隊
無線電信第一小隊
野戦鵬第一小隊
第一架橋材料中隊
兵站輜重一一一

アジア歴史資料センター

第二師團

　　天隊部隊

　　歩兵第六聯隊ノ一大隊

　　砲兵部隊

　　獨立速射砲第一大隊

　　戰車第一聯隊

　　獨立輕裝甲車第二中隊

　　軍砲兵司令部

　　野戰重砲兵第一聯隊

　　野戰重砲兵第三聯隊

　　野戰重砲兵第四聯隊

　　第一砲兵情報聯隊

　　第二野戰高射砲隊

　　獨立機關砲第二、第四中隊

　　第二獨立飛行隊

　　無線電信第二小隊

アジア歴史資料センター

野戰鴻第二小隊
野戰瓦斯隊（野戰瓦斯第三中隊ノ）
第二架橋材料中隊
兵站輜重ノ一
騎兵第一旅團
旅團部隊
歩兵第六聯隊ノ一大隊
第五野戰高射砲隊
無線電信第六小隊
兵站輜重ノ一

軍豫備隊
歩兵第三聯隊
歩兵第九聯隊ノ一大隊
獨立築城第一旅團（旅團部隊故ノ如シ）

アジア歴史資料センター

軍直轄部隊
関余ノ諸隊

備考
兵站監部ハ属部隊ハ数ノ如シ

アジア歴史資料センター

第一軍命令

十月十三日午后八時
於コポクロフカ軍司令部

一、敵ノ主陣地ハ「ニコリスク」附近ヨリ同地東北方高地、「ミハイロフスコエ」東方高地「カメヌーシカ」山附近ヲ経テ「パウロフカ」東方高地附近ニ亘リアルモノヽ如ク其ノ前方ニハ處々前進（警戒）部隊ヲ見ル

二、我第一線各師團ハ本十三日夫々當面ノ敵ヲ撃破シテ「ノーヴオニコリスク」西北方地区ヨリ「ヴズドヴイジエンスキー」待避驛「ドウーブキ」附近ヲ経テ「アブラモフカ」西北地区ニ進出セリ

又我騎兵団ハ本十三日午后「ネステロープ」附近ニ於テ敵ノ騎兵師団ト遭遇シタル刻之ヲ東方ニ撃攘セリ

三、軍飛行隊ハ……

四、軍ハ明十四日敵ノ前進（警戒）部隊ヲ駆逐シテ主陣地ニ近迫シ爾後ノ攻撃ノ準備ヲ完ウセントス

四、軍右翼支隊ハ「クラスヌイヤル」以南ノ地区ニ於テ綏芬河ヲ渡河シ補塞方面ニ至ル敵ノ退路ヲ遮断スベシ
配属諸隊（第三師団ノ部隊ヲ除ク）ハ本日夜「ポクロフカ」ニ於テ其指揮ニ入ラシム

五、各師団ハ明十四日各當面ノ敵ノ前進（警戒）部隊ヲ駆逐シテ敵主陣地ニ進出シ爾後ノ攻撃ヲ準備スベシ
各師団間ノ作戦地境ヲ左ノ如ク延伸ス
第三、第一師団間
「ヴズドヴィジエンスキー」待避驛「ミハイロフスコエ」
南端「コスコーフカ」河ノ線
第一、第二師団間
「ドウーブキ」南端
0104、0132ノ線

六、騎兵第一旅団ハ前任務ヲ續行スベシ

七、軍縁備隊ハ「ガリヨーンカ」附近ニ位置スベシ
但シ獨立混成第一旅団ハ「ポクロフカ」附近ニ位置シ随時第二師団方面ニ轉進ノ準備ニ在ルベシ

八、爾余ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スベシ

九、新軍隊区分ニ依ル部隊ノ轉移ハ本夜中ニ之ヲ完了スベシ
但シ獨立混成第一旅団及軍部隊ノ第二師団方面ヘノ轉進ハ明十四日夜「ポクロフカ」―「ガリヨーンカ」―「ドウーブキ」道ニ由リ之ヲ行フベシ

十、予ハ明十四日朝「ガリヨーン」ニ到リ軍先遣地ニ在リ

軍司令官　某

アジア歴史資料センター

十三日小綾苓到車到着表

軍兵站部

時刻（午前）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
到著部隊（軍需品）	9					軍需品（糧秣二四〇〇噸 被服其他一〇〇〇噸）		4				
配属	乙兵站部						第十九中隊		雨鉄			
							主地兵站部		甲兵站部			
時刻（午後）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	備考	
到著部隊（軍需品）	後備野砲第一中隊			8			軍需品（内容略同前）	1			一、軍需品ハ綾苓河ニ前進集積ス	
配属	直轄			丙兵站部				直轄				

アジア歴史資料センター

軍兵命第十號

第一軍兵站部命令 十月十三日 六〇 於小綾 発

一、敵ハ「ニコリスク」附近ヨリ「パウロフカ」東方高地ノ線ニ亘リ主陣地ヲ占領シアリ、

二、我騎兵團ハ本夕刻敵騎ヲ東方ニ撃退セリ

軍ハ明十四日敵主陣地ニ近迫シ爾右ノ攻撃ヲ準備ス

三、兵站ハ軍ノ「ミハイロ」附近敵陣地攻撃ニ遺憾無カラシムルト共ニ爾後ノ追撃ヲ準備セントス、

軍隊區分ヲ左ノ如ク變更ス

兵地兵站部　第十一輸送監視隊第四兵站自動車隊後備第四八隊ノ二中隊ヲ配屬

甲兵站部　第四兵站自動車隊ヲ

乙兵站部　第十二輸送監視隊後備歩兵第四八隊（二中隊欠）ヲ配屬

丙兵站部　第十輸送監視隊後備野砲第一中隊ヲ配屬

四、兵地兵站部ハ明十四日少クモ軍需品十八中隊分ヲ綏芬補給基點ニ前送

ヘシ

師部ハ別ニ示ス

四、甲兵站部ハ明十四日夕迄ニ弾薬約六中(駄)ヲ乙兵站末地ニ初送スヘシ

五、各隊兵站部担任弾薬等軍需品ハ能カノ許ス限リ各站末地ニ集積スルヲ

ヲ要ス

兵站末地ハ「ボタ」「ガリョ」「ゾオヲ」連スル線トス

明十四日糧秣等補給区分別表第(ノ如ク定ム

六、飲道隊ハ速ヤカニ道河手附近飲道ノ修理ヲ完了スヘシ

七、軍補給廠ハ現任務ヲ續行スルト共ニ小城子ニ弾薬廠武器廠衣糧廠飼

料廠ノ各支廠ヲ開設スヘシ

八、野戦兵站病院ヲ左ノ地點ニ開設ノ準備スヘシ

甲 カヘヤードピヂ農舎

乙 農舎(ガリョ東南八粁)

内 グリョリスクヘコエ

但シ第二野戦病院ハ夜行軍ヲ以テ十五日朝迄ニ「ボジャストー」ニ到リ待命スヘシ

九、第二兵站病院ヘ「ボルカフカ」ニ開設スヘシ

十、野戦防疫部野戦化学部及野戦防疫廠ハ「ガリョンカ」ニ前進シ適時業務ヲ開始スヘシ

十一、後備歩兵第五大隊ハ乙号施線ヲ十五日夕迄ニ洞豊山ニ向ヒ前進スヘシ

十二、爾余ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

十三、余ノ小綏芬ニ在リ

軍兵站監　武内大佐

不達法　電話

注意

一、新ニ配属セラレタル輸送監視隊第十二ハ十四日午后ヨリ爾余ヲ十五日ヨリ使用ヲ得

糧秣薪炭燃料補給區分表

兵站線	被補給部隊	補給日量 種類	補給日量 數量	補給點
甲	軍直轄部隊	人糧	6,400	各兵站米地ト又但シ獨立混成第一旅團區處部隊ノ補給ハ十五日以後各兵站米地ヨリ又軍予備タルNBsノ補給ハ同旅團ノ轉進命令アル迄ハ甲兵站ノ担任トス
		馬糧	2,400	
		燃料	1,200	
	3D 配屬 交通兵隊 1 KM A 1 T 1 3LPMs 2 SM (-1) 3AA 3 MMs 3 FLS 3DLT 3 3GS 3	人	1,200	
		馬	1,200	
		燃料	1,200	
		人馬	2,400	
乙	10 交際區 3 1LPMs 1/2 3AA 1 MAS 1 FLS 1 DLT 1 1	人	1,200	
		馬	1,200	
		燃料	1,200	
		人馬	2,400	
	軍予備 3 9 NBs (配屬故ノ如シ)	人	600	
		馬	600	
		燃料	600	
		人馬	1,200	
		人馬	3,600	
丙	20 交際區 1 1TK 2LPMs 2重ノ3 2SA ノ 2AA 2MMS 2FLS 2DLT 2 2 (-1) 1 獨立連 射砲兵大隊	人	1,200	
		馬	1,200	
		燃料	1,200	
		人馬	2,400	
	KD 配屬 6 大 SAA 6DLT	人	1,200	
		馬	1,200	
		燃料	1,200	
		人馬	3,600	
		人馬	6,000	
		人馬	9,600	

備考

一、補給定量軍兵命第一號ニ同シ

二、軍飛行隊(人糧0.000九 燃料0.五ニ) 軍直轄部隊(人糧0.0九(燃料0.ニ三、九、八)ハ最寄兵站部ヨリ補給ヲ受ク

アジア歴史資料センター

十月十四日ニ於ケル第一線兵團ノ狀況

軍右側支隊

各師團

騎兵旅團

「リネーヴィチェク」附近ニ進出

敵ノ前進部隊及警戒部隊ヲ驅逐シテ主陣地前ニ近迫

「ルーチキ」附近ヲ占領セル敵KDニ對シ攻撃ヲ準備

アジア歴史資料センター

十四日小緩券列車到著表

軍兵站部

時刻（午前）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
到著部隊（軍需品）		12				軍需品（[illegible]）				10		
配屬		乙兵站								丙兵站		

時刻（午後）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
到著部隊（軍需品）					5						11	
配屬												

アジア歴史資料センター

軍兵命第九号

主地兵站部隊給養ニ関スル件達

昭和十二年十月十四日　第一軍兵站監　武内大佐

自今主地兵站部隊中補給請厥兵站病院及兵站病馬廠ノ給養ハ野戦衣糧廠ノ糧秣ニ依リ尓余ノ部隊ハ兵站司令部倉庫ノ糧秣ニ依リ該倉庫充実ノ為所要糧秣ハ野戦衣糧廠ニ請求スヘシ

アジア歴史資料センター

通信器材補給ニ関スル指示

野戦武器廠長殿　　兵器部長

兵站通信隊ニ十六日迄ニ線線建築材料補給ノ為メ次ノ如ク集積セラレ度シ

甲兵站末地　四〇粁分　一五〇粁分　十六日迄
乙兵站末地　四〇粁分　一〇〇粁分
丙兵站末地　二〇粁分　五〇粁分　十四日迄

之ガ運搬ハ甲兵命第一號附表第三ノ區分ニ依ルモ不足分甲十六日ノ為一小隊分乙十六日ノ為半小隊分ノ輸送ニ関シテハ兵站司令官ノ区署ヲ受ケヘシ

1250

統裁官所見

兵站通信隊ハ自ラ所要ノ運搬車輛ヲ有スルヲ以テ常ニ末地ニ於テ補給スルモノト限定セサルヲ可トス

自動車編制ノ場合特ニ然リ

盛化

軍兵命第十號

第一軍兵站部命令　十月十四日、於小綠芳伍

野戰衣糧廠ハ被服移動修理班各一ヲ十五日迄ニ各兵站末地ニ派遣スヘシ

第一軍兵站監　武內大佐

アジア歴史資料センター

十月十五日ニ於ケル第一線兵團ノ狀況

軍右側支隊

「クラスヌイーヤール」「テレホーツカ」附近ニ於テ渡河準備

各師團

騎兵旅團

敵主陣地ニ對シ攻撃ノ準備

「ルーチキ」附近ヲ占領セル敵KDヲ攻撃セシカ未タ同地ヲ奪取スルニ至ラス

アジア歴史資料センター

十月十六日ニ於ケル第一線兵團ノ狀況

軍右側支隊

渡河ヲ強行セントカ不成功

拂曉ヨリ主陣地ニ對シ攻撃開始

夕刻迄ニ僅ニ敵第一線陣地ノ一部ヲ奪取シ得タルノミ此夜IBS 9ヒノ一火ヲ2Dニ增加配屬ス

依然「ルーチキ」攻撃ヲ

各師團

騎兵旅團

アジア歴史資料センター

第一軍兵站部命令

十月十六日午後一時
於俊芳軍兵站部

一、軍兵站部ヘ一部ヲ小綾芳ニ残置シ主力ハ明十七日甲兵站線ノ「ポプロフカ」ヲ経テ「ガリヨンカ」ニ向ヒ移動セントス

二、小綾芳残置人員ハ第一表ノ如シ

三、甲兵站司令官ハ其輸送材料ヲ以テ明十七日午前九時小綾芳出発甲兵站路ヲ「ポプロフカ」経由「ガリヨンカ」ニ向ヒ輸送スヘシ

輸送スヘキ人馬ノ概数左ノ如シ

人約　百七十一、

馬　三頭

自動車（業用）七

輸送間ノ衛護トシテ主地司令部ヨリ歩兵一小隊ヲ附ス

四、主地司令官ハ明十七日午前七時三十分迄ニ前項ノ部隊ヲ小綾芳停車場ニ出シ甲兵站司令官ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

五、各部ハ明十七日午前七時三十分迄ニ小綾芳停車場前ニ集合シ輸送隊長ノ指示ヲ受クヘシ

六、爾余ノ諸隊ハ依然前任務ヲ続行スヘシ

アジア歴史資料センター

六、予ハ午前八時三十分小綾芳停車場ニアリ
第一軍兵站監
下達法
要旨ヲ電報電話ヲ以テ仏ヘ後命人々受領者ヲ集メ印刷交付シ
遠隔ノ地ニ送付ス
軍兵站通信ハ既ニコガリヨンカレニ移動シ直轄部隊ハ既ニ配属又ハ
前進待命ヲ命シアリ

第一表

小綾芳残置人員表

區分	残置人員	計
本部	参謀一、部員三、兵一、書記一、憲兵将校一 下士官以下一四 自動車(運転手共)一	二一
兵站交通部	部員一 郵便吏一 監督一 書記二	五
至理部	部員二 兵一 下士官二	五
兵器部	部員二 兵一	三
獣医部	部員一 兵一	二
法務部	部員一 兵一	二

アジア歴史資料センター

1257

合計	備考
三八	

アジア歴史資料センター

十月十七日ニ於ケル第一線兵團ノ狀況

軍右側支隊　渡河再ヒ不成功

各師團　攻撃續行　2D方面ノ戰況特ニ發展

騎兵旅團　「ルーチェン」ヲ占領、敵KDハ東方ニ退却

アジア歴史資料センター

十六日小綏芬列車到著表

軍兵站部

時刻（午前）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
到著部隊（軍需品）	13					軍需品 糧秣四〇〇〇 他二〇〇〇	14					軍需品 糧秣四〇〇〇 他二〇〇〇
配屬	丙兵站						乙兵站					

時刻（午後）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
到著部隊（軍需品）	6							14				
配屬	直轄						丙兵站					

アジア歴史資料センター

1260

十七日ニ於ケル列車着發表

區間 / 區分	午前	午後
大本營 通信管區		
小綏芬	六時頃通過	八時頃通過
綏芬河	七時着	二時着

（八道子駅ニ二〇七ヲ殘置スルモノトス）

備考

一、道通一列車ハ軍需品七〇〇屯（糧食四〇〇他三〇〇）

アジア歴史資料センター

兵站参謀ニテアル、秋元ノ一部（作戦十月十八日朝交付）

一軍作命甲第十號

第一軍命令　十月十八日午前二時
於「ガリヨンカ」軍司令部

一、敵ハ退却ヲ開始セリ

二、軍ハ一部ヲ以テ「スパススコーエ」ニ向ヒ敵ヲ追撃セントス

三、第三師團（軍右側支隊ヲ屬ス）ハ補塩ニ向ヒ敵ヲ追撃スヘシ

四、第一師團（歩兵第三聯隊ヲ兵站自動車三中隊ヲ屬ス）ハ「オレノーフカ」――「ペトロパウロフカ」――「スパススコーエ」道ニ沿ヒ地區ヲ「スパススコーエ」ニ向ヒ敵ヲ追撃スヘシ

五、第二師團（騎兵第一旅團ヲ屬ス）ハ「レソ」河右岸ニ沿ヒ地區ヲ「スパススコーエ」ニ向ヒ敵ヲ追撃スヘシ

六――――――――

一、軍兵命第十二号其一

第一軍兵站部命令　十、十八、三〇、
於ガリヨンカ

一、敵ハ退却ヲ開始セリ
軍ハ一部ヲ以テ浦塩、主力ヲ以テスパスコーエ」ニ向ヒ敵ヲ追撃ス
軍追撃部署ノ概要（略）

二、兵站ハ軍ノ追撃ニ即應シ補給ニ任セントス
軍隊区分ヲ左ノ如ク変更ス

主地兵站部（第四兵站自動車隊（二中隊欠）兵站自動車第十二中隊ノ一小隊欠、新ニ第五兵站自動車隊ヲ配属）

甲兵站部（第三兵站自動車ノ二中隊、合。移動修理班一班欠、新ニ第一道路構築隊主力ヲ配属）

乙兵站部（新ニ第十五輸送監視隊ヲ配属）

丙兵站部（新ニ第四兵站自動車隊（二中隊欠）同第十二中隊ノ一小隊第十三、第十四輸送監視隊ヲ配属、合。移動修理班一班第一道路構築隊

アジア歴史資料センター

ノ一部配備

直轄自動車隊（第六兵站自動車隊（一中隊欠））
第一師団配属部隊（第三兵站自動車隊ノ二中隊及第六兵站自動車隊ノ一中隊）

三、各兵站部ハ第一線兵團ノ追撃ニ伴ヒ別紙第一ニ基キ兵站線及兵站地ヲ設定シ左記ニ準據シ軍需品ノ補給及集積ニ任スヘシ

イ、糧秣薪炭燃料ノ補給区分一軍兵令第十號ノ如シ

ロ、線兵站部ハ別紙第二ノ如ク彈藥其他ノ軍需品ヲ前送ス

ハ、主地兵站部ハ左記ノ如ク軍需品ヲ前送集積ス

綏芬河補給点

常時少クモ糧秣三十中隊、彈藥十五中隊其他五中隊分ヲ保持シ得ル如ク前送ス

東寧補給基点

明十八日約三十中隊（糧一二、彈八）分ヲ前送ス

細部ニ関シテハ別示ス

四、直轄自動車隊ハ別ニ示ス軍需品ヲ積載シ明十八日午后「ポクロフカ」ニ前進シ待機シアルヘシ

五、軍補給諸廠ハ小城子ニ前進シアル各支廠ヲ東寧ニ推進シ前任務ヲ續行スヘシ

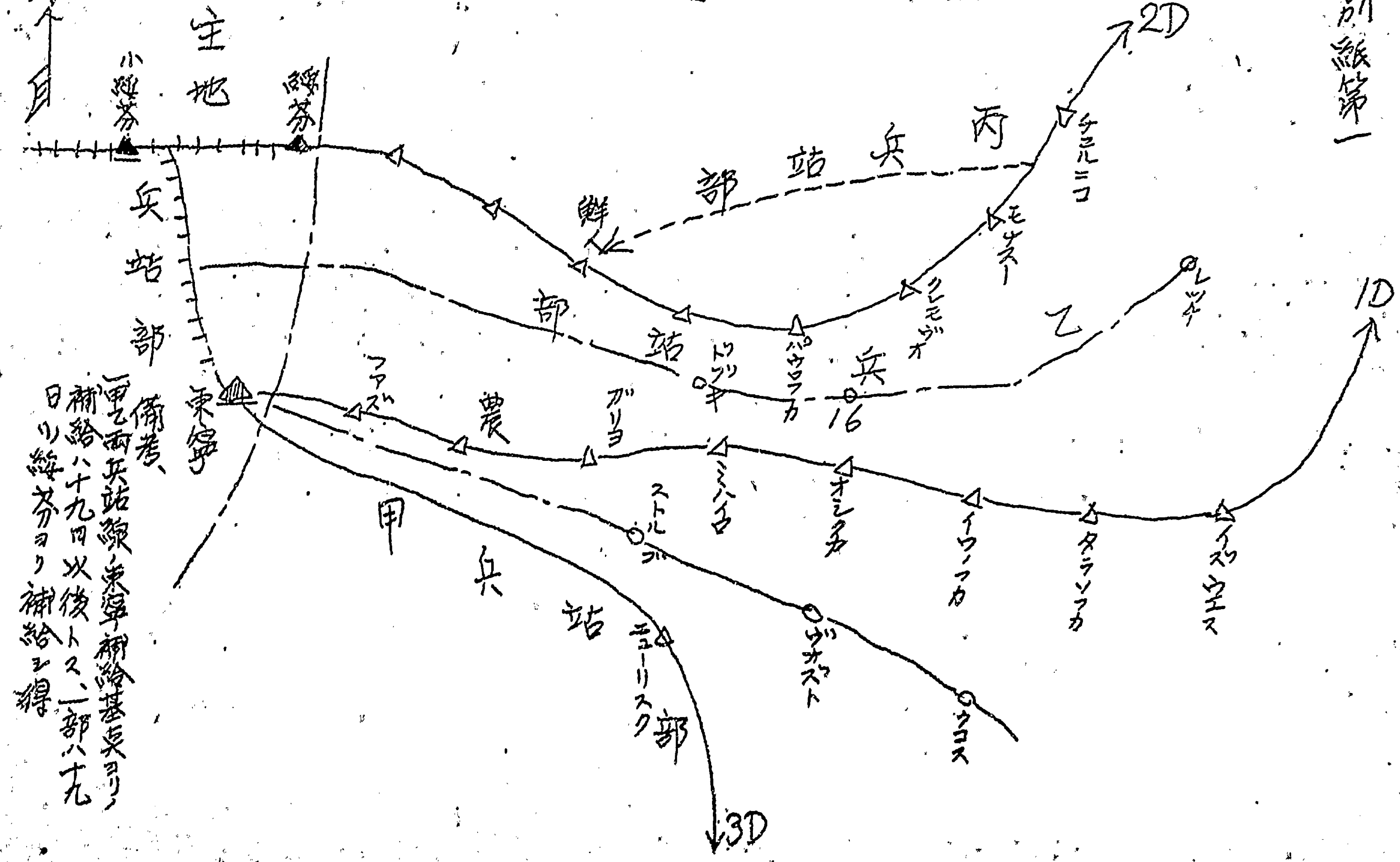
六、予ハ「ハコガリヨンカ」ニ在リ

軍兵站監　武内大佐

下達法、
電話若シクハ命令受領者ニ口達筆記

別紙第一

兵站線及兵站地要図



1265

アジア歴史資料センター

別紙第二

彈藥其他軍需品前送表

兵站線	種類及數量	計
甲	歩兵彈藥 二小 野砲彈藥 二中一小 十五榴彈藥 一小 其他彈藥 一小 化學戰資材 一小 其他 一小	三中一小
乙	同右	
丙	歩兵彈藥 二小 騎兵旅團彈藥 一小 野砲彈藥 一中一小 十五榴彈藥 一小 十加彈藥 一中一小 其他彈藥 一小 化學戰資材 一小 其他 一小	四中二小

アジア歴史資料センター

第一軍兵站輸送機関現況概見表（附第一線兵団）

（大野中佐）

区分		（符号1）計	累計	（符号2）計	累計	（符号3）計	累計	（符号4）計	累計	（符号5）計	累計	（符号6）計	累計	換算合計
十月十一日	到着	1—8	八	1-10 甲 11-20 甲 21-30 甲 31-40 乙	四〇	1—5	五	1—40	[illegible]	1、2	二	1-6（トヨタ） 7-12（ニッサン）	（36）一二	一四六中
	配属	1-8 主地 2-3-7 乙 4-6 丙	八	[illegible] 丙丙乙DBDDD	四〇	1 主 2-3 乙 4-5 丙	五	1-6 主 7-18 乙 19-30 丙	三〇	1 甲 2 甲主	二	1-6 甲 12 主 7-11 甲	同上	同上
	直轄													
十二日	到着					6 7	七	41—52	四二	3	三	13—18（イスズ）	（54）一八	一三六
	配属					7 乙 6 丙	七	41-46 丙 47-54 乙	四二	3 甲	三	13—18 甲	同上	同上
	直轄													
十三日	到着					8 9	九	53—64	五四	4	四	19—24（フォード三六型）	（72）二四	二六六
	配属					8 丙 9 乙	九	53-58 丙 59-64 乙	五四	4 甲	四	20—24 甲	同上	同上
	直轄													
十四日	到着					10 11 12	一二	65—82	七二	5	五	25—30（フォード三六型）	（90）三〇	二〇二
	配属					10 丙 11 主 12 乙	一二	65-70 丙 71-76 主 77-84 乙	七二	5 主	五	25—30 甲	同上	同上
	直轄													
十五日	到着					13 14 15	一五	83—100	九〇	6	六	31—36（シボレー三六型）	108 三六	二三八
	配属					13-14 丙 15 乙	同上	83-88 丙 87-100 乙	同上					二二〇
	直轄									6（直）	同上	31—36（直）	（18）六	一八

1267

アジア歴史資料センター

1268

統裁官所見

一、配属欄ヲ更ニ各兵站線別ニ區分シ合計欄ニ各兵站線ノ輸送力ヲ一見明瞭ナル如クスルヲ便トス

二、日々摘要欄ヲ設ケ適宜符号ヲ附シ轉属ノ系統並消耗等ヲ明ニスルヲ可トス

整
13

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

1270

其二

主地兵站部

アジア歴史資料センター

軍隊區分

A 輸送隊
長 第一兵站輸重兵隊本部
第一輸送監視隊
第十二兵站自動車中隊（一小隊欠）

B 輸送隊
長 第八兵站輸重兵隊本部
第八、第十一輸送監視隊
（第八 〃 十三日 第十一 十四日到着、予定）
第五兵站自動車隊（十四日到着、予定）

総芳河兵站支部
長 某中佐
部員以下 名

アジア歴史資料センター

後備歩兵第一中隊（一小隊
第一道路構築隊（一小隊
第一、第二陸上勤務隊

兵站司令部直轄部隊
第　兵站司令部本部
部員以下　名
後備歩兵第一大隊（第一中隊ノ一小隊、第三、第四中隊ノ大）
道路構築隊（一小隊欠）
手押軽便鉄道
第九陸上勤務隊
第六陸上勤務隊（一小隊

アジア歴史資料センター

陸上勤務隊其他配属区分

衣　第三、第四
輝　第五、第六ノ一小隊
武　第七　英站自動車中隊ノ一小隊
自　第八
金　第六ノ一小隊

アジア歴史資料センター

1278

主地兵站部命令　十月十一日於小綾芬河主地兵站司令部

一、敵情及我軍ノ狀況別紙ノ如シ（畧ス）

軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主力ヲ「ストルゴフカ」西方地區ニ

一部ヲ「フルリ」ニ向ヒ前進ス

兵站ハ軍ノ「ガリヨンカ」附近ノ會戰ニ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ追撃

ニ應スル如ク準備ス

二、主地兵站部ハ軍ノ補給ノ源泉トナリ軍需品及其他ノ補給及前送ニ任セント

ス

三、A輸送隊ハ十月十二日ヨリ兵站主地内ニ於ケル各種ノ輸送ニ任スヘシ

其細部ニ就テハ別ニ指示ス

四、B輸送隊ノ到着後ニ於ケル輸送ニ關シテハ別ニ示ス

五、兵站司令部ハ別紙要圖第一ノ如ク位置シ別紙第二業務分担表ニ基キ輸

送業務ヲ開始スヘシ

六、綾芬河兵站支部ハ明十二日早朝小綾芬河出發綾芬河ニ至リ要圖第三

ニ基キ兵站地ヲ設立シ同地ニ於ケル兵站業務ニ任スヘシ

アジア歴史資料センター

兵站地ノ位置及其ノ集積位置ノ概要ハ別ニ現地ニ於テ某中佐ヲシテ
指示セシム

其ノ警備兵域ハ別ニ示ス

七、水會戰間ノ補給定量別紙第四ノ如ク定メラル

八、主地兵站地内ノ警備竝防空ニ關シテハ後備歩兵第一大隊長之ヲ區處スヘシ其警備ニ關スル細部ハ別ニ示ス

尚防空ニ關シテハ主地兵站地防空部隊長ト連絡スヘシ

九、行政、宣傳、諜報、交通整理、宿營、經理、衛生ニ關シテハ別ニ示ス

十、兵站連信網ハ別紙第五ノ如ク構成セラル

十一、兵站主地ニ於ケル部隊ノ配置別紙要圖第一ノ如シ

十二、細部ニ關スル事項ハ別ニ命令ス

但シ本令ハ成歩一〇〇町主地兵站司令部ニ在リ

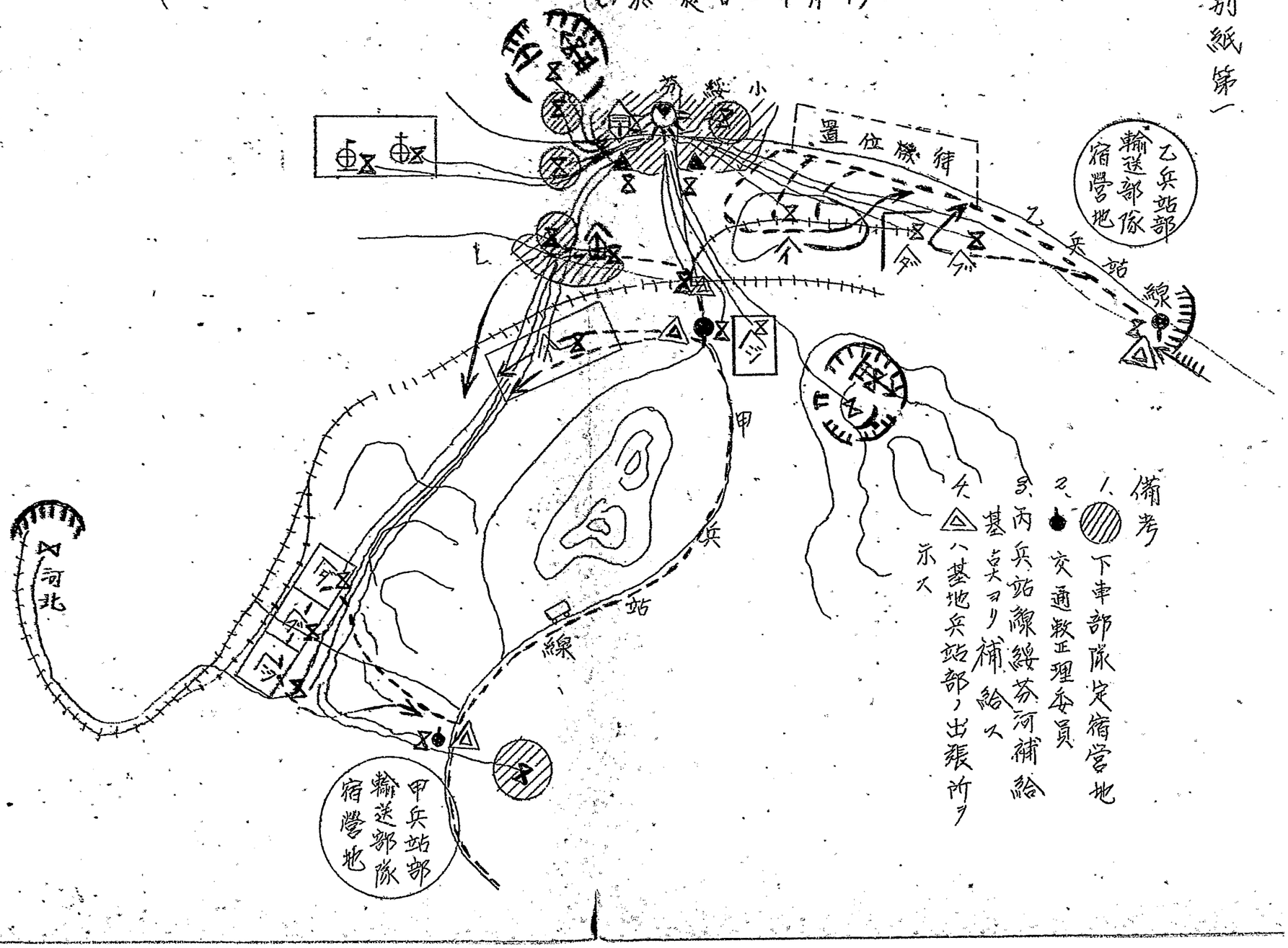
主地兵站司令官　某

1276

別紙第一

小銃第一附近宿営地配置要図

（十月十一日夜ニ於ケル）



備考

イ、下車部隊定宿営地

ロ、●交通整理要員

ハ、丙兵站線経由河岸補給基点ヨリ補給ス

ニ、△ハ基地兵站部ノ出張所ヲ示ス

別紙第二

區分	業務分担並人員配當表	主地兵站部担任區分	備考
本部	企図掛	中(少)佐一、下士官三	兵站一般ノ企図、行政、資源ノ調査培養
	警備掛	中(少)佐一、下士官四、軍医(獣医)将校一	管区内ノ警備、防空、隷下ノ秩序ノ剴乱ノ敷衍
	輸送交通掛	中(少)佐一、下士官一〇、少佐(大尉)二、尉官二	補給品ノ授受、運搬ニ関スル人馬ノ指揮ノ取扱、交通整理、道路ノ構築改修、管内通信業務
	庶務宿営給養掛	副官一、下士官一(内自動車掛一)、主計尉官二、主計下士官二	報告調整、書類ノ発送受領、其他一般ノ庶務、兵站部、通行人馬ノ宿営給養ニ関スル設備
	経理掛	主計中(少)佐一、主計下士官一、主計尉官二	金銭出納物品ノ購買連繋、業務ニ関スル隷下機関ノ会計監督
	衛生掛	軍医中(少)佐一、同下士官七、同尉官六	患者ノ収療後送、防疫(対瓦斯ヲ含ム)
	獣医少佐一、同下士官五、同尉官三		疫馬ノ収療、馬防疫
後命	少佐(大尉)二、下士官六、尉官二		
綏芬河支部	中(少)佐一、下士官一、主計尉官二、主計下士官一、衛生下士官一、軍医尉官一、獣医尉官一、獣医下士官一		

一、綏芬河支部ニハ尉官一、下士官一ヲ増加配属シアルヲ以テ必要ニ応ジ之レヲ召還スルコトアリ
二、上記内部ノ業務ハ掛長ニテ現定ス

アジア歴史資料センター

經參河交地兵站支部配置要圖

（補給基點）

別紙第二

經參河交地兵站支部人員

長某中佐 副官二 經理副官同下士官 計十六名 交計十七名

軍医副官 同下士官一、兵二

一般 自動車学校 兵二 四

陸鐵兵二

兵站線

備考

△ ○ 八交通整理位置

陣地ヲ示ス

兵站部本張所

アジア歴史資料センター

別紙第四

補給定量表

戰列部隊　第一班
別ニ水炭（一日ニ付人一人ノ量）干草（一匹ノ馬ノ量）

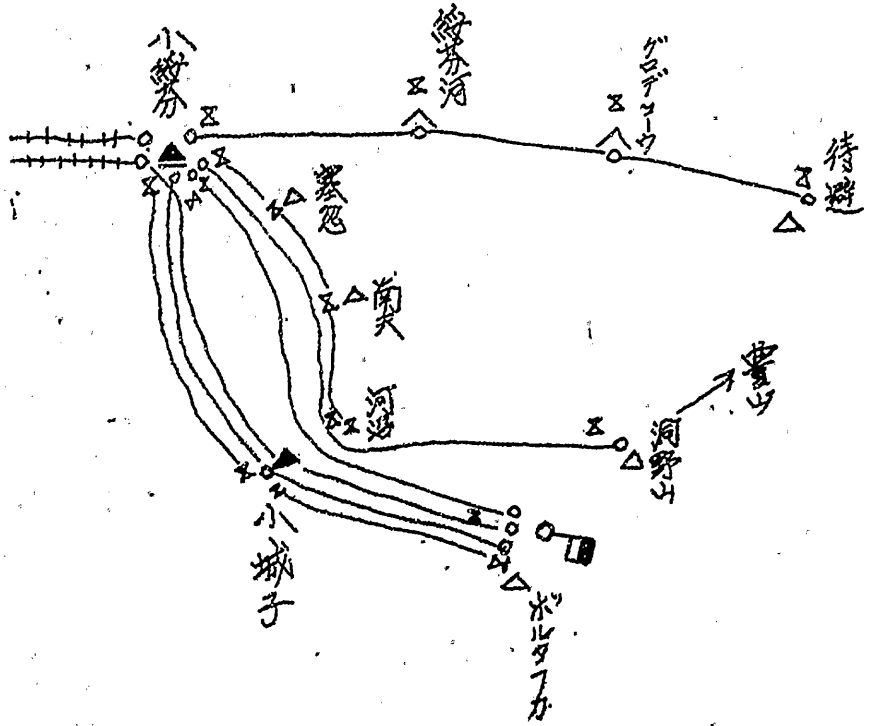
兵站部隊　前項ニ準ス但シ增加給（水炭干草）ハ一月十日ノ比ニテ加給ス

地方縱列　現地糧秣トシ細部ハ別ニ示ス

アジア歴史資料センター

兵站通信網要圖

（タロニ十於）



備考

一、○ハ▲ト□ヲ及各線兵站部ト連絡ス

二、鵜ハ制通信トシテ利用ス

1280

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、軍隊區分ノ前ニ命令ノ標題（番号）ヲ附スルヲ可トス

二、主地開設ノ命令規定ハ更ニ具体的ニ詳細ニ示スヲ要ス　特ニ隷下外ノ他部隊トノ連絡事項多キヲ以テナリ　會報時間ヲ定ムルモ其一例ナリ

統裁官所見

一、軍隊區分ノ前ニ命令ノ標題（番号）ヲ附スルヲ可トス

二、主地開設ノ命令規定ハ更ニ具体的ニ詳細ニ示スヲ要ス　特ニ隷下外ノ他部隊トノ連絡事項多キヲ以テナリ　會報時間ヲ定ムルモ其一例ナリ

アジア歴史資料センター

主地交通規定案

幸田少佐

二、本規定ハ軍交通規定案ニ依リ兵站主地ニ於テ規定スヘキ事項並主地兵站司令部管区内ニ於ケル交通ヲ想定ス

二、主地兵站司令部担任ノ主要ナル道路網及通信線ノ状況附図第一ノ如シ

三、道路及通信線ニ異常ヲ認メタルモノハ速ニ主地兵站司令官ニ報告（通報）スヘシ

四、道路構築隊長ハ附図第二ノ如ク担任区域ヲ定メ毎日少クモ一回各担任区域毎ニ巡察セシメ其ノ結果ヲ報告スルモノトス之レカタメ側車自動車ヲ使用スルコトヲ得若シ交通路上ニ故障アルヲ発見セハ速ニ左記事項ヲ報告スルモノトス

（一）故障発見ノ日時及場所

（二）破壊程度

（三）故障排除ニ要スル兵力ノ概数

（四）修理ニ要スル日（時）数

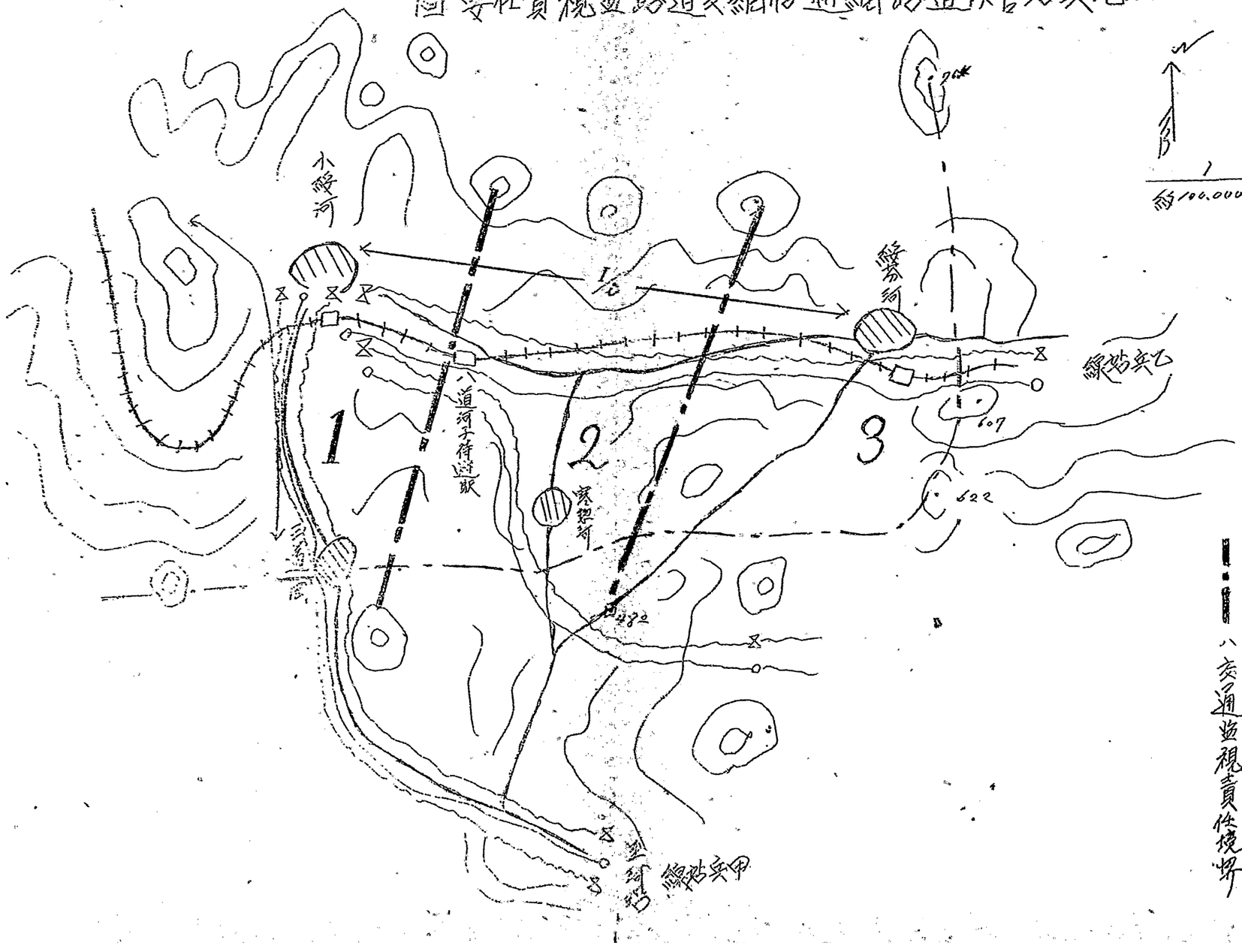
（五）故障発見ノ際ノ該路上ニアル輸送部隊ノ状態

五、後備歩兵大隊長ハ列車発車毎ニ左記人員ヲ乗車セシメ軍

需品ノ警備ト共ニ鉄道線路ノ両側並ニ沿線通信網ノ巡察ニ任
セシムヘシ
六、各兵站線縦列補給ノタメ待機(主発準備)位置、交通整理及道
標ノ位置ハ別図第二ノ如シ
七、通過軍隊縦列ト同一道路ヲ行進スル場合ハ空実縦列ニ拘ハラ
ス縦列ニ依宜ヲ子ツヘシ
八、通過軍隊縦列ト行進交叉ヲナス場合ハ空実縦列ニ拘ハラス縦列
ノ行進ヲ遅滞ナカラシムルコトニ努ムヘシ
九、軍隊若シ縦列ノ故障ヲ発見セハ位置ニ支障ナキ限リ之レニ協力シ
速ニ故障排除ヲナサシムヘシ
十、自動車縦列動物縦列ト同一道路ヲ通過スルカ或ハ行進交叉ヲ
ナス場合ハ相互ニ協力同心シ両者ノ行進ヲ円滑ナラシムル如ク便宜
処置スルヲ要ス

主地兵站管内道路網通信網及道路監視責任区図

附図第一



備考

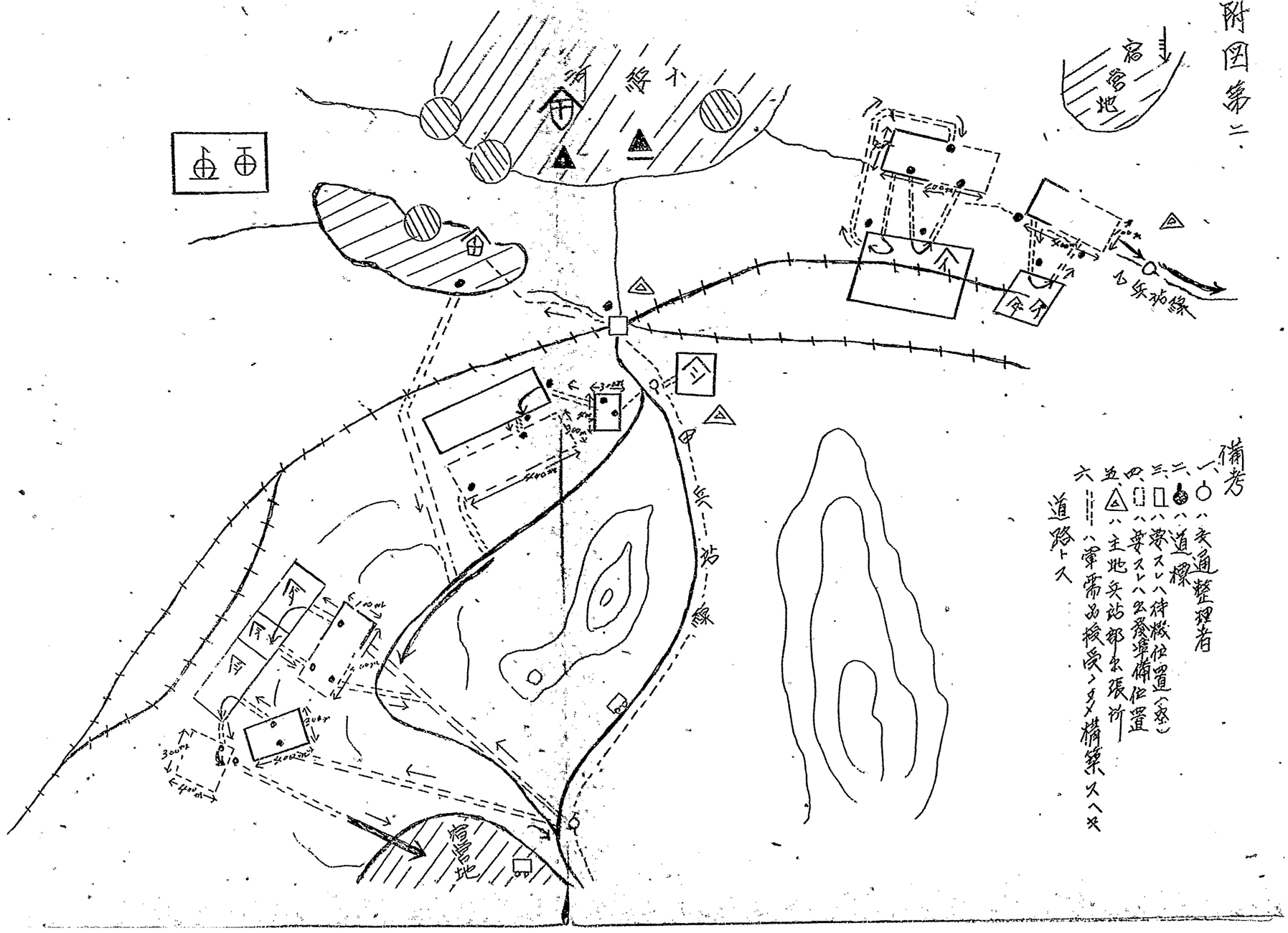
八、交通監視責任境界

アジア歴史資料センター

1286

小給養河附近補給諸廠縱列進入進出交通整理要圖

附図第二



備考

一、○ハ交通整理者
二、●ハ道標
三、□ハ常スレハ停機位置（交）
四、□ハ要スレハ交通準備位置
五、△ハ主地兵站部ヲ張所
六、═══ハ軍需品搬受ノタメ構築スヘキ道路トス

アジア歴史資料センター

総裁官衙見

一、交通規定中軍兵站部規定事項ヲ重複記述ノ要ナシ

二、輸送機関ヲシテ軍隊ヨリ交通ニ関シ優先セシムルハ上司ノ命令アル場合カ戦況上之ヲ必要トスル特別ノ場合ニ限ル

三、道路構築隊ハ兵站線上ニ輸送機関運行間ハ常時担任區分ヲ補修（小修理ヲ含ム）セシメアルモノニシテ報告等ハ第二義的ノモノナリ

四、鐵道警備ハ交通規定範囲外トス

アジア歴史資料センター

1288

兵站部防衛規定

（伊藤中佐）

主地兵站司令部

一、本規定ハ兵站主地ニ於ケル防衛ニ関スル事項ヲ規定スルモノトス

二、各部隊竝諸廠ハ住民竝地方縦列機関ノ慨柔ニ努ムルト共ニ厳ニ之カ逃走ヲ防止スルヲ要ス

之カ為憲兵トノ連絡、地方在来ノ官民自警団、名望家等ノ利用ニ努ムルト共ニ必要ニ際シテハ断乎タル処置ヲ取リ土民ノ蜂起ヲ未然ニ防止シ或ハ疾風迅雷的ニ鎮圧スルヲ要ス

三、各部隊竝諸廠ハ毎日六時、十七時ノ二回（緊急ヲ要スルモノハ其都度）兵站司令官ニ対シ報告（通報）スルモノトス

四、日直勤務竝巡察割ハ別ニ指示ス

其結果ニ関シテハ翌日八時（緊急ヲ要スル事項ハ其都度）兵站司令官及関係部隊竝諸廠ニ報告（通報）スルモノトス

特ニ地方住民竝地方縦列ノ動向、取締竝火災予防ニ注意スヘシ

五、各宿舎ハ勿論人ノ居住セル家屋ト雖許可ヲ得スシテ之カ設備竝備付物品ノ毀壊、移動、取出等ヲ禁ス

アジア歴史資料センター

六、火災予防ニ関シ特ニ左ノ点ニ注意スヘシ

イ、各建築物若ハ集積品毎ニ軽便消火器、消火用砂、消火用水等ヲ備付クルト共ニ各部隊各廠毎ニ夜間不寝番ヲ設クルモノトス

ロ、火災ノ虞アル燃料、干草等ノ集積場ハ火気取扱所ヨリ適宜離隔セシムルト共ニ分散集積スルヲ要ス

ハ、喫煙所ヲ指定スルト共ニ生火ノ使用ヲ禁ス若シ必要已ムヲ得ス之ヲ使用セシ場合ハ其後始末ニ関シテハ其位置ニ在リシ高級先任者ノ責任トス

七、敵襲ニ際シテハ各隊、諸廠、軍人、軍属、地方級到等ハ挙ケテ協力一致シ工事、周堡等ヲ利用シ頑強ニ守備シテ之ヲ撃退スルモノトス

主地警備部隊ノ配備要領附図第一ノ如シ

八、各隊諸廠ハ警急集合場ヲ定メ之ヲ報告スヘシ

九、各部隊諸廠ハ爆撃ニヨル損害ヲ顧慮シ指揮ノ許ス範囲ニ於テ分散、不規配置スルト共ニ速ニ偽装等ニ関シ遺憾ナキヲ要ス

十、通過軍隊ハ防空ニ関シ主地兵站司令官ノ区署ヲ受クルモノトス

十一、夜間事務用燈火ノ外燈火ノ使用ヲ禁ス

アジア歴史資料センター

説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

Y年 8月5日

主務者又は
撮影立会者 加部東保夫

アジア歴史資料センター

炊事ノ為野外ニ於ケル裸火ノ使用ノ許可スルモ絶対ニ上空ニ暴露セサル處置ヲ必要トス

十一、各輸送機関ハ常時対空警戒ヲ厳ニシ敵機襲来ニ際シテハ軽機及小銃ヲ以テ撃墜ニ任スルト共ニ極力地上縦列ノ離散ヲ図リ又カタメ各縦列間少クモ五百米ノ縦列距離ヲ存シ違着ヲ図ラルモノトス

十二、防空ニ関スル細部ノ規定ハ別ニ示ス

十三、消防隊ノ編成ハ別表第一ノ如シ（一略ス）

十四、非常、飛行機、瓦斯警報ニ際シテハ各隊諸廠ハ速ニ命令受領者ヲ主トシ兵站司令部ニ差出スモノトス

十五、本規定ハ支部ニモ之ヲ適用スルモノトス

1291

宿営ニ関スル件

一、各部隊ノ宿営地別紙要図ノ如シ。

二、給養ハ左記ニ依リ部隊自炊トス

イ、補給定量 第一軍兵站部給養規定ニ依ル

ロ、

被補給部隊	補給廠	
直轄部隊 陸上勤務隊 兵站部輸送機関	東部衣糧廠	
A輸送隊 B輸送隊 甲兵站部輸送機関	西部衣糧廠	

田坂少佐

アジア歴史資料センター

小銃分隊近主地兵站配置要圖

（十月十一日タヨリ於ケル）

アジア歴史資料センター

統裁官所見

主地ノ宿營地ハ符号、番号ヲ附シ乘馬部隊、徒歩部隊、□□部隊其他ノ宿營ノ便否ヲ考慮シテ用途ヲ概定シ要圖ヲ相當詳細ニ區畫シテ記述シ給養品ノ交付倉庫進入進出路ヲ明ニシ之ニ基キ日々命令會報等ニテ簡明ニ部署シ得ル如ク一段ノ實務的工夫ノ要アリ

アジア歴史資料センター

主地兵站部命令　十月十三日午前十時十分
於小綏芬司令部

一、敵ノ空中落下傘部隊（兵力約百名、若干ノ軽砲ヲ有ス）ハ本十三日午前十時河東（小綏芬西南約二里）ニ降下セリ

二、主地兵站ハ一部ヲ以テ之ヲ撃退シ主力ハ至厳ナル警戒ヲ實施セントス

三、後備歩兵第一大隊長ハ二中隊及機關銃隊ヲ指揮シ直チニ出發東南方面ニ前進シ敵ヲ撃滅スベシ自動車一小隊ヲ臨時配屬ス

四、後備歩兵第四大隊長ハ一中隊ヲ以テ小綏河ー三道溝間ノ鉄道守備ニ任セシムヘシ自動車一小隊ヲ臨時配屬ス尚一小隊ヲ以テ小綏芬停車場ノ守備ニ任セシムヘシ

アジア歴史資料センター

五、後備騎兵第二中隊ハ直チニ出發八家子（河東南方約一里）方向ニ前進シ後備歩兵第一大隊ニ連繫シ敵ノ背後ヨリ攻撃スヘシ

六、諸廠ハ各警備計画ニ基キ警戒ヲ嚴ニスヘシ

七、宿営地内ニ在ル各部隊ハ現在ノ位置ニアリテ直チニ出動シ得ル如ク準備シアルヘシ

主地兵站部司令官　某

下達法
電話ヲ以テ各別ニ要旨ヲ下達シタル後印刷交付ス

アジア歴史資料センター

綏芳河支部命令　十月十二日午後十時　於綏芳河支部

一、敵情及我方軍ノ情況並企圖主地点ハ支部命令ニ含ム

二、當支部ハ本日十二日正午ヨリ當綏芳河ニ業務ヲ開設シ補給並輸送ニ任ゼントス

三、支部ノ配置並業務分擔ハ別紙第一ニ依ルヘシ

四、綏芳河内ノ通信網ハ別ニ示ス

五、アヽ綏芳河停車地前某地ニテリ

綏芳河支部長

別紙第三

綏芬河主地兵站支部人員

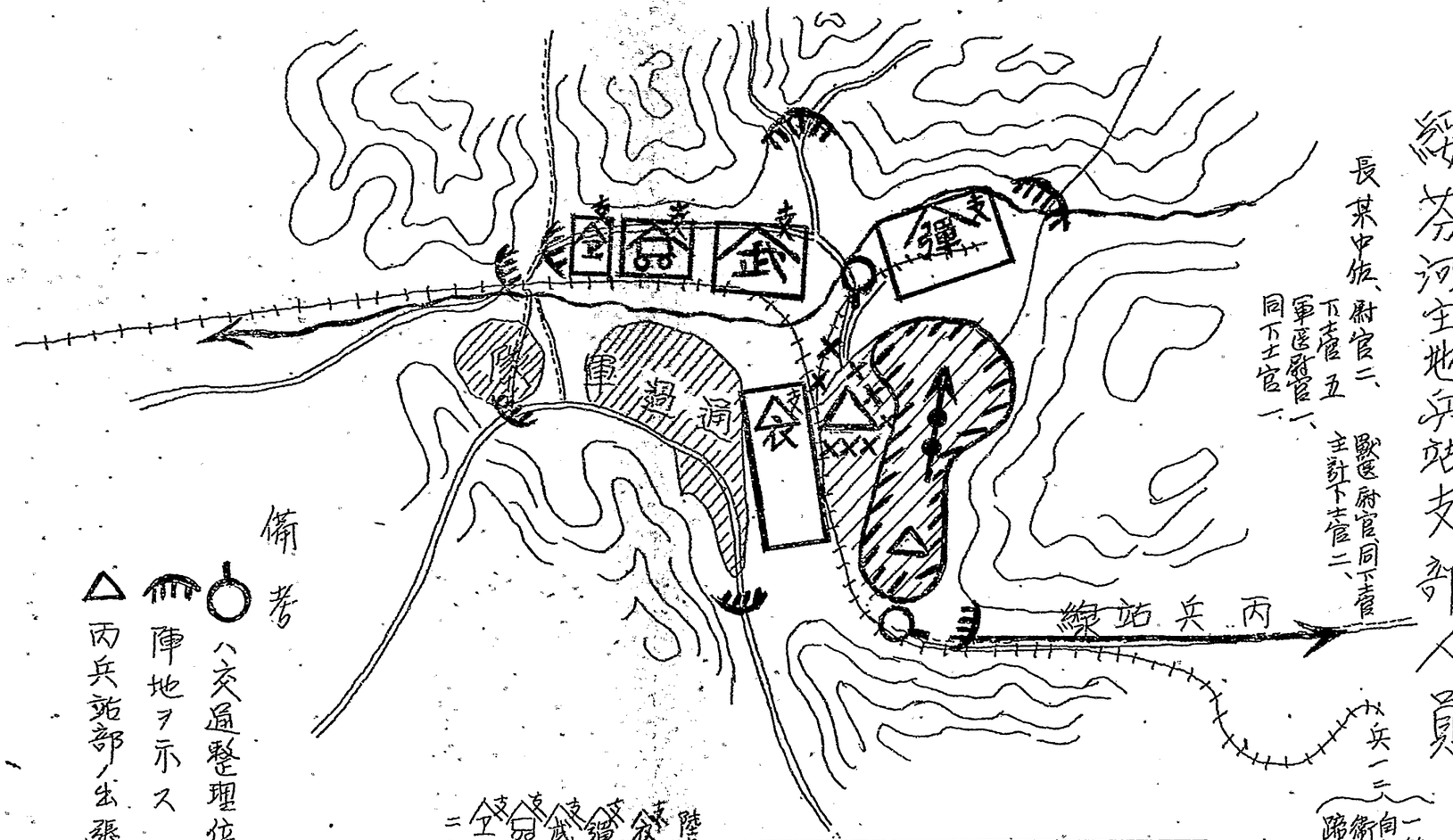
長 某中佐、副官二、
下士官五
軍医 某官一、
同下士官一、

兵站線

兵一二
（一般 四
衛生兵 三
鉄道兵 三）

（補給基地）

綏芬河主地兵站支部配置要図



備考

○ 交通整理位置
陣地ヲ示ス
△ 丙兵站部ノ出張所

陸上勤務隊配当区分

支 二分隊
支 二分隊（一班交）
支 一分隊
支 二班
支 一班
二班八待命

支部長中（少）佐
分担区分表

輸送掛 交通掛	尉官一 下士官三	
庶務掛 警備掛 宿営給養掛 経理掛	尉官一 下士官三、 主計下士官二、	軍医尉官一（同下士官一）
衛生掛	軍医尉官一（同下士官一）	
鉄道掛	鉄道尉官一 同下士官一	

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、兵站部隊ノ宿営地ヲ示スコト

二、地方縦列ハ都市ノ中心ヲ避ケ乗馬部隊ノ宿営地同様ノ顧慮ヲ必要トス

アジア歴史資料センター

主地兵站部命令

十月十二日午後一時
於小樓芬兵站司令部

一、敵情（敵ノ爆撃及其損害情況略ス）

一、我カ企圖（略ス）

二、主地兵站部ハ軍ノ補給ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ直ニ小樓芬ト綏芬河間ノ輸送ヲ開始セントス

三、第八兵站輜重兵隊長ハ左記輸送隊ヲ以テ別紙集積區分及運行表ニ基キ直ニ輸送ヲ開始スヘシ

但第八輸送監視隊ハ綏芬河到着後為兵站司令官ノ隷下ニ入ラシムヘシ

左記

第四兵站自動車隊

第八輸送監視隊

第十一輸送監視隊（十五日以後ノ輸送ニ任ス）

アジア歴史資料センター

主地兵站部輸送運行基準表

主地兵站部

部隊

第四兵站自動車隊

第八輸送監視隊

第四兵站自動車隊

第四兵站自動車隊

小綏芬——綏芬河間

綏芬河

小綏芬

13日 3.
3.4
4.2
5
5.4
6.2
7
7.4
8.2
9
9.4
10.2
11
11.4
14日 12.2
1
1.4
2.2
3
3.4
4.2
5
5.4
6.2
7
8.10
8.10
9.1
2.
2.4
3.2
4.
4.4
5.2
6
6.4

彈藥六中

自三中

三彈中

二糧中

一彈中

二糧中

三他兵糧

三被谷

集積區分

計糧其他八、十四夕迄

彈藥一〇 十四午前大部迄 業ヒ成ルヘク早ク

燃料 三、 十四日朝迄

谷種 三 十四夕迄

八地方縦列ヲ示シ 經路ハ小綏芬—前鋒芝麻河子—綏芬河道トス

八兵站自動車隊ヲ示ス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

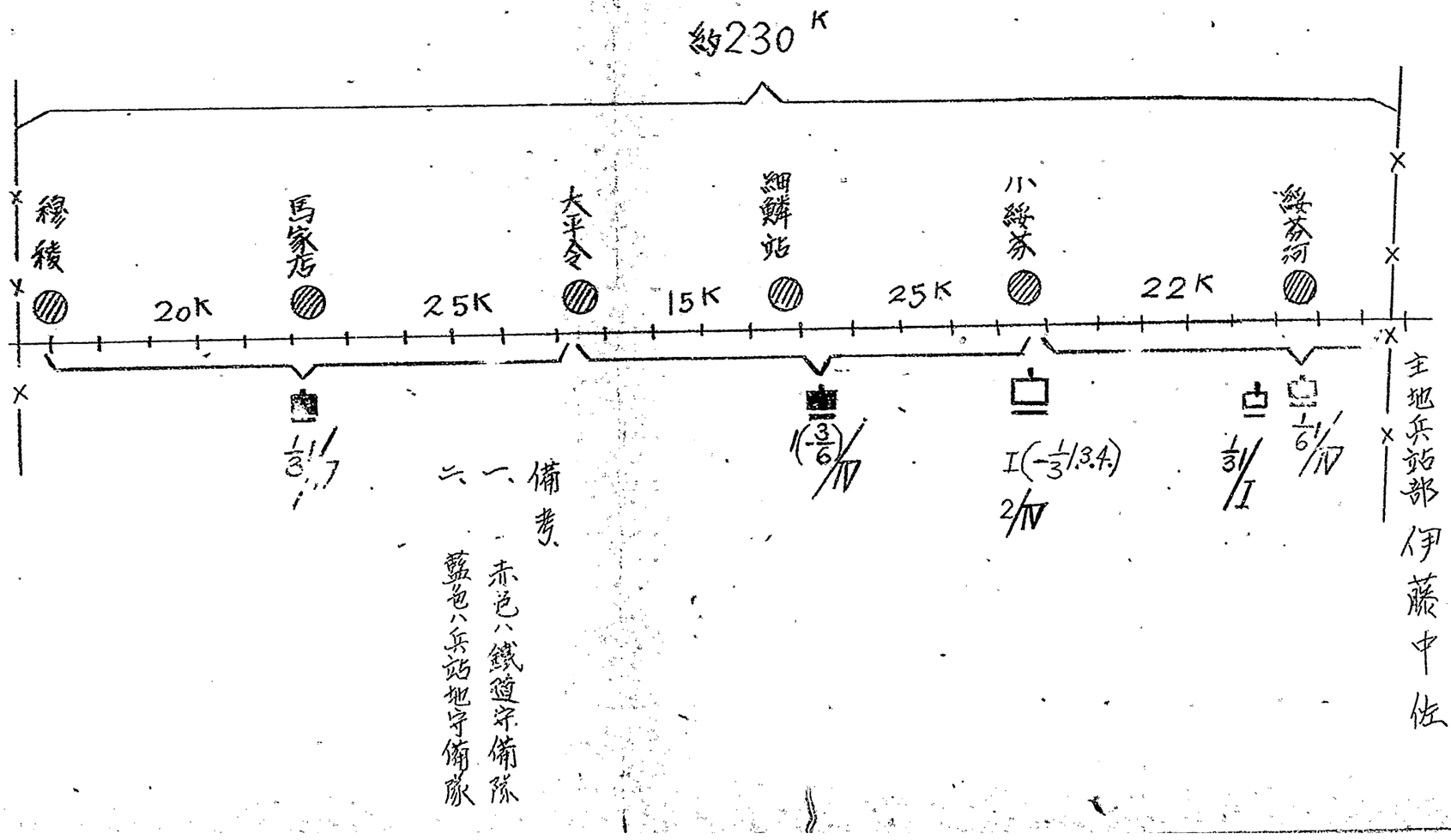
特ニ之ヲ許ササル事情無キ限リ自動車隊ニ燃料彈藥類ヲ積載シ地方縱列ニハ之ヲ避クルヲ有利トス

アジア歴史資料センター

1302

主地兵站部伊藤中佐配置要圖

(ルチ六=夕日三十月十)



アジア歴史資料センター

1303

宿營給養ニ関スル命令

十月十四日
於小綏芬主地兵站司令部

田坂少佐

一、小綏芬主地兵站地宿營區分別紙第一要圖ノ如シ
宿營ノ細部ニ関シテハ部員ヲシテ直接指示セシム

二、糧秣補給區分別紙第二ノ如ク一回ニ概ネ五日分ヲ交付ス

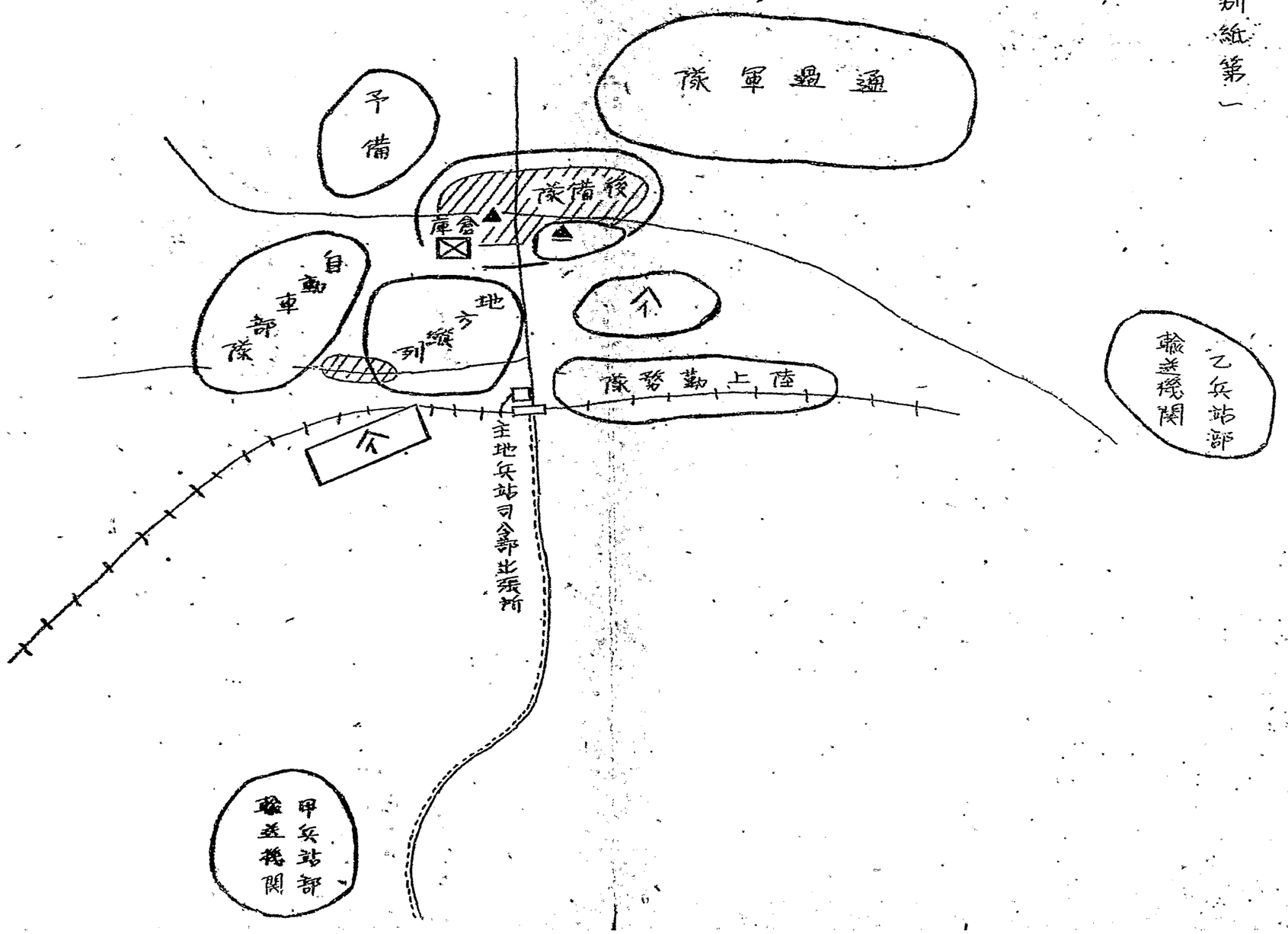
三、各部隊ハ一七〇〇自隊行李ヲ以テ小綏芬東端主地兵站部倉庫ニ於テ糧秣係ヨリ受領スヘシ
但運搬具ヲ有セサル部隊ハ主地司令部ニ於テ準備ス依テ所要部隊ハ之ヲ請求スヘシ

主地兵站司令官 深田中佐

アジア歴史資料センター

別紙第一

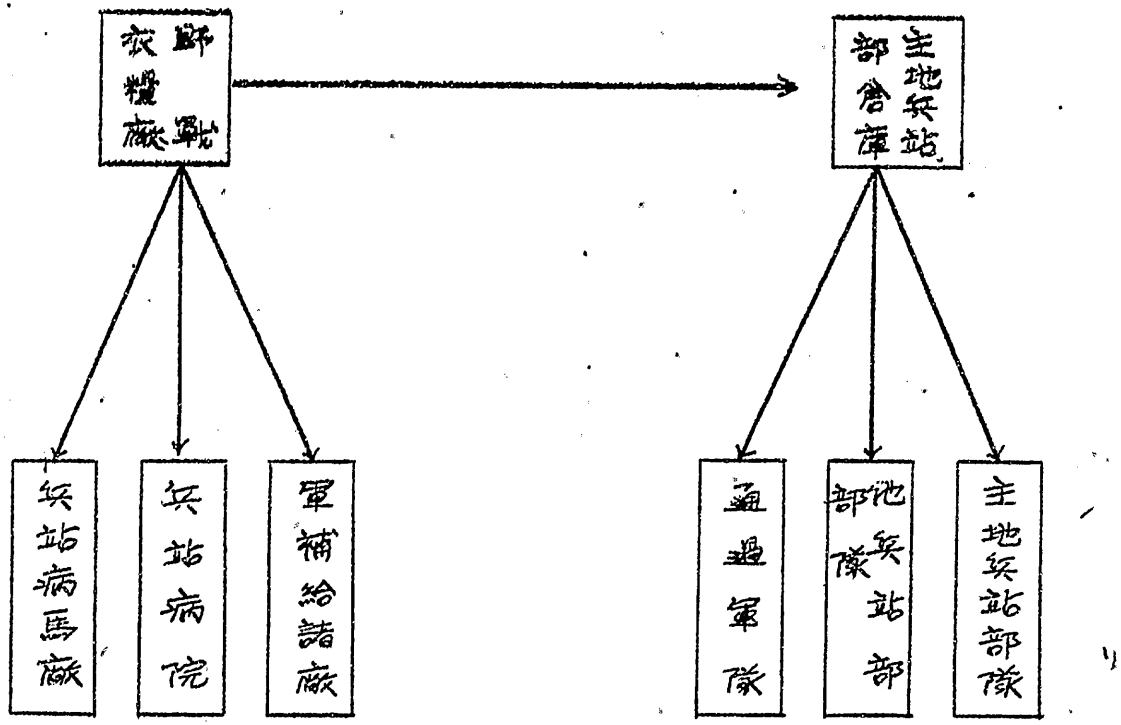
小倉兵站主地宿営地要図



アジア歴史資料センター

別紙第二

糧秣補給區分表



アジア歴史資料センター

主地兵站部命令

十月十六日
於小綏芬主地兵站司令部

一、敵情我カ軍ノ狀況(略ス)

兵站監ハ明十七日早朝小綏芬ヲ出發シ「ガリヨンカ」ニ移動セラルル筈

明十七日早朝ヨリ小綏芬――綏芬河間ノ鉄道ハ開通シ該間ハ鉄道輸送ニ依リ補給セラル

尚八道河子ニハ十七日ニ約三百駄十八日以後ニハ毎約二百駄宛卸下シ八道河子ヨリ輕便鉄道ニ依リ中兵站線ニ補給セラルル筈

二、B輸送隊ハ十六日夜ヲ以テ一時輸送ヲ打切リ綏芬河ニ於テ待命スヘシ

三、某火附ハ左記人員ヲ指揮シ明十七日正午迄ニ八道河子ニ支部ヲ開設シ輕便鉄道ニ依ル中兵站線ノ補給ニ任スヘシ

積載ニ就テハ輕便鉄道ト連絡スヘシ

電話ハ十七日正午迄ニ八道河子ニ開始セシム

左記

下士官 二、 兵 三、

陸上勤務隊ニ班、小型自動車 一、

警備隊二分隊

四、鉄道中備區域ハ別ニ示ス

五、給養ハ一週間分宛兵站司令部ニ請求スヘシ

六、予ハ依然小綾芳ニ在リ

主地兵站司令官　某

下達表

命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

綾芳河支部ニハ印刷配布ス

アジア歴史資料センター

1308

主地兵站部命令

十月十七日一五〇〇
於小綾芳主地兵站司令部

一、敵情

主地兵站部ノ管轄区域ヲ国境線ニ推進セラル

二、主地兵站部ハ明十八日夕迄ニ小綾芳ヨリ東甯補給基迄ニ糧秣十両中隊弾薬十中隊ヲ輸送セントス

三、某中(少)佐ハ左記人員ヲ指揮シ本十七日一八〇〇迄ヲ東甯ニ支部ヲ開設スヘシ

左記

部員 大尉 一
主計 一
軍医 二
獣医 一
乗用自動車 二 (二ハ主地ニ返送ス)
第九陸上勤務隊ノ一班
後備歩兵第四大隊ノ半小隊

四、第五兵站自動車隊ノ一中隊ハ前項人員兼備ニ輸送スヘシ

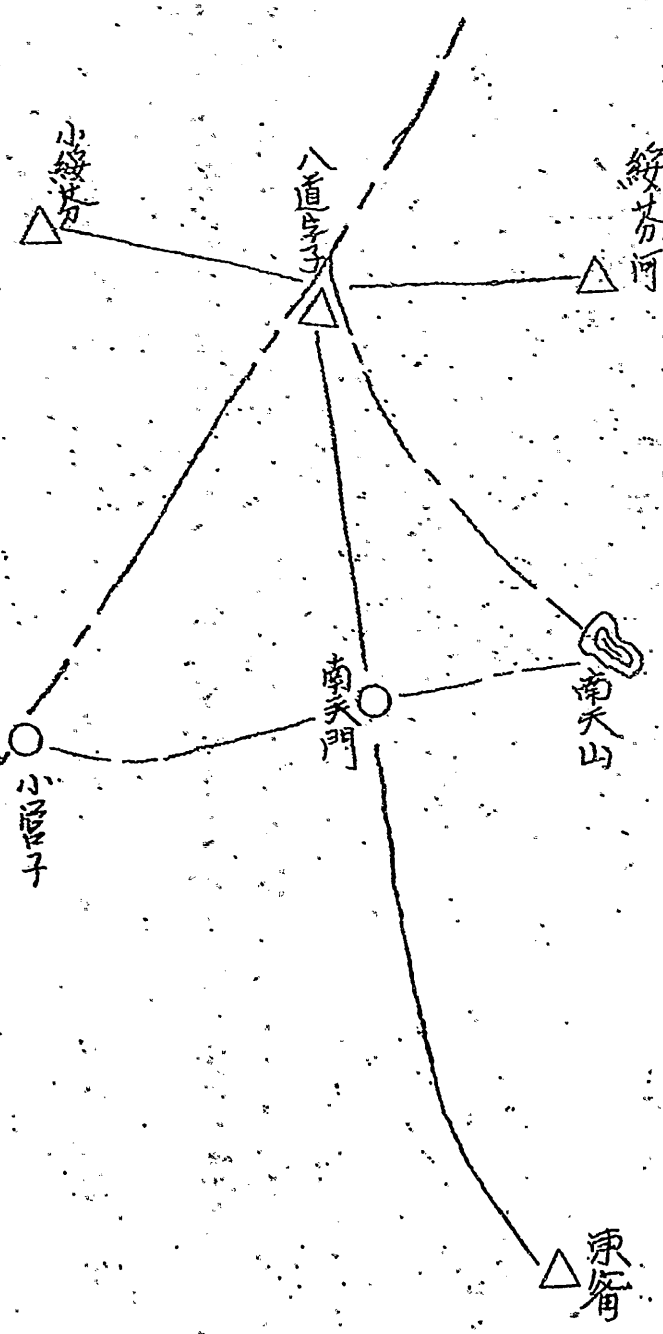
曹長一下士官ニ兵六
経理部下士官 一
衛生部下士官 一

アジア歴史資料センター

1309

五、鉄道守備隊ノ守備区域ヲ東寧ニ延伸ス

六、各支部ノ守備区域ヲ左ノ通リ変更ス



下達弦

電話ニテ要旨ヲ下達シ後印刷交付ス

主地兵站部司令官 某

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、守兵站部ト交代ニ関シテハ更ニ詳細ニ連絡シ継承ノ順序時期ヲ明確ニスルヲ要ス
即チ支部員ノ到着並業務引継近況ニヲ許セハ若干日見習ノ等ノ具体的連絡ヲ必要トス

二、各支部ノ守備区域ハ設定適當ナラス又ハ道河子支部ニ於テ特ニ然リ
鉄道直接守備ハ警乗以外ハ沿線近距離ノ守備ト分離シ得サルヲ通常トス

主6

アジア歴史資料センター

1311

主地兵站部命令

十月十七日 午後三時 於小綏芬兵站司令部

一、敵情（略）

二、主地兵站部ハ小綏芬ヨリ東寧ニ向ヒ十八日夕迄ニ糧秣 [illegible] 隊彈藥十中隊ヲ輸送セントス

三、第五自動車隊長ハ部下部隊ヲ第四自動車隊（二中隊欠）ヲ指揮シ本十七日午後四時出發別紙運行計畫ニ基キ糧秣十一中隊彈藥八中隊分ヲ輸送スヘシ

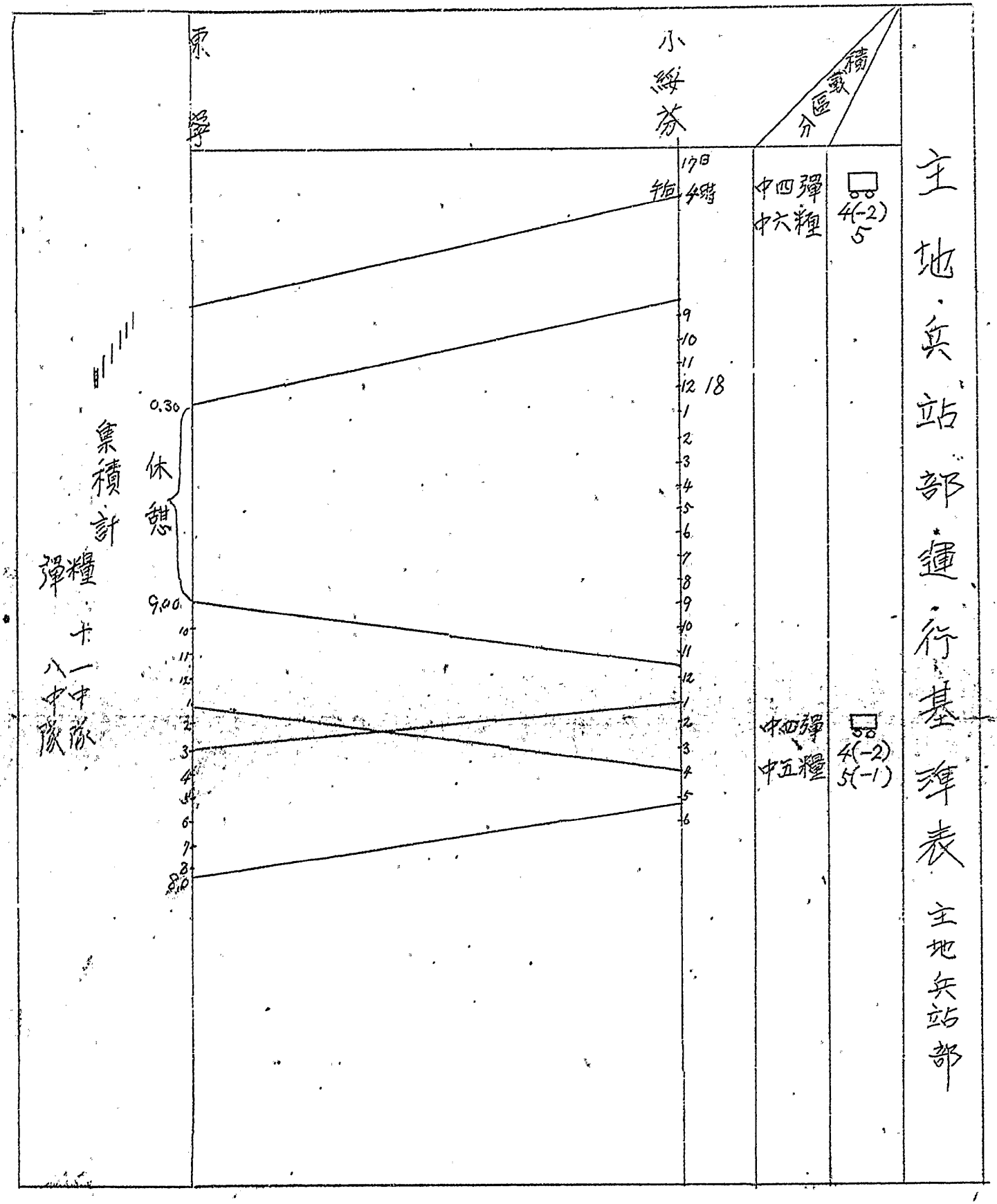
積載ノ爲メ陸上勤務隊一分隊ヲ增加ス

四、八道河子支部長ハ十八日夕迄ニ輕便鉄道ニヨリ糧秣少々ヲ三中隊彈藥二中隊ヲ輸送スヘシ

主地兵站部司令官　某

下達法

電話ニ依リ各別ニ要旨ヲ下達シ後印刷交付ス



アジア歴史資料センター

十八日朝以降列車ノ運行表

區間 / 區分	午前	午後	摘要
大本營直轄管区		(1700乙) 17,00着	
小綏分人道河		(1700乙) 直通	
綏芬河		3,00着 (500乙) 4,00着	
八道河	6,00 (400乙) 8,00 (400乙) 10,00 (400乙) 12,00 (400乙) 2,00 (400乙)		八道子駅ニ於テ毎日待避線ニ若干軍帰貨車ヲ入ルルモノトス
東寧			

備考

一、八道河東寧間一往復八十八日朝ヨリ開通ス毎日五列車(一列車四十乙)トス

二、軍需品ハ何レモ糧四彈二、他ノ比ニ積載シアルモノトス

主地兵站部ニ対スル統裁官綜括的所見

一、主地業務ハ主地兵站部長一存ニテ處置シ得ヘキ事項ヨリモ關係各種機關ト連絡シ協定又ハ區處スヘキ事項多キニ鑑ミ之カ業務ノ連絡系統表ノ如キモノヲ調製シ日々ノ事務ニ遺漏ナカラシムルコト緊要ナリ

アジア歴史資料センター

其三

甲兵站部

アジア歴史資料センター

1316

甲兵站部命令

十月十一日十九、〇〇
於小線谷河第二兵站司令部

一、敵情略ス
軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ「スストルゴルフカ」西方地区ニ一部ヲ以テ「プリルキ」ニ向ヒ前進ス
軍兵站ハ軍ノ「ガリヨンカ」附近ノ會戦ヲ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ追撃ヲ準備ス
之カ爲兵站線及兵站地ヲ別紙ノ一ノ如ク設定セラル
二、甲兵站部ハ別紙第一ニ基キ甲兵站線ヲ設定シ該方面ノ輸送及補給ニ任セントス
軍隊區分別紙第二ノ如シ
三、各輸送隊ハ十月十二日ヨリ同十六日ニ亘リ別紙第三運行表及別紙第四積載區分表ニ基キ軍需品ノ輸送ニ任スヘシ
但糧秣ニ中隊ヲ本日夜後出発小線谷河ー三道嶺ー二道嶺ー南天門ー河沿ー八家子ー「ポルタフカ」道ヲ「ポルタフカ」ニ輸送スヘシ
輸送間ニ関シテハ第二兵站自動車隊ハ第一兵站自動車隊長

アジア歴史資料センター

ノ區署ヲ受クヘシ

第一兵站自動車隊ヨリ自動車二二、第二兵站自動車隊ヨリ自動車二〇ヲ午前四時兵站司令部前ニ出シ「ポルタフカ」支部長某中佐ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

某中佐ハ前項自動車ニ依リ小營子、小城子、「ポルタフカ」各支部編成要員及配屬警備部隊ノ一部ヲ各兵站地ニ輸送スヘシ

十四、十五兩日自動車六ケ中隊ヲ以テ乙兵站線用糧秣ヲ小城子ニ輸送スヘシ

四、小營子、小城子、「ポルタフカ」各支部ハ別紙第一ニ基キ夫々兵站地ヲ設定シ同地ニ於ケル兵站業務ニ任スヘシ又小城子支部ハ第一師團野戰倉庫ヲ十二日中ニ繼承スヘシ、兵站地ノ位置ハ別ニ現地ニ於テ予之ヲ指示スルカ或ハ司令部參謀某中佐ヲシテ指示セシムヘシ

各支部担任區域ノ境界別紙第一ノ如シ

各支部ハ其擔任區域内ノ兵站線路中自動車ノ行違運行ニ

支隊ノ部署濕地ノ道路修復ニ就テ道路構築隊ト協議スヘシ、各支部ハ明十二日小綜芬河出発自動車ニ依リ夫々任地ニ到ルヘシ

行軍間ハ「ポルタフカ」支部長之ヲ併セ指揮スヘシ

五、某中佐（將校、下士官一ヲ附ス）ハ自動車隊偵察者ト同行シ兵站地並道路偵察ニ任スヘシ

六、後備歩兵第一中隊ハ明十二日早朝宿営地出発東寧附近ニ進出シ當兵站部ノ右側ヲ警戒スヘシ

七、後備山砲兵第一中隊ハ明十二日直轄支部長某中佐ノ引率ヲ以テ「ポルタフカ」ニ到ルヘシ

八、後備工兵第一中隊ハ明十二日直轄支部長某中佐ノ引率ヲ以テ「ポルタフカ」ニ到ルヘシ

九、兵站司令官直轄各支部ハ某中佐ノ引率ヲ以テ「コポルノフカ」ニ到リ待機シ且同地支部ノ業務ヲ援助スヘシ

十、本會戰間ノ補給定量ヲ別紙第五ノ如ク定メラルヘシ（軍兵命附表第二）

アジア歴史資料センター

1319

一、兵站通信網ハ別紙第六ノ如ク構成セラル（軍ト兵命附図第二）

一、甲兵站線ニ行動スヘキ兵站監直轄部隊別紙第七ノ如シ

一、予ハ明十二日小綾芬河出発自動車ニ依リ小城子ニ到リ暫ク同地ニ在リ

兵站司令官　某

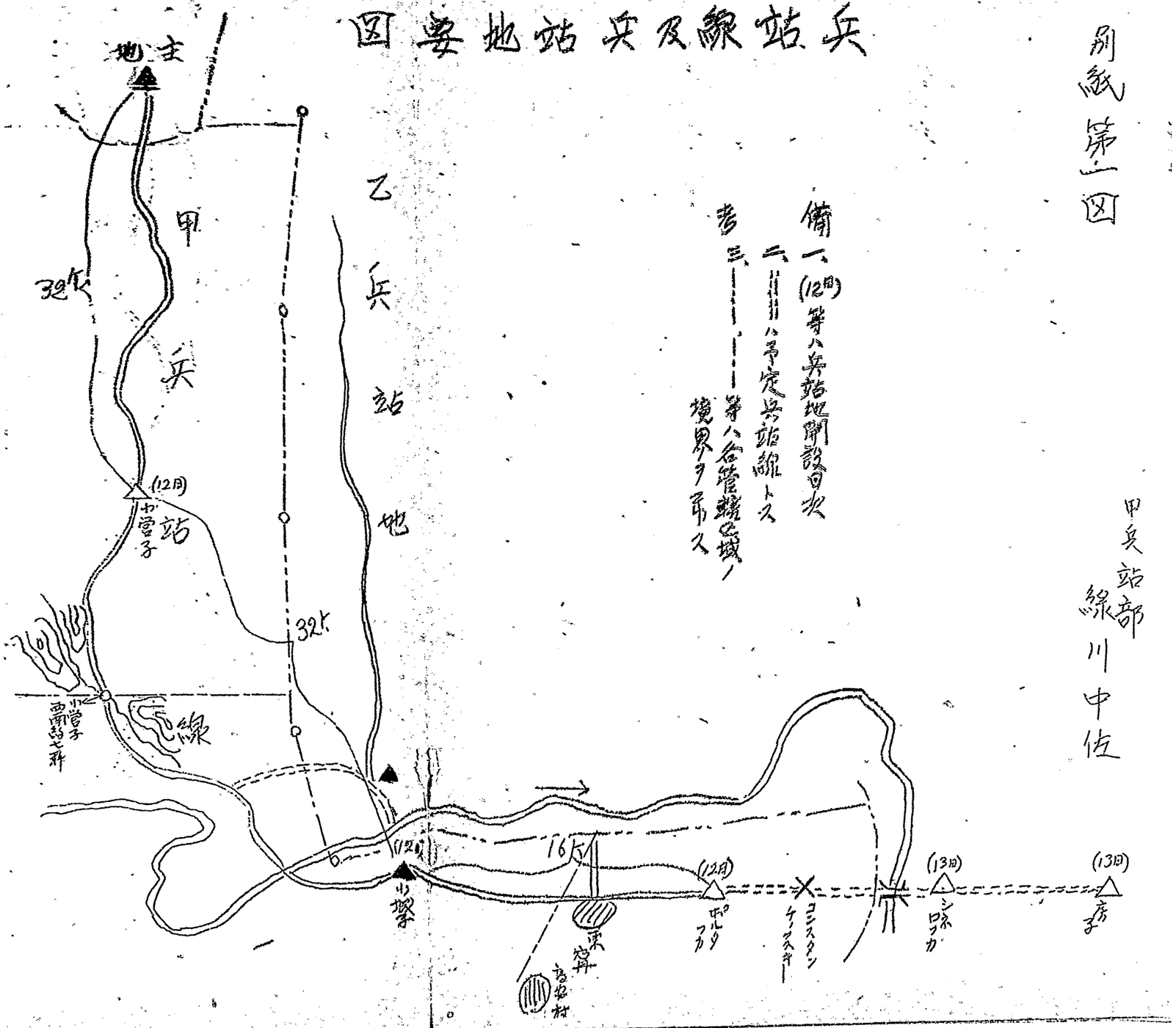
下達法

各隊長ヲ集メ印刷セルモノヲ交付

アジア歴史資料センター

別紙第一図

兵站線及兵站地要図



備一、(12回)第八兵站地開設日次
二、〃〃八予定兵站線ト又
参三、――――第八台管境ヲ域ノ
境界ヲ第又

甲兵站部
綠川中佐

アジア歴史資料センター

1321

別紙第二其一

軍隊區分

A 輸送隊
長 第一兵站自動車隊長 A中佐
第一兵站自動車隊

B 輸送隊
長 第二兵站自動車隊長 B中佐
第二兵站自動車隊（第十二中隊欠）

C 輸送隊
長 第三兵站自動車隊長 C中佐
第三兵站自動車隊

D 輸送隊
長 第四兵站自動車隊長 D中佐
第四兵站自動車隊

小營支部
長 部員 M大尉

アジア歴史資料センター

第四號支部（別紙第二其二）
野戰自動車廠第一移動修理班
後備步兵第二大隊第一中隊ノ半小隊
第十陸上勤務隊ノ二班

小城子支部
長　部員　　中佐
第二号支部（別紙第二其二）
野戰自動車廠第二移動修理班
後備步兵第二大隊第一中隊（半小隊ヲ）
第十陸上勤務隊（二班ヲ）

ポルタフカ支部
長　部員　　中佐
第一號支部（別紙第二其二）
軍神給諸廠出張所（野戰武器廠、野戰理衆廠、野戰自動車廠、野戰衣糧廠
野戰衛生材料廠）

アジア歴史資料センター

後備歩兵第二大隊（第一、第四中隊機関銃一小隊ヲ）
第十一陸上勤務隊

司令部直轄部隊
第一兵站司令部本部
第三号、第五号乃至第十四号各支部（別紙第二其二）
後備歩兵第二大隊第四中隊同機関銃一小隊
後備騎兵第一中隊
後備山砲兵第一中隊
後備工兵第一中隊
第十二、第十三陸上勤務隊

アジア歴史資料センター

附表第二其二

甲兵站部人員及自動車班當區分表

兵站司令部ノ編成

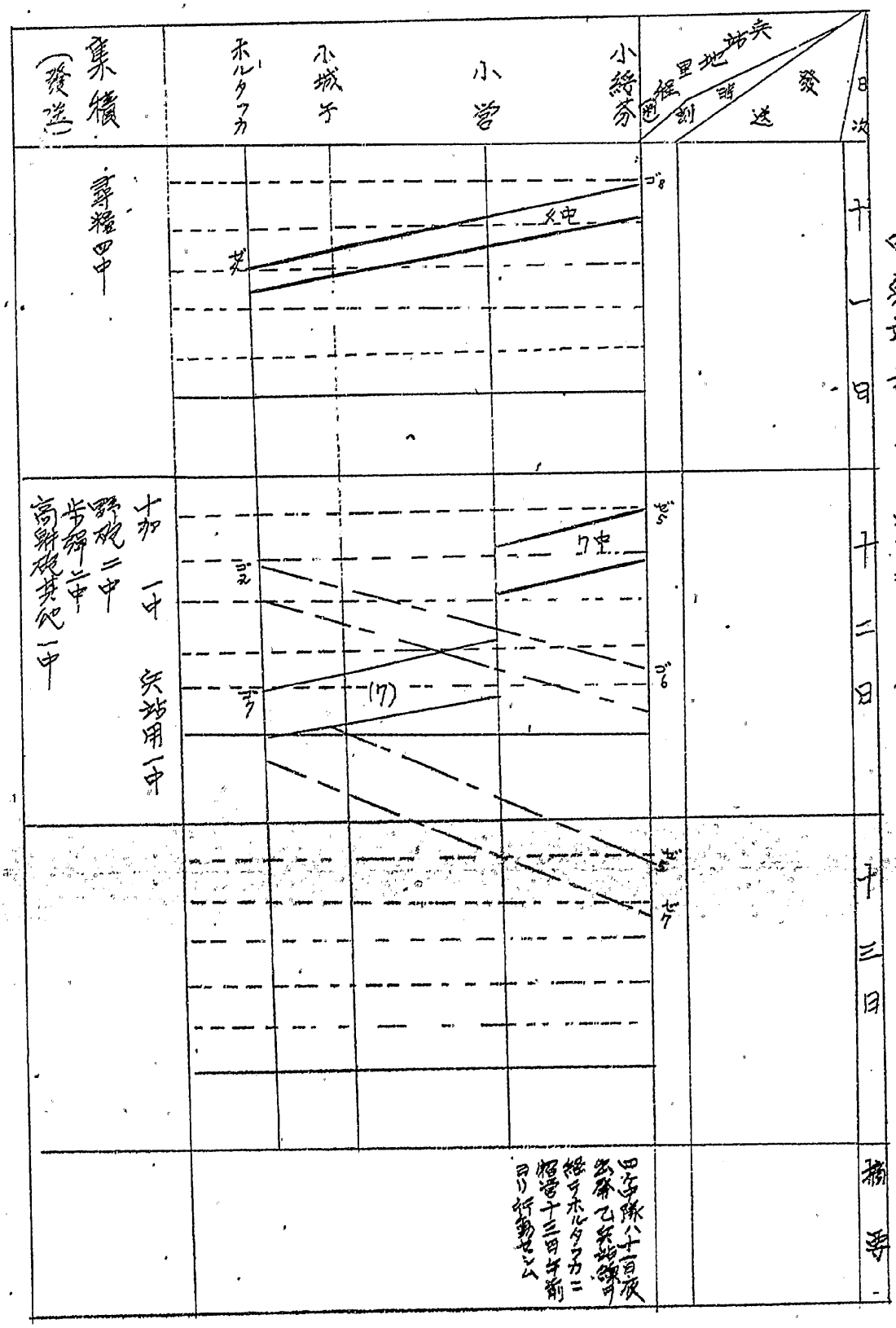
階級	人員	本部	支部												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
中佐	四(十)	一														
少佐	五	一														
大尉	一〇	一	一													
中(少)尉	一〇	一	一													
書長	六	一	一													
軍曹(伍長)	二八	一	一													
自動車隊	一															
自動車手	四	一	一													
自動車手	四	一	一													
上等兵	二三	一	一													
瓦斯兵	三	一	一													
鉄道兵	一八	一	一													
主計中少佐	一															
主計少尉	一	一	一													
主計下士官	一六	一	一													
軍医中少佐	一	一														
軍医	七		一													
衛生下士官	八	一														
衛生上等兵	五	二	一													
衛生一二等兵	一〇	二	一													
獣医少佐	一	一														
獣医	四	一	一													
獣医下士官	六	一	一													
計	一六一	三五	三三	一六	一六	九	九	九	五	五	五	五	五	五	五	五
小型乗用車	一二	四	二	一	一	一	一	一	一							

備考

アジア歴史資料センター

附表第三

甲兵站部ニ於ケル運行表（第一日ノ分）



新田少佐

アジア歴史資料センター

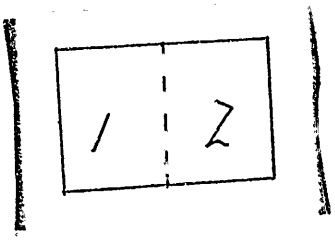
別紙第七

甲兵站線ニ行軍スヘキ兵站監直轄部隊

一、道路構築隊ノ主力……甲兵站線ノ道路修復
一、第一第二野戦予備病院及患者輸送部本部及第一班
……十三日夕迄ニ兵站末地ニ到リ待命
一、第二兵站病院及野戦防疫部……「ポルタフカ」ニ前進待命
一、兵站病馬廠主力……「ポルタフカ」ニ前進収容
一、予備馬廠主力……「ポルタフカ」ニ開設
一、野戦化學部……「ポルタフカ」ニ前進業務開始
一、軍馬防疫廠……「ポルタフカ」ニ到リ待命

アジア歴史資料センター

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを証明する

4年 8月 5日

主務者又は

撮影立会者 加部東 保夫 印

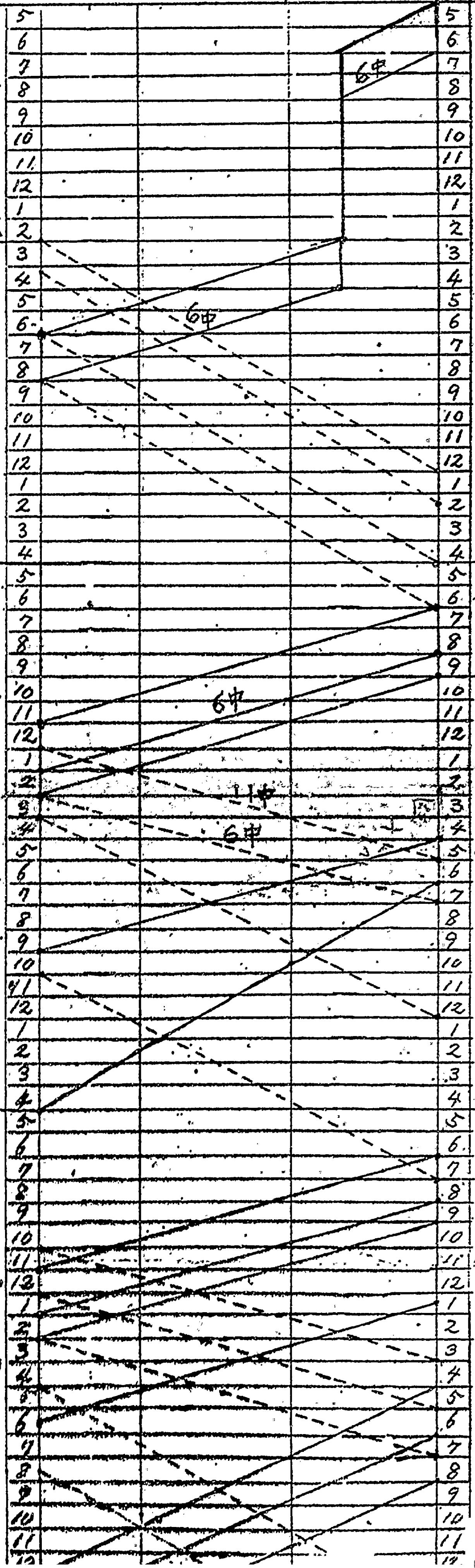
アジア歴史資料センター

附表第三　甲兵站線（□）運行

日	中隊数	計	予備被服	加給糧秣	燃料	重患者食	携帯糧秣	尋常糧秣	衛生材料	通信材料	化学戦資材	98MATA 其他弾薬	戦車用弾薬	十加弾薬	十五榴弾薬	野砲弾薬	歩兵弾薬	常続糧秣
12日	10中	六中										一中		一中		二中	二中	
13日	23中ノ	一二中	一中		一中		二中	三中			一中			二中	二中			九中
14日	23中外（6中）	八中			一中		二中二小（二中）	（五中）	一小	一小	一中		一小	一小	二中	一中		九中

分區積集

兵站地：小綏芬　32K　華子溝　小営子　32K　小城子　16K　ポルタフカ



備考

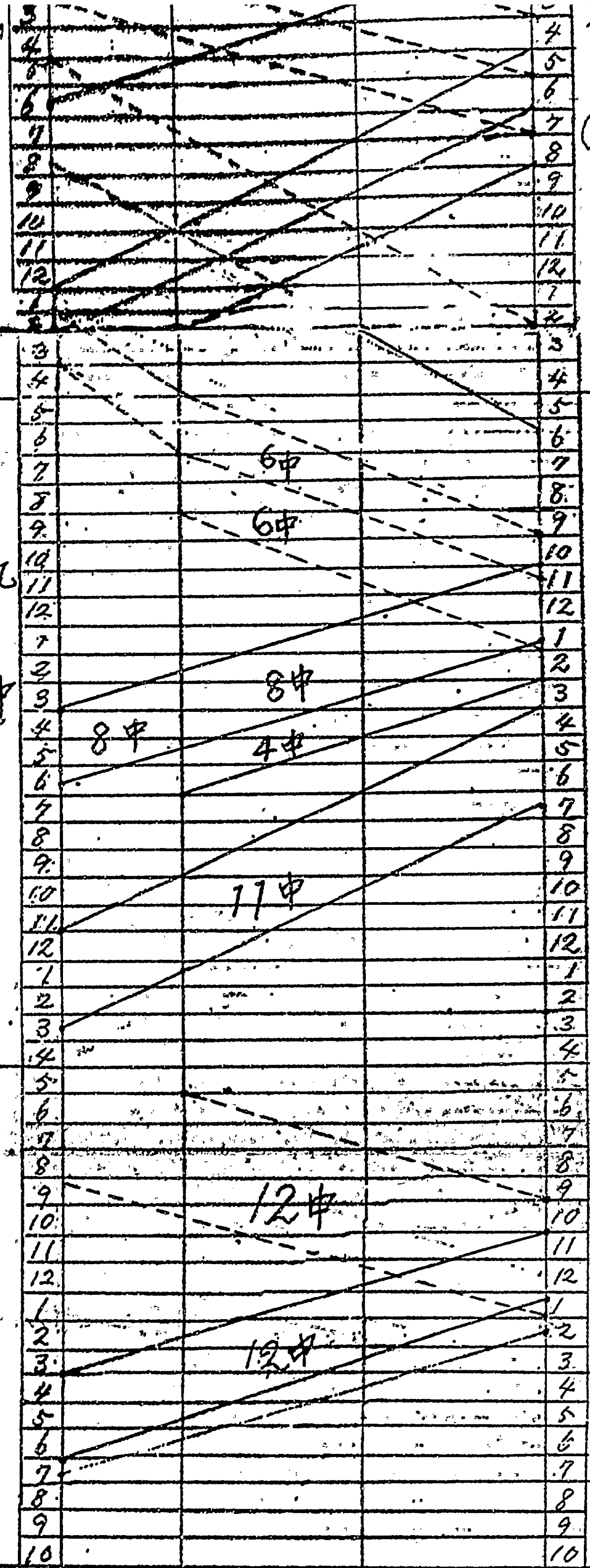
一、（　）ノ数量乙兵站線ノ分ヲ輸送シタル分ヲ表ハス
二、尋常糧秣中隊ノ内一中隊ハ兵站衛糧秣トス

1327

行 計畫表

衎田少佐

日		摘要
14日	23中 外(6中)	中、二小(三中)、中)、小、小、中、小、小、中、中、中
15日	19中 外(4中)	八中：一中(一中)、(一中)、三中、二小)、一小、二中、一中、九中
16日	7中	十二中：一中、五中、一中、一小、一小、一中、一中、三中



摘要

一、四中隊ハ第三師團ノ糧秣補給ノ為十一日日没後乙兵站線ヲ経テホルタフカ附近ニ至リ同地宿營、十二日正午前小経務ニ歸行ス

二、独立混成旅團ノ分ハ小経務ニテ實施ス

アジア歴史資料センター

別紙第四

甲兵站部担任軍需品積載區分表

種類 / 集積地 / 集積日次		糧秣薪炭燃料				彈藥及其他ノ軍需品										計	總計
		人糧	馬糧	燃料	計	乙彈藥	A彈藥	T.K彈藥	15H彈藥	10K彈藥	TA.MA.GA.彈藥	化學戰資材	通信材料	衛生戰医材料	豫備被服		
ポルタフカ	十月十日					二中	二中			一中	一中					六中	六中
	十三日	二中 五中	四中	四中 一中	一七中				二中	二中		一中			一中	六中	二三中
	十四日	三中 (五中)		八中 (中)	十七中示				二中							五中一小	二三中
	十五日	七中 (三中)	一中		一四中 (四中)											四中	二三中
	十六日	(加) 一中		六中 (中)	二中				三中	一中						五中二小	七中二小

摘要

一、表中(二)……ト示セルハ乙兵站線集積ノモノヲ甲兵站線担任スルモノニシテ河沿ニ卸下シ該地ニ於テ乙兵站ニ引続クモノトス

二、尋常糧秣中ニハ予備集積ヲ含ム

三、(加)ハ加給糧秣ヲ示ス

備考

一、数量ハ兵站自動車中隊ヲ示ス

二、尋常糧秣ノ品種別合ハ補給品ニ同シ

三、彈藥ノ比率ハ概ネ保管比率ニ據ルモノトス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

甲ノ

一、命令本文

イ、命令ノ番号ヲ記述シ置クヲ可トス

ロ、第六、第七項

後備騎兵第一中隊ノ通信連絡及後備山砲兵第一中隊ノ行軍ハ全隊自動車ニヨルヤ否ヤヲ明ナラシメオクヲ可トス

二、軍隊區分

イ、輸送隊トナス如ク編合スルヲ可トセン

ロ、野戦自動車廠移動修理班ハ末地ニ近ク道轄シオクヲ可トス

三、運行表

イ、單ニ仲仲トスルコトナク輸送隊ノ區分ヲ記述シオクヲ可トス

然ラサレハ命令第三項ノミニヨリ各輸送隊ハ如何ニ輸送ニ任スヘキヤ不明ナリ

ロ、小宮子附近ニ行進ヒ不可能ナル場所アルヲ以テ此附近ニ於テ行進ヒヲ生セサル如クスルヲ要ス

ハ、四、五日目ニハ相當ノ手入ヲ実施セサルヘカラサルヲ顧慮シオクヲ要ス

四、軍需品集積區分表

イ、運行表ノ左側ニアル集積區分ヲ記述セハ別紙第四ハ不用トリ

ロ、糧秣、薪炭、燃料ノ欄ニハ常續補給ト集積トノ關係ヲ明ナラシメオクヲ要ス

アジア歴史資料センター

甲兵站部命令

十月十二日 時
於小城子甲兵站司令部

一、敵ノ主要地ハ「ニコリスク」「ミハイロフスコエ」「ペトロウカ」ノ線ヲ在ルモノヽ如ク其有力ナル部隊ハ「ガリョンガ」及「グリゴリエフスク」ニ在リ

二、軍ハ明十三日敵ノ前進陣地ヲ突破シ爾后ノ主陣地ニ對スル攻撃ヲ準備ス

三、軍兵站ハ前任務ヲ續行ス

四、甲兵站ハ明十三日軍ノ前進ニ伴ヒ主地ヲ「シネロフカ」ニ推進シ前任務ヲ續行セントス

五、某中佐ハ將校一、下士官一ヲ率ヒ午前六時宿營地出發「シネロフカ」ニ前進シ兵站地及道路ヲ偵察スヘシ

六、某少佐ハ左記ノ部隊ヲ指揮シ明十三日午前六時「ポルタフカ」出發「シネロフカ」ニ到リ同地ニ兵站支部ヲ開設スヘシ

兵站地ニ殘ルヘキ某中佐ヨリシテ指示セシム

第四流　支部

野戦自動車廠第二移動修理班（小城子支部ヨリ轉屬）
後備歩兵第三中隊（ボルタフカ支部ヨリ轉屬）
第十二陸上勤務隊（一分隊欠）

左記材料ヲ交付ス

大幕　五
戰用炊具　一
八番鐵線　一〇〇米
有刺鐵線　五〇〇米
濾水器　一
雨覆　八十枚

五、各輸送隊ハ各支部ノ依然前任務ヲ續行スヘシ
但シ小城子支部ヨリ移動修理班ハ午前十時迄ニヨキロツカニボルタフカ支部ヨリ後備歩兵第一中隊ヲ同地ニ於テシテロツカ支部長ノ指揮ヲ
ヘシ
ヘ

一、兵站司令部直轄部隊ハ某中佐ノ指揮ヲ以テ明十三日「ジヤワロッカ」ニ到リ待機スヘシ

一、予ハ午前八時出發「シネロッカ」ニ到ル

甲兵站司令官　某大佐

不達成

要旨ヲ電話命令ヘ又城子兵部ニハ命令案領者ニ口達ノ後撤収記ヘルヘシ

送付ス

総裁宮前見

甲2

一、第五項

各輸送隊ハ前任務續行ト命シアルモ十一日命令セシ運行表ニ依ルヲ得サル狀況ニアルヲ以テ更ニ運行要領ヲ命令スルヲ要ス

アジア歴史資料センター

甲兵站部命令

十月十三日二十三時三十分
於シネロフカ甲兵站司令部

一、敵情（略ス）

二、甲兵站ハ明十四日敵主陣地ニ逐次ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「ガリヨンカ」「ノーソオジアストコトボ」ノ線ニ
来ル十四日ヨリ「ポクロフカ」ニ推進ス
セントス

三、第一號支部ハ明十四日午前八時現在地出発「ポクロフカ」ニ推進ス
ヘシ

但左記部隊ヲ現在地ニ殘置シ第九號支部長ノ隷下ニ入ラシムヘシ

後備歩兵第三中隊ノ一小隊
第十二陸上勤務隊ノ一分隊

四、第九號支部長ハ「シネロフカ」支部長トナリ第一支部長ヨリ業務
ヲ継承スヘシ

1336

アジア歴史資料センター

前項兵站部隊ヲ転属ス

五、司令部直轄部隊及配属諸廠出張所ハ一部十四日午前八時某中佐ノ指揮ヲ以テ現在地出発「ポクロフカ」ニ至リ配置スヘシ
細部ニ就テハ現地ニ於テ指示ス

自動車第二移動修理班ハ同地ニ開設スヘシ
其位置ハ別ニ示ス

六、後備工兵中隊長ハ部下将校ヲ派遣シ一部十四日午前七時「シネロフカ」出発「シネロフカ」―西側―「タラセンコ」農舎西側―「マルセンコ」農舎―「ガリヨンカ」乙兵站末地並ヲ偵察スヘシ
来用自動車一ヲ附ス

七、小営子及小城子兵站支部長ハ配属自動車移動修理班ヲ一部十四日早朝各現在地出発「ポクロフカ」ニ於テ予ノ隷下ニ復帰セシムヘシ

八、輸送隊ハ依然前任務ヲ続行スヘシ
左記弾薬ヲ一部十四日中ニ「ガリヨンカ」乙兵站末地ニ転送交付スヘシ

十五榴弾　三中
十加弾　三中

632-640

アジア歴史資料センター

第三自動車隊ハ第一自動車隊長ノ區署ヲ受クヘシ
尚後備騎兵中隊ハ依然任務ヲ續行スヘシ
十六日ハ明十四日午前六時現在地出發「ポクロフカ」ニ到ル

甲兵站司令官　山崎中佐

下達法
末地現在各支部各部隊命令受領者ヲ集メ口達筆記其他ハ先ツ電話ヲ以テ
要旨ヲ傳達後印刷物ヲ交付ス
騎兵隊ニハ印刷物ヲ傳騎ヲ以テ送達ス

アジア歴史資料センター

1339

総裁官所見

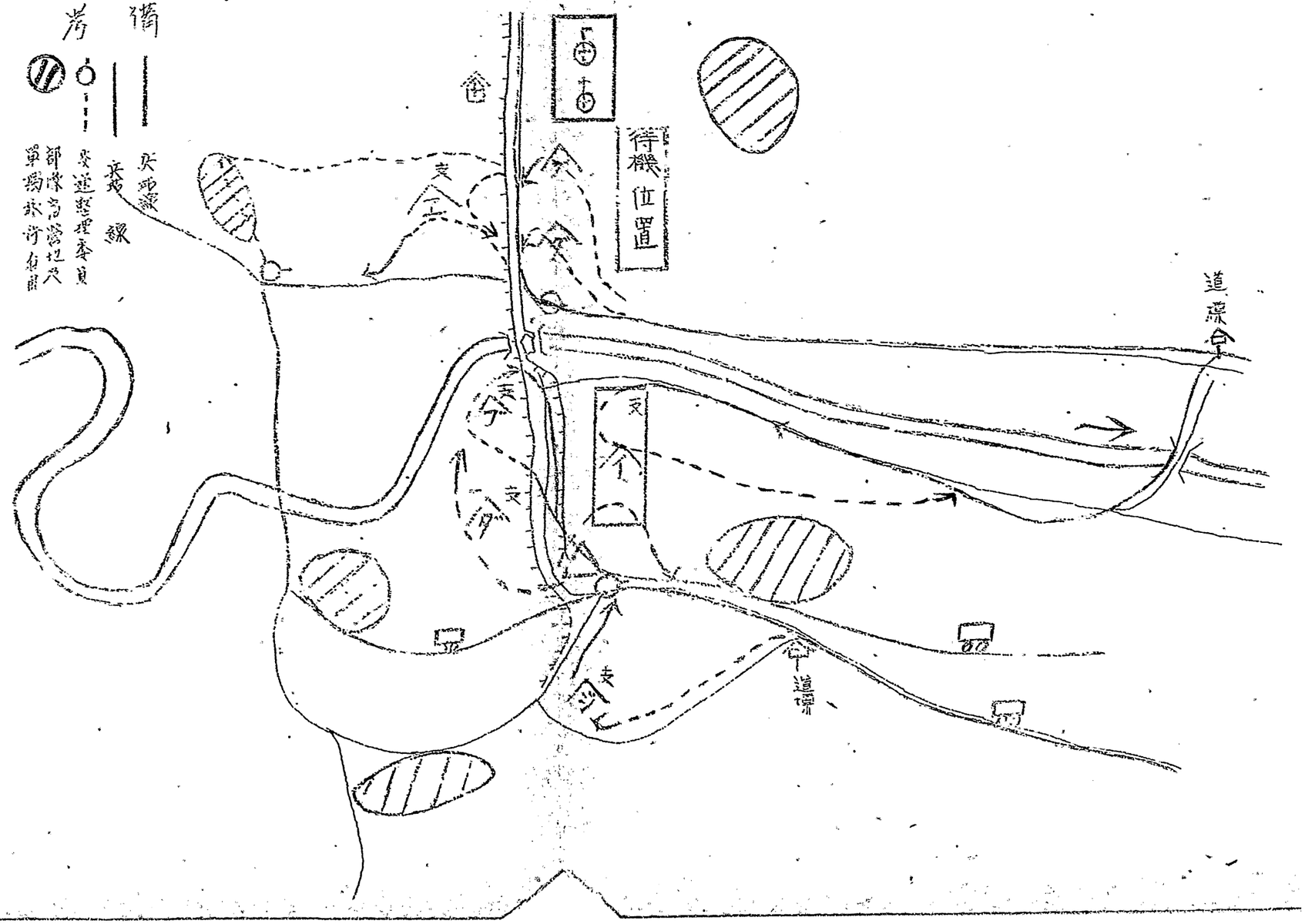
一、第八項

輸送隊ニ任務ノ附與ニ関シテハ十二日ノ命令第五項ニ関スル所見ニ同シ

甲3

アジア歴史資料センター

小城分附近矢弦支部配置要圖



アジア歴史資料センター

甲兵站命令

十月十八日 三時三十分
於ポゴロカ甲兵站司令部

一、敵ハ退却ヲ開始セリ
軍ハ主力ヲ以テ「スパスカ」ヨリ一部(Ⅲ D)(右側支隊ヲ附ス)ヲ以テ「ウラジオ」ニ向ヒ追撃ス

二、軍兵站ハ軍ノ追撃ニ即應シ其補給ニ任ス

三、甲兵站第三自動車隊ノ二中隊及野戦自動車廠第三移動修理班ヲ欠キ第一道路構築隊主力ヲ属ス)ハ第三師団ノ追撃ニ伴ヒ該方面ノ軍需品ノ輸送補給ニ任セントス
爾後兵站地トノ境界ハ国境線トス

四、第一道路構築隊ハ午前五時自動車ニ依リ「ポクロフカ」出発ノ「ーヴオニコリスク」ー房子間ノ道路ノ修築ニ任スヘシ

五、後備工兵第一中隊ハ自動車ニ依リ第一道路構築隊ノ作業ヲ援助スヘシ

六、某少佐(下士官一兵ニヲ附ス)ハ自動車ニ依リ即時出発ガリヨン、ヲ経テ「ニコリスク」ニ到リ同地兵站地並ニ道路ヲ偵察スヘシ

七、第三自動車移動修理班ハ午前五時現在地出発ノ「ーヴオゲヤスドコーヴオ」ニ到リ丙兵站司令官ノ隷下ニ入ルヘシ

アジア歴史資料センター

七、「ポ」プロ」ヲ出支部ハ第五支部ト交代シ現在地出発ニコリスク」ニ赤地ヲ推進シ得ル準備ヲ在ルヘシ

兵站地ハ現地ニ於テ指示ス

後備歩兵第四中隊（二小隊欠）

機関銃一小隊

第十三陸上勤務隊（一分隊欠）ヲ附ス

自動車ニ依リ輸送セシムヘシ

八、第五支隊長ハ現在地ニ於テ「ポブロフカ」支部ト交代シ（配属部隊共）業務ヲ継承スヘシ

但シ歩兵一中隊（一小隊欠）ヲ所属大隊ニ復帰セシムヘシ

九、房子出張所ハ現存集積品ノ前送ヲ終ラハ司令部ニ追及シ得ル準備ニアルヘシ

十、小営子及小城子支部ハ本日支部ヲ閉鎖シ司令部ニ追及スヘシ

十一、ポルタフカ支部長ハ第十一陸上勤務隊（二班欠）ヲ司令部ニ追及復帰セシムヘシ

十二、小綏芬出張所ハ即時東寧ニ移動シ同地ニ於テ開設スヘシ

アジア歴史資料センター

十二、輸送隊長ハ末地集積ノ完結ヲ認メタル後同師団野戦病院ヨリ患者ヲ本地ニ後送スヘシ

野砲弾	一中
十五榴弾	一中
化学戦資材	一小
其他弾薬	一小
衛生材料	一小

又各一中隊ヲ以テ道路構築隊ニ兵中隊ヲ輸送シ又ニコリスク上支部要員(記馬部隊共)ニ輸送シ得ル準備ヲナシ其他ヲ以テ別紙運行表ニ依リ輸送ニ任スヘシ

一、直轄各支部及同部隊並ニ補給諸廠出張所ハ某中統ノ指揮ヲ以テ現在地出発ニコリスク上ニ到リ待機スヘシ

但シ同地支部ノ業務ヲ援助スヘシ

但シ出発ノ時期ハ別令ス

十三、騎兵中隊ハ現在地ニ在リテ後命ヲ待ツヘシ

十六、予ハ暫ラク現在地ニ在リ

甲兵站司令官　山崎中佐

下達法

要旨ヲ電話ヲ在ポフロフ各部隊ニハ口達筆記セシメ後印刷配付ス

騎兵中隊ニハ騎馬ヲ以テ送付ス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

甲4

一、兵站線及兵站地ノ設定ヲ示メヲ要ス

二、第二項兵站地トノ境界……ハ全地兵站部ナラスヤ

三、道路構築隊、工兵隊ニハ單ニ自動車ニヨリ輸送スル外材料運搬等ノ爲若干ノ自動車ヲ配屬スルヲ可トス

アジア歴史資料センター

其四

乙兵站部

アジア歴史資料センター

乙兵站部命令　十月十一日ニ〇、〇。
於河沿第三兵站司令部

北原少佐

一、敵情ハ略
軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ「メトルゴフカ」「プリルキー」ノ線ニ向ヒ前進ス
軍兵站ハ軍ノ「ガリヨンカ」附近ノ會戦ニ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ追撃ニ應スル如ク準備ス之カ為兵站線及兵站地ヲ別紙附圖第一ノ如ク設定セラル

二、乙兵站部ハ別紙附圖第一ニ基キ乙兵站線ヲ設定シ第一師團ヲ基幹トスル方面ノ輸送及補給ニ任セシトス
軍隊區分別紙第二第三ノ如シ

三、各輸送隊ハ十月十二日ヨリ別紙第四運行表及別紙第五積載區分表ニ基キ軍需品ノ輸送ニ任スヘシ

四、業舍、洞里川、河沿南天門、前峯苞河子、小蘇芳谷支部ハ別紙附圖第一ニ基キ夫々兵站業務ニ任スヘシ
兵站地ノ位置ハ現地ニ於テ別ニ指示ス

五、各支部ハ支隊長ノ指揮ヲ以テ大々任地ニ到ルヘシ
第三兵站司令部要員及河沿支部ハ宮崎中佐ノ指揮ヲ以テ明十二日
河沿ニ向ヒ車行スヘシ
六、後備工兵第二中隊ハ明十二日早朝南天門出発道路構築隊ト協力
河沿洞豊川間ノ道路修後ニ任シ尓後洞豊川ニ待機スヘシ
道路構築隊ノ一部ハ明十二日河沿洞豊川間ノ道路修後ニ任スル筈
七、兵站司令官直轄各支部ハ左記区分ニ従ヒ該地支部ノ業務ヲ援助スヘシ

農人舎支部ニ　④　⑤　⑥号支部
洞豊川支部ニ　⑩　⑪　⑫号支部
河沿支部ニ　⑬　⑭　号支部

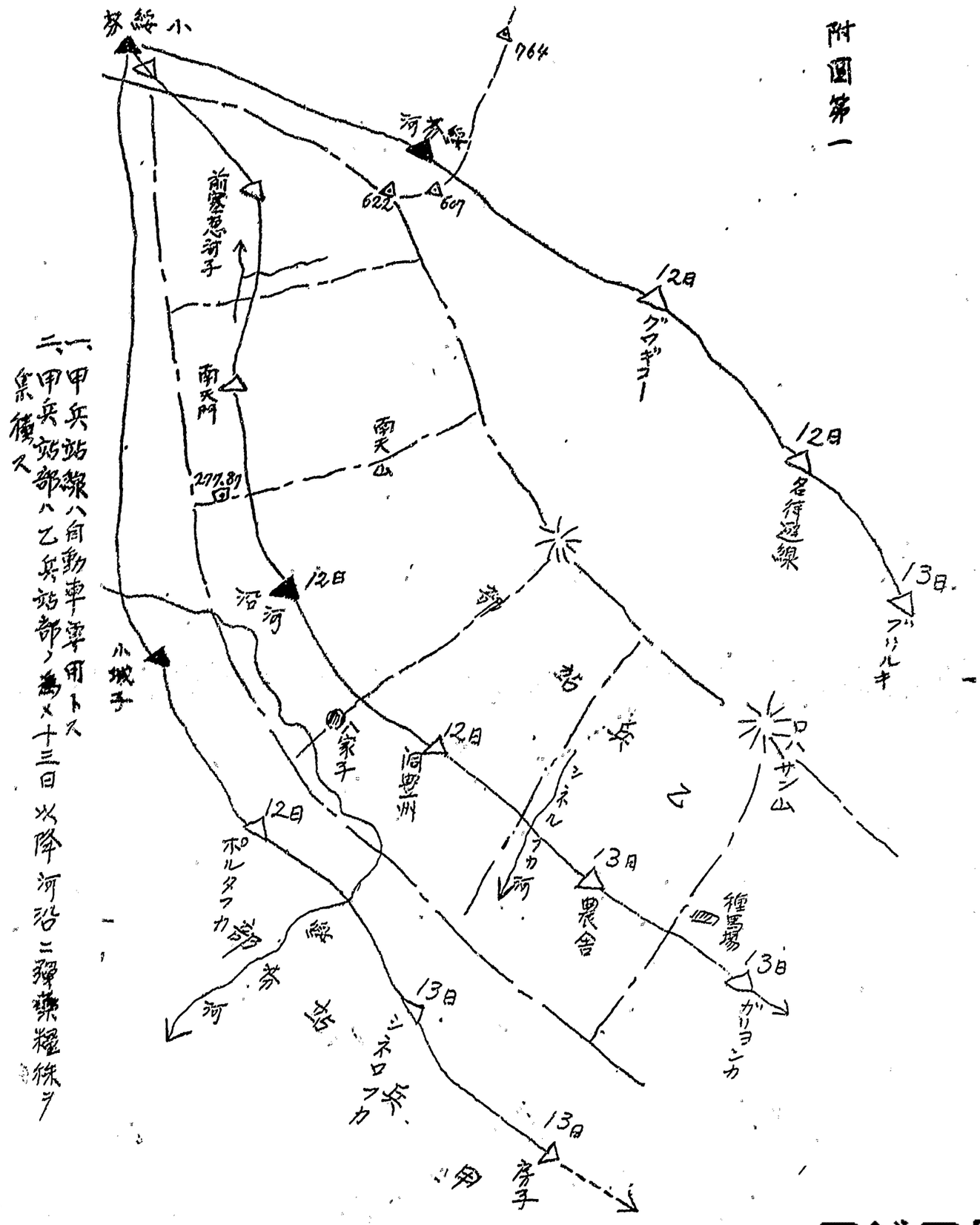
八、兵站通信網ハ別紙第六ノ如ク構成セラル
九、予ハ明十二日南天門出発河沿ニ向ヒ車行ス

兵站司令官　高山中佐

下達成
各隊命令受領者ヲ集メ印刷セル写ヲ交付ス

兵站線及兵站地設定要圖

附圖第一



一、甲兵站線ハ自動車輸送用トス
二、甲兵站部ハ乙兵站部ノ為メ十三日以降河沿ニ彈藥糧秣ヲ集積スヘシ

アジア歴史資料センター

1350

別紙第二

軍隊區分	人馬
第一輸送隊長	第二兵站輜重兵隊長
	第二兵站輜重兵隊本部
	第二救護第八輜重兵中隊
	後備歩兵第三中隊（二小隊欠）
第二輸送隊長	第三兵站輜重兵隊長
	第三兵站輜重兵隊本部
	第九第十輜重兵中隊
	第二地方輸送隊（一縱列欠）
	後備歩兵第三中隊（一小隊）

アジア歴史資料センター

第三輸送隊
長　第七輸重兵隊長ヒ大佐
第七輸重兵隊本部
第二地方輸送隊ノ一縦列
第三地方輸送隊
後備歩兵第三中隊ノ一小隊
農舎支部
長　兵站司令部ヒ員　法村中佐
①號支部
軍補給諸廠農舎出張所
後備歩兵第四中隊（三小隊欠）
第十四陸上勤務隊
第十六隊上勤務隊ノ一分隊
小綬芥支部
長　兵站司令部ヒ員　某大尉
⑦號支部

2

前慶惹河子支部
長　兵站司令部ノ員　某中尉
⑧號支部
後備歩兵第四中隊ノ一分隊
陸上勤務一分隊（二班欠）
南大門支部
長　兵站司令部ノ員　某中尉
⑨號支部
後備歩兵第四中隊ノ一小隊（三分隊欠）
第十五陸上勤務隊ノ一班
河沿支部
長　兵站司令部ノ員　宮岸中佐
②號支部
後備歩兵第四中隊ノ一小隊（三分隊欠）
第十五陸上勤務隊（一分隊欠）

アジア歴史資料センター

利豊川支部

長　兵站司令部ヶ員　北原少佐

③號支部

後備歩兵二分隊

第十六陸上勤務隊（一分隊欠）

兵站司令部直轄部隊

④⑤⑥⑩⑪⑫⑬⑭號支部

後備工兵第二中隊

アジア歴史資料センター

乙兵站司令部人員及自動車配當一覽表

兵站司令部ノ編成 \ 階級	大佐	中佐	少佐	大尉	中(少)尉	曹長	軍曹(伍長)	軍曹(伍長)	上(一)(二)等兵	上(一)(二)等兵	上(一)(二)等兵	上(一)(二)等兵	上(一)(二)等兵	主計中(少)佐	主計尉官	主計下士官	軍醫中(少)佐	軍醫尉官	衛生下士官	衛生上等兵	衛生一、二等兵	獸醫少佐	獸醫尉官	獸醫務下士官	計	小型乘用車
人員	司令官	部員	部員	部員	副官		自動車掛		自動車手	自動車工手(兼自動車手)	瓦斯兵	蹄鉄工兵														
	一	四	五	一〇	一	六	一	二八	一四	四	三	一八	五	一	二	一六	一	七	八	五	一〇	一	四	六	一六一	一二
本部	一	(丁)一	一		一	二	一	四	五	一		三	二	一	一	二	一		一	二	二	一	一	一	三五	四
支部 ①		一		(丁)一		二		三	二	一	一	二	一		一	一		一		一	二		一	一	二三	二
支部 ②		一		一		一		三	一	一	一	一	一			一		一		一	一		一		一六	一
支部 ③		一		一		一		三	一	一	一	一	一			一		一		一	一		一		一六	一
支部 ④			一					二	一			一				一		一			一			一	九	一
支部 ⑤			一					二	一			一				一		一			一			一	九	一
支部 ⑥			一					二	一			一				一		一			一			一	九	一
支部 ⑦			一					二	一			一				一		一			一			一	九	一
支部 ⑧				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑨				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑩				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑪				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑫				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑬				一				一				一				一			一						五	
支部 ⑭				一				一				一				一			一						五	

備考

一、(丁)ハ輜重兵科ノモノヲ示ス

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

乙兵站軍需品集積區分表

集積区分 ＼ 補給日次 補給量場所	十三日正午 補給量	場所	十四日 補給量	場所	十五日 補給量	場所
彈藥 歩兵彈藥	一	兵站	二中	ファズデースキー	一中	兵站
野砲彈藥			三中		二中	
十五榴彈藥			三中		二中	
AA MA TA其他彈藥			二不		一不	
化學戰資材			二中		一中	
通信材料			一小		一不	
衛生獸医材料			一不		一不	附近
計			一一中一小		六中二小	
常續糧秣補給量	甲	一四五	十四日以後ノ補給場所ハ戰況ニ依ルモ概ネ			
配屬部隊	乙	二〇三	米地附近ニ於テ行ヒ			
	丙	一八	ソノトス			
	計	三、六三				
農舍						

糧秣薪炭燃料 ＼ 集積区分	三中	二中	一中
糧秣 常備糧	三中	二中	一中
携帶口糧	一〇〇人分		五〇人分
重患者用食量	二中		
燃料			
農舍			
兵站米地附近			

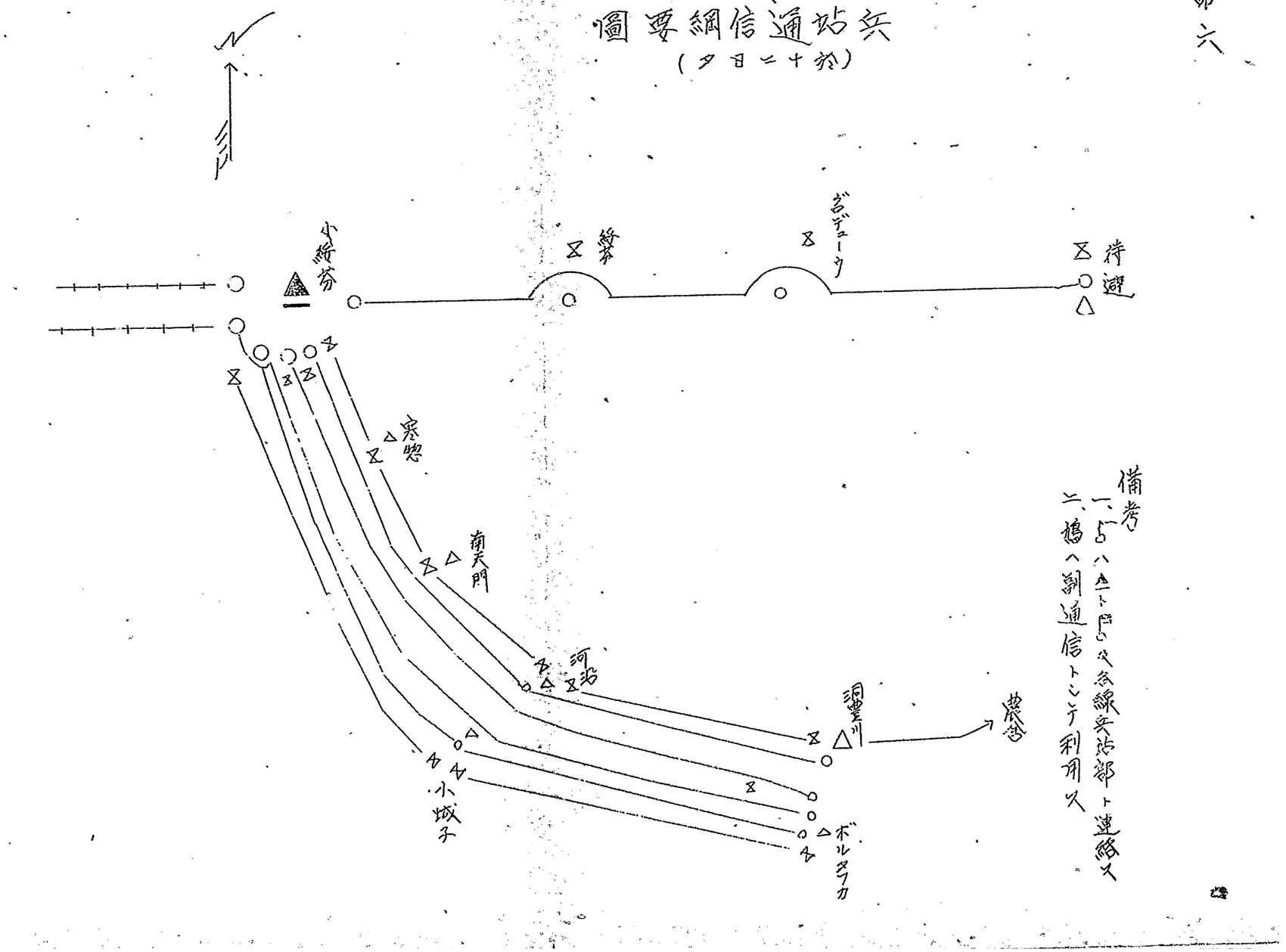
備考
一、十三日以後乙兵站線ノ為ノ補給基点ハ河沼ニ迫メラル
二、加給糧秣ヲ右表ニ準ジ集積ス

アジア歴史資料センター

第六

兵站通信網要圖

（タヨニ十分）



備考

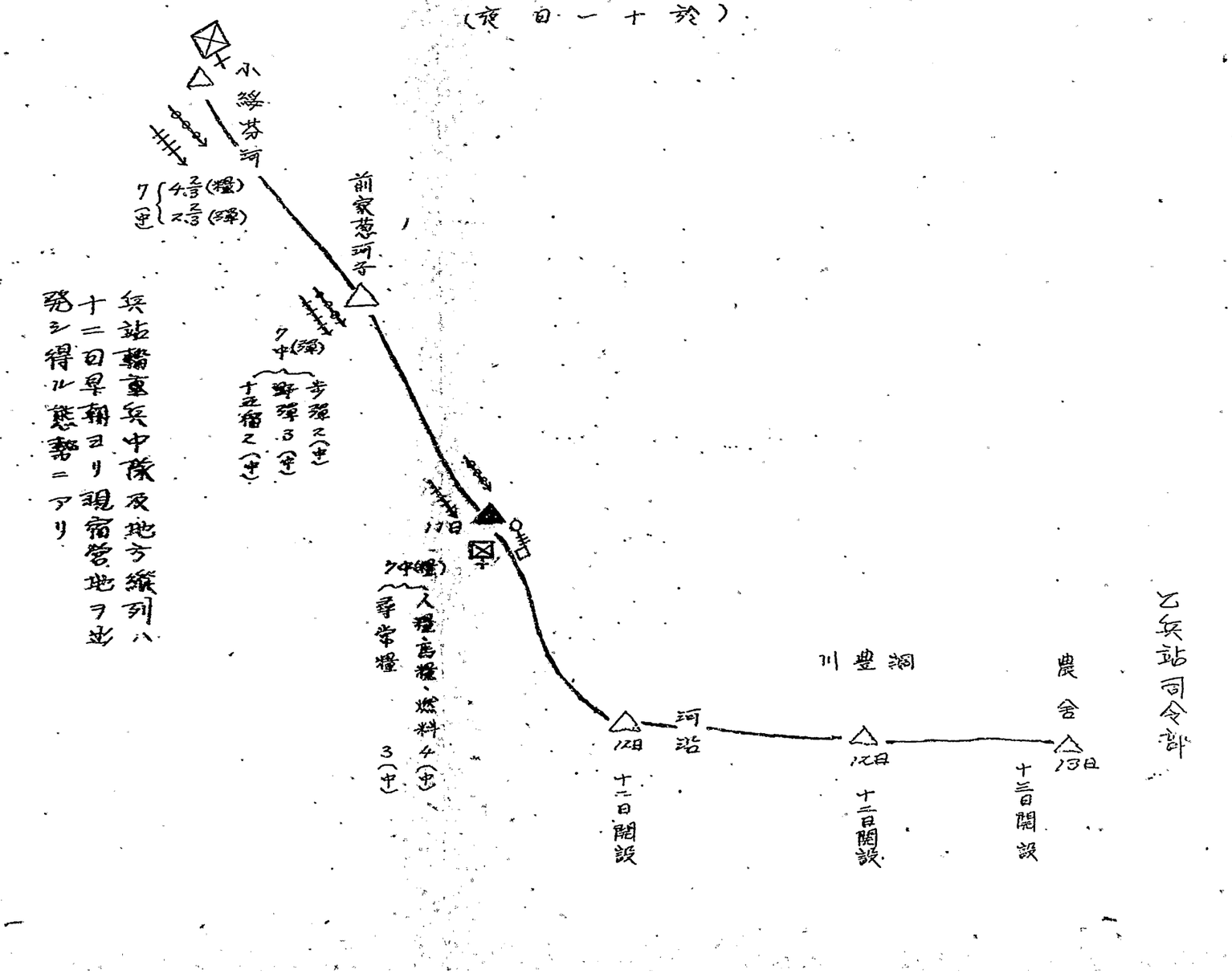
一、5ハ△ト□ハ各線支站部ト連絡ス

二、鳩ハ制通信トシテ利用ス

アジア歴史資料センター

乙兵站所属輸送部隊位置要圖

（於十一日夜）



アジア歴史資料センター

統帥官所見

乙一

一、敵情ノ示シ方
下士官以上特ニ將校ニハ詳細ニ示シ要スレハ下達部隊ノ素質ニ應シ馭兵、地方縱列馬夫等ニ示スヘキ事項ト示スヲ不可トスル事項ニ關シ命令受領者ニ注意ヲ與フルヲ可トス

二、友軍ノ狀況ノ示シ方
ノ軍ノ企圖ノ如キ、隣接兵站線ノ狀況ノ如キモノハ其下達範圍ヲ指示シ且筆記セルモノヲ與ヘサルコト等機密ノ保持上深甚ノ注意ヲ必要トス
又、補給ヲ担任シアル第一師團ノ狀況ニ關シ其知得ニ努メ必要ナル事項例ヘハ師團戰列部隊後尾ノ前進、師團輜重ノ狀況等ヲ示スヲ可トスルコトアリ

（尚今回ノ研究ニ於テハ軍兵站部ヨリ兵站部宣傳防諜規定、軍兵站部衛生規定、軍兵站部給養規定及地方運搬具及勞働傭役管理規定、兵站部報告規定等ヲ此時機又此後ニ示達セラレタルモ斯クノ如キモノハ想定別紙ニ示サレアル事項ト共ニ既ニ指示セラレ乙兵站部ニハ一般ニ徹

底シアルモノト考フルヲ要ス）

3、部員以下予後備役ノ者多ク其戰術能力一般ニ低キニ鑑ミ敵情ニ基キ兵站司令官トシテ判斷シアル戰況ノ推移ニ應スル各種ノ場合例ヘハ本狀況ニ於テハ軍カ遭遇戰ヲ爲ス場合、陣地攻撃ヲ爲ス場合、軍ノ集結カ右ニアル場合、左ニ移サレタル場合、將來逆撃ニ移リタル場合等稍〻遠キ將來ニ亘リ兵站業務實施ノ準繩トナルヘキ事項ニ關シ自己ノ意圖ヲ示シ置クヲ有利トスルコト勘カラサルナラン

三、軍隊區分ニ就キテ

イ、末地ノ固定セサル間ハ常ニ同一編成ノ支部ヲ末地ニ達ムル如ク末地支部ヲ設クルヲ有利トス

ロ、警戒部隊ノ配置ニ於テ先ツ第一線並ク行動スル輸送隊ニ後尾歩兵ノ半部ヲ配屬スルモ一番眼ナルモ第一、第二輸送隊ハ兵站輜重兵中隊ニシテ自衛力比較的大第三輸送隊以下ハ地方縱列ニシテ自衛力殆ト皆無而シテ敵ハ上空、機械化部隊又ハ便衣隊等ニシテ第一線ノ直後ト後方ト自衛上何レカ必要ナリヤ俄ニ判シ難キ狀況ニ於テハ後方ノ各兵站地ニ配屬スルカ、各第三以後ノ輸送隊ニ配屬スルヲ可トスルカ等研

究ヲ要スルモノアリ

3、地方輸送隊トシテ稱呼シテ輸送監視隊ト監視隊ニヨリ編成セラレタル地方縱列トヲ一括シテ軍隊區分ニ準ケタルモ輸送監視隊ノ配屬ヲ軍隊區分ニ明示シ其指揮系統ヲ明カナラシムルヲ可トス

例ヘハ第二輸送監視隊ヘ縱列一々ト示スカ如シ

矢陸上勤務隊ノ配屬ハ概ネ適當ナルモ河沿洞豐川兩支部ヲ尚減シ極メテ小數ニテ可ナルヲ以テ小綾芬河支部ニ配屬(但小綾粉河ニテ人夫ヲ傭役シ得ル場合ハ不要)シ稍ク有力ナルモノヲ直轄シ末地ノ業務ヲ援助セシムルヲ可トセン

四、運行表ニ就キテ

十四日南天門ニ於テ夜間積換ヘヲ行フハ敢ヘテ不可ナキモ爲シ得レハ直通輸送トナスヲ可トス

十三日正午頃河沿ニ於テ甲ヨリ集積セル、モノヲ積載シ裝備優良ナル兵站輜重兵中隊ヲ成ルヘク前方ニ使用セントスル著意ハ適當ナリ

五、命令第四項ノ附圖第一支部ノ管區境界兩端ニ補助地名ヲ入ルルヲ要ス又末行「兵站地ノ位置ハ現地ニ於テ別ニ示スハ實施困難其必要ナカラン

六、道路ノ修復ニ関シ後備工兵中隊ニ與ヘタル命令ハ適當ナルモ實際ニ於テハ予メ有力ナルモノヲシテ偵察セシメ其結果ニ基キ尚詳細適確ナル命令ヲ下スヲ要ス

要スルニ動物輜重ノ兵站線ト雖道路ノ補修ニ関スル著意ト副路ノ偵察準備ヲ極メテ必要トスルコトヲ考慮スルヲ要ス

七、兵站司令官ノ位置ハ本命令ノ如クニテ可ナルモ尚時刻ヲ示シテ連絡地點ヲ明示スルヲ可トセン

八、下達法ニ関シテハ敵情及友軍ノ示シ方ノ部ニ記述セル如ク大ニ愼重ナル注意ヲ要ス

アジア歴史資料センター

立案ノ基礎

武居少佐

一、十二日朝小綏芳河ヲ出發セル部隊ハ七地方縦列（第六ノ第十二）ニシテ某兵站輜重兵隊長之ヲ指揮シ第三輸送隊ト稱ス

二、十二日ノ輸送ハ小綏芳河ー南天門間八里トス

三、各縦列ハ軍ノ集中間第一師團ノ補給ニ任シアリシモノニシテ小綏芳河ー南天門間ニ二個ノ輸送ヲナシ道路其他ノ狀況ヲ知悉シアルモノトス

四、小綏芳河ニ於ケル積載ハ他ノ兵站部ト連絡シタルトコロ尾ヶ廣ノ要セサルヲ知ル

第三輸送隊命令

十月十一日
於小綏芳河

一、敵情（略）

軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ行動ヲ發起ス兵站ハ軍ノ會戰及爾後ノ追撃ニ應スル如ク準備ヲ完了ス

アジア歴史資料センター

部ハ第一師團ノ補給ヲ担任シ先ツ河港及洞豊川ニ兵站線ヲ延伸ス

二、輸送隊（後備歩兵一小隊ヲ属セラル）ハ明十二日南天門ニ到ル輸送ヲ實施セントス

軍隊区分左ノ如シ

第一團

團長　某騎重兵少佐（下士官一、兵一ヲ附ス）

第六乃至第九地方經理

後備歩兵第一小隊（二分隊欠）

第二團

團長　某騎重兵大尉（下士官一、兵一ヲ附ス）

第十乃至第十二地方經理

後備歩兵二分隊

三、右團ハ左ノ如ク積載出發スヘシ

アジア歴史資料センター

団		縦列番号	積載品	進入、積載、進出開始時間	出発時刻
第一		6	馬糧	午前五、〇〇ー六、〇〇	六時
		7	馬糧ノ一部	六、四〇ー六、四〇	六時四十分
		8	馬糧ノ一部	六、四〇ー七、二〇	七時二十分
		9	二小人糧 一小馬糧燃料等分	七、〇〇ー八、〇〇	八時
第二		10	二小携帯口糧 一小化学戦資材	七、四〇ー八、四〇	八時四十分
		11	十五榴弾一発	八、二〇ー九、二〇	九時二十分
		12	二小AA MA TA其他弾薬 一小化学戦資材	九、〇〇ー一〇、〇〇	十時

四、予ハ明朝五時三十分第六縦列ノ位置ニ爾後各団ノ積載出発ノ実視シタル後自動車ニ依リ南天門ニ先行ス

各部主官ハ自動車ニ依リ予ニ随行スベシ

某警長ハ残餘ノ下士官及将校乗馬ヲ指揮シ第一団ト行動ヲ共ニシ南天門ニ前進スベシ

第三輸送隊長　某

下達ス
各總列及各國ノ命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

アジア歴史資料センター

統裁官所見

乙二

一、第三項各団ノ積載ハ補給廠ニ於ケル業務ノ繁閑ト混雑防止ヲ考慮シ左ノ如クスルヲ適當トス

団	補給廠	縦列番号	積載順序	進入時刻	出發時刻
第一	衣	6	1	前 五、〇〇	前 六、〇〇
		7	3	〃 六、二〇	〃 七、二〇
		8	5	〃 七、四〇	〃 八、四〇
		9	7	〃 九、〇〇	〃 一〇、〇〇
第二	弾	10	2	〃 五、四〇	〃 六、四〇
		11	4	〃 七、〇〇	〃 八、〇〇
		12	6	〃 八、二〇	〃 九、二〇

右ノ如クセハ縦列ノ行進序列モ糧秣ト弾薬ト交互トナリ途中空襲ヲ受ケタル時等モ同種類ノモノヲ多量同時ニ失フカ如キコトナク到着時ノ集積モ亦便ナリ

二、輸送隊長カ各部士官ヲ随行セシメ自動車ニヨリ縦列行進スル道路ノ一

アジア歴史資料センター

側ヲ後尾ヨリ先頭ニ出テントスルハ道路廣ク良好ナレハ問題ナケレトモ
然ラサル時ハ相當困難ナルコトヲ顧慮シアルヲ要ス

アジア歴史資料センター

乙兵站司令部所要資材一覧表

北原少佐

所要資材 \ 区分		河沿支部	洞豊支部	農舎支部	カリョンク支部	予備	計	輸送希望日次
天幕	軍務室用 医務室用	二	二	(四)二	二	四	一二(四)	十月十四日
	衛兵所用 通信所用	一	一	一	一	二	六	
	単独通過者用	二	二	二	二	二	一〇	
	支部員宿営用	五	五	五	五	五	二五	
六人用机		四	二	(四)四	二	二	一四(四)	十月十五日
椅子		六	二	(五)五	二	二	一七(五)	
六人用腰掛		六	四	(四)四	四	四	二二(四)	
戦用炊事具		一	一	一	一	二	六	
軍需品積載用雨覆		七〇	二	一五〇	三〇	三〇	三〇〇	
警戒用	有刺鉄線	五〇〇米	五〇〇米	一、五〇〇米	五〇〇米	五〇〇米	三、五〇〇米	十月十五日
	八番鉄線	三〇〇米	三〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	二、一〇〇米	
	杭	八〇〇本	八〇〇	三〇〇	五〇	五〇	五六〇〇	
アンペラ(縦列用其他宿営)		一、〇〇〇	六〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	五〇〇	三、六〇〇	
給水設備及濾水器		卅六(一)	卅六(一)	卅六(一)	卅六(一)	卅六(一)	卅三〇(五)	
局地用運搬具		三〇	二〇	四〇	二〇	二〇	一三〇	

輸送希望場所　河沿

備考

一、土人ノ言ニ依レハ洞豊刀ニハ家屋ナク農舎ニハ朝鮮人家屋十軒河沿ニハ若干ノ家屋アリ

（　）内ハ兵站末地ニ在ル軍補給諸廠ニ要スル分ス

アジア歴史資料センター

附圖第一

警備方針

八、一部ヲ以テ主地兵站地ノ直接警備ニ任シ主力ヲ集結シアリテ機ヲ見テ攻勢ニ轉シ敵ヲ撃滅スルニ力ヲ得サルニ於テハ一部落拠ヲ南北両高地ヲ死守ス

小綏芬附近主地兵站配置要圖

（七月於ケル夜日一十月十）

警急集合場

置位機待

乙兵站線

甲兵站線

小綏芬

警備隊

SFMAI(一)

SIAH

SIAH

SIAH

伊藤中佐

一、宿營地内ノ衛兵、斥候、巡察、對空部隊、鉄道線路巡ノ派遣等ハ別ニ規定ス

備考

一、下車部隊豫定宿營地
二、交通整理委員
三、兵站線綏芬河補基ヨリ補給ス
四、諸廠衛兵（一兵カ一分隊）
五、守備分遣隊（一兵カ一分隊）
六、阻絶
七、死守陣地

綏芬河西鉄橋

アジア歴史資料センター

乙兵第二號

河沿乙兵站部命令　　北京ノ西

十月十二日二〇、〇〇
於河沿第乙兵站司令部

一、約三師團ノ敵ハ「ニコリスク」ヨリ「ミハイロフスコエ」ヲ經テ「バラロフカ」ニ至リ陣地ヲ占領シアリ又有力ナル敵ノ一部ハ「ガリヨンカ」及「グリゴリエフスコエ」附近ニ在リ軍ハ明十三日一部ヲ以テ「ガリヨンカ」及「グリゴエフスコエ」ノ敵ヲ攻撃セシメ爾後ノ攻撃ヲ準備ス

軍乙号站ハ軍ノ攻撃ニ遺憾ナカラシムルヲ期ス

二、乙兵站ハ依然第一師團方面ノ補給ヲ続行セントス

三、後備工兵第二中隊ハ道路構築隊ト協力河沿洞豊川間ノ道路ヲ修復スヘシ又洞豊川東方綏芳河支流橋梁ノ増強ニ任スヘシ

四、阪農會ニ到リ待機シアルヘシ

五、第一、第二、第三輜送隊ハ軍ノ前進ニ伴ヒ別紙運行表ニ基キ輜送ニ任スヘシ

第七地方輸送隊ハ小綾芳下車後別紙運行表（別紙一）ニ基キ軍需品ノ輸送ニ任ズベシ

五、各支部ハ其ノ任ズル域内ニ於テ努メテ物資ノ蒐集車輛ノ徴発ノ実施ヲ図ルベシ

又十月下旬ニ至ル迄ノ間ニ於テ支部ニ要員、通過部隊及輸送隊ノ為ノ宿営準備ニ遺憾ナカラシムベシ

其ノ所要材料ハ十月十四日迄ニ報告スベシ

小綾芳支部長ハ十二月夜下車スベキ第七地方輸送隊ノ下車ノ指揮並宿営休憩ニ任ズベシ

六、㈠號支部ハ明十三日軍ノ前進ニ伴ヒ「がりヨシカ」ニ前進同地ニ支部ヲ開設シ得ル様準備スベシ

㈡㈢號支部ハ明十三日河沿出発「がりヨシカ」支部ノ業務ヲ援助スベシ

七、予ハ後述河沿支部ニ在リ

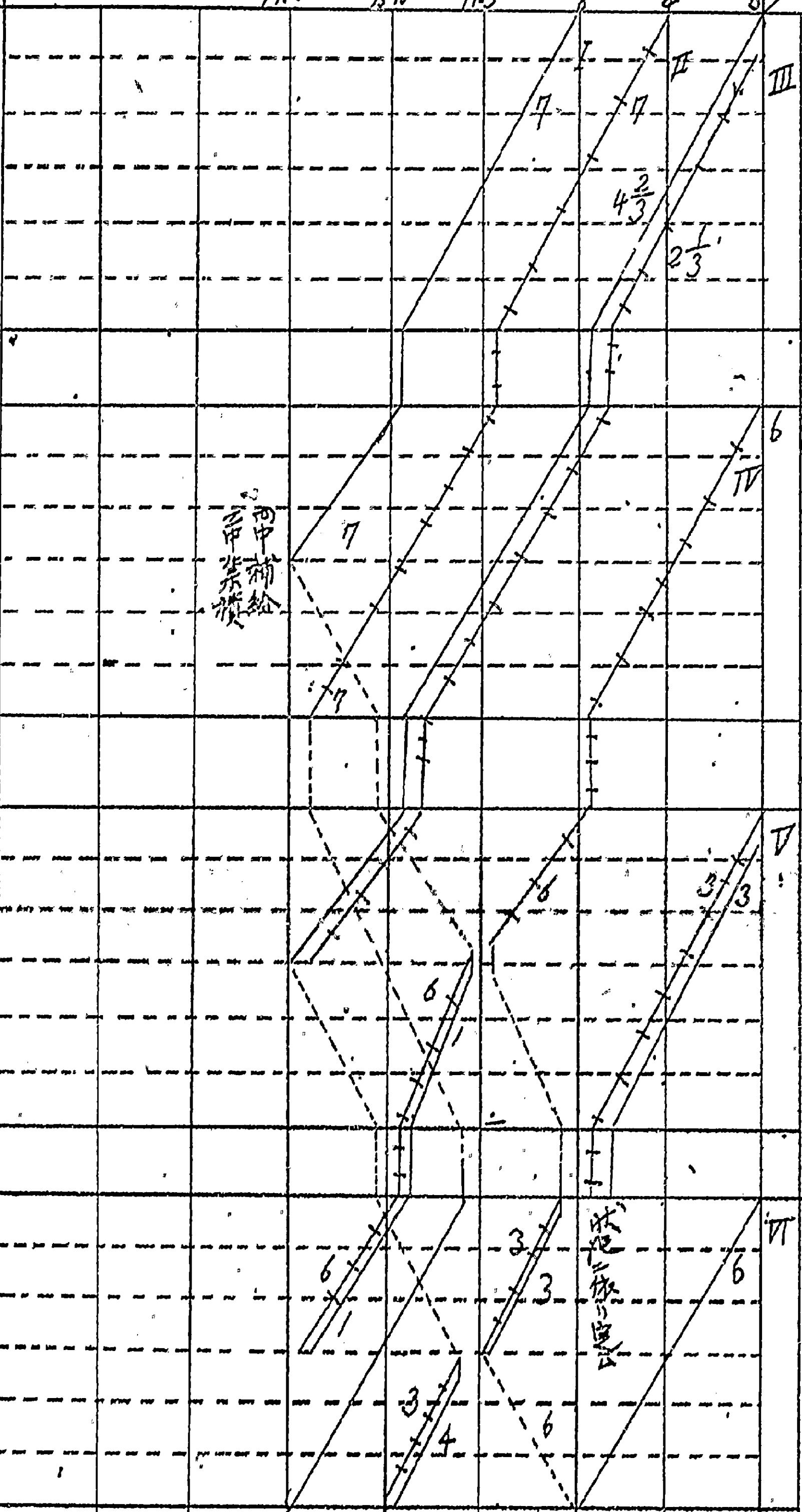
第三号 昭和廿年 富山平佶

伝達ハ河沿所在ノ者ニハ命令文鈔者ヲ集メ口達ニ、其ノ他ノ支部ノモノニハ電話ヲ以テ通達シ、尚七物資隊ニハ小綾芳支部長ヲシテ下達セシム

後一報ニ印刷セルモノヲ交付ス

附表第一新（乙兵第一号ノ分廃棄）兵站運行表

昭和十二年十月十二日調製　武居少佐

日次	発送（兵站地 里程(粁) 発送時刻）	小綏芬河 0 / 寒葱河 4 / 南天門 8 / 河治小城子 11.5 / 洞豊川 15.5 / 農舎 19.5 / ガリョンカ	集積（発送）	備考
十月十二日	I {人馬燃料 糧 糧秣 3 2/3 3 2/3 1/3} II {歩野15H 弾 砲弾 2 3 2} III {人馬燃携予 糧秣 糧秣 糧 被 1.5 2.1 0.3 1/3 2/3} 計 4 2/3			糧秣 弾薬
十月十三日	15H 1; AA MA TA 2/3; 化 資 2/3; 計 2 2/3; IV 化通工歩砲 資材 獣材 弾 弾 1/3 2/3 1/3 1 2/3 2/3; 15H 被 1/3	両中補給 二中集積	糧秣 二中 弾薬 七中（農舎）	
十月十四日	V 15H 2/3; AA MA TA 1/3; 化通衛 資材 獣材 1 1/3 1/3 1/3; 糧（細部ハ追テ示ス）3		糧秣 四中 二小（四）予被 弾薬 二中 一小（農舎）	
十月十五日	VI 状況ニ依ル	状況ニ依ル	糧秣 八中 予被 一小 弾薬 五中 二小	
摘要				

1373

アジア歴史資料センター

統帥官所見

一、第六項末地ニ新シク㋑号支部ヲ前進セシメタルモ寧ロ㋺号ヲ農舎ニ止メ①号支部ヲ末地ニ前進セシムルヲ各補給廠出張所トノ連絡第一師団後方部隊トノ連絡等ヨリ見テモ有利トス

アジア歴史資料センター

乙兵第三號

河沿乙兵站命令

十月、十三日二三〇
於河沿兵站司令部

一、本十三日敵機ノ一部ハ小綏分東方鉄道線ヲ爆撃セリ
又敵兵約百ハ落下傘ニヨリ河東附近ニ降下シタルモ忽チ撃
滅セラレタリ
軍ハ明十四日前面ノ敵ヲ攻撃ス
甲兵站ハ軍ノ推進ニ遺憾ナカラシムルヲ期ス
乙兵站一般ノ補給状態ハ極メテ順調ニ進捗シツヽアリ
二、乙兵站部ハ明十四日軍需品ノ補給ヲ續行セントス
三、後備歩兵第四大隊長ハ左ノ如ク警戒部隊ヲ配属シタル後
明十四日小綏芬出発、コガリヨンカニ向ヒ前進スヘシ
第七地方輸送隊ニ後備歩兵第四大隊ノ一小隊
第九地方輸送隊ニ後備歩兵第四大隊ノ一小隊
第十二地方輸送隊ニ後備歩兵第四大隊ノ一小隊
第七地方輸送隊ニ属スル小隊ハ明十四日小綏芬出發、河

アジア歴史資料センター

沿ニ待機シ配属部隊ニ合スヘシ

第九地方輸送隊ハ十四日小銃分出発、第十二地方輸送隊ハ十五日下車、十六日小銃分出発豫定

四、第三輸送隊ハ「ガリヨンカ」ニ前進シ同地支部ニ積載品ヲ交付スヘシ、爾余ノ輸送隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

五、後備工兵第二中隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

六、「ガリヨンカ」支部ハ明十四日「ガリヨンカ」ニ支部ヲ開設シ兵站業務ニ任スヘシ、警戒兵ニ分隊ヲ備ス

甲兵站ヨリ十五粁彈三中隊十加揮三中隊分ヲ「ガリヨンカ」支部附近ニ輜積スル筈

七、⑩⑪⑫号支部ハ明十四日各宿營地出発、「ガリヨンカ」ヘ前進同地支部ノ業務ヲ援助スヘシ

八、農舍支部長ハ警戒兵二分隊ヲ「ガリヨンカ」支部ニ配属シムヘシ

九、別表ノ通リ兵站地設定材料ヲ各支部ニ交付スヘシ

之カ運搬ハ輸送隊ヲシテ實施セシムヘシ

アジア歴史資料センター

十、小級芬支部長ハ當兵站ニ備スル下車部隊ノ指導之カ宿營休養ニ任シ又兵站命令ノ傳達ニ任スヘシ

十一、余ハ依然河沿ニ在リ

河沿乙兵站司令官　某

下達法

一、要旨ヲ各隊ニ電話ヲ以テ口達シ後印刷セルモノヲ交付ス

二、小級芬支部ニハ印刷セルモノヲ甲兵站部ヨリ急送ス

アジア歴史資料センター

乙兵站支部設定材料分配並分表

乙兵站部

材料 / 兵站地	小綴	前哨	南天門	河沿川	豐會	ガリョンカ	計	摘要
芬河		五厘	五	五	五	五	五十張	
河子		一組	一	一	一	一	五組	
有刺鐵線		三五〇米	三五〇米	五〇〇米	三五〇米	八〇〇米	六、七五〇米	
八番鐵線		二〇米	二〇米	二五米	二〇米	四〇米	一二五米	
濾水器		一個	一	一	一	一	未個	
鉄線剪鋏				一〇枚		三〇	五〇枚	
備考								

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、第三項ニヨル増加セラレタル後備歩兵第四大隊ノ配属ハ適當ナリ

二、「カリヨンカ」ニ斯クノ如ク多量ノ軍需品ヲ集積スルハ敵ノ爆撃ノ顧慮アル場合ニハ適當ナラス

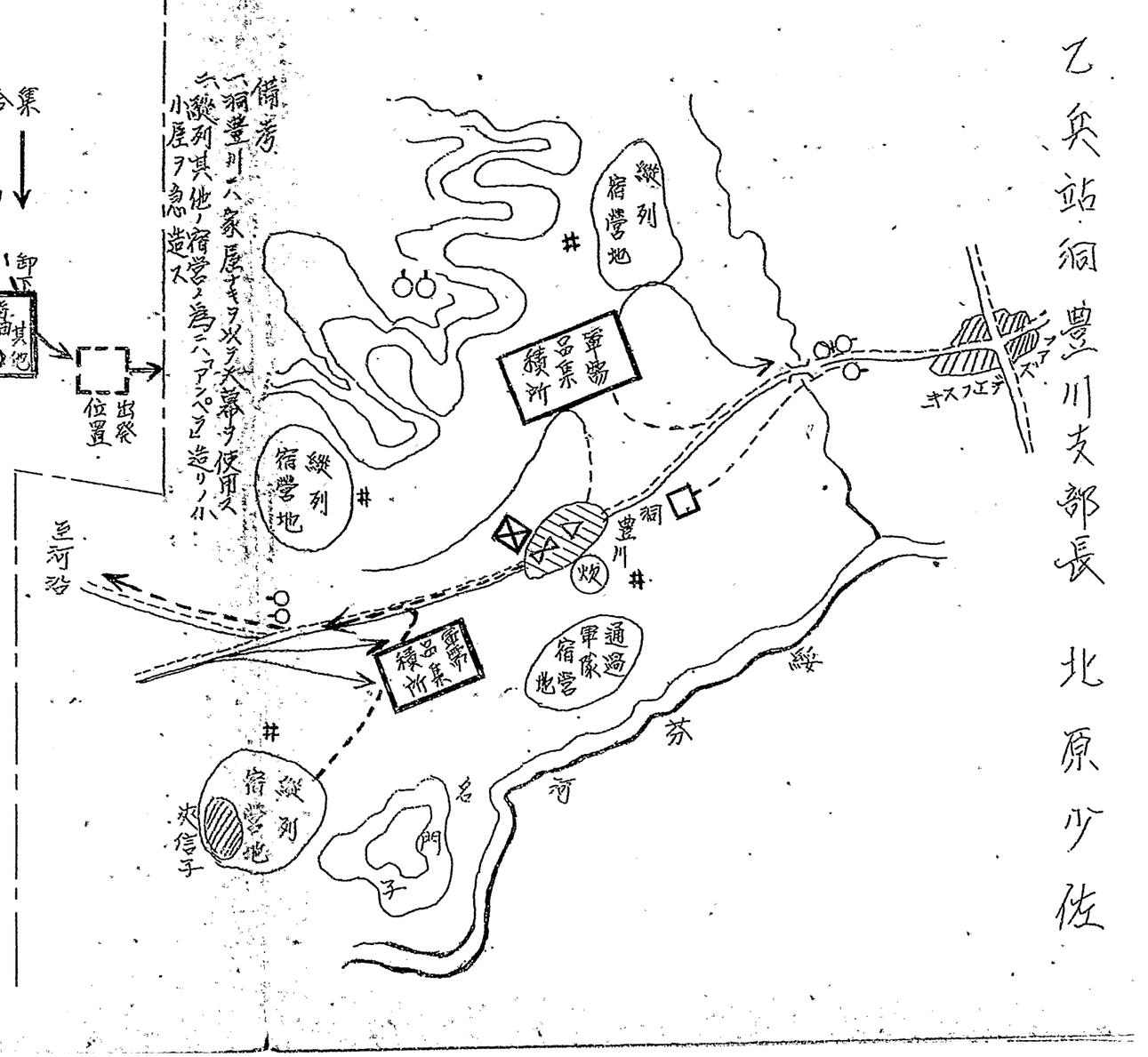
又本支部長ハ軍需品ノ集積ニ方リ單ニ積載卸下ノ事務上ノ便宜ヲ考ヘルノミナラス爆撃、瓦斯雨下ニ對シ軍需品ヲ保護シ得ル如ク分散集積スルコトニ著意スルヲ肝要トス

三、第九項兵站地設定材料ノ運搬ニ関シテハ尚適確ニ命令スルヲ要ス然ラサレハ其實施完全ナラサルヘシ

アジア歴史資料センター

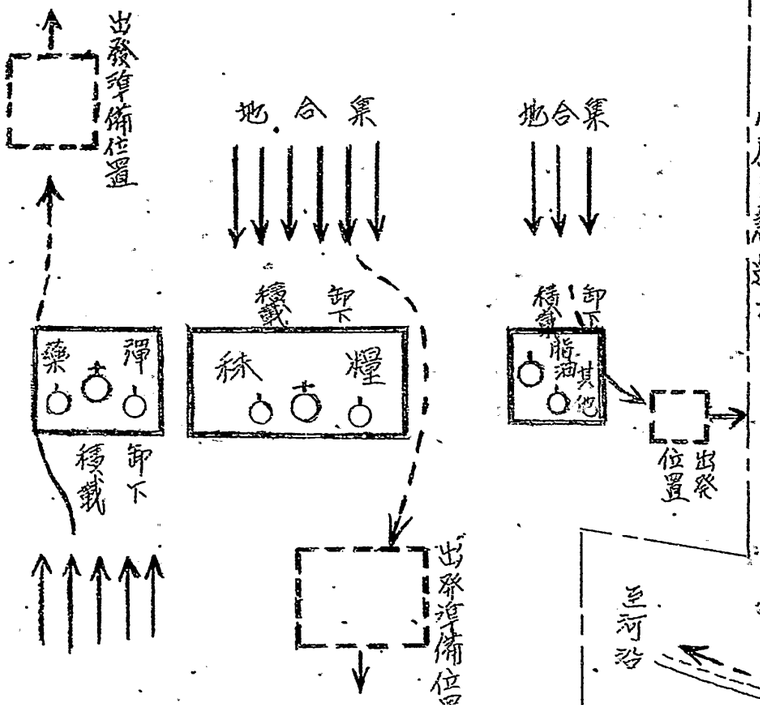
乙兵站洞豊川支部長 北原少佐

洞豊川支部設定要図



備考
一、洞豊川ニハ家屋ナキヲ以テ天幕ヲ使用ス
二、縦列其他ノ宿営ノ為ニハアンペラ造リノ仮小屋ヲ急造ス

軍需品発送卸下部署要図



備考、（）内ハ各部将校ヲ以テ充ツ

区分	将校	下士官	兵
庶務掛	一	当長一	
宿舎掛	一		
給養掛	一	一	一
輸送掛	二	二	二
営舎設備掛	一	一	一
経理掛		(一)	
衛生掛	(二)	(四)	五
自動車掛		一	二

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、適當ニ設定セラレ(タルモ)任務分担區分ニ從ヒ各掛カ日々如何ナル業務ヲ如何ナル着眼ヲ以テ實施スヘキカヲ計画規定シ置ケハ一層可ナリ

臨時ニ援助ノ爲配属セラレアル人員ヲ除キ固定ノ支部人員ニ對シ業務ヲ分担シ之カ業務一覽表ノ一案左ノ如シ

	業務一覽表
一、庶務掛	發來輸ノ整理、人事、命令、會報、日報及旬報、陣中日誌、通信設備、自動車ノ使用管理、治安維持資源培養其他
二、宿舍掛	宿營設備ノ管理、設營隊トノ連絡、宿舍ノ配當
三、給養掛	物資ノ配給、炊事場ノ管理
四、輸送掛	支部配属輸送人馬ノ管理、輸送軍需品ノ保管、輸送ニ関スル輸送部隊トノ連絡交渉
五、物品出納掛	輸送軍需品以外ノ諸物品ノ保管出納
六、経理掛	物資給養、諸品ノ調査調辨、金錢事務、人夫、車馬ノ徴傭

アジア歴史資料センター

任務分担區分表

區分	將校	下士官	兵
庶務掛		書長一	一
宿舎掛		一	(二)
給養掛	一	一	(三)
輸送掛		一	(二)
物品出納掛		書長ノ一 主計下士官 一	(三)
経理掛			
人衛生掛	一		衛生上等兵一 衛生二等兵一
馬衛生掛	一		蹄鉄工兵一
自動車掛		庶務掛ノ一	自動車手一 自動車工手一
警戒	ノ一		後尾歩兵二分隊

備考
一、警戒ノ為必要アルトキハ陸上勤務隊ヲ使用スルモノトス
二、()ヲ附セルハ陸上勤務隊ヲ以テ充当スルモノトス

七、人衛生掛　宿営部隊ノ衛生、支部管轄區域内ノ傳染病予防

八、馬衛生掛　宿営部隊ノ衛生支部管轄區域内ノ傳染病予防

九、警戒　対地対空対瓦斯警戒、地方縦列逃亡予防、軍紀風紀ノ維持（工兵展望哨ノ配置、防禦陣地、複廓ノ構築等）

アジア歴史資料センター

乙兵第四號　　十月十四日　八〇
河沿乙兵站部命令　　於河沿司令部

一、各輸送隊ハ左ノ如ク行動スヘシ其細部ハ別紙運行計画ニ依ル

一、第二輸送隊ハ其積載彈藥ヲ「ガリヨンカ」ニ輸送シタル後農舍ニ歸還宿營スヘシ

一、第三輸送隊ハ其積載彈藥及糧秣ヲ「ガリヨンカ」ニ輸送スヘシ

一、第四輸送隊ハ河沿到着後同地ニ宿營シアルヘシ

二、「ガリヨンカ」支部ニ第十四陸上勤務隊ノ一分隊及第十六陸上勤務隊ノ一分隊ヲ配屬ス

司令官　高山中佐

下達法

一、要旨ヲ電話ヲ以テ傳達シ後印刷セルモノヲ配布ス

附表第

乙兵站部運行表

昭和　年　月　日調製

武居少佐

日次	兵站地(駅)名里程	発送着到	小繰芬	異恩河	南天門	河沿子城子	洞豊川	営盤舎	ガリョンカ	糧秣弾薬	備考
十三日		発	I								
		着	II								
		発	III								
		着	IV								
十四日		発	V								
		着									
十五日		発	VI								
		着									
十六日		発									
		着									
摘要											

糧秣　四中二小
弾薬　九中一小

糧秣　八中
弾薬　六中

（十三日Ⅰの集積）

アジア歴史資料センター

自十月十四日
至十月十七日　二至ル經過ノ概要

一、十四日第一師団ハ敵ノ前進部隊及警戒部隊ヲ驅逐シ主陣地前ニ迫迫
二、十五日主陣地ニ對シ攻撃準備
三、十六日拂曉ヨリ主陣地ニ對シ攻撃開始
夕刻迄ニ僅ニ敵ノ第一線陣地ノ一部ヲ奪取
本夜180ノ一大ヲ2Dニ増加シ軍ノ主攻撃正面左ニ移ル
四、十七日攻撃續行2D方面戰況特ニ發展
十七日夕ニ於ケル乙兵站線ノ狀況別紙要圖ノ如シ

乙七

乙兵第六號

河沿乙兵站部命令　十月十八日　一三、〇〇
河沿司令部

一、敵ハ逐次東北方ニ向ヒ退却ヲ開始セリ
軍ハ一部ヲ以テ「ウラジオ」主力ヲ以テ「スパスカヤ」ニ向ヒ追撃中ナリ
第一師団ノ追撃目標ハ「タラソフカ」トス
二、乙兵站部ハ第一線ノ追撃ニ應ジ概ネ別紙要圖ノ如ク逐次支部ヲ推進シ円滑ナル補給ヲ續行セントス
三、㋑号支部ハ直ニ「ミハイロフスコエ」ニ前進シ補給點ヲ開設スヘシ
將來該地ニ支部ヲ開設セシムル爲
後備歩兵一小隊陸上勤務隊一隊（一分隊欠）ヲ配屬ス
四、第二輸送隊ノ主力ハ三号農圃ニ其積載シアル軍需品ヲ輸送スヘシ
其他ノ各輸送隊ハ別紙運行表ニ依リ軍需品ノ輸送ニ任スヘシ

北原少佐

十九日以後ノ補給基點ハ東寧トス

五、⑰号支部ハ農舍支部ノ業務ヲ継承スヘシ

①号支部ニ配属セラレアル部隊ハ其儘⑩号支部ニ転属ス

六、農舍支部長ハ第十四陸上勤務隊(一分隊欠)ヲ⑤号支部長ニ転属セメ支部ノ業務ヲ⑰号支部ニ継承セシメタル後①号支部ヲ指揮シ「ミハイロフスコエ」ニ前進待期スヘシ

七、後備歩兵第四大隊長ハ其歩兵一小隊ヲ⑤号支部長ニ配属セシメタル後「ガリヨンカ」ニ於テ待期スヘシ

八、後備工兵第二中隊ハ午前六時宿営地出発「ガリヨンカ」ー「ミハイロフスコエ」道ヲ修復シ「ミハイロフスコエ」附近ニ待機スヘシ

九、河沿以西ノ各支部ハ引上準備ヲ為シアルヘシ其引上ノ時期ハ追ツテ示ス

十、軍追撃ノ為ノ兵站部將來ノ支部配當予定左ノ如シ

開設予定日	支部位置	配當支部
十九日	東寧	⑭号支部
十八日	「ミハイロフスコエ」	⑤号支部

アジア歴史資料センター

十九日　「オルノツカ」　①号支部
十九日　「イワノツカ」　⑥号支部
廿日　「ダラゾフカ」　⑩号支部
廿一日　「樟油製造所」　⑫号支部
廿一日　「アンチノス」　⑪号支部

十二、在河沿司令部直轄ノ部隊ハ某大尉ノ指揮ヲ受ケ直ニ出発「ガリヨンカ」ニ向ヒ前進スヘシ

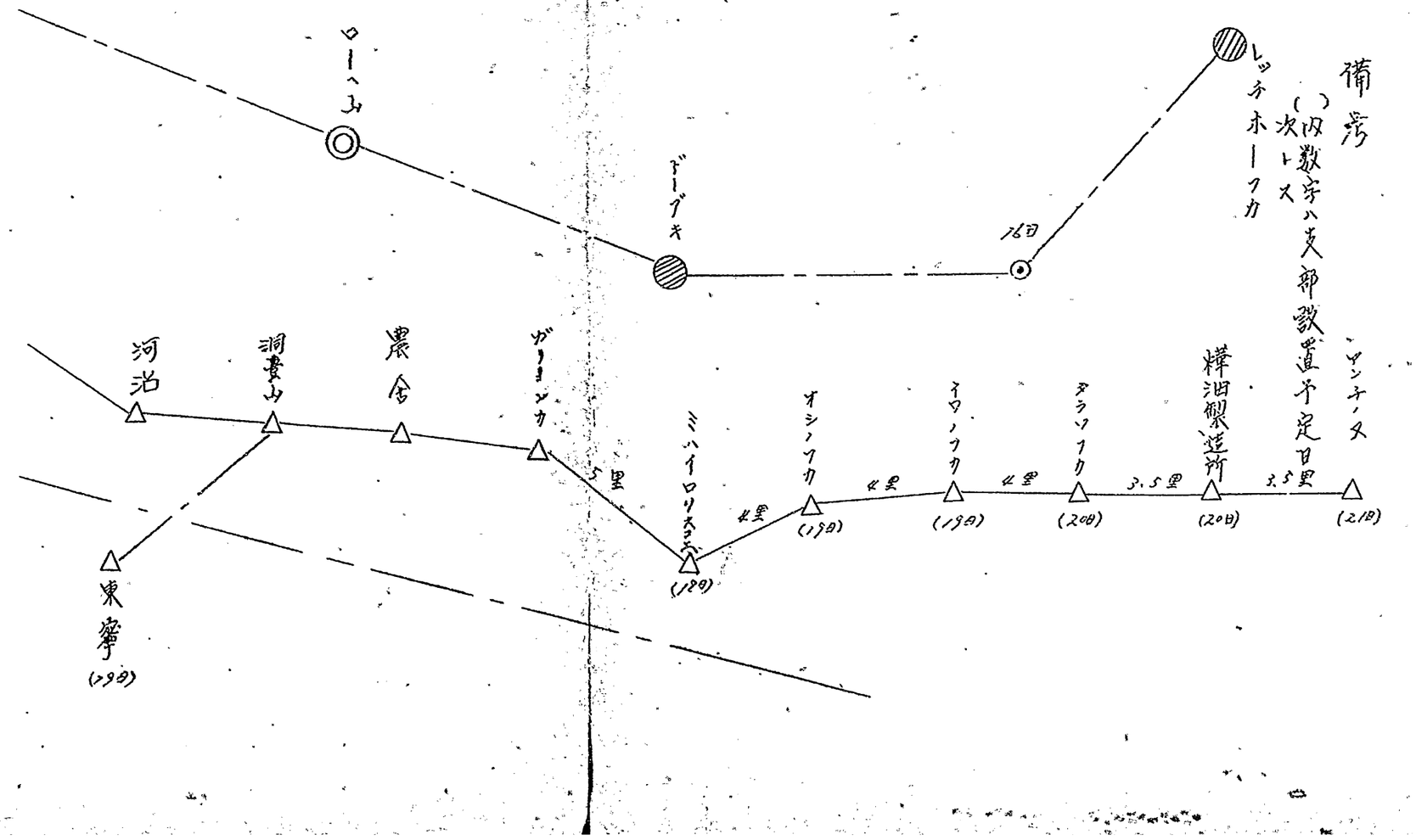
十三、余ハ本十八日午前七時「ガリヨンカ」ニ向ヒ前進ス

乙兵站司令官　高山中佐

下達法

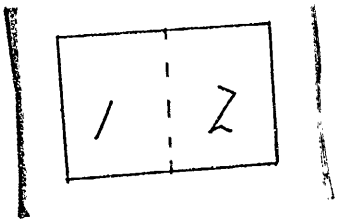
河沿所在部隊ニハ命令受領者ニ要旨ヲ口達其他ノ部隊ニハ要旨ヲ電話ヲ以テ傳達シタル後一般ニ印刷セル命令ヲ交付ス

追撃ノ為ノ兵站線設定要図



アジア歴史資料センター

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを証明する

4年 8月 5日

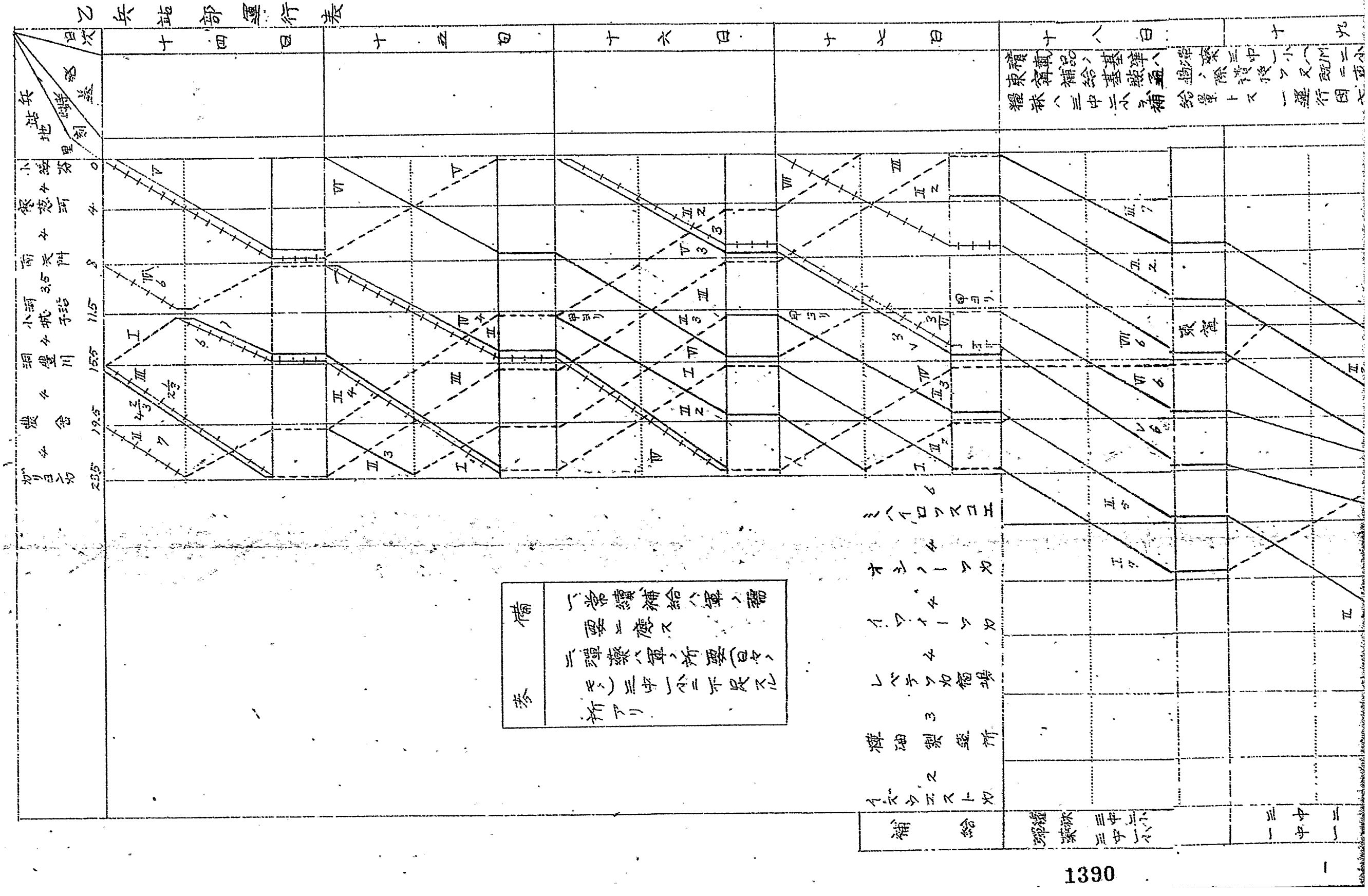
主務者又は

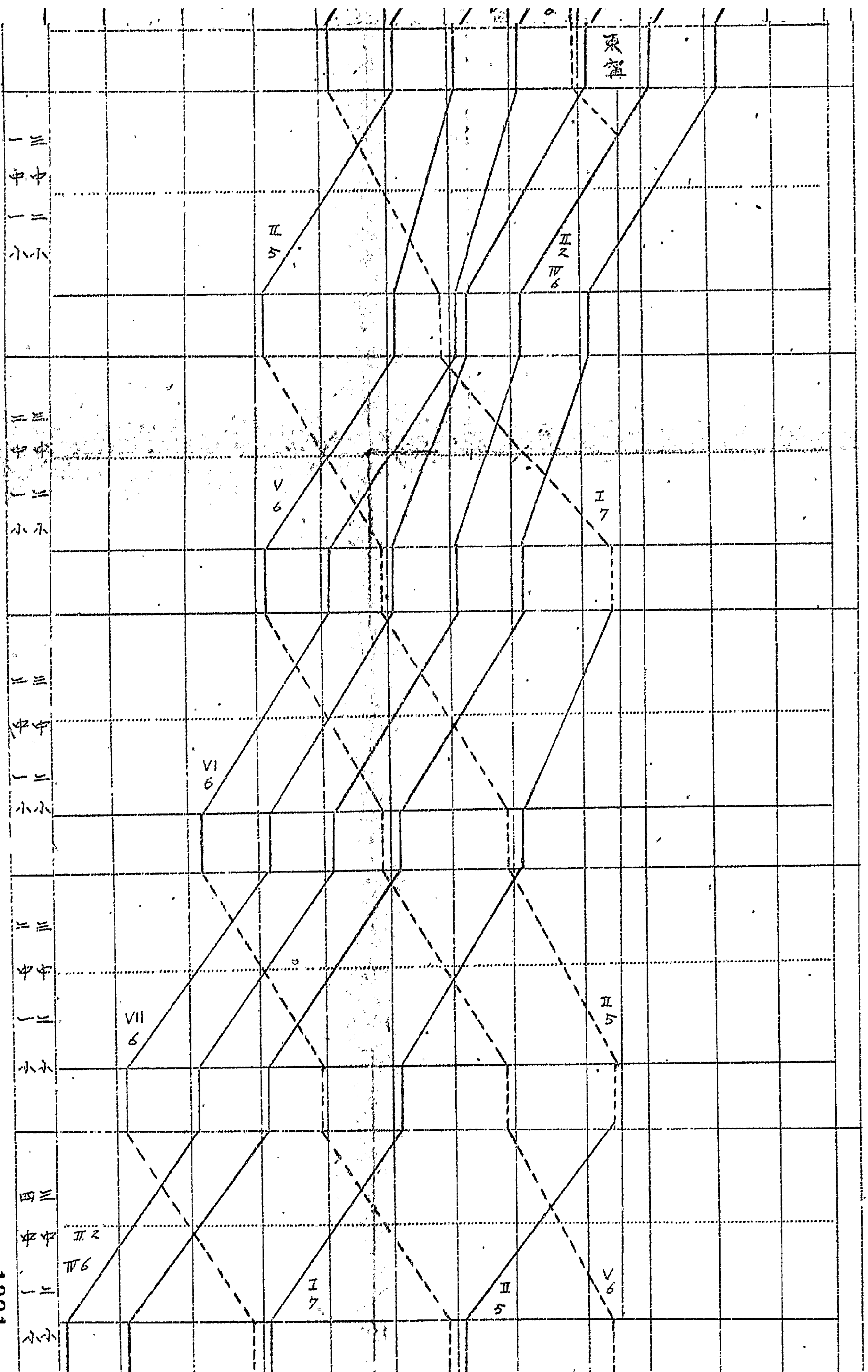
撮影立会者 加部東 保夫

アジア歴史資料センター

アジア歴史資料センター

乙 兵站部運行表





弾薬三中一小（一M二小AM一中/M二小）化資一小其他弾一小通衛獣医材料等（一小）トシ従来ノ積載品ハ此ノ基準ニ合セサルモノハ通過ノ際積換ヘ又既ニ東寧以東ニアルモノハ第一線残置弾薬及ガソリンカ末地所在弾薬ヲ以テ積換フ給養トス　一運行団七縦列以下ノモノハ弾薬ヲ右基準ニ依リ減載スルモノトシ糧秣ハ必ス三中二小ヲ保持ス

武居少佐

アジア歴史資料センター

統帥官所見

乙ハ

一、兵站司令官ハ追撃命令ヲ受クルヤ直ニ乙兵站線ノ推進能力ヲ大観シ運行表ニ基キ軍兵站監ニ状況ヲ報告スルト共ニ意見ヲ具申シタルハ適當ナリ

二、兵站司令官特ニ末地ノ支部長ハ速ニ飾団ノ後方ニ弾薬其他ノ物資集積ノ無ヲ連絡調査シ兵站推進ノ参考トスルヲ可トス

アジア歴史資料センター

乙兵站追撃當初ニ於ケル現況報告

一、十月十八日迄ニ於ケル乙兵站部補給一般ノ状況ハ概ネ順調ニ實施セラレツヽアリ

二、會戦準備ノ爲メ連日休止比較的少ノ候後シタル爲メ地方縦列中損傷馬一縦列平均五乃至十頭ヲ出シタルモ将校以下一般ニ志気旺盛意気衝天ノ概アリテ尓後ノ追撃ニ應スル補給ニ何等支障ヲ生セス

三、十月十八日末地「ガリヨンカ」附近ニ集積シアル軍需品左ノ如シ

糧秣　六中隊
燃料　二中隊一小
煙藁　三中隊
其他　二中隊

四、追撃ノ爲メ乙兵站部将来支部設定予定左ノ如シ

東寧　十九日
「ミハイノフスコエ」　十八日
「オシノフカ」　十九日

アジア歴史資料センター

「イハノアカ」　十九日
「タラソフガ」　廿日
攀油製造所　廿一日
「アンチノ」區　廿一日

五、軍ノ追撃ニ應ジ乙兵站部ハ糧秣（人糧馬糧燃料トモ）ハ順調ニ常續補給シ得ルモ彈藥ハ軍兵命令ノ所要ニ充サルコトアリ（約一中隊分）

六、目下乙兵站部ハ全支部ヲ開設シタル爲メ糸後河沿以西ノ支部ヲ撤収推進スルニアラサレハ廿一日以後「アンチノ」區以東ニ支部ヲ開設シ得サル現況ニアリ
然ルニ目下逐次不要トナリアル支部ノ撤収ヲ命シアルヲ以テ二十三日以後ハ「アンチノ」區以東ニ補給追ヲ進メ得ル確信アリ

アジア歴史資料センター

統裁官總評

乙九

一、一般ニ極メテ順調円滑ニ補給ヲ續ケラレタルモ此輸送ハ一本ノ道路ニ各輸送隊ハ始ト距離ヲ保持スルコトナク一連トナリテ行進シ各縱列ハ概ネ二粁ノ実行長径ヲ保チ且毎日多數ノ縱列カ行違ヲ実施シツツ行ヘルモノナルヲ以テ路中横ク道路良好且各縱列ノ行軍々紀極メテ良好ナルトキ始メテ得ラルル結果ナルコトヲ承知スルヲ要ス

二、本輸送ハ兵站部隊自身ノ給養品ノ補給ヲ度外視シテ行ハレタルモノナルヲ以テ実際ニ於テハ最後ノ追撃時期ニ在リテハ兵站部隊ノ糧秣輸送ノ為概ネ六中隊ヲ充當スルヲ要シ第一線ノ為斯クノ如ク輸送補給シ得サルモノナルコトヲ承知スルヲ要ス

三、本輸送ノ如キハ仮ス令途中地方縱列ノ若干ハ逃亡スルモノヲ生シ又敵ノ空襲機甲部隊ノ攻撃等ニ依リ損害ヲ受ケ又道路ノ障碍等不測ノ障碍ニ遭遇スル等ノナルコトヲ考慮スルヲ要ス

四、本輸送ノ為ニハ兵站線ニ若干ノ軍隊ノ前進第一線ヨリ臨時軍需品ノ補給要求等アリテ若干ノ彈力性ヲ保持シ臨機之ニ應スルノ用意アルヲ必要トス

其五

衛兵站部

アジア歴史資料センター

丙兵站部命令　十月十一日
於　綏芬河

川原中佐

一、三個師団ヲ下ラサル敵ハ目下「ニコリスク」及其以北地区ニ集中中ナリ
軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ「ストルゴフカ」西方地区及「アリルーキ」ニ向ヒ前進ス
軍兵站ハ軍ノ「ガリヨンカ」附近ノ会戦ニ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ進撃ニ応スル如ク準備ス
二、丙兵站部ハ別紙第一及第一ノ二ニ基キ丙兵站線ヲ設定シ該方面ノ輸送及補給ニ任セントス
三、軍隊区分別紙第二ノ如シ
四、各輸送隊ハ明十月十二日以後夫々行動ヲ起シ別紙第三運行表及別紙第四積載区分表ニ基キ軍需品ノ輸送ニ任スヘシ
綏芬河「クロデエーウオ」「タワーウオイ」「セルギエフスキー」「アリルーキ」各支部ハ別紙第一ニ基キ夫々兵站地ヲ設定シ同地ニ於ケル兵站業務ニ任スヘシ

アジア歴史資料センター

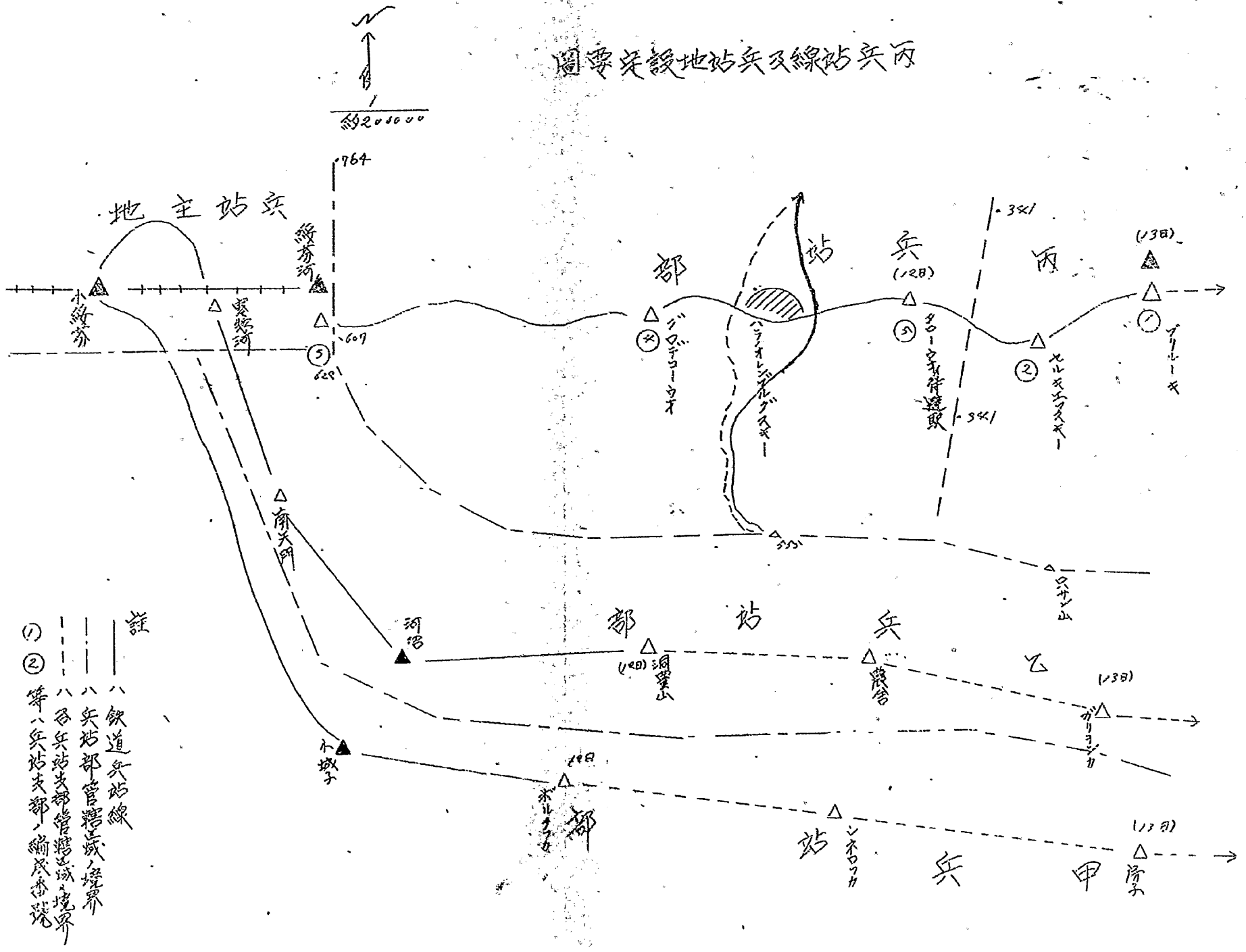
兵站地ノ位置ハ別ニ現地ニ於テ司令部々員某中佐ヲシテ指示セシム
五、各支部ハ明十二日綏芬河出発徒歩行軍ニ依リ夫々位地ニ至ルヘシ
行軍間ノ指揮ハ「ブリルーキ」支部長之ヲ区署スヘシ
兵站司令官直轄支部ハ「ブリルーキ」ニ至リ待機スヘシ
但十二号支部、十一号支部、十号支部、九号支部、八号支部ハ夫々其順序
二一号支部、二号支部、三号支部、四号支部、五号支部ヲ業務ヲ援助ス
ヘシ
六、後備工兵第三中隊ハ「セルギエフスキー」支部ト同行シ速ニ「ブリルーキ」
「ゼルギエフスキー」間ノ兵站線路ヲ補修スヘシ
爾後「ブリルーキ」ニ至リ待機スヘシ
七、兵站通信網ハ別紙第四ノ如ク構成セラル
八、予ハ明十二日綏芬河出発「タロースカヤ」ニ至ル

丙兵站司令官

下達法
各隊長ヲ集メ印刷シタルモノヲ交付

別紙第一

概要築設地陣兵及線陣兵丙



アジア歴史資料センター

丙兵站司令部人員及自動車配當一覽表

兵站司令部ノ編成

階級		人員	本部	支部 ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
大佐	司令官	一	一														
中佐	部員	四	(了)一	一	一	一											
少佐	部員	五		一			一	一	一	一							
大尉	部員	一〇	二	(了)一	一	一					一	一	一	一	一		
中(少)尉	副官	一	一														
曹長		六	二	二	一	一											
軍曹(伍長)	自動車機	一	一														
軍曹(伍長)		二八	六	三	三	三	二	二	二	二	一	一	一	一	一		
上(一)(二)等兵	自動車手	一四	五	三	一	一	一	一	一	一							
上(一)(二)等兵	自動車工手(兼自動車手)	四	一	一	一	一											
上(一)(二)等兵	瓦斯兵	三		一	一	一											
上(一)(二)等兵	蹄鉄工兵	一八	五	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
上(一)(二)等兵		五	二	一	一	一											
主計中(少)佐		一	一														
主計尉官		二	一	一													
主計下士官		一六	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
軍醫中(少)佐		二	一														
軍醫尉官		七		一	一	一	一	一	一	一							
衛生下士官		八	三								一	一	一	一	一		
衛生上等兵		五	二	一	一	一											
衛生一(二)等兵		一〇	二	二	一	一	一	一	一	一							
獸醫少佐		一	一														
獸醫尉官		四	一	一	一	一											
獸醫務下士官		六	一	一			一	一	一	一							
計		一六一	四五	二三	一六	一六	九	九	九	九	五	五	五	五	五		
小型乘用車		一二	四	二	一	一	一	一	一	一							

備考 一、(了)ハ輜重兵科ノモノヲ示ス

1401

別紙第二

軍隊區分

A 輸送隊長　第四兵站輜重兵隊長　A中佐
第四兵站輜重兵隊本部
第三十及至第三十六兵站輜重兵中隊
後備歩兵第三大隊第二中隊ノ一小隊、機關銃一小隊（一分欠）

B 輸送隊長　第五兵站司令部　B中佐
第五兵站司令部
第三十七及至第四十兵站輜重兵中隊
第二十一第二十二兵站輜重兵中隊
後備歩兵第三大隊第二中隊ノ一小隊、機關銃一分隊

C 輸送隊長　第六兵站輜重兵隊長　C中佐

アジア歴史資料センター

第六兵站輜重兵隊本部
第二十三乃至第二十七輜重兵中隊
後備歩兵第三大隊第二中隊（二小欠）

D 輸送隊長　兵站輜重兵第二十八中隊長　某大尉
第二十八乃至第三十兵站輜重兵中隊
第九第二十地方縦列
後備歩兵第三大隊第三中隊ノ一小隊

e 輸送隊長　第四輸送監視隊長　某大尉
第二十一乃至第二十五地方縦列
後備歩兵第三大隊第三中隊ノ一小隊

f 輸送隊長　第五輸送監視隊長　某大尉
第二十六乃至第三十地方縦列
後備歩兵第三大隊第三中隊（三小欠）

アジア歴史資料センター

午輸送隊
長　第六輸送監視隊長　某大尉
第三十一乃至第三十六地方縦列
後備歩兵第三大隊第四中隊ノ一小隊（半小隊欠）
ヒ輸送隊
長　第十輸送監視隊長　某大尉
第五十五乃至第六十地方縦列
後備歩兵第三大隊弁四中隊（三小欠）
ブリルーキ支部
長　兵站司令部ノ員　某中佐
（ノ號支部ハ附表參照以下之ニ準ス）
軍補給廠ブリルーキ出張所
後備歩兵第三大隊（第二、第三、第四中隊、MG一小欠）
第十七陸上勤務隊
タローウオイ支部
長　兵站司令部ノ員　某大尉

㈠號支部
後備歩兵第三大隊第四中隊半小隊
第十八陸上勤務隊ノ一分隊

グロデユー支部
長　兵站司令部ノ員　某少佐
㈡號支部
後備歩兵第四中隊ノ一小隊（半小隊欠）
第十八陸上勤務隊ノ一分隊

綏芬河支部
長　兵站司令部ノ員　某少佐
③號支部
第十八陸上勤務隊（二分欠）

セルギエフスキー支部
長　兵站司令部ノ員　某少佐
②號支部
後備歩兵第三大隊第四中隊ノ半小隊

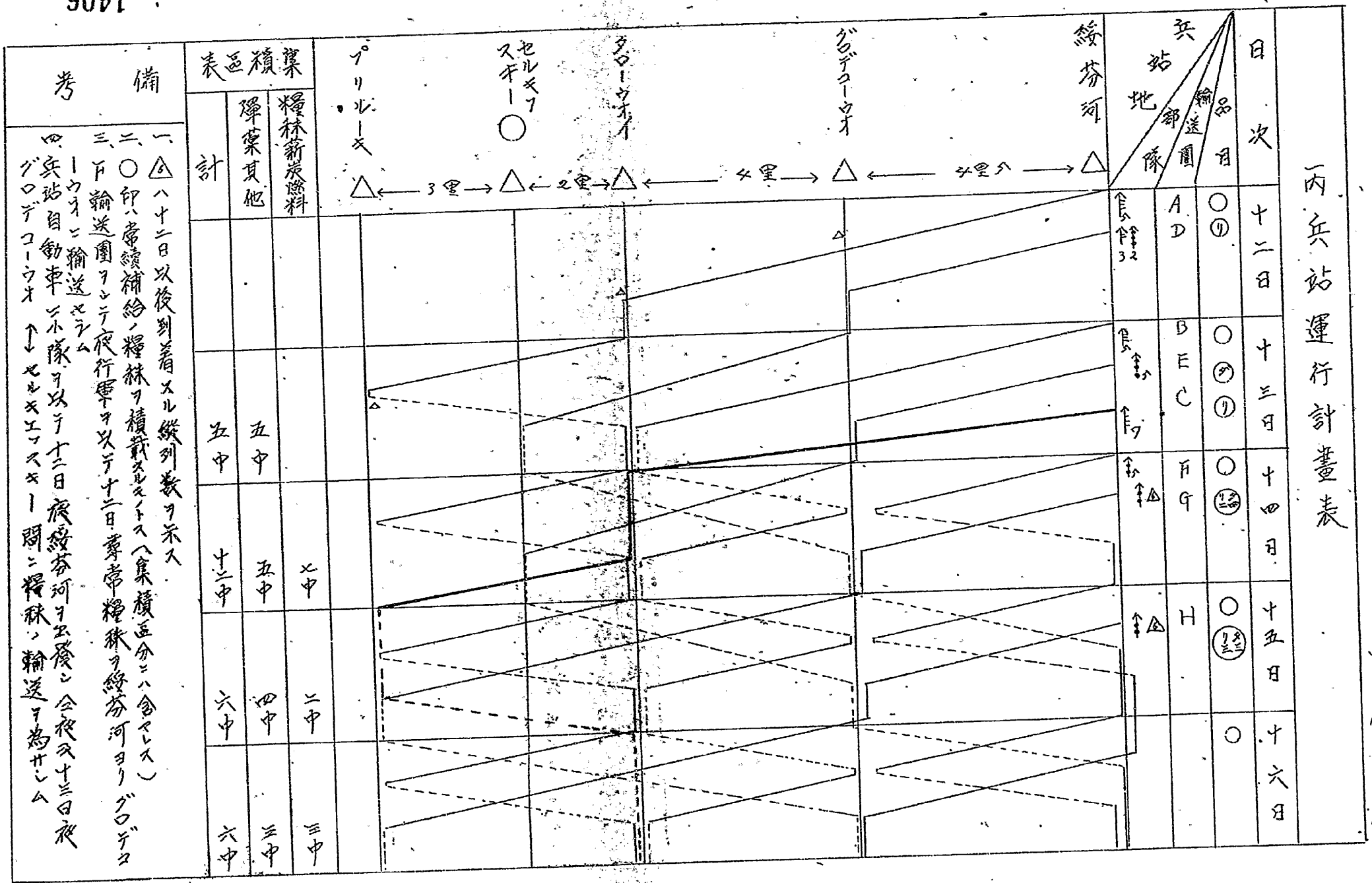
アジア歴史資料センター

1405

兵站司令部直轄部隊
第四兵站司令部本部
⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫號支部
後備工兵第三中隊
第十九陸上勤務隊

アジア歴史資料センター

兵站運行計畫表



糧秣薪炭際料	藁稭	計
三中	三中	六中
二中	四中	六中
七中	五中	十二中
	五中	五中

備考

一、△ハ十二日以後到着スル縦列裝ヲ示ス
二、○印ハ常續補給ノ糧秣ヲ積載スルモノトス（集積區分ニハ含マレズ）
三、下輸送團ヨリテ夜行雲ヲ以テ十二日夢常糧秣ヲ綏芬河ヨリグロデコーウオニ輸送セラル
四、兵站自動車ニ小隊ヲ以テ十二日夜綏芬河ヲ出發シ今夜又十三日夜グロデコーウオ↔セルギエフスキー間ニ糧秣ノ輸送ヲ為サシム

アジア歴史資料センター

丙兵站積載區分表

品目 ＼ 日次	十二日	十三日	十四日	十五日	計
給養兵額ニ対スル常續補給	五中	五中	五中		二十中
常糧秣				一中	五中
携帯糧秣			三中	一中	三中
重患者食			一五〇人	五〇人	一五〇人
燃料			一中		三中
加給糧秣				一中	一中
歩兵彈	一中	一小	一中	一小	二中二小
騎兵團		二小		一小	一中
野砲彈	一中	一中	一中	一小	三中二小
十五榴彈	一中	三中	一中	一中	五中
AA MA 榴彈	一小		一小		二小
化學	一中	一中		一中	三中
通信	一小		一小		二小
衛生	一小		一小		二小
計	五中 五中	五中 七中	五中 六中	六中	四十九中

備考

一、重患者食ハ糧秣積載中隊ニ若干宛分載ス

アジア歴史資料センター

1408

別紙第五

兵站通信網

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、命令本文

イ、第一項　軍ノ企圖ノ示シ方尚簡ナルヲ可トス

ロ、第三項　五日間ニ亘リ本運行表ノ如ク実行セシメントスルハ過望ナリ

二、別紙第一

イ、関係ナキ他ノ兵站線方面ノ配置ハ之ヲ省略スルカ尚簡略ナラシムルヲ要ス

ロ、各支部管轄區域ノ境界ハ更ニ明確ニ示スヲ要ス

三、軍隊區分

イ、D輸送隊

馭馬（二十八―三十人）ト車輛トヲ混合編成スルハ適當ナラス

ロ、輸送隊

中隊ノ配屬ニ方リテハ長トノ新ナル関係ヲ顧慮スルヲ要ス

四、運行表

此ノ如キ情況ノ変化多キ場合ニハ、努メテ巧妙ナル運行ヲ避クルヲ可トス　即チ本戰況ニ於テハ速ヤカナル直通輸送ニ依ルヲ可トス

アジア歴史資料センター

14410

五、蔵載區分表

ハ本表ハ前表ト一葉トスルヲ便トス

ニ、尋常糧秣ハ人馬糧ノ比率ヲ明ニスルヲ要ス

アジア歴史資料センター

丙兵站　　中尾少佐

A輸送団命令　十月十一日午後三時　於綏芬河第四兵站司令部

一、敵状想定別紙ノ如シ

軍ハ明十二日ヨリ攻勢開始ニ移ル筈

二、兵輸送団ハ明十二日午前六時車廠ヲ出発シグロデコーウオヲ至テブリルーキニ向ヒ前進セムトス

三、各隊ハ左ノ如ク積載スベシ

第三十一中隊
第三十二中隊
第三十三中隊　尋常糧秣　十一日夜積載
第三十四中隊
第三十五中隊（一小隊尋常糧秣二小隊燃料）　十二日午前五時三十分積載
第三十九

四、第三十一第三十二中隊ハ午前五時五十分迄ニ第三十三第三十四中隊ハ午前六時三十分迄ニ第三十五中隊ハ午前七時十分迄ニ各車廠ニアリテ出発準備ヲ完了シアルヘシ

五、某少佐ハ明十二日出発ノ為兵站主地司令部ト交通統制ニ関シ連絡スベシ

六、余ハ綏芬河第四兵站司令部ニアリ明十二日午前五時四十分第三十一中隊車廠ニアリ

各中隊ハ今時迄ニ第三十一中隊車廠ニ命令受領者ヲ出スベシ

A輸送団長
第四兵站輜重隊長某少佐

下達法

第三十一第三十二第三十三第三十四第三十五兵站輜重兵中隊ノ命令受領者ヲ集メ口達筆記セシム

終リトシテ兵站司令部調製セル運行表ヲ交付ス

アジア歴史資料センター

丙兵站部各部所要施設材料請求及配当表

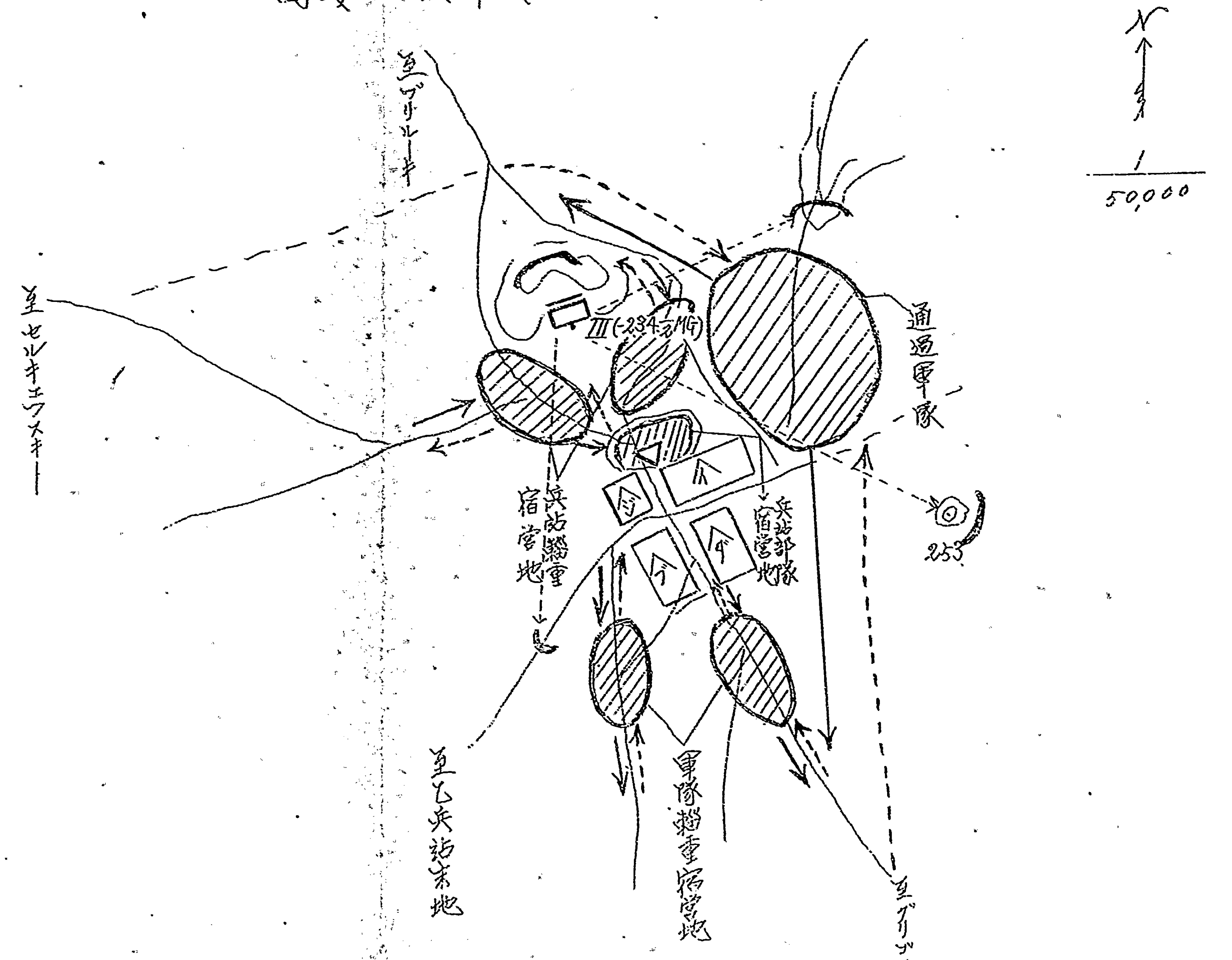
田中少佐

所要施設	所要材料（一支部）	▲	①△	③△	⑤△	④△	②△	予備	請求数量
事務室	天幕 一 六人用机 二－三 六尺腰掛 四－六	一 （現地調辦又ハ調製スルモノトス）	一		一	／	／	天幕 二〇	天幕 五〇
衛兵所通信所	天幕 一	一	一	／	一	／	／		
医務室	天幕 一	一	一	／	一	／	／		
支部員及配属部隊宿営設備	天幕 五 アンペラ小屋 五	五 （現地調辦スルモノトス）	五	／	五	／	／		
単独通過者宿営設備	天幕 二	二	二	／	二	／	／		
厠	アンペラ構ヒ 二〇枚	（現地調辦スルモノトス）					／		
炊事場	炊用炊具一組（二五〇人分）	一	一	一	一	一	／		五
軍需品集積場	雨覆 一 （又ハアンペラ 一〇） 枕木 一〇	五 （現地調辦又ハ調整スルモノトス）	一〇	五	五	五	／		三〇
警戒用鉄條網	有刺鉄線 五五〇 杭 一〇〇本 八番鉄線（結束用） 三〇米	五五〇 三〇 （現地調辦スルモノトス）	五五〇 三〇	五五〇 三〇	五五〇 三〇	五五〇 三〇	／		二七五〇米 一五〇米
地方縦列宿営設備	一人宛アンペラ二枚 杭 一本	（現地調辦スルモノトス）					／		
給水設備	一、井戸 六 二、岡崎式濾水器	一	一	一	一	一	／		五
局地用運搬具	三〇輌	（現地ニ於テ徴発スルモノトス）					／		

備考

一、予備天幕ハ輸送機関ノ関係ニ依リ先ツ綏芬河ニ集積シ末地ニ輸送シ同地ニ集積ス

丙兵站末地ノヴォジアストコーヴォレ支部設定要圖



川条中佐

アジア歴史資料センター

総裁官所見

此ノ如ク市街内ニ密集シテ軍需品集積場ヲ設クルハ適當ナラス

アジア歴史資料センター

兵站線グロテコーウオ支部施設要圖

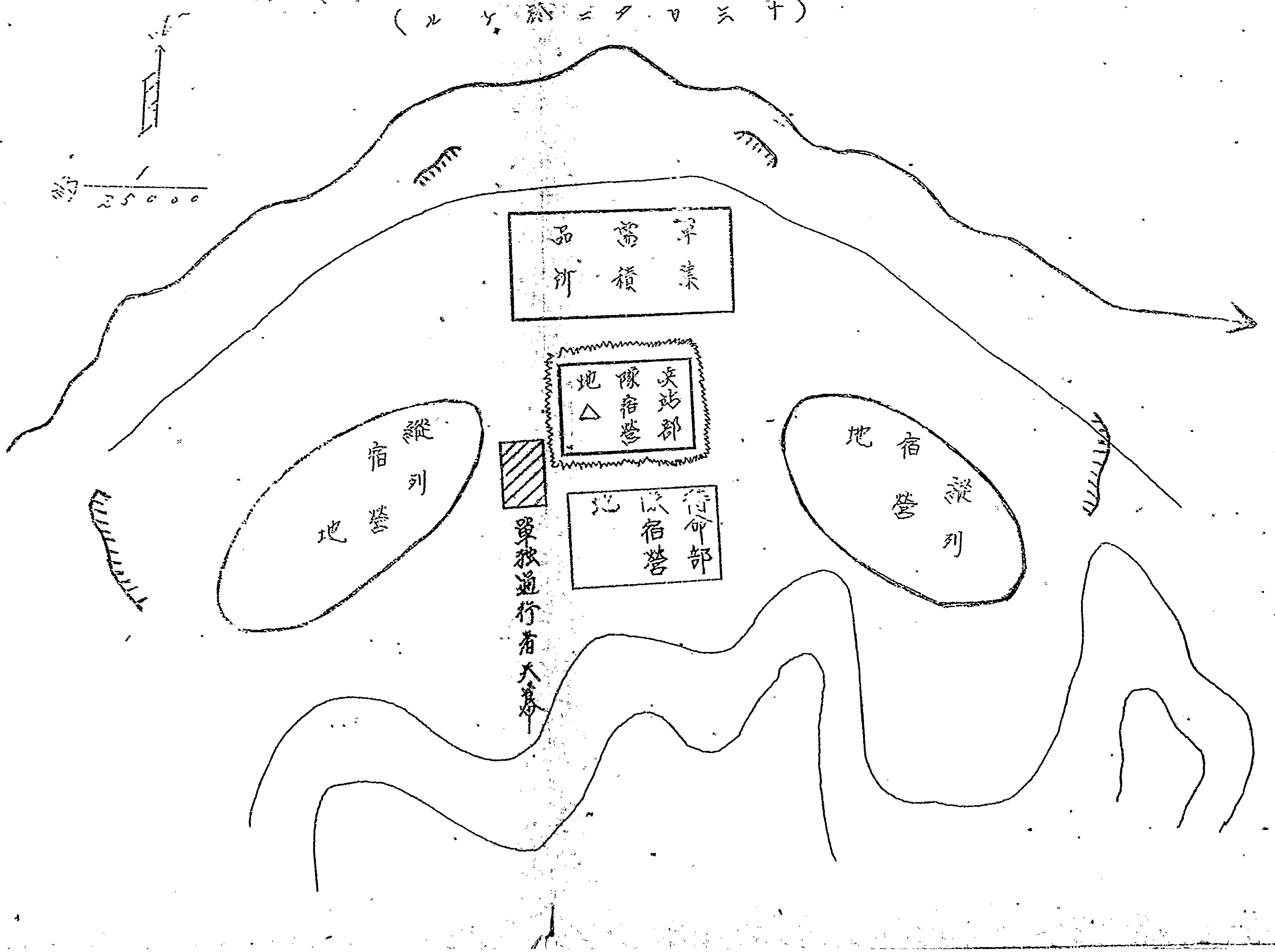
一 ↑ ハ実車ヲ示ス 空車ノ進入退出ヲ示ス

二 ☒ ハ第二師團野戦倉庫及兵站部隊給養事務所ヲ示ス

寺町少佐

アジア歴史資料センター

丙兵站線ニ於ケル待避驛支部設備要圖
(十六日ヲニ務スル)



アジア歴史資料センター

丙兵站司令部命令　十月十三日ニ於テ朝鮮人参子司令部ニ

一、敵情ニ関シテハ変化ナシ
軍ハ明十四日敵ノ主陣地ニ対シ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ガリヨン」「ノブオ」ノ線ニ求地ヲ推進シ補給ニ任スルト共ニ追撃ヲ準備ス
二、丙兵站ハ明十四日求地ヲ「ノブオ」ニ推進シ前任務ヲ続行スルト共ニ追撃ヲ準備セントス
第八輸送監視隊及後備野砲兵第一中隊ヲ新ニ配属セラル
三、川原中佐ハ①号支部ヲ以テ明十四日「ノブオ」ニ支部ヲ開設シ補給ニ任スヘシ⑦号支部ヲ配属ス
四、某少佐ハ⑫号支部ヲ以テ朝鮮人参子支部ノ業務ヲ続行スヘシ
後備歩兵第四中隊（二小隊欠）ヲ属ス
五、各輸送隊ハ明十四日別紙ノ如ク輸送ヲ実施スヘシ
六、兵站司令官直轄部隊及⑥号支部ハ後備工兵第二中隊長ノ適宜ノ処置ヲ以テ求地ニ到リ同地支部長ノ指揮ヲ受クヘシ

アジア歴史資料センター

七、後備野砲兵第一中隊ハコノブオレシ向ヒ前進スヘシ
尚予ハ現在地ニ在リ

丙兵站司令官　藤田中佐

下達ス
A.輸送隊長①、⑫支部長ニハ口達其他各隊長支部長ニハ電話傳達
後掌記送達

アジア歴史資料センター

別紙

各輸送隊輸送區分表（十月十四日為ル）

隊別 / 區分	出発 地名	出発 時刻	到着地	積載品種数量	宿営地
A	タロ	六、〇〇	ノーブオ	人糧一中二小 馬糧二中二小 燃料二小	ノーブオ
E	グロ	六、〇〇	朝鮮人	積載シアリ	朝鮮人
D	タロ	五、〇〇	タロ	野砲一中 十五榴二中 歩砲一小 騎兵二小	タロ
B	タロ	九、〇〇	敍芬河	空車帰行	敍芬河
C	敍芬	六、〇〇	敍芬河	弾薬一中 携帯口糧二中 重患食一〇〇人 糧五中	敍芬河
F	敍芬	七、〇〇	タロ		タロ
G	敍芬	一二、〇〇	グロ	機関銃一中 小銃一小 弾薬一中 糧秣一中 AA一小 予備被服二小	グロ

備考　一ノ輸送隊ノ線路ハ前日ノ道路ニ同シ

アジア歴史資料センター

総裁官所見

一、命令本文 第五項

明十四日一日ノ実行ヲ命ジタルノミニテハ足ラズ 連絡断ヘタル場合
輸送隊長ノ臨機ノ行動ノ準據ヲ與ヘ置クヲ要ス

アジア歴史資料センター

1421

丙兵站部命令

十月十八日午後五時
於ノブオジュットユープ司令部

一、軍當面ノ敵ハ退却ヲ開始セリ
軍ハ一部ヲ以テ浦塩ニ主力ヲ以テ「スパスコエ」ニ向ヒ追撃ス
軍兵站ハ軍ノ追撃ニ即應シ補給ニ任ス
軍兵站ハ第二師團方面ノ「スパスコエ」ニ向ツテスル追撃ニ即應シテ
補給ニ任セントス
三、各支部ハ別紙丙兵站設置計画ニ基キ明十九日以後夫々兵站
支部ヲ設置シ補給ニ任スヘシ
其ノ前進ハ①支部長ニ署スヘシ
四、各輸送機関ハ明十九日別紙第二ニ依リ輸送ニ任スヘシ
五、各支部ハ業務機動ノ為配属セル支部員ヲ並配属後備歩兵
一分隊ヲ除キタル歩兵部隊ヲ速ニ来地ニ向ヒ前進セシムヘシ
六、直轄部隊ハ依然現在地ニ位置スヘシ
七、予ハ本十八日現在地ニ在リ

丙兵站司令官　藤田中佐

アジア歴史資料センター

不達法

①②支部長、C片輸送隊長ニハ口達、其他ノ各支部長及輸送隊長ニハ電話傳達後筆記送達ス

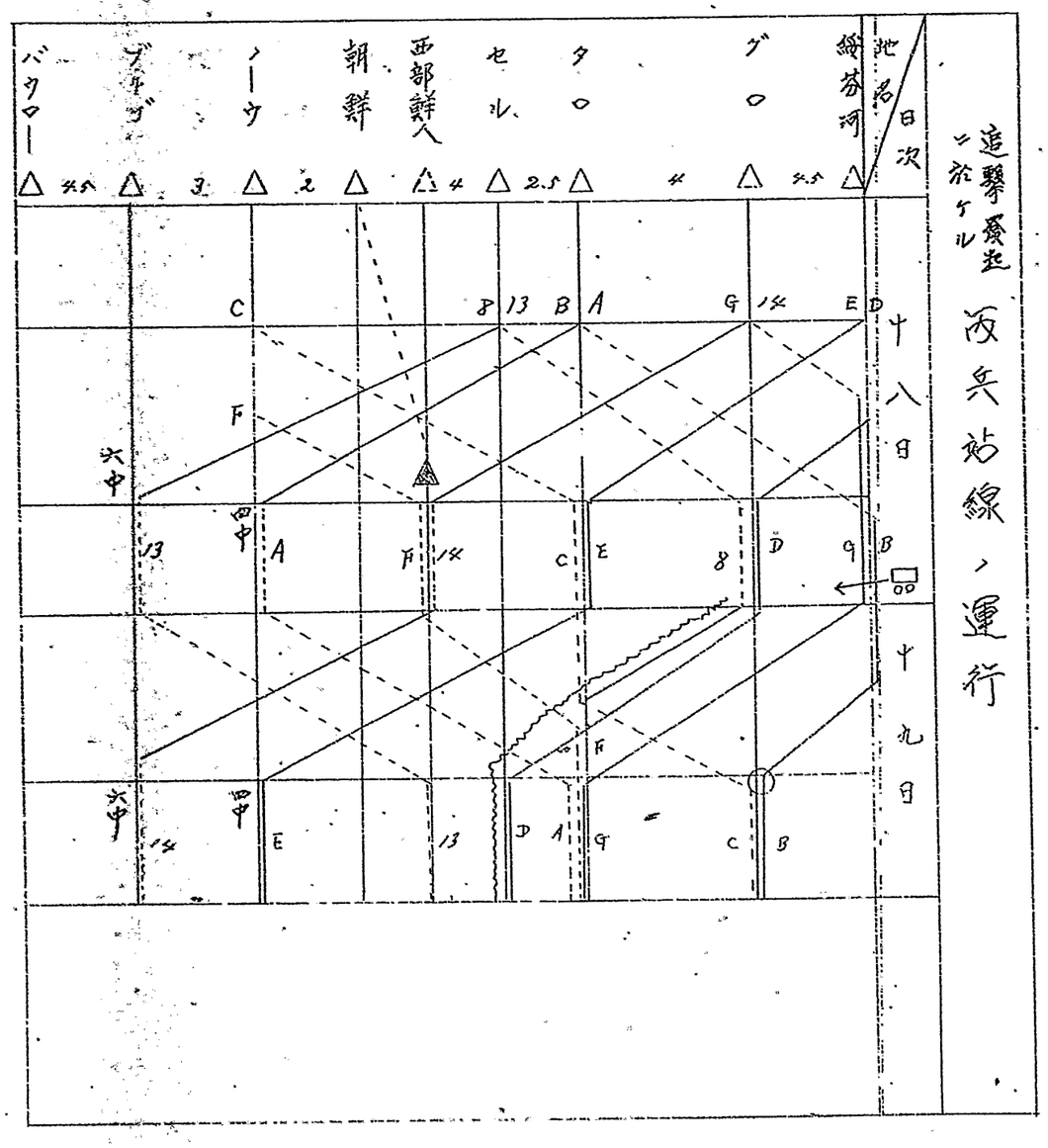
アジア歴史資料センター

十九日

区分	発	着	出発時刻	積載区分
13	ブリゴ	西部鮮人部落	午前六時	空車
A	ノーウ	タロ	〃	〃
F	西部鮮人部落	グロ	〃	〃
14	〃 右	ブリゴ	〃	積載中
C	タロ	グロ	〃 右	空車
E	タロ	ノーウ	〃 右	積載中
8	グロ	タロ（副路）	〃 右	糧秣
D	グロ	セル	〃 右	積載中
G	綏芬河	タロ	〃 右	糧秣
B	〃 右	グロ	正午	〃 右

アジア歴史資料センター

追撃爲ニ於ケル 兵站線ノ運行



備考

一、朝鮮房子支部ヲ西部鮮人ニ變更整理ス

二、第八輜送監視隊ハグロニ於テ卸下セル糧秣四中隊ヲ積載シ副路ヲ經テ「セル」ニ至ルモノトス

三、自動隊ハ午前三時出發シ糧秣ヲ積載シテ前日ノ道路ヲ前進ス

四、〇八鉄道開通シ新ナル補給点ヲ求ム

五、十九日ヨリ補給点ヲブリゴニ推進ス

アジア歴史資料センター

第一軍追撃ノ為メ兵站線推進設定考案要圖

1/250000

要領
一、軍ノ追撃前進ト共ニ――ノ如ク兵站線ヲ推進ス
二、第一線部隊ハルキドン以北ニ進出後ニ於テハ――ノ如ク兵站線ヲ設定シ該線以南ノ兵站線ヲ整理ス
三、鉄道線ノ改修補給基点ノ推進ニ伴ヒセルギエフスキー迄逐次兵站線ヲ整理ス

備考
一、――ハ自動車兵站線ヲ示ス
二、(1)(2)等ハ十七日迄ノ支部ノ番號ヲ示ス（天部ノ番号トハ西兵站部ノ十二支部ニ付シタルモノヲ云フ）

アジア歴史資料センター

其六

野戰彈藥廠
野戰武器廠

アジア歴史資料センター

彈命第一號

第一軍野戰彈藥廠命令　十月十一日　二〇〇〇
於水緩芬野戰彈藥廠

一、諏情及兵站內各部隊ノ任務ハ別紙（省略）軍兵站部命令ノ如ク
尚十二日以後ニ於ケル彈藥廠ノ編成ハ附表第一ノ如シ

二、彈藥廠ハ甲、乙、丙各兵站ニ對スル彈藥竝化學戰資材ノ補給ヲ重
憾ナカラシメ甲兵站ニ對シテハ西倉庫ニ於テ乙兵站ニ對シテハ東
倉庫ニ於テ丙兵站ニ對シテハ第一支廠ニ於テ補給ス

三、第一支廠ハ十二日中ニ開設ヲ完了スヘシ其細部ハ別命ス

四、某中尉以下何名ハ甲出張所要員トシテ某中尉以下何名ハ乙出張
所要員トシテ某中尉以下何名ハ丙出張所要員トシテ明十二日ヨ
リ夫々甲、乙、丙兵站部ニ屬セシム其細部ハ別命ス

五、倉庫部ハ附表第二ニ基キ各兵站部ニ彈藥其他ヲ交付スヘシ
但東倉庫及西倉庫ニ對シ各々人夫竝分ノ二ノ隊兒ヲ配屬ス
其時期ハ後命ス

六、余ハ野戰彈藥廠本部ニ在リ

アジア歴史資料センター

第一軍野戦弾薬廠長 二木少佐

下達法
必要ナル箇所ニ要旨ヲ電達シ命令受領者ニ口達筆記後印刷交付ス

アジア歴史資料センター

附表第一

第一軍野戰彈藥廠編成表

區分 / 階級別	廠長	本部	勤務中隊	倉庫部		第一支廠
				東倉庫	西倉庫	
將校	省略ス					
准尉						
下士官						
兵						

アジア歴史資料センター

附表第二

野戰彈藥廠彈藥交付豫定表

交付受領部隊担任	種類	交付日次及數量（時刻） 十一日	十二日
西倉庫 甲兵站線	歩兵彈藥	二基（一七、〇〇）	
	野砲彈藥	一基（一七、〇〇）	
	十五榴彈藥	一基（一七、〇〇）	
	十加彈藥	一基（一七、〇〇）	
	戰車隊用彈藥		
	GSAAMATA其他彈藥	一基（一七、〇〇）	
	化學戰資材		
東倉庫 乙兵站線	歩兵彈藥	二基（一六〇一一六五）	
	野砲彈藥	二基（一六〇一一八〇）	
	十五榴彈藥	二基（一八〇一一九〇）	
	AAMATA其他彈藥	二/3基	
	化學戰資材	二/3基	
第一支廠 丙兵站線	歩兵彈藥	一基（一六、〇）	一/3基（一五、〇）
	KB彈藥		
	野砲彈藥	一基（一夜）	
	十五榴彈藥	一基（一夜）	
	AAMA其他彈藥		一/3基（一五、〇）
	化學戰資材		

備考

基數ト八補給ノ爲ノ基數ニシテ其詳細ハ別表ノ如シ

アジア歴史資料センター

武命第一號

第一軍野戰武器廠命令　十月十一日　於小綏芬河武器廠

一、敵情（略ス）

二、軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主タル兵力ヲ「ストルゴフカ」西方地區ニ一部ヲ以テ「プリルキ」ニ向ヒ前進ス

三、武器廠ハ一部ヲ以テ兩鳥站主力ヲ以テ甲、乙鳥站ノ補給ニ任ゼントス豐鳥ハ甲鳥站線トス

四、第一支廠ハ兩出張所ヲ經營シ十二日夕迄ニ綏芬河ニ於テ開設シ兩鳥站ノ補給ニ任スヘシ

器材ハ半師團分ヲ集積スヘシ

但先ツ通信器材ヲ整備シ其他ノ器材ノ整備ニ關シテハ別命ス

五、第二支廠要員ハ小城子附近ニ支廠開設ノ爲所要ノ準備

アジア歴史資料センター

ヲ為スベシ

兵ヲ一ハ小綾方ニ在リ

第一軍参戦武器廠長

アジア歴史資料センター

支廠又出張所ニ携行スヘキ工具一覧表

品目	員数	一梱入数	梱数	単重量	総重量
携行自転車具	二ヶ	一	二ヶ	四五斤	九〇〇斤
移動仕上機	二	一	二	二〇〇	二〇〇
起動機	一	一	一	一〇〇	一〇〇
鉸鉄截断機	二	一	二	八〇	一六〇
鑢鉄器具収容箱	二	一	二	三三	六六
〃予備品	二	一	二	三三	六六
〃卸万	二	一	二	三七	七四
〃大ロ	二	一	二	一七	三四
〃気蓄圧	六	一	六	三三	一九八
噴焔器	七	三	一	一七	一一九
乗座修正機	一	一	一	一一	一一
直流電圧計	二	一	一	六〇	一二〇
蓄電池検査器	二	一	一	七〇	一四〇
自在スパナ	一				

品目	員数	一梱入数	梱数	単重量	総重量
自在スパナ	一				
〃	一				
〃	一				
組スパナ	一				
金剛砥石柳型	四				
〃 平型	四				
油砥	一				
歯鉗	七				
斜刃断鉄器	一				
円ペンチ	一				
断鉄器	二				
鉄切鉄	一				
小鉄切鉄	一		一		五〇
反鉄切鉄	一				

アジア歴史資料センター

1434

小叉鉄切鋏	一				
伸縮弦鋸	四				
小目打	四				
中 鑿	一〃				
柄付螺廻 大	七				
〃 中	六				
〃 小	三				
ソケット用柄付螺廻	一				
火盤陀鏝	一				
中 〃	一				
小 〃	一				
五斜向鏨	二		一	五	一〇
火口鉛	二〇				三〇
小口鉛	一				三〇
火口銅	二〇				三〇
小口銅	一				二九

火薬研台	一				
小 〃	一				
小仕上鑿	五				
均台（大中小各）	一				
中平鉗	一		一		四 一
小平鉗	一				
火円鉗	一				
小円鉗	一				
鷺鉗	一				
深度測定器	一				
遊標尺	六				
内測用測微尺	一				
鋼尺 火	四				
〃 小	四				
台付鋼尺	一				
火曲定規	四				

アジア歴史資料センター

1435

平行画線規	五		一		二ロ
内径規大	五				
〃 中	四				
〃 小	六				
外径規大	五				
〃 中	四				
〃 小	六				
両脚器	六		一		六ロ
一米鋼尺	一				
ピッチゲージ	一二				
鋼鑢	四				
ゴム鑢	四				
大鑢	二				
比重計	二				
油差	六				
各種鑢十七種各	一				

仝 柄各	一				
鑢目掃	五				
大平鏨	二		一		八ロ
中 〃	二				
小 〃	一				
大溝鏨	二				
中 〃	二				
小 〃	一				
大座鏨	一				
円圧台鉄大小各	一				
溝圧台	一				
九十度鉄床	一		一	九五	九五
中定盤	一		一	五ロ	五ロ
万能万力	二一		二一	二三	二五三、
平行万力	二ロ		一ロ	四六	九二ロ
栓抜大中小各	一				

極付ラッチ各	一						
ピンセット	二						
手万力	一						
取付鎖孔機	二	一	二				
蜂巣各	一	一	一	一	一		
總計			七六		一二〇	六〇〇	七五六四枚

アジア歴史資料センター

弾命第二号

野戦弾薬廠命令　　十三日二三、四〇
　　於本部

一、弾薬廠ハ明十四日小城子ニ支廠ノ一（第二支廠ト命名ス）ヲ開設シ甲、乙両兵站ノ弾薬ノ補給ニ任セントス

二、第二支廠長ハ豫定ノ編成ヲ以テ明十四日ヨリ小城子ニ速ニ支廠ヲ開設スヘシ　勤務隊三分ノ一ヲ配属ス

三、人員及整備スヘキ兵器ノ輸送ニ関シテハ別命ス

四、第二支廠ノ宿営給養、警備等ニ関シテハ甲兵站司令部ノ区署ヲ受クヘシ

五、余ハ本部ニアリ

弾薬廠長

下達法　口達筆記セシメ後印刷配布ス
第一支廠ニハ印刷送付ス

アジア歴史資料センター

武命第二號

第一軍野戰武器廠命令

十月十四日二〇時
於小綾芥野戰武器廠

一、敵狀、友軍ノ企圖（略）

二、武器廠ハ依然前任務ヲ續行セントス

三、第二支廠ハ小城ヲ二支廠ヲ開設シ十五日ヨリ甲、乙兵站ノ補給ニ任スヘシ

勤務隊一ヶ小隊ヲ屬ス

宿營警備及給養ニ關シテハ甲兵站司令部ノ區署ヲ受クヘシ

人員、器材ノ輸送ニ關シテハ別命ス

四、東倉庫ハ業務ノ完了ト共ニ本部ニ合スヘシ

アジア歴史資料センター

細部ハ別命ス

一、自動車小隊ハ小終末ー小城子間ノ輸送ニ任スヘシ

二、余ノ諸隊ハ前任務ヲ續行スヘシ

三、予ハ小終末ニ在リ

野戰武器廠長

小城子―小綏芬間輸送計画

日次	14日		15日		16日		備考
品目	第一次輸送	第二次輸送	第一次輸送	第二次輸送	第一次輸送	第二次輸送	
摘要	余綽武ノ為行人員並ニ設備我料	通信我料一小隊分	東部通信我料一小隊分	通信我料一小隊分	東部通信我料一小隊分	銃器糸小隊分移動修理班	文官次後ハ追ヲ示ス
	午前六時小綏芬出発 通訳人員ハ徒歩	筆時刻ハ其都度示ス	午前五時出発		筆時刻ハ其都度示ス		

1440

アジア歴史資料センター

1441

武命第三號

小城子文廠ニ與フル命令要旨

十月十七日午後五時
於小城子野戰武器廠

一、小城子文廠ハ本十七日中ニ東寧ニ移轉スヘシ

位置其他ニ關シテハ直接同地兵站司令部ト連絡スヘシ

二、移轉ノ爲自動車一小隊ヲ協力セシム

野戰武器廠長

下達法

電話 後印刷配布

アジア歴史資料センター

1442

彈命第三號

彈藥廠命令

十月十七日 五〇〇
於彈藥廠本部

一、第二支廠ハ十七日中ニ小城子ヨリ東寧ニ移轉スヘシ

二、東寧ニ於ケル開設位置、宿營、警備等ニ關シテハ甲兵站部ノ區署ヲ受クヘシ

三、小綏芬ヨリ東寧ニ至ル間ニハ十八日中ニ輕便鉄道開通ノ予定ナリ

四、本ハ小綏芬彈藥廠本部ニアリ

野戰彈藥廠長

下達法
電話 後即刻配布

アジア歴史資料センター

其七

野戰自動車廠

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠命令

十月十一日
於小綏芳本部

一、敵情（略）

軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主力ヲ以テ「ストルゴフカ」西方地区ニ一部ヲ以テ「プリルキ」ニ向ヒ前進ス

軍兵站線ハ左ノ線ニ設定セラルヽ筈ナリ

甲兵站線　小綏芳ー小城子ーボルタフカ

乙兵站線　小綏芳ー河沿ー洞野山

丙兵站線　綏芳河ーセルギエフスキ

二、野戦自動車廠ハ軍ノ「ガリヨニカ」附近ノ會戦ニ遺憾ナカラシムルト共ニ爾後ノ追撃ニ應スル如ク準備セントス

三、各部ハ別紙編成表ニ基キ開設若ハ出發ノ準備ニ着手スヘシ

其位置等ノ詳細ハ別ニ示ス

四、甲兵站線出張所及移動修理班集一、第二班ハ甲兵站司令官ノ指示ニ從ヒ開設スヘシ

アジア歴史資料センター

五、燃料、補給日量次ノ如シ（倉庫部ヨリ発送スヘシ）

但シ乙及丙ノ鉄道線ハ十三日ヨリ発送スヘシ）

甲　鉄道線　第三師団ノ分　ロ、三二

混成旅団ノ分　三、九大

乙　奥鉄線　〃　一五

丙　奥鉄線　〃　一八

騎兵旅団　〃　四七

六、陸上勤務隊ハ現任箇ノ續行スヘシ

七、後備歩兵二個隊ハ廠ノ警戒ニ任スヘシ

細部ニ関シテハ別ニ示ス

野戦自動車廠長　亀岩少佐

伝達法

指揮官（長）ヲ基ノ口達シ後印刷交付ス

野戰自動車廠編成表 第一

階級＼区分	計	本部 倉庫部	工場部	補充廠	出張所	摘要
大佐	廠長一	一				
中少佐	二	一				
小佐(大尉)	六	二	一			
大中少尉	一八	九	三	一		
曹長軍曹伍長	六	四	一			書記(総数)一八
上(一)(二)等兵	二一五	一一五	九五	五	五	
計	二六七	一〇五	九五	五	一〇	
主計尉官	二	二				
主計下士官	四	一	一			
軍醫尉官	一	一				
衛生下士官	三	一				
衛生兵	三	一				
鍛工下士官	二一	一				
木工下士官	三					
機工下士官	九	一	六	一	一	
電工下士官	六					
計	五二	八	一一	三五	四	
合計	三一九	四三	一〇六	一四〇	一六	一四
鍛工	七			七		
熔接工	二			二		
職 工	一四〇			一〇〇	二〇	二〇
電機工	六			六		
塗工	二			二		
護謨工	二			二		
幌工	三			三		
木工	三		三			
計	一六五	一〇	一二五	三	二〇	二〇
總計	四八四	四三	一〇六	二六五	三六	三四

備考

自動車千二一五名中二八ハ整工兵二亂不兵ノ特業者ヲ含ムモノトス(本部付トス)
本部ニ乘用車一貨車二側車一ヲ屬ス
本表ニ基ヅキ別ニ區分毎ニ姓名車輛番號ヲ決定シタル編成表ヲ製作スルモノトス

野戰自動車廠移動修理班編成表 第二

階級 / 區分	第一班	第二班	第三班	第四班	總計	摘要
少佐(大尉)	班長 一				四	
大(中)尉	三	同	同	同	一二	
准尉	一				四	
曹長	一	上	上	上	四	
軍曹(伍長)	一	上	上	上	四	兵村戰給養制 七
上(一)(二)等兵	二五〇				一〇〇〇	
計	二六五	二六五	二六五	二六五	一〇六〇	
主計下士官	三				一二	
軍醫尉官	一	同	同	同	四	
衛生兵	六				二四	
鍛工下士官	三				一二	
木工下士官	一				四	
機工下士官	一	上	上	上	四	
電工下士官	一				四	
計	一六	一六	一六	一六	六四	
合計	二八一	二八一	二八一	二八一	一一二四	
自動車手	二五〇				一〇〇〇	

自動車區分	側車	自動貨車	輕修理車組	重修理車組	乘用車	總計
	六	一二	(一三)	(六)	四	五三一
	同	上	同	同	同	五三一
	上	上	同	同	同	五三一
	上	上	(三四)	(三四)	一六	五三一
	二四	四八	(四八)			二一二四

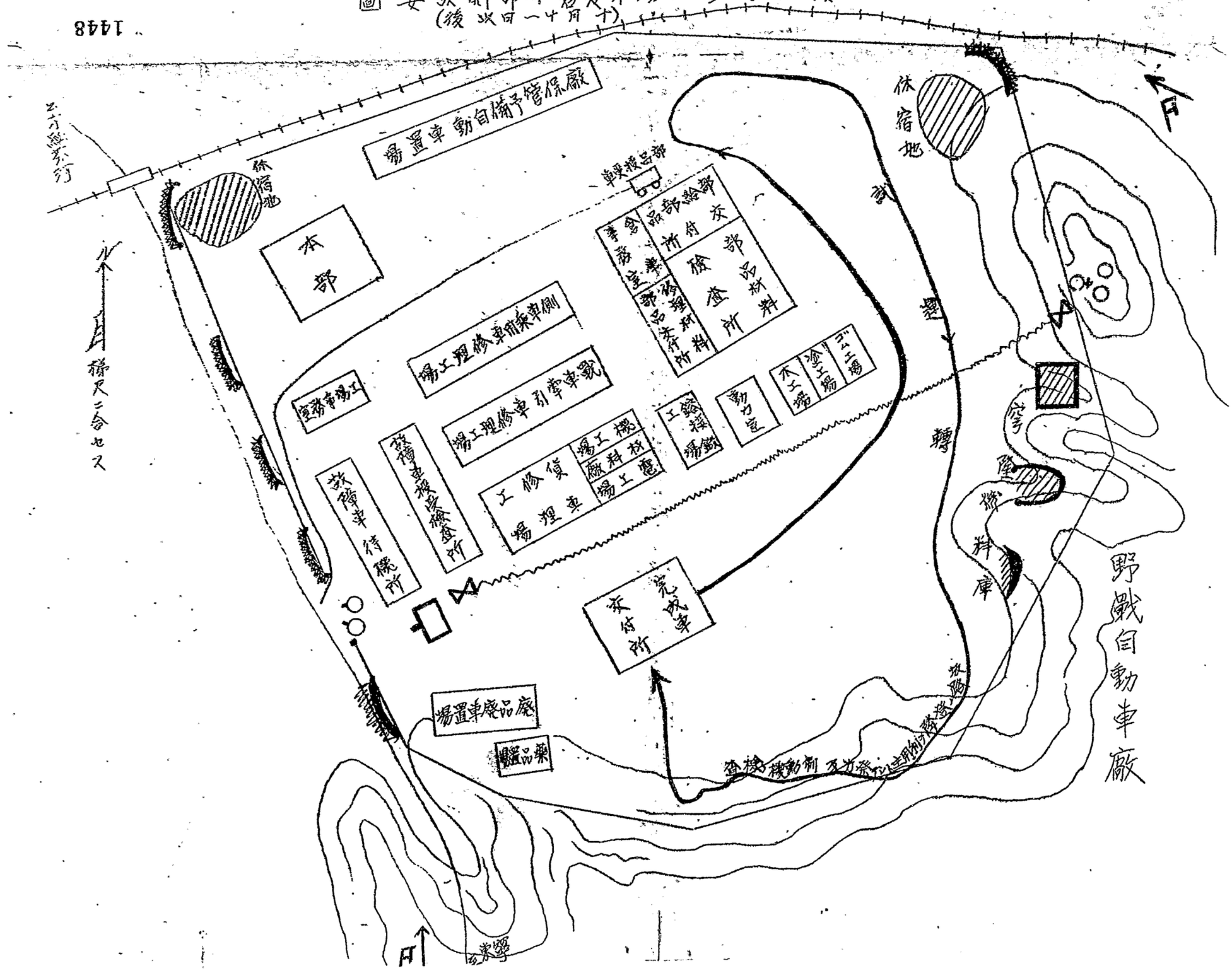
分業者及工務兵	計
鍛工兵	(六六)
木工兵	(一二)
組立工兵	(一〇八)
電機工手	(六)
機関工手	(一八)
計	二五〇
自動車手	二五〇

備考

本表二基ツキ別二班毎二姓名車輛番号ヲ決定シタル編成表ヲ製作スルモノトス

アジア歴史資料センター

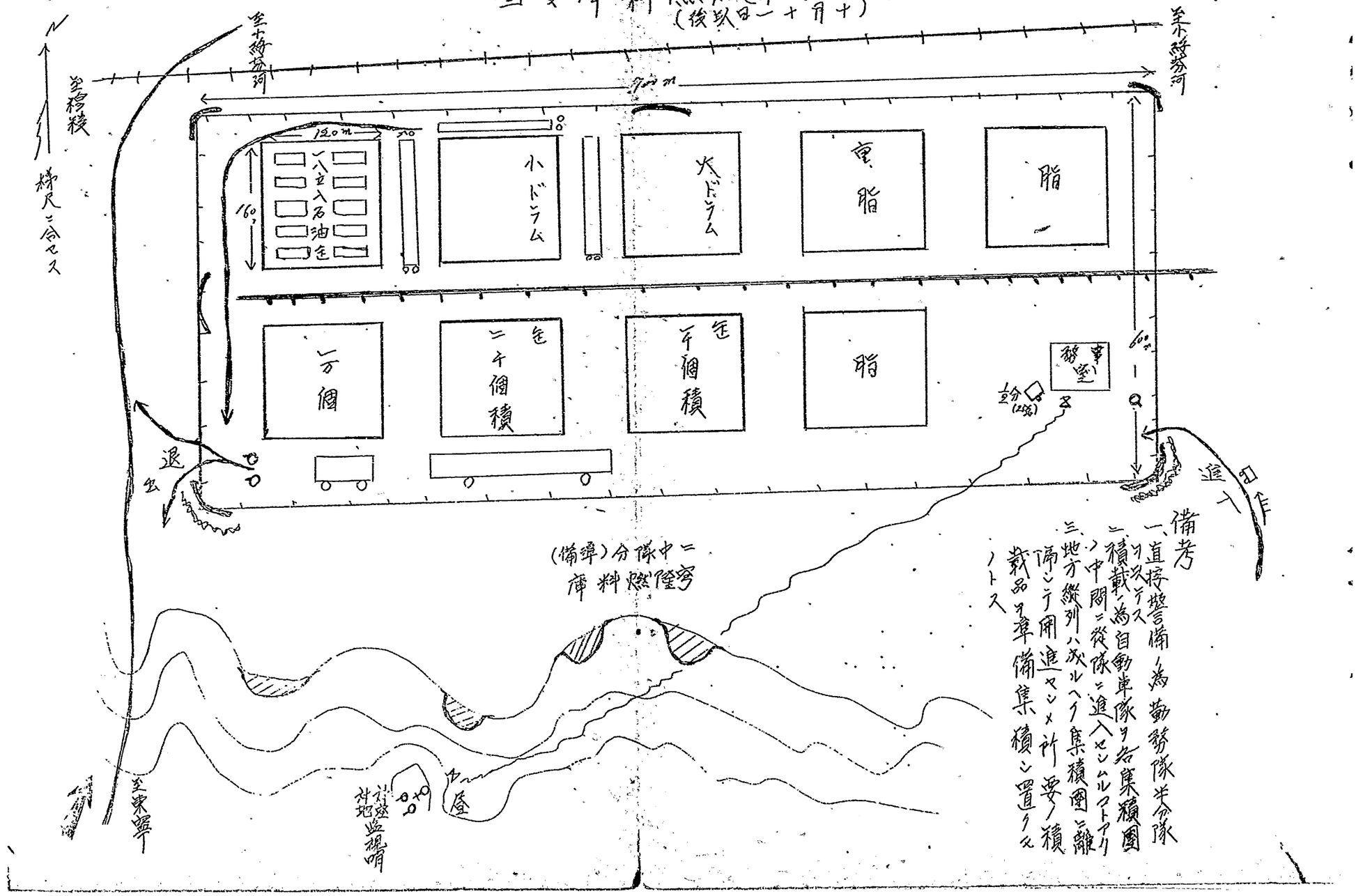
小倉陸軍造兵廠部工場部倉庫部開設要圖
(十月十一日以後)



アジア歴史資料センター

小銃第何野戦自動車燃料庫要圖

（後以日一十月十）



備考

一、直接警備ノ為勤務隊半分隊ヲ以テス

二、積載ノ為自動車隊ヲ各集積圖ノ中間ニ從隊ニ進入セシムルコトアリ

三、地方縦列ハ成ルヘク集積圖ニ離隔シテ用進ヤシメ所要ノ積載品ヲ準備集積シ置クヘシ

アジア歴史資料センター

極秘

部隊名	車輛通分	岩翼3D方面	獨立混成旅團	兵站自動車中隊	計	中央1D方面	翼之D方面	軍直轄部隊	合計
乘		6	172	42	220	7	5	24	256
側		18	131	150	299	17	15	66	377
貨		49	763	1290	2102	19	89	125	2295
牽引貨		16	13		29	5	16	8	58
裝甲		17	78		95	17	17		129
戰車			85		85				85
牽			36		36				36
其他			34		34			15	49
聯絡		4	29	9	42	2	4		48
電話			1		1				1
計	合	114	1373	1500	2987	69	110	238	3404

アジア歴史資料センター

統帥官所見

一、第四項中ノ諸隊ハ甲兵站司令官ニ配属セラレアルモノナルヲ以テ指示ニ従ヒ開設スヘシ」ハ適當ナラス

二、第五項中發送ノ文字ハ不要ナリ

戰一

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠綏芳河支廠命令　十月十一日午後三時　於綏芳河兵部

一、敵情（略）

軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主力ヲ以テコストルコフ辺西方地区ニ一部ヲ以テコプルリキニ向ヒ前進ス

軍兵站線ハ左ノ線ニ設定セラルヽ筈ナリ

甲兵站線　小綏芳河――小城子――ポルタフカ

乙兵站線　小綏芳河――河沿――洞野山

丙兵站線　綏芳河――セルキエフスキ

二、野戦自動車廠ハ軍ノ「カリヨンカ」附近ノ会戦ニ遺憾ナカラシムルト共ニ尓後ノ追撃ニ応ズル如ク準備ス

綏芳河支廠ハ諸材料ヲ貨車搭載シ明十二日午前七時小綏芳河ヲ出発シ綏芳河ニ前進セントス

三、貨車搭載ニ関シ次ノ如ク担任スヘシ

A大尉　材料（有蓋一輛）　重修一組（無蓋三輛）

B中尉　燃料（有蓋二輛）

C少尉　停車場部員ト協議連絡

アジア歴史資料センター

四、貨車搭載ハ午後四時開始シ午後五時三十分迄ニ完了スヘシ

下士官以下ノ任務使用区分ハ追ツテ示ス

五、予ハ午後四時搭載場ニ在リ

第一軍野戦自動車廠鉄道班支廠長　某少佐

傳達法

下士官以上ヲ集メ口達ス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、支廠開設準備ノ為所要ノ機関ヲ先遣スルヲ要ス

二、人員ノ輸送ヲ如何ニスルヤヲ示スヘシ

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠第一移動修理班開設命令（十月十日午前九時後小営子北端）

先頭小隊ハ小営子北端附近（現地ニテ指示ス）ヲ右翼トシ南面シテ開進
爾餘ノ小隊ハ行軍序列ニ従ヒ先頭小隊ノ後方約五〇米ヲ開進シテ作業開
始ノ準備ヲ為スヘシ

班長　某大尉

傳達法

小営子ニ於テ到着スル小隊毎ニ口達指示ス

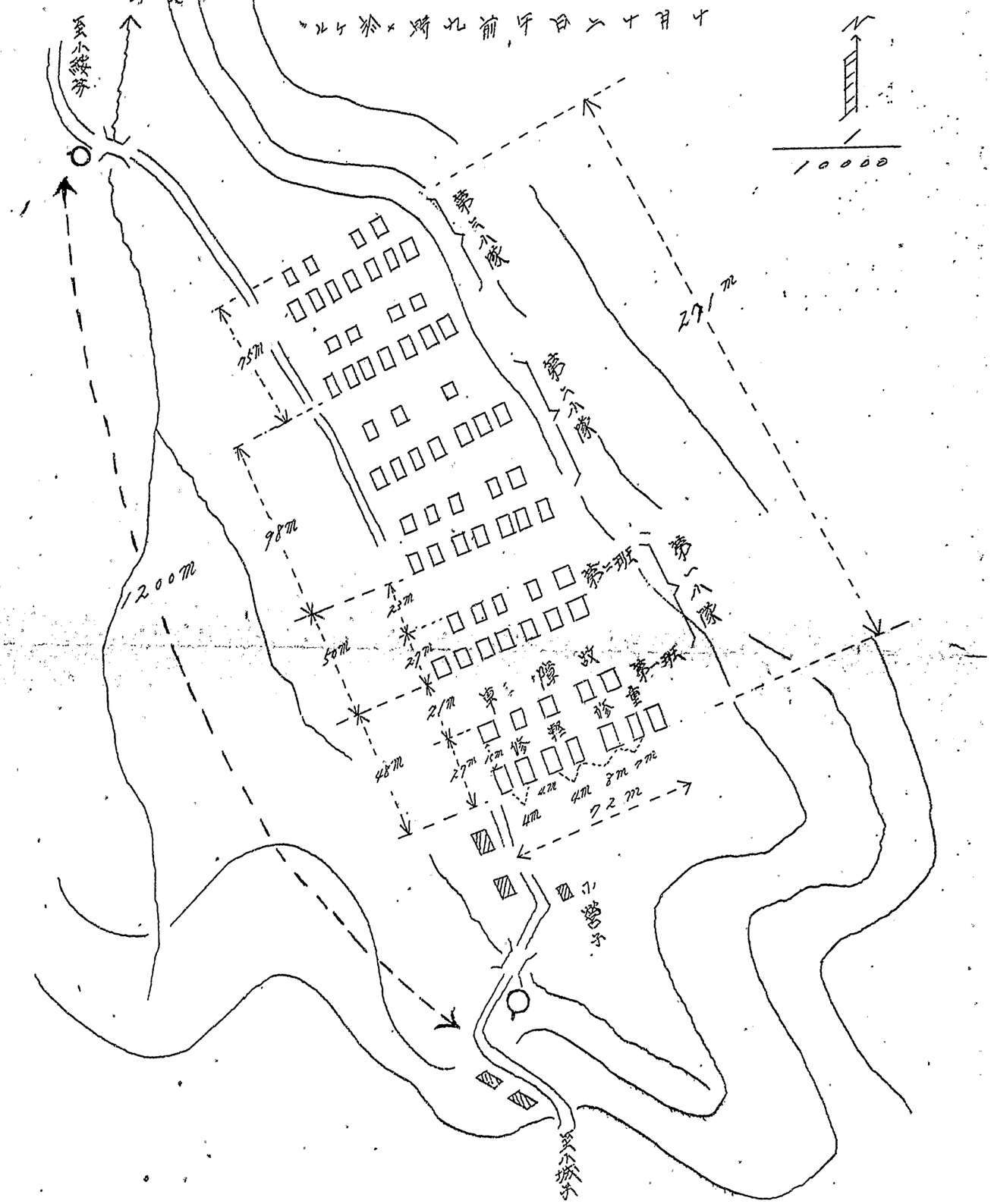
備考

以上ノ開設命令ヲ要図ニ示セハ別紙ノ如シ

アジア歴史資料センター

小營子附近第一軍野戰自動車廠第一修理班行動概要圖

十月十六日午前九時ヨリ於ケル



アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、全部ヲ開設スルノ要ナシ
然レトモ全部ヲ開設スルトセハ地域狭少ナリ
二、命令文トシテハ不備ノ點多シ
左ノ如クシ細部ハ現地ニ於テ指示スルヲ可トス
イ、概　況……
ロ、第一修理班ハ……
ハ、本部ハ……
ニ、第一小隊ハ……
ホ、……

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠第三移動修理班
出発命令

十月十三日午前六時
於リ城子

一、敵情（略ス）
軍ハ本日敵主陣地ニ近迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「カリヨンカ」ノ「ウオジアストコーボ」ノ線ニ末地ヲ
推進シ前任務ヲ續行ス
二、第三班ハ「ポクロフカ」ニ向ヒ前進ス
三、各小隊ハ現在作業中ノ故障車ヲ小城子支廠ニ引續キ出発準
備ヲ為スヘシ

班長 某 大尉

傳達法
各小隊長ヲ集メ口達ス
備考、出発準備完了セシ頃（午前八時頃）小隊ノ順序ヲ示
シ出発ヲ令ス

統裁官所見

一、第三項

支廠ヘノ引續ハ統一シテ行フヲ可トス

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠小城子支廠命令　十三年午前九時於小綾芬河

一、敵及友軍ノ状況（略）

甲兵站線ハ其端ホラ（セルキエズキレニ進伸セリ

第一移動修理班ハ小営子

第二移動修理班ハ包ルキエフスキ」

第三移動修理班ハ小城子

ニ到着シアリ

二、小城子支廠ハ午後三時出発小城子ニ向ヒ前進セントス

三、A大尉ハ第四自動車隊第十四中隊長ト連繋シ午後三時迄ニ部品材料ヲ積載シ出発準備ヲ完了スヘシ

四、B中尉ハ陸上勤務隊ニ分隊ヲ指揮シ積載ヲ援助スヘシ

細部ニ関シテハ別ニ指示ス

五、予ハ午後三時支廠集合場ニアリ

第一軍野戦自動廠小城子支廠長　某少佐

傳達法

下士官以上ヲ集メ口達ス

アジア歴史資料センター

小城子支廠編成表

支廠長　某少佐

A　大尉
B　中尉
C　少尉

曹長　一
軍曹　一
伍長　一
上(二)等兵　五
主計下士　一
衛生下士　一
衛生兵　一
技工長　一
計　一六

職工　二〇

合計　三六名

綏芬河支廠、甲兵站線出張所ノ增加スヘキ
工具、予備品、材料

	綏芬河支廠	甲兵站線出張所
工具	別表ノ通リ	別表ノ通リ
豫備品	自動貨車豫備第二種	仝上第一種
	乘用自動車豫備品第二種	仝上第一種
	側車附自動二輪車豫備品第二種	仝上第一種
	牽引自動車豫備品	仝上
修理材料	第二種修理材料	第一種及第三種修理材料ニ

アジア歴史資料センター

野戦自動車廠命令　十三日・正午
於小綾芬

某方佐ハ別紙小城子支廠編成表ニ基キ支廠ヲ編成シ小城子附近ニ至リ甲兵站司令官ノ隷下ニ入ルヘシ
重修理自動車一組ヲ附ス
携行スヘキ工具ハ甲兵站線出張所ノモノニ同シ（別表ノ通リ）携行豫備品ハ貨車、乗用車側車共ニ第二種豫備品トス
修理材料ハ第一種及第三種ヲ携行スヘシ

亀谷方佐

傳達法
某方佐ヲ以テ口達ス

小城子支廠編成表

長　某方佐
部員　某大尉　某方尉　某書長　某軍曹

アジア歴史資料センター

某伍長上等兵以下某々五、主計下士官、某衛生
下士官、某衛生兵、某機工下士官某發動機士其以下
二〇名　總計　三六名

野戰自動車廠命令　十三日正午
於小銃前

第三移動修理班ハ即時玄發小城子附近ニ至リ甲兵站司令官ノ
隷下ニ入ルヘシ

傳達法

亀谷少佐

班長ヲ呼ヒテ口達ス

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠第一移動修理班
出發命令

十月十四日午後六時
於小營子

一、敵情（略ス）
軍ハ本日敵主陣地ニ近迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「カリヨンカ」「ノーヴオジアストフーホ」ノ線ニ未地ヲ推進シ前任務ヲ續行ス
二、班ハ明十五日午前七時出發「ポクロフカ」ニ向ヒ前進セントス
三、某中尉ハ部下兵卒二名ヲ率ヒ適時出發「ポクロフカ」ニ至リ關係部隊ノ情況及明日開設地ノ偵察ヲ行ヒ午後六時迄ニ歸還報告スヘシ
四、各小隊ハ現在作業ヲ成ルヘク速ニ完成シ明十五日午前七時出發隊形ニ在ルヘシ

班長　大尉　某

傳達法
某中尉及各小隊長ヲ集メ口達ス

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠ポクロフカ出張所
開設命令

十月十四日午前十時
於ポクロフカ西場

一、敵情（略ス）

軍ハ本日攻主陣地ニ迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス

軍兵站ハ「ポクロフカ」「グリヨンカ」「ノーヴオジアストコーボ」ノ線ニ来

地ヲ推進シ前任務ヲ續行ス

甲兵站ハ来地ヲ「ポクロフカ」ニ推進セリ

二、當出張所ヘ別紙要図ノ如ク開設シ作業ニ從事スヘシ

大尉某

下達法

廠務掛、部品材料掛、燃料掛、組立工場掛ヲ集メ口達ス

備考、要図ハ（別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示シタルモノニ同シ）

アジア歴史資料センター

第一軍歩戦自動車廠第二移動修理班ポクロフカ」十月十四日正午
附近ニ於ケル開設命令
於ホクロツカ西端

一、敵情（略ス）

軍ハ本日敵生陣地ニ迫迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「カリヨンカ」「ノーヴォジアストコーボ」ノ線ニ来地ヲ推進シ前任務ヲ續行ス
甲兵站ハ来地ヲ「ポクロフカ」ニ推進セリ
當地西端ニハ「ポクロフカ」出張所アリ

二、當班ハ之ヨリ當所ニ開設シ作業ニ從事スヘシ

大尉某

下達法

現地ニ於テ各小隊長ニ口達ス

備考、要図ハ別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示セルモノニ回シ

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠第一移動修理班
「ポクロフカ」附近ニ於ケル開設命令

十月十五日正午
於ポクロフカ西端附近

一、敵情（略ス）

軍ハ本日敵主陣地ヲ攻撃中ナリ
甲兵站ハ朱地ヲ「ポクロフカ」ニ開設シアリ
當地西端ニハ「ポクロフカ」出張所及第二移動修理班アリ

二、當班ハ當地ニ別紙要圖ノ如ク開設シ作業ニ従事スヘシ

大尉　某

下達法

現地ニ於テ各小隊長ニ口達ス

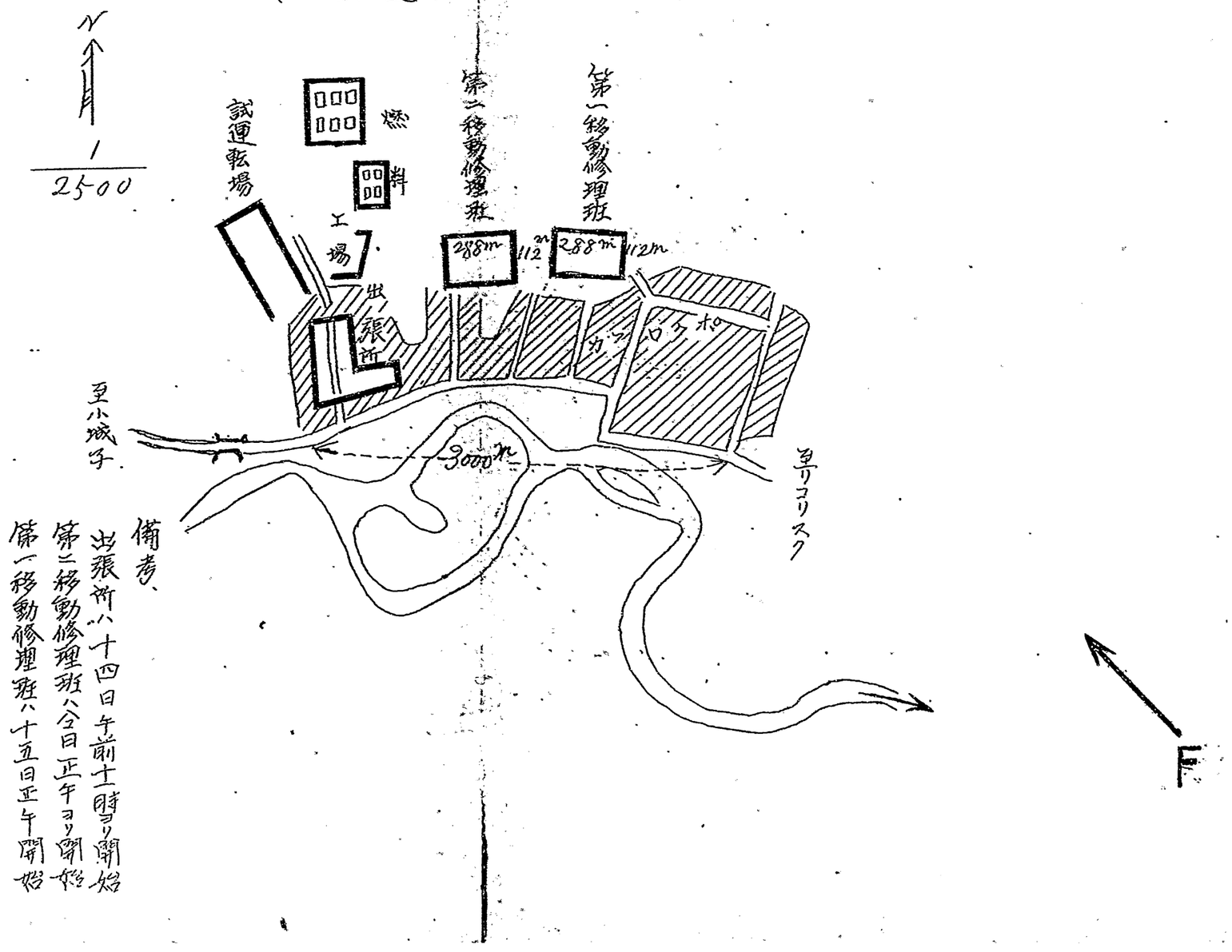
備考、要圖ハ（別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示シタルモノニ同シ）

アジア歴史資料センター

1469

第一軍野戰自動車廠一出張所ノ移動修理班開設要圖(其一)

(十月十八日午前六時カオワクポ附近ニ於ケル)

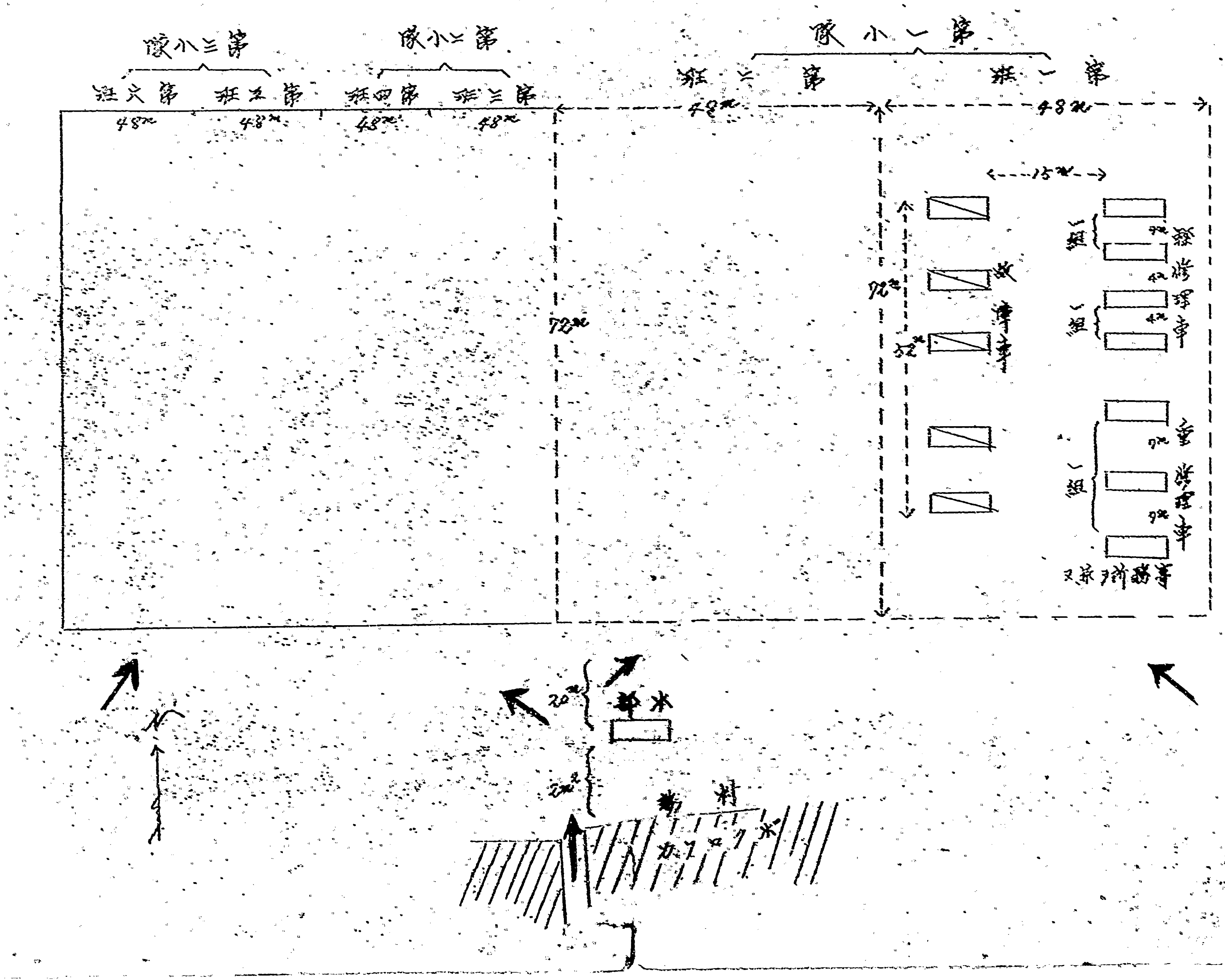


備考、

出張所ハ十四日午前十時ヨリ開始
第二移動修理班ハ今日正午ヨリ開始
第一移動修理班ハ十五日正午開始

アジア歴史資料センター

(其二) 移動修理班開設要領圖



アジア歴史資料センター

1471

(其三) 出張所開設要領圖

ポクロフカ西端附近

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠ポクロフカ出張所
開設命令

十月十四日午前十時
於ポクロフカ西場

一、敵情（略ス）
軍ハ本日ノ主陣地ニ進迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「グリヨンカ」「ノーヴオジアストコーボ」ノ線ニ来
地ヲ推進シ前任務ヲ續行ス
軍兵站ハ来地ヲ「ポクロフカ」ニ推進セリ

二、當出張所ハ別紙意図ノ如ク開設シ作業ニ從事スヘシ

犬飼某

不達法
廠務掛、部品材料掛、燃料掛、組立工場掛ヲ集メ口達ス

備考、要図ハ（別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示シタルモノニ同シ）

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠第二移動修理班ポクロフカ」
附近ニ於ケル開設命令

十月十四日 正午
於ホクロフカ西端

一、敵情（略ス）

軍ハ本日敵主陣地ニ迫迫シ爾後ノ攻撃ヲ準備ス
軍兵站ハ「ポクロフカ」「ガリヨンカ」「ノーヴォジアストコーボ」ノ線ニ来地ヲ推進シ前任務ヲ續行ス
甲兵站ハ来地ヲ「ポクロフカ」ニ推進セリ
當地西端ニハ「ポクロフカ」出張所アリ

二、當班ハ之ヨリ當所ニ開設シ作業ニ從事スヘシ

大尉某

下達法

現地ニ於テ各小隊長ニ口達ス

備考、要図ハ別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示セルモノニ同シ

アジア歴史資料センター

1474

第一軍野戦自動車廠第一移動修理班
「ポクロフカ」附近ニ於ケル開設命令

十月十五日正午
於ポクロフカ西端附近

一、敵情（略ス）
軍ハ本日敵主陣地ヲ攻撃中ナリ
甲兵站ハ朱地ヲ「ポクロフカ」ニ開設シアリ
當地西端ニハ「ポクロフカ」出張所及第二移動修理班アリ
二、當班ハ當地ニ別紙要圖ノ如ク開設シ作業ニ従事イヘシ

大尉某

下達法
現地ニ於テ各小隊長ニ口達ス
備考、要圖ハ（別紙十月十八日午前六時ニ於ケル情況ヲ示シタルモノニ同シ）

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠一出張所、二移動修理班開設要圖(其一)

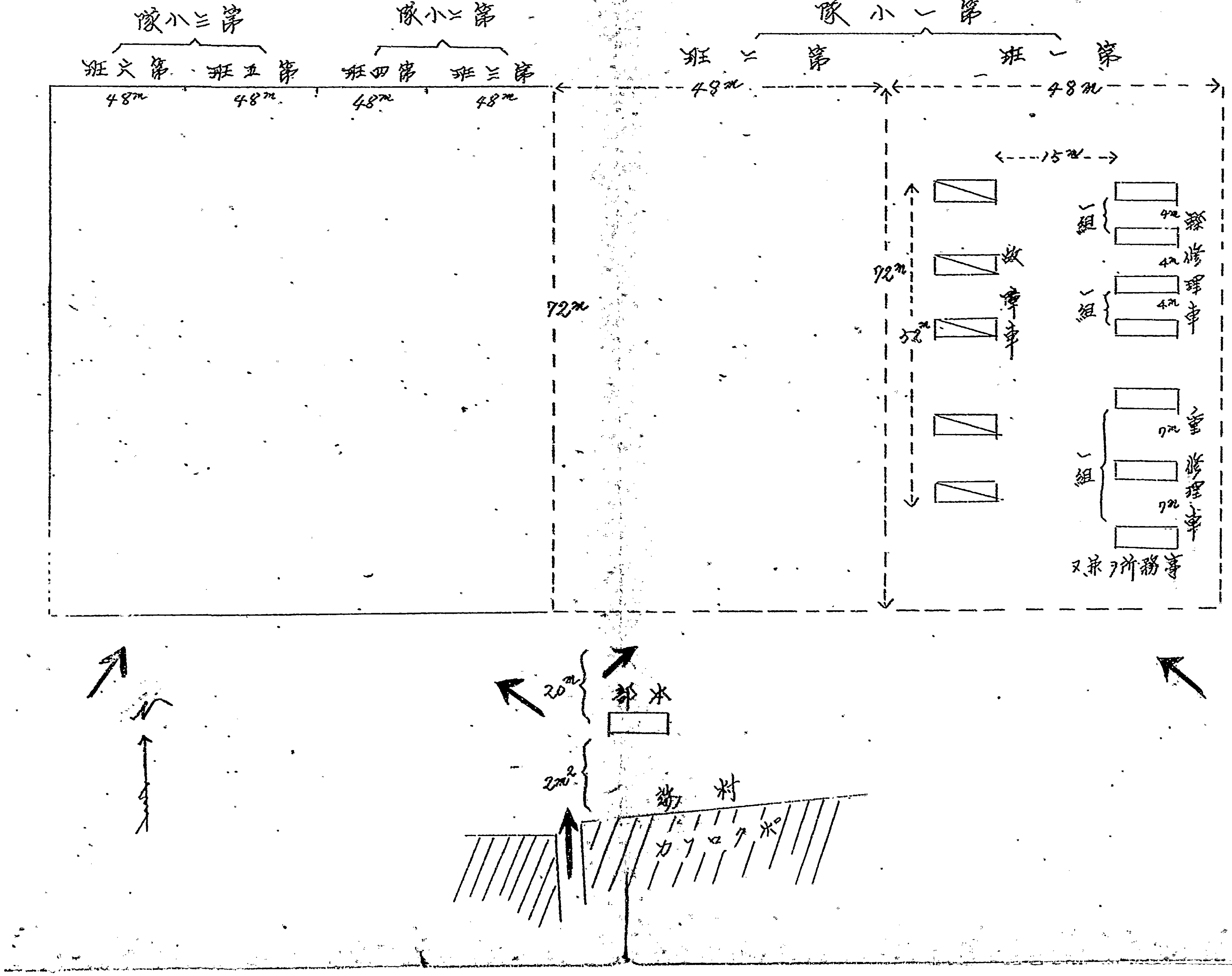
(九ケ所ニ近附カアロクポ時六前午日八十月十)

備考、
出張所八十四日午前十時ヨリ開始
第二移動修理班八今日正午ヨリ開始
第一移動修理班八十五日正午開始

アジア歴史資料センター

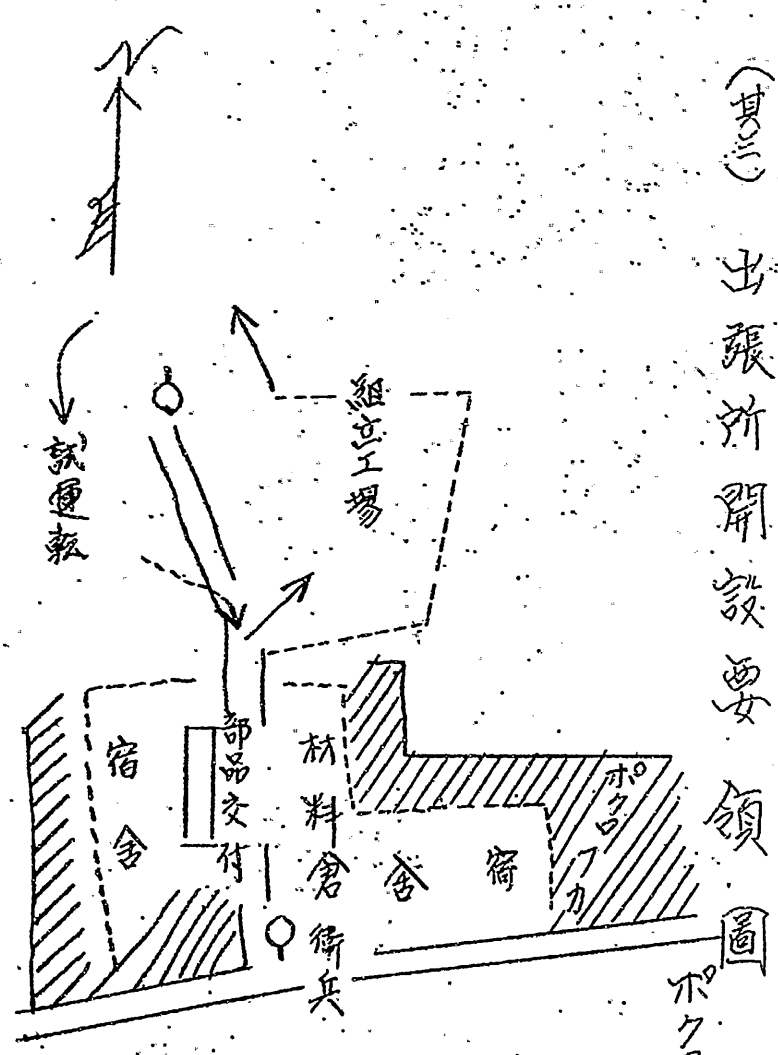
1476

（其二）移動修理班開設要領図



アジア歴史資料センター

（其三）出張所開設要領圖



ポクロフカ西端附近

アジア歴史資料センター

第一軍野戦行動準備ノ為支廠命令

十月十四日午後四時三分於小城

一、我軍ハ有利ニ發展シアリ
兵站ハ軍ノ戰闘ヲ有利ニ進展セシムルコトニ遺憾ナキヲ期ス
二、支廠ハ別紙要圖ノ通リ開設セントス
三、廠内各所任務割左ノ如シ
A、大尉　工場部　某軍曹　各二　機工長　工員二ロ
B、中尉　倉庫部　某伍長　一　衛生下士　衛生兵
C、少尉　庶務　書記一　二
四、予ハ支廠本部ニアリ

第一軍野戦行動準備ノ為支廠長　某少佐

傳達法

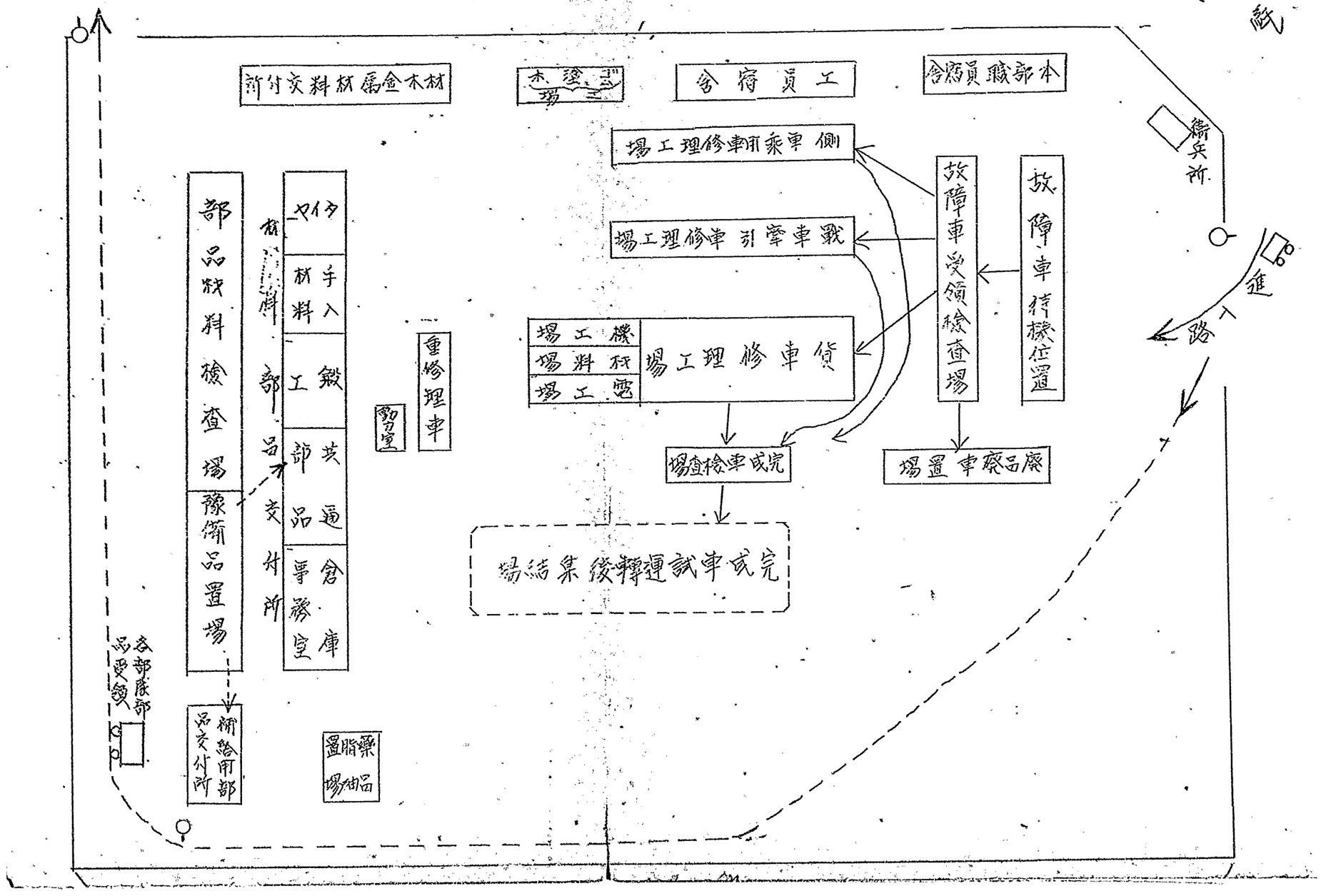
下士官以上ヲ集メロ達ス

1478

アジア歴史資料センター

第一軍合小城支廠開設要圖
（十月十四日ニ於ケル）

別紙



アジア歴史資料センター

1480

統裁官所見

一、試運轉場ハ何處ナルヤ

アジア歴史資料センター

意見具申

十月十七日　野戦自動車廠長

軍兵站監殿

一、目下小綬芬ニハ移動修理班一班残置シアリ至急第三師團方面ヘ派遣スルヲ可トセスヤ

二、綬芬支廠ハ敵ノ爆撃ヲ受ケタル後殆ント其ノ機能ヲ停止シアリ同支廠ハ重修理車ヲ有シ尚ホ其他ノ器具材料ヲ有シアルヲ以テ人員ヲ補充シテ作業ヲ開始セシムルカ或ハ引キ上クルカノ處置ヲ取リ度シ

以上

傳達法

電話ニテ具申ス

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠小城子支廠命令　十月十八日三時　於小城子

一、軍ハ主力ヲ以テ蒲塩ニ一部ヲ以テ「ストパス」ニ方向ニ敵ヲ追撃中ナリ
軍兵站ハ依然軍ノ追撃ニ追随ス
第一、第二移動修理班及野戦自動車廠出張所ハ「ホタロフカ」ニアリ
支第三移動修理班ハ兵站司令官ノ指揮下ニ移レリ
二、支廠ハ本十八日午前七時小城子ヲ出発シ東寧ニ向ヒ前進セントス
三、A火廠ハ某軍曹ヲ指揮シ午前六時支廠ニ到着スル兵站向動車第十三中隊第一小隊ノ四輌ニ諸材料ヲ搭載スヘシ
四、予ハ午前六時集合場ニ在リ

第一軍野戦自動車廠小城子支廠長　某少佐

傳達法

下士官以上ヲ集メ口達ス

統裁官所見

一、支廠ノ偵察ヲ命スルヲ要ス

二、人員ノ出發ニ関シ命令スルヲ要ス

アジア歴史資料センター

第一軍野戦自動車廠東寧支廠命令　十月十八日　於東寧　八時

一、敵情及友軍ノ状況ニハ変化ナシ

二、支廠ハ現在地ニ於テ速ニ開設セントス

三、各部ハ依然分担任務ヲ続行スヘシ

四、予ハ現在地ニアリ後刻東寧兵站部ニ連絡ス

第一軍野戦自動車廠東寧支廠長　某少佐

傳達法

下士官以上ヲ集メ口達ス

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、如何ニ開設スルヤヲ命スルヲ要ス

アジア歴史資料センター

自十月十一日至十月十九日 第一軍野戦自動車廠行動概況表

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
小紋芬河	貸8(10日開城) 貸11(12日)						貸10		
1イ		小紋芬河 40粁 貸乗側 60/10	小牡子	小碧子		ホラアフ	3イ		
2イ		(小紋芬河)合上	小城子 貸乗側 80/30	貸1		ホラアフ			
3イ			貸乗側 80/30			ホラアフ			
4イ		合上	ボル タフカ			ホラアフ			
5イ			(小紋芬河) 午后3時	貸8			小城子 →晴	来着	
6イ							小紋芬河		
修経自動車数	79	90	108/130	135	18		10		

備考

貸ハ貨車
乗ハ乗用車 }ヲ示ス
側ハ側車

→ハ么發ヲ示ス

修車 貸 269
乗 36
側 70

アジア歴史資料センター

藍国第一軍燃料所要日量一覧表

戦利部隊	燃料単位㍑	兵站部隊	燃料単位㍑
軍司令部	一、一四	第一兵站監部	〇、三三
〃10	一、〇五	兵站司令部	〇、二六
〃20	一、〇五	兵站通信隊本部	一、八九
〃30	一、〇五	第一第三兵站通信隊	
独立混成第旅団	七六、七七	第十兵站警備隊通信中隊	
独立速射砲第一大隊	四二六	第一第八兵站輜重兵隊本部	〇、七二
戦車第一聯隊	一四、一九	第一兵站自動車隊本部	〇、三〇
独立軽装甲車第一二三中隊	五、一三	〃 修理隊	一、七四
1KB	一五、〇〇	第一第八兵站自動車中隊(イスズ)	一八、〇〇
軍砲兵司令部	一、〇二	第一兵站自動車本部	〇、三〇
野戦重砲	二四、七五	同 修理隊(ニッサン)	一、七四
同(ナ)	一五、一二	第七第十第十二兵站自動車中隊(ヒ)	一六、五六

アジア歴史資料センター

第一野戦高射砲隊(甲)	八、七〇	第一兵站自動車隊	一八、六〇
一ノ六野戦高射砲隊(乙)	一、四四	才四兵站自動車隊	一八、六〇
第一第三野戦照空隊	二、三四	才五 〃	一八、六〇
独立機関砲才四才五中隊(自)	三、〇〇	才六 〃	一八、六〇
独立飛行第一中隊(甲)	一、五二	野戦武器廠	〇、六九
〃 一ノ四独立飛行隊(乙)	二、七六	野戦自動車廠	三、九六
才一軍通信隊本部	二、〇四	野戦衣糧廠	〇、五一
無線才五一才七小隊(自)	〇、九九	野戦予備病院	一三、四四
第一軍特別無線隊	二、四〇	傷病馬運送部本部	〇、〇九
第一軍野戦廠庶隊本部	〇、一五	才一才二野戦給水中隊	四、一七四
才一 〃 一才五小隊	〇、一五	兵站諸部隊計	一三九、七七
才一軍野戦兵廠隊本部	〇、六〇		
野戦兵廠才一才二中隊(甲)	九、四五		
第一軍野戦気象隊(乙)	二、三一		
野戦測量隊	三、八七		
渡河材料中隊(自)	四〇五		
戦列部隊計	二〇六、三一		

合計 三四六、〇八

アジア歴史資料センター

其八

野戰衣糧廠

アジア歴史資料センター

軍衣命第一號

第一軍野戰衣糧廠命令

十月十一日二〇〇〇
於小綏芬河

一、(1)敵情(畧)

(2)軍ハ明十二日敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ主力ヲ以テ「ストルゴフカ」西方地區ニ一部ヲ以テ「プリルキ」ニ向ヒ前進ス

(3)軍兵站線ハ概ネ左ノ如ク設定セラルヽ筈

甲兵站線　小綏芬河――小城子――ポルタフカ
乙兵站線　小綏芬河――河沿――洞野山
丙兵站線　綏芬河――グロデコーオータロ待避線

(4)鐵道ハ左ノ如ク運行セラルヽ筈

小綏芬――綏芬河間　明十二日ヨリ
小綏芬――小城子間　近日中ニ

二、野戰衣糧廠ハ現任務ヲ續行スルト共ニ、特ニ軍ノ「ガリョンカ」附近ノ倉

戰ニ遺憾無カラシムルト共ニ爾後ノ追撃ニ應ズル如ク準備セントス

三、野戰衣糧廠ノ編成業務分担區分及配屬部隊附表第一ノ如シ

四、終末河ニ支廠一箇ヲ、小城子及河沿ニ出張所各一個ヲ開設ス、其ノ細部ハ別ニ示ス

五、被服移動修理班ハ機ニ應シ速ニ第一線兵團ニ派遣ス　第一乃至第三被服移動修理班ハ明十三日以降何時ニテモ出發シ得ル準備ニ在ルヘシ

六、C主計中尉ハ終末河附近ニ在リテ、F主計大尉ハ東寧調弁班長トシテ同地附近ニ在リテ、依然、現地物資、調弁ニ関スル現任務ヲ續行スヘシ、細部ニ付イテハ別ニ示ス

下主計大尉ニ中主計少尉ヲ附ス

六、衣糧廠ノ確定位置及施設配置ノ狀況別紙第一乃至第三ノ如シ

八、軍ノ暫定給養兵額附表第二ノ如シ

九、軍當面ノ糧秣其他ノ補給及集積區分附表第三及第四ノ如シ

十、警戒、取締、其他(畧)

第一軍野戰衣糧廠長景

下達法

將校及技師全員ヲ集メ、口達ノ後、各主任者ニ印刷セルモノヲ交付ス

アジア歴史資料センター

附表第一、其一

第一軍野戦衣糧廠人員編成及業務区分表（十一月十一日夜ニ於ケル）

区分 ＼ 部隊	長	本廠 本部	本廠 調達部	本廠 倉庫部	本廠 工場部	本廠 小計	支廠 綏芬河	支廠 小城子	支廠 小計	出 第一	出 第二
主計 大中佐	一	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—
〃 小佐大尉	—	—	一	一	一	三	一	一	二	—	—
〃 中少尉	—	一	一	二	一	五	二	三	五	一	一
〃 下士官	—	一	三	三	一	八	二	四	六	一	一
縫工 下士官	—	—	—	—	二	二	一	一	二	—	—
製工 下士官	—	—	—	—	二	二	一	一	二	—	—
兵	—	六〇	—	—	—	六〇	二〇	二〇	四〇	五	五
軍医 大中尉	—	一	—	—	—	一	—	—	—	—	—
衛生 下士官	—	—	—	—	—	—	一	一	二	—	—
〃 兵	—	二	—	—	—	二	—	—	—	—	—
獣医 大中尉	—	一	—	—	—	一	—	—	—	—	—
〃 下士官	—	—	—	—	—	—	一	一	二	—	—
計	一	六六	五	六	七	八五	二九	四二	七一	七	七
備考							予定トス			小城子	沿河

1493

アジア歴史資料センター

派遣所			被服移動修理班					合計
第三	第四	小計	第一	第二	第三	第四	小計	
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	四	九
一	一	四	一	一	一	一	四	一八
一	一	四	一	一	一	一	一	一八
一	一	一	五	五	五	五	二〇	二四
一	一	一	二	二	二	二	八	一二
五	五	二〇	二四	二四	二四	二四	九六	四六
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	二
一	一	一	一	一	一	一	四	六
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	二
七	七	二八	八四	八四	八四	八四	三三六	五二〇
豫定	豫定		小城子方面ニ派遣ヲ定	沿河方面ニ派遣ヲ定	綏芬河方面ニ派遣ヲ定			

備考

一、豫定ノモノハ凡テ本廠ニ在リテ夫々本廠業務ニ服スルモノトス

アジア歴史資料センター

第一軍野戰衣糧廠配屬部隊配置區分表

區分	配置箇所	人員	摘要
陸上勤務隊 第一	鐵道貨物ノ積載卸下	一二〇	北倉庫ニ配置
	倉庫部 第一支仕所	九〇	
	倉庫部 第二支仕所	九〇	
	工場部其他	二〇	
	小計	三二〇	
陸上勤務隊 第二	鐵道貨物ノ積載卸下	一二〇	南倉庫ニ配置
	倉庫部 第一支仕所	九〇	
	倉庫部 第二支仕所	九〇	
	工場部其他	二〇	
	小計	三二〇	
後備歩兵	北倉庫	一分隊	衛兵トス
	南倉庫	一分隊	

アジア歴史資料センター

附表第二

第一軍給養兵額暫定表

兵站部区分	戦列兵団		主地		甲		乙		丙		其他		計	
	兵隊	地方縦列	人	馬	人	馬	人	馬	人	馬	人	馬	人	馬
	〇、七〇〇	〇、三三〇	〇、五二一		一、五二三		一、三六二		一、七五七		〇、一二三		四、六六五	
	〇、二九〇	一、三五〇	一、九七三		一、二〇八		一、三五〇		一、〇二二		〇、七一三		四、六八八	
	〇、一四四		〇、一二四		〇、三三〇		〇、四四〇		〇、五七〇		—		一、八〇四	
	—		—		—		—		—		—		〇、七一〇	
	一、五五一	〇、三三〇	二、一九九		一、五二三		一、三五〇		一、〇二五		—		三、七五〇	
	一、八九〇	一、三五〇	二、一八二		一、八六八		一、三五〇		一、〇二五		〇、九一〇		九、一四八	
(ハ)三六縦列トス														
(ロ)二八縦列トス														
(イ)軍直轄戦列兵団等トス														

備考

一、地方縦列ハ一〇〇縦列ノ編成ニ依リ其ノ一隊ノ人馬数ヲ左ノ如クシ計算セリ

人 二〇〇人

馬 三〇〇頭 大車一〇輌（一車積載量ヲ一〇〇貫トス）

二、地方縦列ニ対スル糧秣補給ハ定量ヲ以テ指示セラル

三、兵站部隊ノ兵額ハ概ネ十四日頃ノ概数トス

四、軍隊区分ニ依ル者略ス

アジア歴史資料センター

附表第三

第一軍糧秣薪炭補給区分表

兵站部区分	糧秣区分	補給日量概数(中隊数) 戦列兵団	兵站部隊	計	摘要
主地	人糧	〇、六三	〇、八一	一、四四	
	馬〃	〇、三七	〇、四一	〇、七八	
甲	人〃	二、二七	〇、二三	二、五〇	
	馬〃	二、一八	—	二、一八	
乙	人〃	一、四五	〇、三八	一、八三	
	馬〃	二、〇三	〇、五六	二、五九	
丙	人〃	一、六三	〇、六五	二、二八	
	馬〃	二、六三	〇、〇四	二、六七	
其他	人〃	〇、一五	—	〇、一五	
	馬〃	〇、〇九	—	〇、〇九	
計	人〃	六、一三	二、〇七	八、二〇	
	馬〃	七、三〇	一、〇一	八、三一	

備考

一、給養係数ハ左ノ如ク仮定ス

区分	人	馬	摘要
戦列兵團	一、二〇	一、五〇	木炭二〇〇瓦干草一瓩ヲ増加補給ス(日々一馬一人)
兵站部隊	一、一五	一、四〇	前項ノ増加ハ一ケ月十日ノ比トス

二、兵站部隊ノ日量ニハ各兵站線ノ輸送区数ヲ加味必ヲラス

三、定量ニハ軍ノ定メタル増加量(木炭及干草)ヲ含ムモノトス

1498

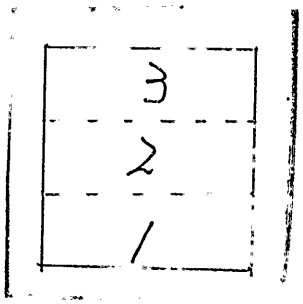
別紙第一

第一軍位置要図

（十月十日午後八時）

アジア歴史資料センター

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを証明する

4年 8月 5日

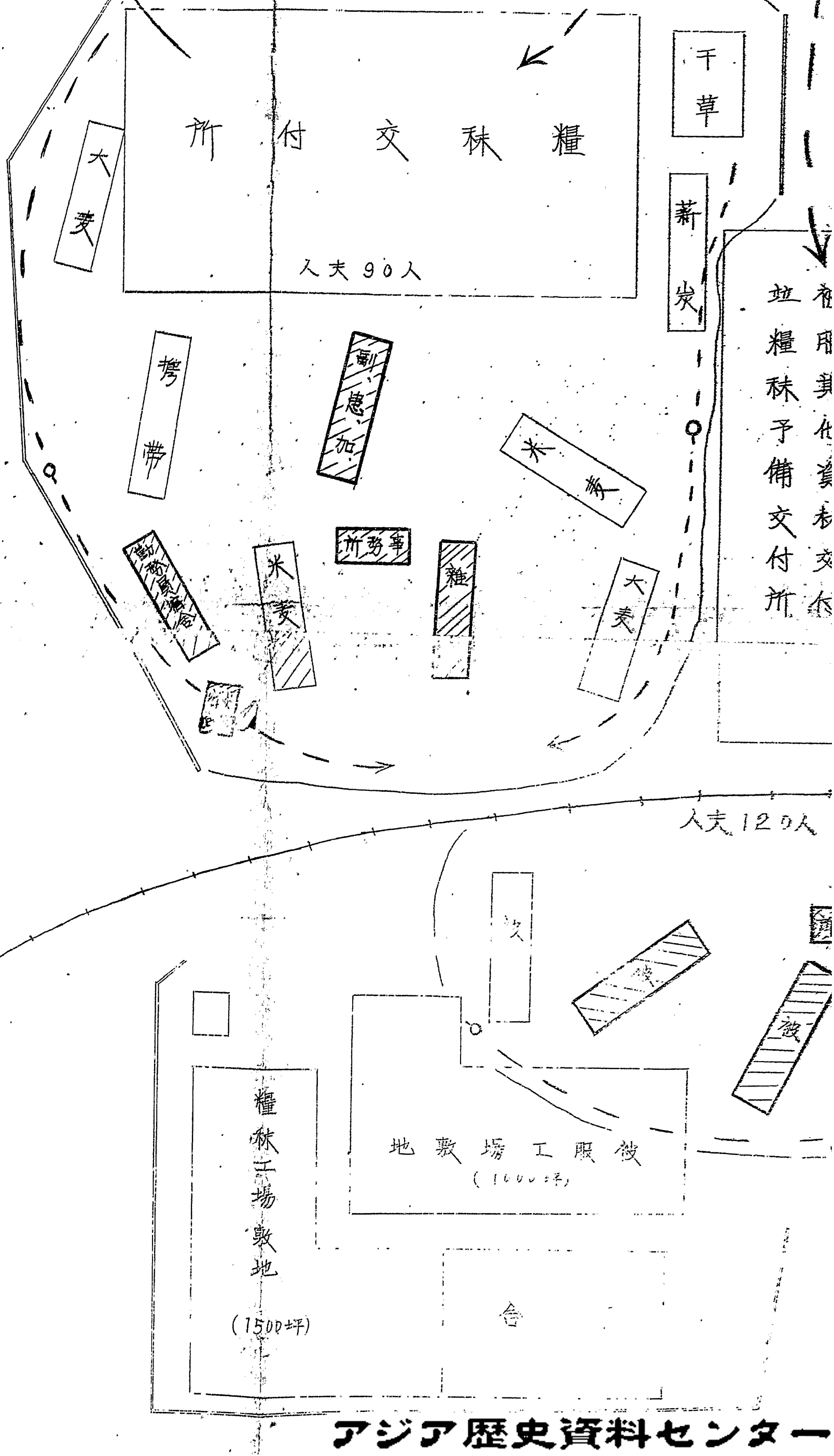
主務者又は

撮影立会者 加部東 保夫 印

アジア歴史資料センター

北倉庫施設要領

（夜日一



1/1,000

備考

一、有刺鉄線八〇〇米

一、倉庫二九

一、列車積卸所要人夫約一三〇人

但列車間隔ヲ利用シ勉メテ支付業務ヲ援助セシム

一、交付所使用人夫九〇人 計一八〇人 〃三二〇

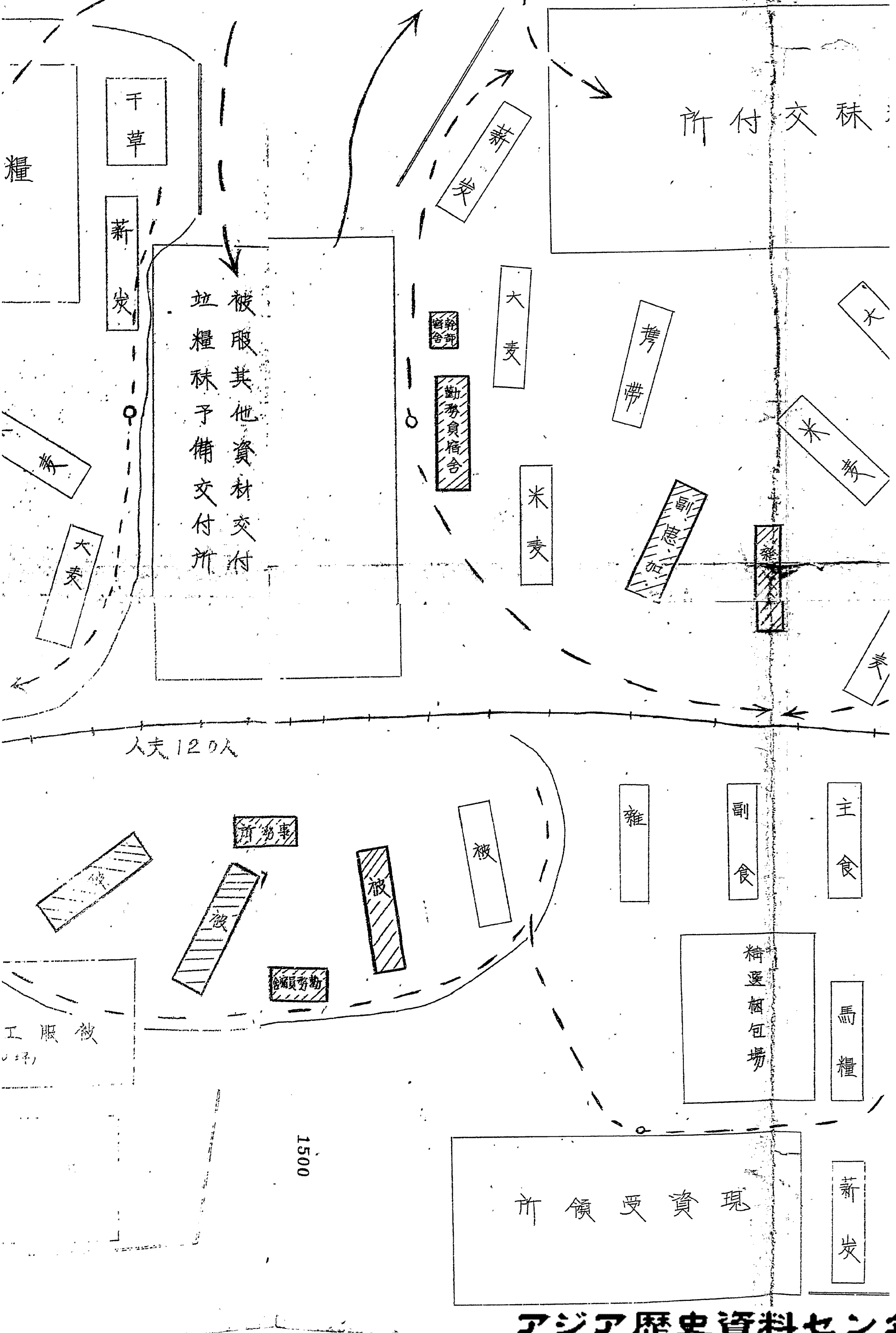
其他

二〇人

アジア歴史資料センター

綏芬河野戦衣糧廠北倉庫

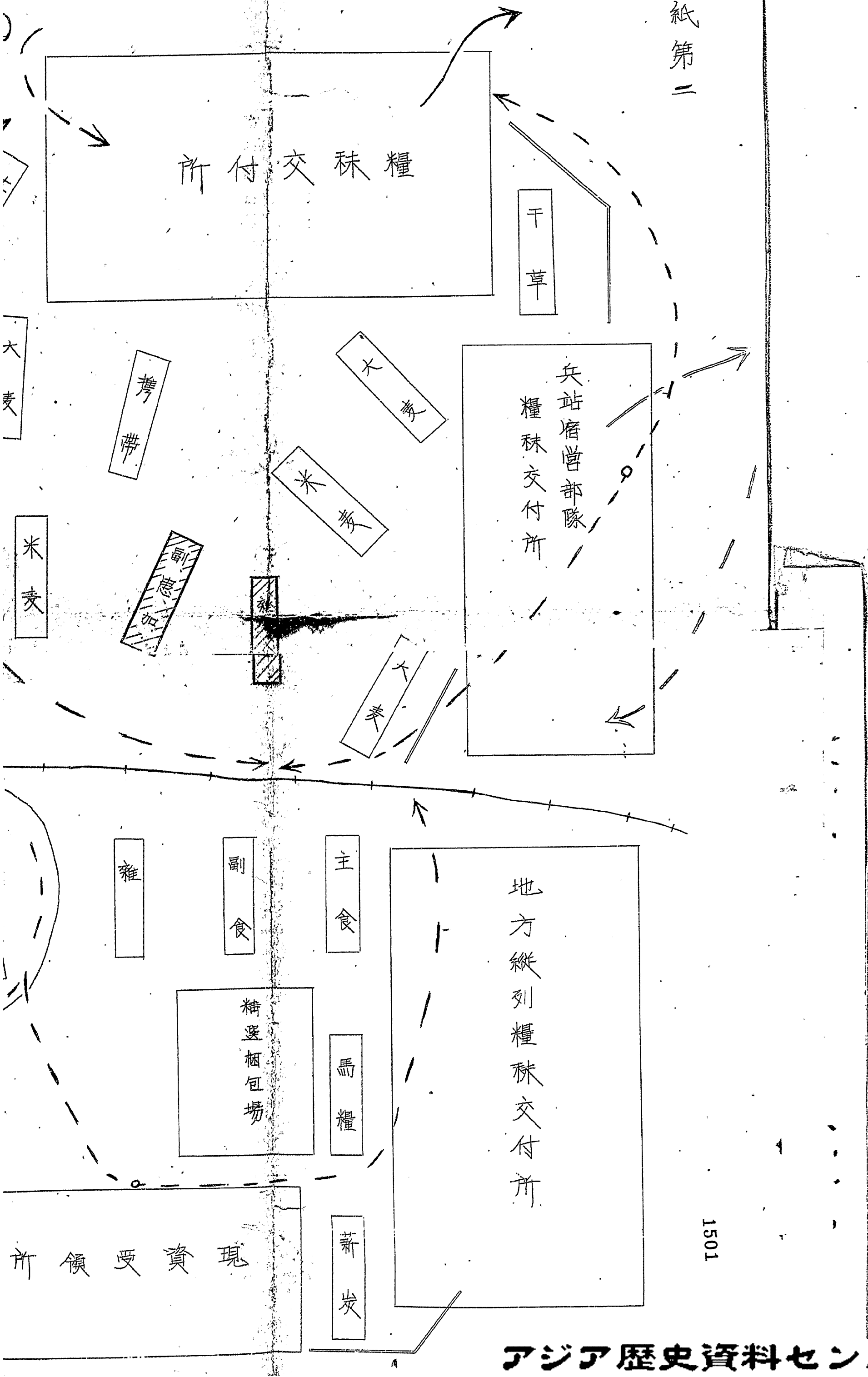
（十月十日於一夜）



アジア歴史資料センター

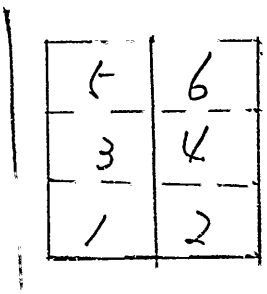
小綾芥河野戦

別紙第二



アジア歴史資料センター

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A3判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを証明する

4年 8月 5日

主務者又は

撮影立会者 加部東 保夫

アジア歴史資料センター

施設要圖

1
1,000

兵站地宿営部隊糧秣文付

1502

副患加

衛格食宿舎

所務事

米麦

雑

携帯

所務事

薪炭

大麦

米麦

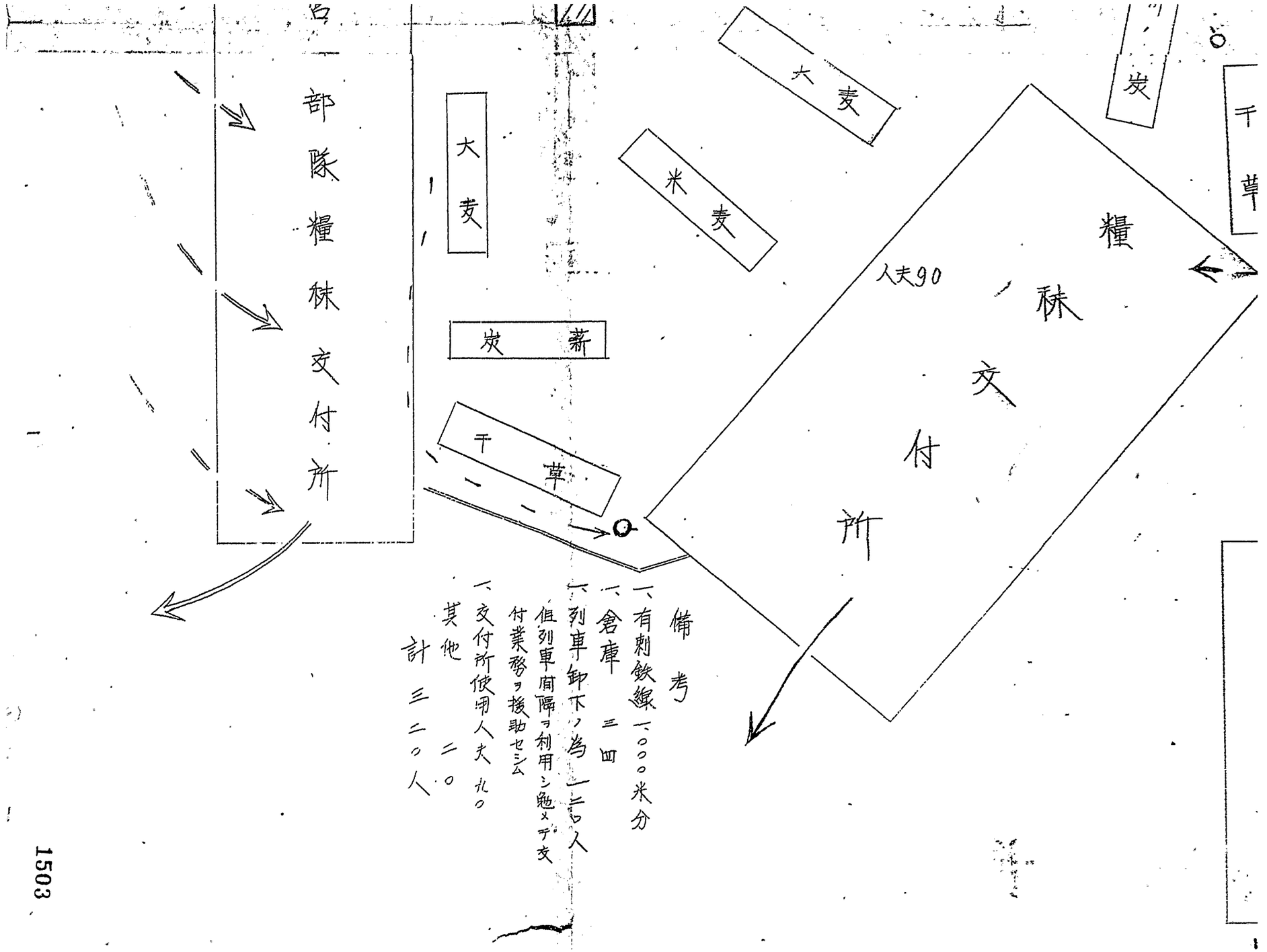
大麦

炭薪

糧秣

人夫90

アジア歴史資料センター



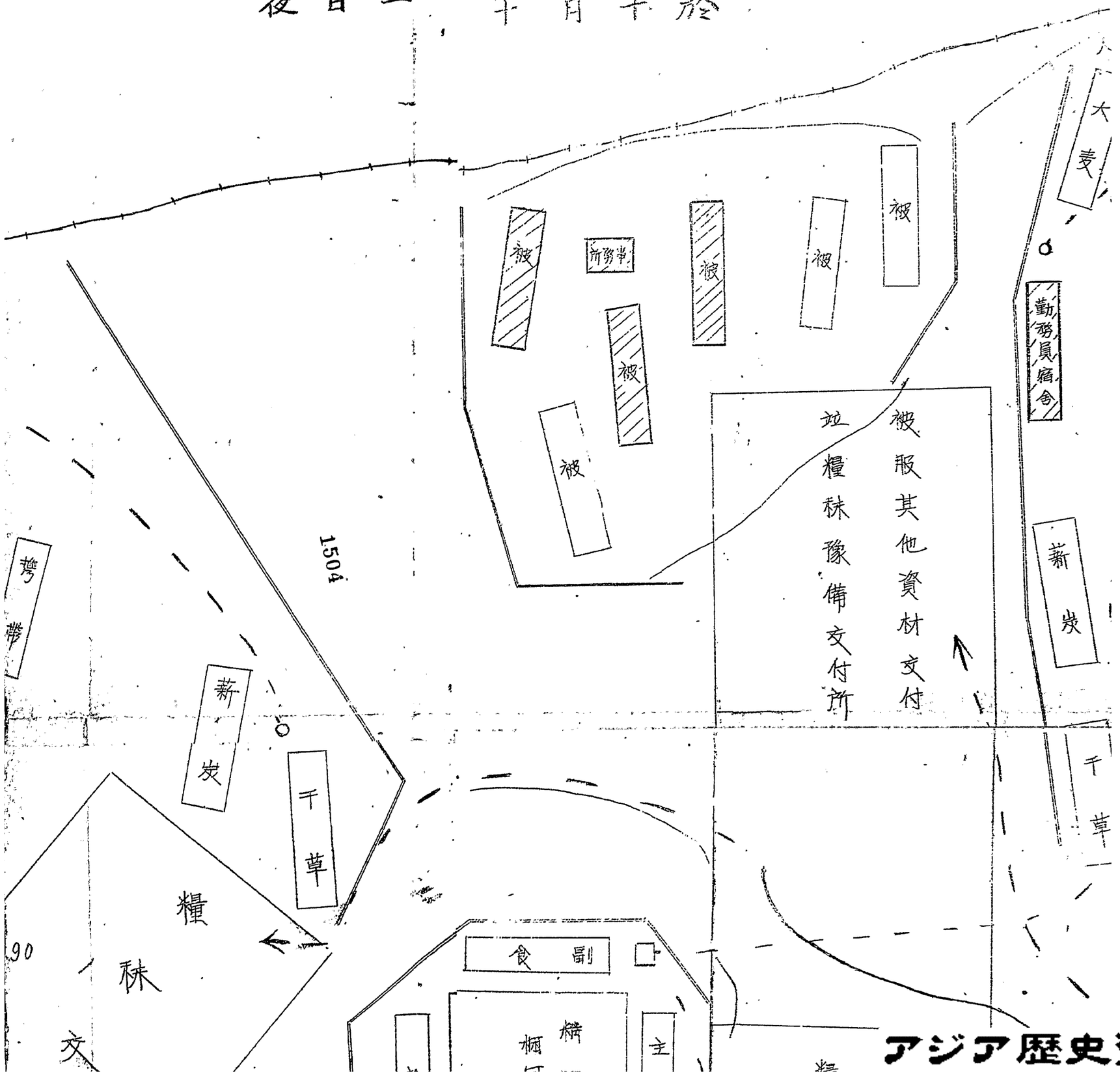
備考

一、有刺鉄線一、〇〇〇米分
一、倉庫　三四
一、列車卸下ノ為一二〇人
但列車周陲ヲ利用シ勉メテ支付業務ヲ援助セシム
一、支付所使用人夫九〇
其他　二〇
計三二〇人

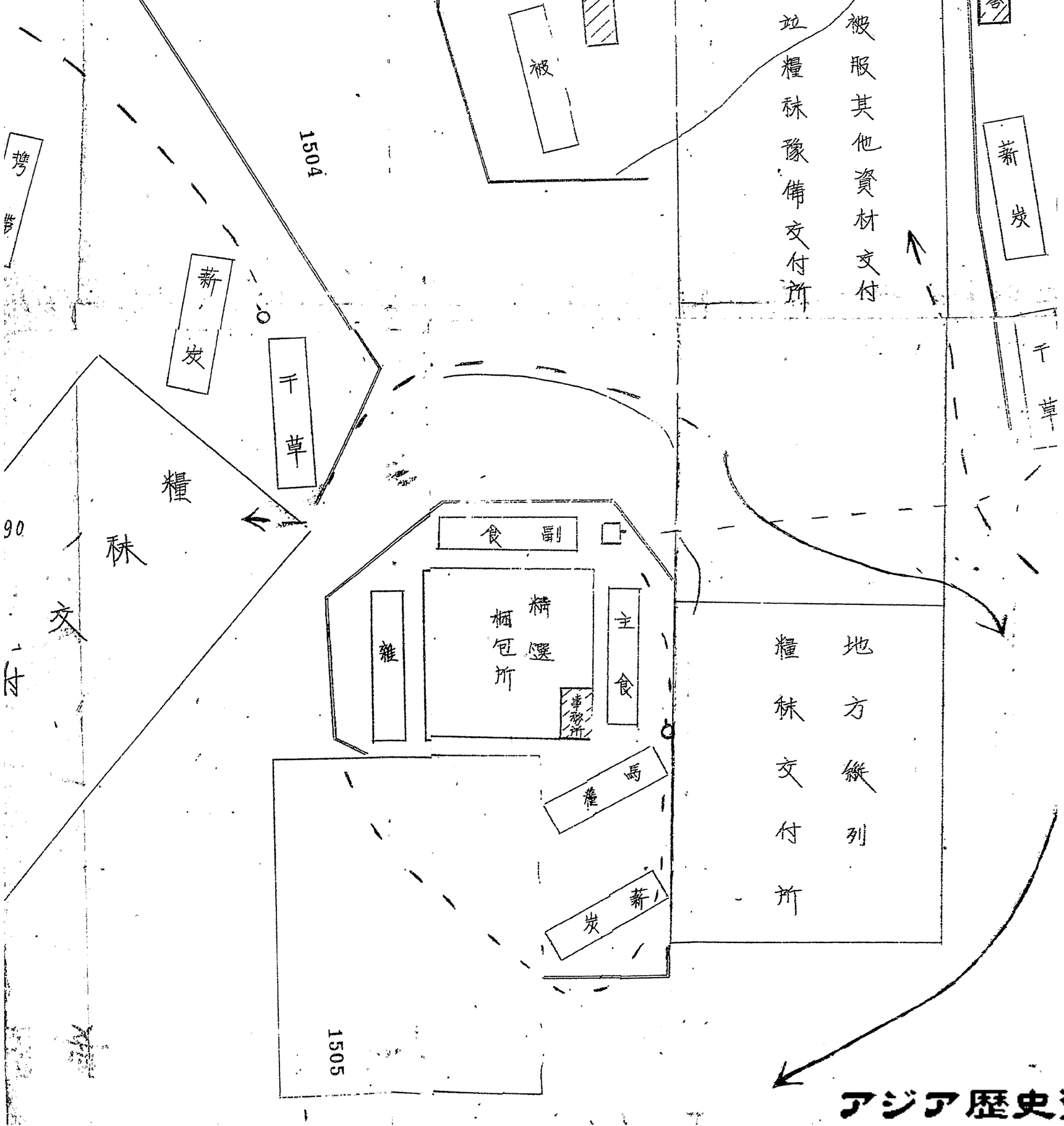
アジア歴史資料センター

綏芬河野戰衣糧廠南倉庫施設要圖

於十月十一日夜



アジア歴史資料センター



アジア歴史資料センター

野河芬綏小

別紙第三

人大90

大麦

被

被

被

勤務員宿舎

米麦

大麦

雑

副食加

米麦

車務所

携帯

大麦

被服其他資材交付所

糧秣廠交付所

薪炭

千草

人大90

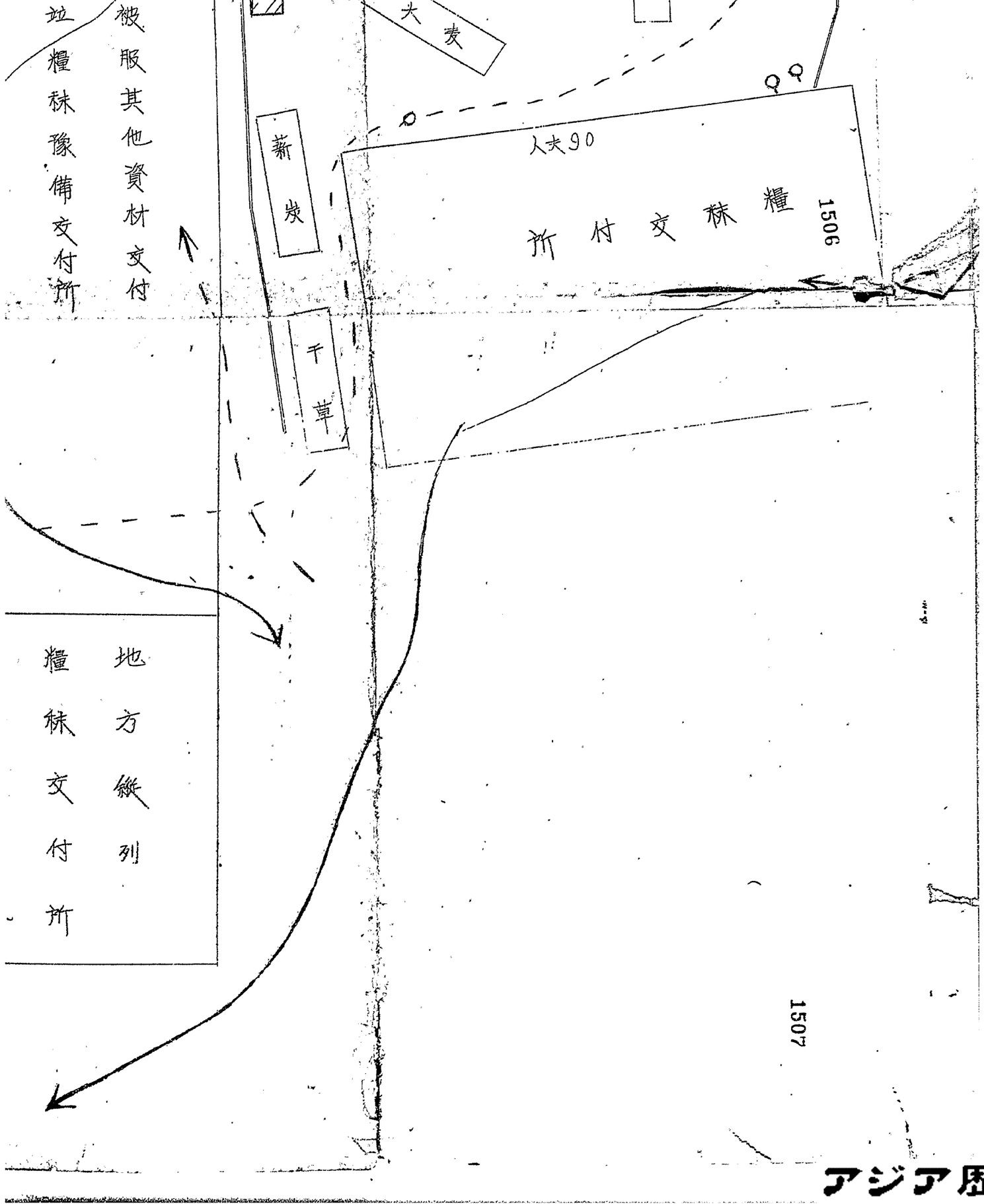
糧秣交付所

1506

アジア歴史資料センター

地方廠列

糧秣交付所



アジア歴史資料センター

1508

統裁官所見

一、本状況ニ於ケル小綾芽ノ倉庫部（南北二箇所）ノ人員配當ハ過少ナラズヤ

アジア歴史資料センター

軍衣命第二號

綏芳河野戰衣糧廠

A廠員ニ與フル命令　十月十日十六時　於小綏芳河

支廠開設ノ爲

一、敵情及友軍ノ情況ハ貴官ノ知レル通リ

二、衣糧廠ハ綏芳河（地名）附近ニ支廠ヲ開設セントス

三、貴官ハ綏芳河野戰衣糧廠支廠長トシテ明十二日早朝出發速ニ綏芳河驛附近ニ至リ同夕刻迄ニ之カ開設ヲ完了シ爾後兵站線方面ノ補給ヲ行フト共ニ必要ナル軍需品ノ調辨並集積ニ任スヘシ

四、開設位置ハ綏芳河驛西側地區（附圖第一ノトス）細部ニ就キテハ直接同地兵站司令部々員ト連絡スヘシ

五、不敢取實施スヘキ糧秣其他ノ補給及集積區分附表第一及第二ノ如シ

特ニ木炭、薪及干草ノ現地蒐集ニ留意シ到着後成ルヘク速ニ之カ景況ヲ報告スヘシ

六、開設ノ爲ノ所要資材ハ兵站司令部ト協議使用スヘシ

アジア歴史資料センター

但雨覆六ヶ枚ハ本夕九時北分廠事務所前ニ於テ貴官ニ交付ス

七、貴官ニ配属スヘキ部隊、人員及車輛等ハ別紙第三ノ如シ

陸上勤務隊ヲ除キ他ハ本夕九時北分廠事務所前ニ於テ之ヲ交付ス

八、支廠内外ニ亘ル警戒特ニ火災隊防ニ就テハ特ニ其實施ヲ適切ニシ廠員以下ノ軍紀風紀ノ維持ニ就テハ厳ニ遺憾ナカラシムルモノトス

九、報告通報ノ實施ハ之ヲ遺漏ナカラシムルト共ニ特ニ左ノ事項ニ関シテハ機ヲ失セス其大要ヲ報告、通報スヘシ

イ、所属及配属人馬ノ損傷

ロ、保管軍需品ノ変廃滅失

ハ、其他敵襲及災害等

十、其他ノ件

第一野戦衣糧廠長　某

宛達先　A主計少佐ヲ始致シ之ヲ達スルト共ニ印刷交付ス

附表第一

糧秣薪炭補給担任區分表

綏芳河野戰衣糧廠支廠

	人糧	馬糧	人糧	馬糧	人糧	馬糧	人糧	馬糧	人糧	馬糧
	一、三二	一、七〇	〇、三一	〇、九三	〇、一四	〇、〇七	〇、三五	〇、七三	追テ示ス	
	三、〇二		一、二四		〇、二一		一、〇八			
	五、五八									

- 2CD 配屬 LPIV 1SA 2AA 2AAs 2BLT 2BT 1GS 2BK 9ET 11ET
- 1KB 配屬 7AA 6BCT 1PET
- 軍直屬部隊
- 鉄道部隊 20 (関10 (一馬)10
- 地方線列 12(11日) 6(12日) 6(14日)

備考

一、補給定量

イ、戰列部隊 第一種トシ別ニ木炭(一人日量)千草一延(一馬日量)ノ増加補給スルモノトス

ロ、鉄道部隊 前記ニ準ス但増加糧秣(木炭、千草)ハ一箇月概ネ十日ノ比トス

二、給養係数ハ人一、二 馬一、五トス

附表第二

糧秣、薪炭、燃料及被服其他集積區分表

綏芳河駐戰衣糧之支廠

區分 / 令ニ到着日次	糧秣 薪炭 燃料					被服				摘要
	本地集積用		令ニ集積用			加給品	通信保護品	血液予防品	隊附被服	給養器材
	常備	常携帯	常食	携帯	重患食					
正令数量										
一二	三中	重患食 一〇〇〇分ノ八				一	一	一	一小	必要ニ應シ送付ス
一三	二中	五〇〇分				二小	一	一	一小	
一四	一中					一小	一小	一小	一	
一五						一小	一	一	一	
一六						一	一小	一	一	

直接両参謀司令官ト連絡実施スヘシ

主トシテ鉄道輸送ニ依リ概ネ担任給養兵額ノ十日分ヲ集積スル如ク送付ス

アジア歴史資料センター

附表第三

綏芳河野戰衣糧廠支廠編成及部隊配屬表

區分 ＼ 階級 人員	主計 少佐	少尉	准士官	下士官	下士官	下士官	衛生 下士官	衛生 兵	合計	摘要
支廠長	一								一	
本部	一		一	一	一	一	一	一	七	調達業務ヲ以テ實施スルモノトス
倉庫部	一	二	一	一	一	一	一	一	一〇	工場業務ヲ以テ實施スルモノトス
第三被服移動修理班	一	一	一	五	二	四	一	一	八四	別命スル迄配屬ス
計	二	三	二	八	三	九四	一	一	一二二	
陸上勤務隊	二箇分隊									十二日午前中綏芳河ニ於テ主地区指令部ニ於テ引渡ノ配屬セラル
支庫業務用	乘用自動車								一	必要ニ應ジ本廠ニ引上ゲルコトアリ
	自動側車								一	
	貨物自動車								三	
被服移動修理班用	縫工修理自動車								一	
	靴工修理自動車								二	
	防毒修理自動車								二	
	防毒處理自動車								二	
	貨物自動車								七	
合計									一九	

備考

一、兵ノ特業ニ分ケ左ノ如シ
　被服移動修理班 一 成規ノ通リ
　其他一 自動車手(三) 瓦斯兵(三) 縫工兵(五) 靴工兵(一〇)
二、本表ノ外貨物自動車ノ運転手トシテ左ノ傭人ヲ附ス
　支庫ニ(四名) 被服移動修理班ニ(十六名) 計(二〇名)

アジア歴史資料センター

線芳河会開設位置要圖

附圖第一

↑
1/25,000(約)

アジア歴史資料センター

綏軍衣支命第一號

綏芬河衣糧廠支廠開設命令　十月十二日十時
於綏芬河駅西側

一、敵情及友軍ノ情況別紙第一（畧）ノ如シ
二、當支廠ハ本十二日正午ヨリ現在地附近ニ支廠ヲ開設シ兩兵站線方面ノ補給ヲ行フト共ニ必要ナル軍需品ノ調辨並集積ニ任ズルモノトス
三、支廠ノ施設配置ハ附圖ノ如シ
編成業務分担ハ別紙第二ノ如シ
配屬陸上勤務隊第三及第四分隊及衛兵（一歩兵一箇分隊）ハ本日後三時頃到着ス
四、先遣ノ主計中尉ハ依然前任務ヲ續行シ本十二日午後七時綏芬河附近ニ於ケル薪炭、干草及地方人馬用糧秣ノ現資景況ニ付報告スヘシ
五、當支廠ノ實施スヘキ糧秣其他ノ補給及集積區分別紙第三（軍衣命第二號附表第一及第二ニ同シ）ノ如シ

アジア歴史資料センター

1516

六、予定計畫長ハ速ニ糧米（野積用）三〇〇瓩、米粉類約三〇瓩分ヲ主地兵站司令部出張所ヨリ交付ヲ受ケベシ

兵五名及貨物自動車一輛ヲ使用スヘシ

發送河 ㊞ 長

某

アジア歴史資料センター

別紙第二其一

發芽河 ⊠ 編成及業務分担區分表

（畧ス 軍衣命第二號ニ同シ）

別紙第二其二

發芽河 ⊠ 警戒勤務分担區分表

区分	担任部隊	豫定人員	任務ノ概要
消火班	本部勤務第三分隊	長ノ外下士官中卒二〇名	火災ノ際消火、防火及貨物ノ処理ニ任ス
瓦斯防護班	本部倉庫部	長ノ外下士官少卒二三名	瓦斯空襲其他敵瓦斯攻撃ノ際ノ瓦斯防護及除毒ニ任ス
対空監視班	配属衛兵	長ノ外兵司令二名	敵ノ空襲ヲ警戒ス
地上警戒班	全員	長ノ外下士官少佐二五八名	敵襲ヲ警戒シ攻撃及防衛ニ任ス

豫備被服前送豫定ニ関スル件報告（通報）

十月十三日　於小樽港河
第一軍野戦衣糧廠長

第一軍兵站監殿
（第一軍兵站経理部長殿
第一軍主地兵站司令官殿）

軍兵命第二號ニ基ク首題ノ件別紙ノ通致度ニ付輸送方配慮
アリ度

アジア歴史資料センター

別紙

防寒被服前送豫定表

十月十三日於小樽港河第一軍野戰衣糧廠

發送順序	品目	前送所要總數	總重量	甲兵站線（3/10）			乙兵站線（3/10）			丙兵站線（3/10）			備考
				重量	梱數	所要輸送力	重量	梱數	所要輸送力	重量	梱數	所要輸送力	
第一次（22/10迄）	防寒襦袢袴下	二四三、〇〇〇個	七二九〇噸	一八〇梱	二、〇中	七二九〇噸	一八〇梱	二、〇中	九七二〇噸	二四〇梱	二七中	25
	防寒襯衣	一〇、七五〇	三二三五	七五		三二三五	七五		四三〇	一〇			
	防寒靴下	二六、六八一	八〇〇四	一八七		八〇〇四	一八七		一〇、六七三	二五。			
	防寒手袋	一五、六七五	四七〇三	一一三		四七〇三	一一三		六二七〇	一五。			
	防寒帽	六四、〇五〇	一九、二一五	四五。	一、〇	一九、二一五	四五。	一、〇	二五、六二〇	六〇。	一、三	100	400
	小計		一〇八四七		三、〇	一〇八四七		三、〇	一四四、〇八三	四、〇			
第二次（10/10迄）	防寒外套	七〇五、七五〇	二一、七三五	四五〇	六、〇	二一、七三五	四五〇	六、〇	二八二、三〇〇	六〇。	七、八	10	
	防寒半袴	七一、七〇〇	二一、五一〇	一、八〇〇	〇、六	二一、五一〇	一、八〇〇	〇、六	二八、六八〇	二四〇	〇、八	50	
	防寒靴	二三〇、三七五	九〇、一一三	二〇二五	二、五	九〇、一一三	二〇二五	二、五	一二〇、一五〇	二七〇	三、三	20	
	防寒長靴	六九、〇〇〇	二〇、七〇〇	四五〇	〇、六	二〇、七〇〇	四五〇	〇、六	二七、六〇〇	六〇	〇、八	10	
	防寒脚絆	二三六、九二五	七一、〇七八	一、三五〇	二、〇	七一、〇七八	一、三五〇	二、〇	九四、七七〇	一、八〇	二、六	30	
	防寒衣手袋	四三、六一〇	一三、〇八三	二九四	一、〇	一三、〇八三	二九四	一、〇	一七、四四三	三九三	一、五	150	
	防寒水筒袋	四二、〇〇〇	一二、六〇〇	二八〇		一二、六〇〇	二八〇		一六、八〇〇	四〇		150	
	防寒飯盒袋	四五、七五〇	一三、七三五	三〇五		一三、七三五	三〇五		一八、三〇〇	四〇五		150	
	小計		二四一、八七九		六、七	二四一、八七九		六、七	三三五、七四四	九、〇			
第三次（28/10迄）	携行天幕	三、〇〇〇	九九、〇〇〇	九〇〇	二、八	九九、〇〇〇	九〇〇	二、八	一三三、〇〇〇	一二〇〇	三、七	1	
合計			六六八、五八一			六六八、五八一			八八二、〇七		二四、五		

アジア歴史資料センター

綏芬河〇被害ニ関スル件電話報告（通報）

十月十三日十三時、珍小綏芬河

〇長

軍兵站監殿

（軍兵站経理部長殿

主地兵站司令官殿）

一、本日十三日正午頃敵機空襲ニ依ル被害ハ向〇ノ約半分ニシテ糧秣約七中隊分ヲ損失セリ

二、目下残余糧秣約八中隊分ニシテ品種區分ハ調査中ナリ

（以上二項共〇長ヨリ電話報告ノ儘）

三、依テ明十四日以後ノ集積ノ為遅クモ明十四日中ニ當廠ヨリ糧秣十中隊分ヲ前進方配慮アリ度

四、詳細後報ス

（電話連絡）

アジア歴史資料センター

軍衣令第五號

被服移動修理班派遣ニ関スル命令　十月十四日午後五時　於小倉部隊

一、敵情及友軍ノ情況ハ貴官ノ既ニ知レル通リ

二、野戦衣糧廠ハ軍兵站命令ニ基キ第一乃至第三被服移動修理班ヲ以テ第一線兵團ノ位置ニ接近シ當該被服ノ補修ニ任スヘシ

三、第一被服移動修理班ハ速ニ第三師團ニ跟隨シ第三師團及騎兵旅團方面ノ被服ノ補修ニ任スヘシ

四、第二被服移動修理班ハ速ニ第一師團ニ跟隨シ第一師團方面部隊ノ被服ノ補修ニ任スヘシ

五、第三被服移動修理班ハ第二師團ニ跟隨シ第二師團方面ノ被服ノ補修ニ任スヘシ

一、固有ノ編成部隊ニ要スル人員班、補修材料運搬用トシテ各班ニ貨物自動車（一噸半積）二輛宛ヲ附ス

六、被毒更衣用被服ハ各站共ニ集積シアリ依テ各兵站ニ之ヲ要求使用スヘシ

アジア歴史資料センター

七 宿営及給養ハ衛生兵站部隊ノ担任トス
八 其他実施ノ細部ニ関シテハ直接当該兵団又ハ兵站司令部ト連絡スヘシ

野戦衣糧廠長 某

下達法

班長ヲ招致シ印刷ニ付シタルモノヲ交付ス

アジア歴史資料センター

軍衣命第六号

小城子野戦衣糧廠支廠ヲ開設ノ為メ日廠員ニ與フル命令

十月十四日正子
於小綏芬河

一、敵情並ニ軍ノ情況ハ貴官ノ知レル通リ

二、廠ハ軍命令ニ基ツキ支廠ヲ本十四日小城子ニ開設明後十五日以後甲乙兵站ノ補給ニ任セシトス貴官ハ別紙ノ人員ヲ指揮シ小城子支廠長トナリ明早朝出発甲乙両兵站ノ補給ニ任スルト共ニ該方面ニアル被服廠勤務修理班ヲ區署スヘシ

特ニ該地兵站司令官及先遣諸隊部ト連繫スヘシ、

支廠ノ開設位置附図第一ノ如シ

三、集積量ハ概ネ担任給養兵員十日分ヲ基準トスルモ其細部ハ追而指示ス

四、支廠勤務員トシテ陸上勤務隊一班（一〇〇名）ヲ配属セラルヽ筈

配属人員表

尉官	四
下士官	五
縫工下士官	一
靴工下士官	一
衛生下士官	一
獣医下士官	一
兵	三〇

不達法

日主計少佐ヲ招致シ口達スルト共ニ印刷交付ス

アジア歴史資料センター

1525

第六附圖

小城子⊠位置要圖

1/20.000

河沿

河芬經

←250→

500

小城子

部站兵乙

流小

部站兵甲

アジア歴史資料センター

第一軍兵站小城子支廠施設要圖

昭和十四年十月十日

凡例
八線
借集積地トス

1/1,000

草干
燕麥
ルス対一面方線站兵乙
所付交
給養器材
塩
工キス
精米
薪
資物
食塩
到著資物卸下場
豫
ベンチ干
糖砂
精白糖
缶詰肉
ベキ工
品保冷
炭木
ベンチ干
砂糖住所口糧
給養器材
精米
薪
幕舍
被服
麥燕
卓干
所付交ルス対一面方線站兵甲
車庫雜庫
麥燕場
(家民)舍宿員勞動

1526

アジア歴史資料センター

統裁官所見

一、□□又ハ地方縦列ニテ前送ヲ予期セラルルニ對シ本状況ノ如ク過度ニ大量集積ヲ予想セサル場合ノ設定要領ヲ更ニ研究セラレ度

アジア歴史資料センター

保管衣糧品受拂現況表

十月十九日於小綏芬河
第一軍野戰衣糧廠

日次	品目	区分	小綏芬河本廠 常備(常一種)	小綏芬河本廠 常備(常一種)	小綏芬河本廠 携帯	小綏芬河本廠 北方被服用列縦地	小綏芬河支廠 常備(常一種)	小綏芬河支廠 常備(常一種)	小綏芬河支廠 携帯	小綏芬河支廠 北方被服用列縦地
			名	人						
十一日	受				363	132				
	甲乙丙	拂	839	640	2					
	其他		6	4	2					
	計		11	9						
	残		8	5		1				
	受		2	3						
	甲乙丙	拂	21	21	4	1				
	其他									
	計		818	619	359	131				
十二日	受			6			29	25	6	3
	甲乙丙	拂	8	7						
	其他		7	4	1	1				
	計						9	6		1
	残		15	13	1	3				3
	受		794	630	358	129	20	19	6	2
	甲乙丙	拂	15	13	11		17	10		3
	其他		7	7		3				
	計					1				
十三日	受						16	9	5	1
	甲乙丙	拂	7	7		3				
	其他						11	9	1	
	計						27	18	6	1
	残		802	636	369	126	10	11	3	4
十四日	受			3			28	20	15	3
	甲乙丙	拂	6	3	12					
	其他		5	4						
	計					3				
	残		11	7	12		12	7	6	4
十五日	受						26	24	12	3
	甲乙丙	拂	6	7	11		17	12		6
	其他		5	6						
	計					6	21	13	8	3
	残		11	15	12	6				3
十六日	受						30	23	4	6
	甲乙丙	拂	7	6	11	10	17	13	7	3
	其他		8	10	9					
	計						15	15		3
	残		15	15	9	3				
十七日	受						32	21	11	6
	甲乙丙	拂	20	17	11		10	8		
	其他		16	21						
	計		3				13	7		
	残		10	8						
十八日	受		29	29						
	甲乙丙	拂	792	645	369	124	29	22	11	6
	其他		20	15	7	10	11	9	4	3
	計		6	3						
	残		6	5						
	摘要						8	6		
						3	5	3	2	
							6	6	2	
			795	649	374	131	32	25	15	9

摘要

一、十三拂其他ハ小綏芬河ー綏芬河間列車爆撃被害ニ因ル損耗トス

二、十八日拂其他ハ東寧ニ向ケ発送セルモノトス

備考

一、小隊分ヲ重位トス

二、綏芬河等直轄支廠ハ前送ノモノハ勉メテ前送当日到着ノモノヲ充当ス

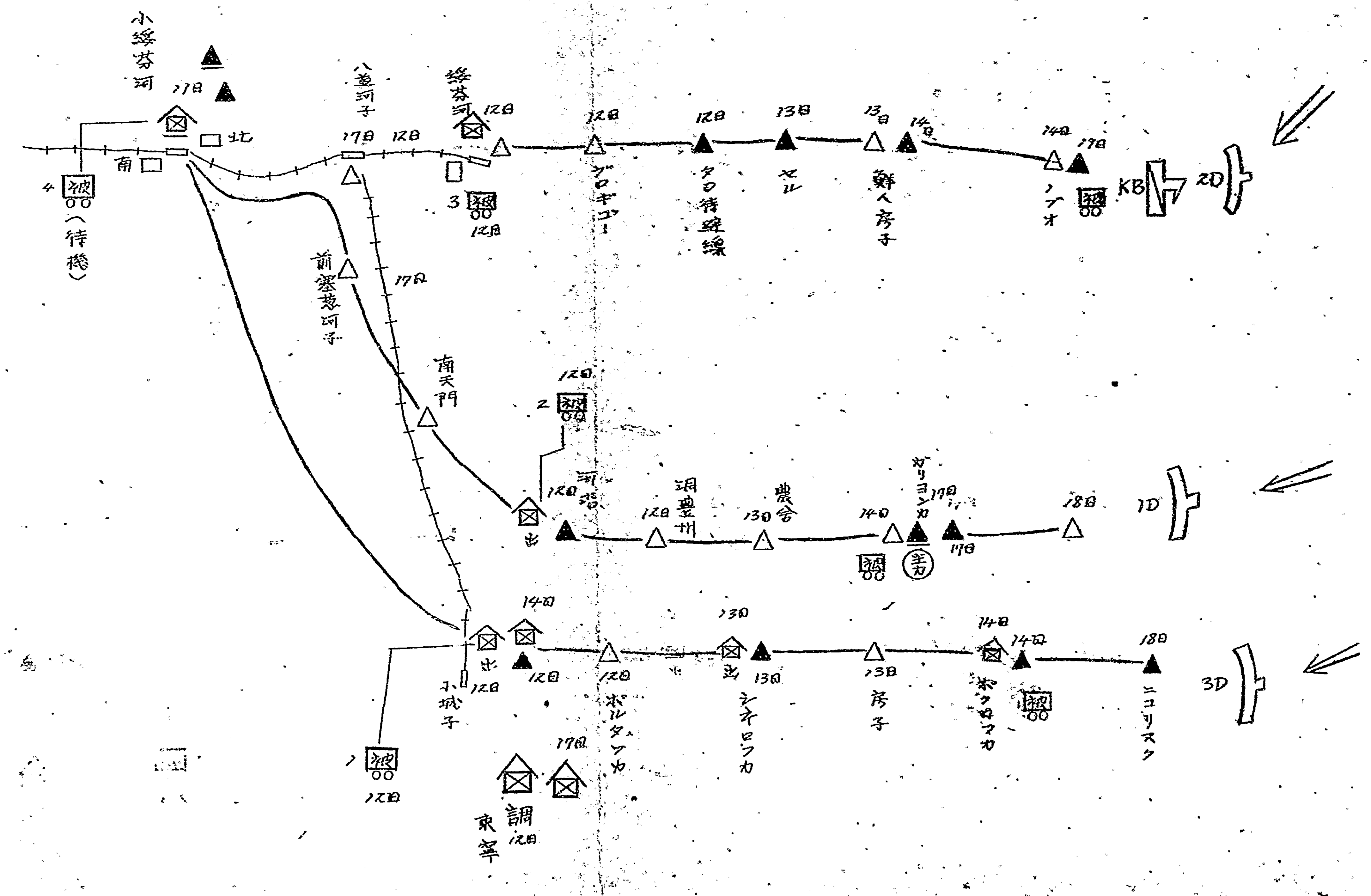
三、前送被服ノ内容ハ別ニ定ムル所ニ依ル

1528

アジア歴史資料センター

第一軍野戦衣糧廠業務経過概要図

（十月十一日ヨリ十九日迄第一軍作戦ニ伴フ）



アジア歴史資料センター

秘

参考

第一種立量尋常一師団分坪数早見表

品目	一梱ノ内容	一梱ノ立米	口百分梱数	口百分立米	九尺積坪換算		
精米	四一、〇〇〇瓦	〇、一〇六	三、一一	三五、一			
精麦	四〇、〇〇〇						
乾パン	一五、一八〇	〇、一二三	三三三	四一、〇			
千野菜	一七、〇〇〇	〇、〇六五	五二	三、四	可		
栄養食	一四四〇	〇、〇〇九〇	六九	六、二	レハ		
給味噌	一四、二五〇	〇、〇〇九四	四六	四、三	割		
醤油エキス	一四、八〇〇	〇、〇〇七〇	三〇	二、一	二千		
砂糖	一六、〇〇〇	〇、〇〇六六	一四	〇、九	9		
燃料	一四、四〇〇	〇、〇〇七〇	一二三	七、六			
						一〇〇、六	計一一、二
燕麦	四〇、〇〇〇	〇、一四五	六三七	三二、六	9	63 一千九、七	五升馬
燕麦	四〇、〇〇〇						四升馬

アジア歴史資料センター

食塩	一九、二〇〇	〇、〇八〇	一七	一、五	
干草	四五、〇〇〇	〇、一三七	一〇九		五升馬
干草	四五、〇〇〇	〇、一三七	六九	十四、一両	四升馬
			合計	一六五、六	一八、三坪
				二六六、二	二九、五坪

アジア歴史資料センター

㊙参考　第一種携帯糧秣師団一日分集積坪数早見表

品目	一梱内容	一日分梱数	一日分立米	九尺積換算表
精米	四、〇〇〇	四六七	四九、五	
乾パン	一五、一八〇	一、〇〇〇	一二三、〇	
鑵詰肉	一二、〇〇〇	二五九	一九、五	
粉味噌	一四、二五〇	九三	九、七	
砂糖	一六、〇〇〇	一四	〇、九	
食塩	一六、〇〇〇	一三	〇、九	
燃料	一〇、八〇〇	一二三	八、六	
圧搾馬糧	四二、四〇〇	四九二	七一、四	
燕麦	四〇、〇〇〇	五二一	七五、二	
		精米ノ場合	一六四、三	一七二坪
		パンノ場合	二三七、八〇	二六四坪

一梱ノ立米　〇、一〇六
一梱ノ重量　〇、一二三
一梱ノ立米　〇、〇〇七五
一梱ノ重量　〇、〇九四
一梱ノ立米　〇、〇〇六五
一梱ノ重量　〇、〇〇六五
一梱ノ立米　〇、〇〇七〇
一梱ノ重量　〇、一四五
一梱ノ立米　〇、一四五
一梱ノ重量　〇、一四五

ヲ乗ジテ刻レバ
九尺積ノ坪数ヲ得ル

アジア歴史資料センター

(秘)

参考

被服移動修理班ノ諸元能力表

一、人員　長以下八十四名

二、固有ノ車輛

a 縫工車　一
b 靴工車　二
c 防毒被服修理車　二
d 汚毒被服處理車　二

三、各修理車能力

a 一時間軍衣　十八
b 〃 編上靴　五十組
c 被甲(吸収罐)　十三個
d 甲一時間軍衣袴　百二十組
乙 〃 軍靴　百二十組
防寒外套　二十二
防毒靴　七十五
防毒衣袴　二十七

所要地積 40坪

所要地積 100坪

アジア歴史資料センター

兵站幹部實設演習總評

今回實施セル兵站幹部實設演習ハ統裁不十分ナリシニ拘ラス參加者一同真劍熱烈ナル意氣ヲ以テ演習ヲ終始セラレ其成果多大ナリシヲ認メ同慶ニ堪ヘサルトコロナリ

演習間ニ發生セル諸種ノ教訓又ハ研究事項ハ概ネ其都度體得セラレ且午前ノ研究會ニモ發表セラレタルヲ以テ以下特ニ留意スヘキ要件ヲ披瀝シテ諸官ノ參考ニ資セントス

一、兵站司令官ノ業務ハ複雜多岐ニシテ日夜

寝食ヲ忘レテ従事スルモ尚足ラサル状態
ニ在ルヘキヲ豫想セラルヽモ業務ノ骨幹タル
ヘキモノハ結局輸送ニ在リ即チ輸送機関ノ
運用ハ身自ラ輸送機関ノ長タルノ意氣ヲ以
テ些ノ手落ナカラシムル如ク全幅ノ努力ヲ
傾注スルヲ要ス之カ爲司令官ノ位置ノ選定
輸送機関ノ實情知得手段及之カ運行等輸
送機関ノ全能力ヲ發揮セシムヘキ方法ニ関シ
テハ益々研究セラレンコトヲ望ム

二、北支事變ノ實況ニ鑑ミルモ將来戰ニ於ケル兵

敵ノ警備防空ノ重要ニシテ且至難ノ事項タルヲ銘恩シ施設配備等ヲ適切ニシ主地、補給基点、未地等ニ重点ヲ置ク外移動警備等更ニ深刻ナル研究ヲ加フルノ要アリ

三、補給諸廠ノ業務ニ関シテハ深ク研究スルノ余裕ナカリシモ戦場ノ実想、作戦ノ推移ニ伴フ業務ノ重点ヲ定メ以テ補給其他各般ノ處置ヲ適切ナラシムルノ要アリ特ニ弾薬廠及衣糧廠ハ補給量ノ莫大ナルニ鑑ミ之カ集積要領輸送機関トノ連繋ニ関スル研究及之カ事

務處理ヲ厳活ナラシムルニ必要ナル重要數量、圖表ノ整備ニ関シテハ爾後十分ナル努力ヲ拂ハレタシ

四、命令内容等ニ於ケル機密保持ニ関シテハ更ニ留意ノ要アリ即チ軍ノ企圖第一線ノ行動等筆記スヘキヤ口達（特定者ニ）ニ止ムヘキヤ等必要ノ最小限ニ止ムルノ要アリ

之ヲ要スルニ今次ノ演習ノ成果ハ直チニ國軍ノ作戰準備ニ一段ノ強化ヲ加ヘタルコトヲ確信ス願クハ更ニ研鑽ヲ重ネラレ將來戰ニ於ケ

ル國軍ノ統帥運用上些ノ遺憾ナキヲ期セラ
レ度シ

昭和十三年九月七日

統裁官 武内大佐

アジア歴史資料センター